

# HP Business Service Management

Windows® および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン: 9.20

---

## Monitoring Automation for HP Operations Manager i 管理者ガイド

ドキュメント・リリース日: 2013 年 5 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日: 2013 年 5 月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

## 著作権について

© Copyright 2012-2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## 商標について

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD Arrow ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Google™ および Google Maps™ は、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

iPod は Apple Computer, Inc. の商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

## 謝辞

本製品には、Apache Software Foundation(<http://www.apache.org/>) (英語サイト)によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、JDOM Project(<http://www.jdom.org/>) (英語サイト)によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、MX4J Project(<http://mx4j.sourceforge.net>) (英語サイト)によって開発されたソフトウェアが含まれています。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次の Web サイトから行うことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HP ソフトウェア・サポート・オンライン Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア・オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポート・ツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェア・サポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

---

# 目次

Monitoring Automation for HP Operations Manager i 管理者ガイド .....	1
目次 .....	6
監視 .....	8
管理テンプレートおよびアспект .....	10
構成フォルダ .....	14
管理テンプレートの設定 .....	18
アспектの設定 .....	44
詳細表示 .....	70
ポリシー・テンプレート .....	71
HP ArcSight Logger ポリシーの設定 .....	84
ConfigFile ポリシーの設定 .....	93
フレキシブル管理ポリシーの設定 .....	99
ログ・ファイル・エントリ・ポリシーの設定 .....	111
測定値しきい値ポリシーの設定 .....	133
ノード情報ポリシーの設定 .....	168
オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーの設定 .....	174
スケジュール・タスク・ポリシーの設定 .....	192
サービス自動検出ポリシーの設定 .....	204
サービス/プロセス監視ポリシーの設定 .....	213
SNMP インターセプタ・ポリシーの設定 .....	231
Windows イベント・ログ・ポリシーの設定 .....	252
Windows 管理インタフェース・ポリシーの設定 .....	272
XML ファイル・ポリシーの設定 .....	292
HP SiteScope テンプレートのインポート .....	318
HP Operations Manager ポリシーとインストルメンテーションのインポート .....	327
インストルメンテーション開発 .....	330
HP Operations Manager ポリシーの検証 .....	338

ConfigExchange のコマンドライン・ツール .....	340
スクリプトのポリシー・オブジェクト .....	343
ポリシー・ルールにおけるパターン・マッチング .....	366
パターン・マッチングの詳細 .....	366
パターン内のユーザ定義変数 .....	370
変数のパターン・マッチング .....	372
ルール条件におけるパターン・マッチングの例 .....	373
割り当てと調整 .....	375
デプロイメント・ジョブ .....	392
Monitoring Automation の設定 .....	394
Monitoring Automation のインフラストラクチャ設定 .....	394
Monitoring Automation のライセンス設定 .....	395
Monitoring Automation のログ記録と追跡 .....	396
設定データのエクスポート .....	398
モニタされているノード .....	399

# 第1章

## 監視

ヒント: オペレーション管理の管理領域を使用するには、使用権限が必要です。

注: Monitoring Automation は 2 つのレベルに分けられます。

**Monitoring Automation for Servers** は HP オペレーション管理のイベント・ファウンデーション・ライセンスに含まれています。Monitoring Automation for Servers は仮想および物理システムと、サーバ中心のアプリケーションに重点を置いています。

**HP Monitoring Automation for Composite Applications** は管理テンプレートを使用する機能を提供し、ダイナミック・データ・センターの監視ソリューションの開発を支援します。HP Monitoring Automation for Composite Applications のライセンスは、HP オペレーション管理イベント・ファウンデーションのアドオンとして購入することができます。詳細については、最寄りの HP 代理店にお問い合わせください。

ライセンスの構造は、ユーザ・インタフェースの次の部分に影響します。

- ヘルプの UI 参照セクションで述べる管理テンプレートの選択項目は、HP Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを購入した場合のみ表示されます。
- ネスト、条件付きデプロイメント、パラメータの結合といったアспектおよびすべての基本機能は、イベント・ファウンデーション・ライセンスで利用できます。HP Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを持っていない場合、これらはオペレータが管理する要素として使用する必要があります。また、ポリシー・テンプレートを CI に直接割り当ててデプロイすることもできますが、この方法は推奨されません。詳細については、「[割り当てと調整](#)」(375 ページ)を参照してください。

この部分は、次の各章で構成されています。

- **「構成フォルダ」(14ページ)**

本章では、管理テンプレートおよびアспектを階層構造に整理する方法について説明します。

- **「管理テンプレートおよびアспект」(10ページ)**

本章では、管理テンプレートおよびアспектを設定して使用方法について説明します。管理テンプレートはアプリケーションまたはサービスのための完全な管理ソリューションを提供します。管理テンプレートはアспектのコンテナです。アспектはそれぞれ、構成アイテム(CI)のアспектを監視する機能を提供します。アспектをグループ化することによって、互いに関連する複数の CI の管理ソリューションを作成することができます。

- **「ポリシー・テンプレート」(71ページ)**

本章では、ポリシー・テンプレートの設定方法について説明します。ポリシー・テンプレートは、HP Operations Agent, HP SiteScope, または HP ArcSight Logger についての構成情報のセットです。これらの製品によって、ネットワークおよびコンピュータの構成および監視を自動化することができます。ポリシー・テンプレートは、特定の構成および監視タスクの詳細を定義します。



- **「割り当てと調整」(375ページ)**

本章では、管理テンプレート、アスペクトおよびポリシー・テンプレートの割り当て方法について説明します。

- **「デプロイメント・ジョブ」(392ページ)**

本章では、デプロイメント・ジョブの管理方法について説明します。管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートを CI に割り当てる場合、オペレーション管理は、関連する監視ソフトウェア(HP Operations Agent, HP SiteScope または HP Arcsight Logger)に監視設定を転送するためのデプロイメント・ジョブを作成します。

- **「Monitoring Automation の設定」(394ページ)**

本章では、Monitoring Automation に必要な設定の概要について説明します。

- **「設定データのエクスポート」(398ページ)**

本章では、設定データのエクスポート方法について説明します。

## 第2章

# 管理テンプレートおよびアスペクト

[管理テンプレートおよびアスペクト]画面には次のペインがあります。

- [構成フォルダ]ペイン

[構成フォルダ]ペイン(左ペイン)は、構成フォルダを作成および管理するために使用されます。構成フォルダ構造は、管理テンプレートおよびアスペクトを整理するために使用されます。

サブフォルダを選択すると、含まれる管理テンプレートまたはアスペクトが[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン(中央ペイン)にリストされます。フォルダを選択しない場合、またはサブフォルダのみを含むフォルダを選択する場合、ペインは空になります。

構成フォルダの作成および使用の詳細については、「構成フォルダ」(14ページ)を参照してください。

- [管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン

[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン(中央のペイン)は管理テンプレートおよびアスペクトの両方を作成および管理するために使用されます。管理テンプレートまたはアスペクトを表示するには、[構成フォルダ]ペイン(左ペイン)に関連する構成フォルダを参照します。

管理テンプレートの作成および使用の詳細については、「管理テンプレートの設定」(18ページ)を参照してください。アスペクトの作成および使用の詳細については、「アスペクトの設定」(44ページ)を参照してください。

- [詳細]ペイン

[詳細]ペイン(右ペイン)には、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン(中央ペイン)で選択された管理テンプレートまたはアスペクトについての詳細が含まれています。管理テンプレートまたはアスペクトが選択されていない場合、ペインは空です。


どちらの詳細が表示されるかは、管理テンプレートまたはアスペクトのどちらが[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで選択されているかによって決まります。表示の詳細については、「詳細表示」(70ページ)を参照してください。

## タスク

### レポートの生成方法


次のレポート・タイプを生成できます。

- インベントリ・レポート

インベントリ・レポートには、サーバ上で利用可能な管理テンプレート、アスペクトおよびポリシー・テンプレートが表示されます。インベントリ・レポートを生成するには、[管理テンプレートおよびアスペクト]画面に進み、[構成フォルダ]ペイン(左ペイン)の[インベントリレポートの生成]  をクリックします。

注: 含まれるインベントリ・レポートは1つだけです。したがって、レポートを生成するときどの構成フォルダが選択されていても、レポートは同じです。インベントリ・レポートは、[管理テンプレートおよびアスペクト]画面からのみ生成できます。

### • 割り当てレポート




割り当てレポートは、選択された管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートにどのCIが割り当てられるかをリストします。[管理テンプレートおよびアスペクト]画面から割り当てレポートを生成するには、管理テンプレートまたはアスペクトを選択して、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン(中央ペイン)の[割り当てレポートの生成]をクリックします。

また、「割り当てと調整」(375ページ)画面から、他のタイプのレポートとともに割り当てレポートを生成できます。









## UI 参照







### [構成フォルダ]ペイン

UI 要素	説明
	<b>更新</b> : 構成フォルダのツリーを再ロードします。
	<b>新規構成フォルダ</b> : [フォルダの作成]ダイアログ・ボックスを開いて、新しい構成フォルダを作成します。これは、選択したフォルダのサブフォルダとして作成されます。
	<b>項目の編集</b> : [フォルダの編集]ダイアログ・ボックスを開いて、選択された構成フォルダを編集します。
	<b>項目を削除</b> : 選択された構成フォルダを削除します。削除を確認するかキャンセルするかを選択するメッセージ・ボックスが表示されます。
	<b>項目プロパティを表示</b> : 選択された構成フォルダの名前、説明およびIDがメッセージ・ボックスに表示されます。[OK]をクリックしてメッセージを閉じます。
	<b>検索</b> : [検索]ダイアログ・ボックスを開き、含まれるフォルダまたは項目を検索します。
	<b>項目の切り取り</b> : 選択された構成フォルダおよびそのコンテンツをクリップボードにコピーします。構成フォルダを誤って削除する可能性はありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>切り取られた項目は、貼り付けが完了するまでそのまま残ります。</li> <li>貼り付けコマンドを使用すると、切り取られてクリップボードに格納された構成フォルダが元の場所から貼り付け場所に移動します。</li> </ul>
	<b>項目の貼り付け</b> : 直前に切り取られてクリップボードに格納された構成フォルダおよびその内容を、サブフォルダとして選択されたフォルダに貼り付けます。

UI 要素	説明
	ドラッグ・アンド・ドロップを使用して、構成フォルダを階層内の別の場所に移動できます。
	<b>インベントリレポートの生成</b> : インベントリは、サーバ上でどの管理テンプレート、アスペクト、ポリシー・テンプレートが利用可能であることを示します。このアイコンをクリックすると、新しいブラウザ・ウィンドウが開き、レポート・テンプレートの選択を求められます。テンプレートを選択すると、選択された構成フォルダ内のすべての要素についての詳細をリストするレポートがブラウザ・ウィンドウに表示されます。
	<b>ヘルプ</b> : 関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。



## [管理テンプレートおよびアスペクト] ペイン

UI 要素	説明
	<b>更新</b> : すべての管理テンプレートとアスペクトを再ロードし、リストを更新します。
	<b>新規</b> : 次のオプションを提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>管理テンプレート</b>: 新しい管理テンプレートを作成するために使用される管理テンプレートの作成/編集ウィザードを開きます。</li> <li> <b>アスペクト</b>: 新しいアスペクトを作成するために使用されるアスペクトの作成/編集ウィザードを開きます。</li> </ul>
	<b>項目の編集</b> : [管理テンプレートの作成/編集]または[アスペクトの作成/編集]ダイアログ・ボックスを開き、選択された管理テンプレートまたはアスペクトを編集します。
	<b>項目を削除</b> : 選択した項目を削除します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>管理テンプレートまたはアスペクトを選択すると、項目とそのすべてのバージョンが削除されます。</li> <li>バージョンを選択すると、項目の選択されたバージョンのみが削除されます。項目の利用可能なバージョンにアクセスするには、項目の前の  アイコンをクリックして展開します。</li> </ul> <p><b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。</p> <p>管理テンプレートまたはアスペクトによって参照されるアスペクトまたはアスペクト・バージョンを削除できません。</p>
	<b>最新に更新</b> : 選択された管理テンプレートまたはアスペクト、およびそれに含まれるすべてのアスペクトを最新バージョンに更新します。 <p><b>注</b>: [最新に更新]は、単一の管理テンプレートまたはアスペクトが選択されている場合のみ使用することができます。</p>


UI 要素	説明
	<b>項目をコピー</b> : 選択された管理テンプレートまたはアスペクトをクリップボードにコピーします。
	<b>項目の切り取り</b> : 選択された管理テンプレートまたはアスペクトをクリップボードに切り取ります。
	<b>項目の貼り付け</b> : 管理テンプレートまたはアスペクトをクリップボードから貼り付けます。項目を貼り付ける前に、切り取った、またはコピーした項目を含む構成フォルダとは別の構成フォルダを選択する必要があります。
	<b>項目の割り当てとデプロイ</b> : 選択された管理テンプレートまたはアスペクトを構成アイテムに割り当ててデプロイする割り当てとデプロイ・ウィザードを開きます。
	<b>割り当てレポートの生成</b> : 選択された管理テンプレートまたはアスペクトが割り当てられる CI をリストするレポートを、新しいブラウザ・ウィンドウに表示します。
	<b>ヘルプ</b> : 関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。




## [詳細] ペイン

## [属性] 画面

UI 要素	説明
属性カテゴリ	属性は次のカテゴリに整理されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般</li> <li>• トポロジ・ビュー(管理テンプレートのみ)</li> <li>• CI タイプ(アスペクトのみ)</li> <li>• インストールメンテーション(アスペクトのみ)</li> <li>• アスペクト</li> <li>• ポリシー・テンプレート(アスペクトのみ)</li> </ul>
	<b>展開</b> : カテゴリを展開して、含まれる属性を表示します。
	<b>折りたたみ</b> : カテゴリを折りたたみ、含まれる属性を非表示にします。

## [構造] 画面

UI 要素	説明
	<b>展開</b> : 構造要素を展開し、含まれる要素のすべてのツリーを表示します。要素に含まれる有効な構造要素は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• アスペクト(アスペクトの場合、これらはネストされたアスペクトです)</li> <li>• アスペクトに割り当てられたポリシー・テンプレート</li> </ul>

UI 要素	説明
	分岐を展開する: この分岐のみを展開します。
	すべて折りたたむ: すべての構造ツリーを折りたたみます。
	分岐を折りたたむ: この分岐のみを折りたたみます。

## 構成フォルダ








構成フォルダは、管理テンプレートおよびアスペクトを階層構造に整理するために使用されます。


## タスク

### 管理テンプレートおよびアスペクトの整理方法


管理テンプレートおよびアスペクトは、構成フォルダの階層構造ツリーに格納されます。ルート・フォルダは Configuration Folders と呼ばれます。

管理テンプレートおよびアスペクトを整理するには、次の手順を実行します。

1. ルート・フォルダ Configuration Folders で、管理しているクラウドの構造を反映するサブフォルダのセットを作成します。サブフォルダを作成するには、既存のフォルダを選択し、**[構成フォルダの作成]**  をクリックします。新しいサブフォルダが選択されたフォルダのサブフォルダとして作成されます。
2. 次のいずれかの方法を使用して、構成フォルダ、管理テンプレートおよびアスペクトを整理し直すことができます。
  - a. ドラッグ・アンド・ドロップ。
  - b. **[項目の切り取り]**  および **[項目の貼り付け]**  アイコンを使用してカット・アンド・ペース。
3. クラウドを管理するために必要な追加の管理テンプレートおよびアスペクトを作成します。
  - a. アスペクトを作成するには、適切なフォルダを選択し、**[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインの **[新規...]**  をクリックして、**[アスペクトの作成]**  を選択します。アスペクトの作成方法の詳細については、「**アスペクトの設定**」(44ページ)を参照してください。
  - b. 管理テンプレートを作成するには、適切なフォルダを選択し、**[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインの **[新規...]**  をクリックして、**[管理テンプレートの作成]**  を選択します。前のステップで作成したアスペクトは、管理テンプレートを作成する場合に提供する必要のある情報の一部です。管理テンプレートの作成方法の詳細については、「**管理テンプレートの設定**」(18ページ)を参照してください。


バージョン番号を、手動で作成する新しい項目に割り当てます。項目の前の展開アイコン  をクリックすると、項目のすべてのバージョンを表示できます。バージョン管理の詳細については、「**管理テンプレートおよびアスペクト**」(10ページ)を参照してください。

### 管理テンプレートまたはアスペクトの参照方法



1. 適切なフォルダおよびサブフォルダを展開するには、展開アイコン  をクリックします。含まれる要素は、**[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペイン(中央ペイン)にリストされます。

2. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで要素を選択します。要素の関連する詳細が詳細ペイン(右側のペイン)に表示されます。詳細ペインに表示されるUI要素のコンテンツは、どのタイプの要素が選択されているかによって異なります。管理テンプレートおよびアスペクトの詳細については、それぞれ「管理テンプレートの設定」(18ページ)、および「アスペクトの設定」(44ページ)を参照してください。

### 構成フォルダ、管理テンプレートまたはアスペクトの検索方法

1. [検索]  をクリックして、[検索]ダイアログ・ボックスを開きます。ツリーの任意の要素を検索できます。サブフォルダとサブフォルダに含まれる要素が検索の対象になります。
2. 次の原則に従って、検索基準を入力します。
  - 指定した検索基準は、すべて論理積を使用して結合されます。
  - [名前]と[説明]フィールドで指定した文字列を名前と説明に含むすべての要素が検索されます。
  - 検索を行うには、少なくとも名前または説明の一部を指定する必要があります。これらの基準の1つを指定するまで、[検索]ボタンは非アクティブになります。
  - ワイルドカードとしてアスタリスク \* を使用します。たとえば、任意のアスペクトを検索するには、タイプの基準として[Aspects]を選択し、[説明]フィールドに「\*」と入力します。[検索]ボタンがアクティブになり、クリックするとデータベースのアスペクトがすべて返されます。

スペースで区切られた単語を指定すると、スペースを含む文字列全体が検索の対象になります。例:[説明]フィールドに文字列「Oracle Server」を指定すると、検索によって「This aspect is for Oracle Servers」という説明を持つ項目が返されます。一方、「This aspect is for Oracle 11 Servers」という説明を持つ項目は返されません(「Oracle\* Server」と指定すると、両方が返されます)。

3. [検索]をクリックして検索を実行します。検索基準に一致するすべての要素がリストされます。
4. リスト内の要素のいずれかを選択します。次のアクションを実行できます。
  - a. [項目を表示します]  をクリックして、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン内で選択された要素を選択します。ボタンをクリックすると、選択がバックグラウンドですぐに実行され、ダイアログ・ボックスは閉じません。
  - b. [項目の編集]  をクリックして、選択された要素の編集ダイアログ・ボックスを開きます(同時に検索ダイアログ・ボックスが閉じ、選択された要素はバックグラウンドで[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン内で選択されます)。要素を編集し、[OK]をクリックしてメイン画面に戻ります。
  - c. [閉じる]をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
5. 詳細については、[検索]ダイアログ・ボックスを参照してください。

注:[名前]のみを検索文字列として指定すると、検索結果として、現在割り当てられているバージョンのアスペクトまたは管理テンプレートのみが返ります。[説明]を指定すると、[名前]が指定されているかどうかに関わらず、すべてのバージョンが返されます。

### インベントリ・レポートの表示方法

[構成フォルダ]ペイン(左ペイン)の[インベントリレポートの生成]  をクリックします。

新しい Web ブラウザ・ウィンドウに表示される設定済みのインベントリ・レポートには、サーバ上で利用可能なすべての管理テンプレート、アスペクトおよびポリシー・テンプレートがリストされます。

## UI 参照






### [フォルダの作成] ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
名前	新しいフォルダの名前を入力します。
説明	新しいフォルダの説明を入力します。
ID	フォルダが作成されるまで空白のままです。
OK	フォルダを作成し、ID を割り当てて、ダイアログ・ボックスを閉じます。
キャンセル	フォルダを作成せずにダイアログ・ボックスを閉じます。

### [フォルダの編集] ダイアログ・ボックス



UI 要素	説明
名前	フォルダの名前。
説明	フォルダの説明。
ID	フォルダの一意の ID 番号。ID はシステムによって割り当てられ、変更することはできません。
OK	フォルダ属性を新しい値に変更し、ダイアログ・ボックスを閉じます。
キャンセル	フォルダを作成せずにダイアログ・ボックスを閉じます。

### レポート・ウィンドウ

UI 要素	説明
	すべて展開: すべての CI を展開します。
	すべて折りたたむ: すべての CI を折りたたみます。
	フィルタ・オン/オフ: [カスタマイズ値のみを表示] と [すべての値を表示] を切り替えます。
	カテゴリを展開: カテゴリを展開して、含まれる属性を表示します。
	カテゴリを折りたたみ: カテゴリを折りたたみ、含まれる属性を非表示にします。

### [検索] ダイアログ・ボックス



UI 要素	説明
名前	使用する構成フォルダ, 管理テンプレート, またはアスペクトの名前または名前の一部。
説明	使用する構成フォルダ, 管理テンプレート, またはアスペクトの説明または説明の一部。
タイプ	要素タイプの1つを選択して, 結果を選択された要素タイプに絞り込みます。何も選択しなければ, すべての要素タイプが返ります。
大文字と小文字を区別しない	オンにすると, 検索では大文字と小文字は区別されません。オンにしないと, 検索文字列の大文字と小文字は入力したとおりに区別されます。
検索	<p>指定された検索基準に一致する要素をすべてリストします。複数の検索基準を指定すると, すべての基準がtrueの要素のみをリストします。</p> <p><b>注:</b> [名前]のみを検索文字列として指定すると, 検索結果として, 現在割り当てられているバージョンのアスペクトまたは管理テンプレートのみが返ります。[説明]を指定すると, [名前]が指定されているかどうかに関わらず, すべてのバージョンが返されます。</p>
検索結果のテーブル	<p> <b>項目を表示します:</b> メイン・ウィンドウで選択された項目を選択します。項目が選択されたことを通知するメッセージが表示され, 関連する詳細が背景の詳細ペインに表示されます。</p> <p> <b>項目の編集:</b> 選択された項目の編集ダイアログを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理テンプレートが選択されていると, [管理テンプレートの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, 管理テンプレートの設定を参照してください。</li> <li>アスペクトが選択されていると, [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, アスペクトの設定を参照してください。</li> </ul> <p><b>名前</b> 項目の名前。</p> <p><b>バージョン</b> 検索基準に対して true となる要素。</p> <p><b>構成フォルダ</b> アスペクトが格納される最下位レベルの構成フォルダ。</p> <p><b>パス</b> アスペクトが格納される上位レベルの構成フォルダ。ルートで始まり, 「/」で区切られます。</p>
閉じる	ダイアログ・ボックスを閉じます。

## 管理テンプレートの設定

管理テンプレートはアプリケーションまたはサービスのための完全な管理ソリューションを提供します。管理テンプレートはアスペクトのコンテナです。アスペクトはそれぞれ、構成アイテム(CI)のアスペクトを監視する機能を提供します。アスペクトをグループ化することによって、互いに関連する複数のCIの管理ソリューションを作成することができます。

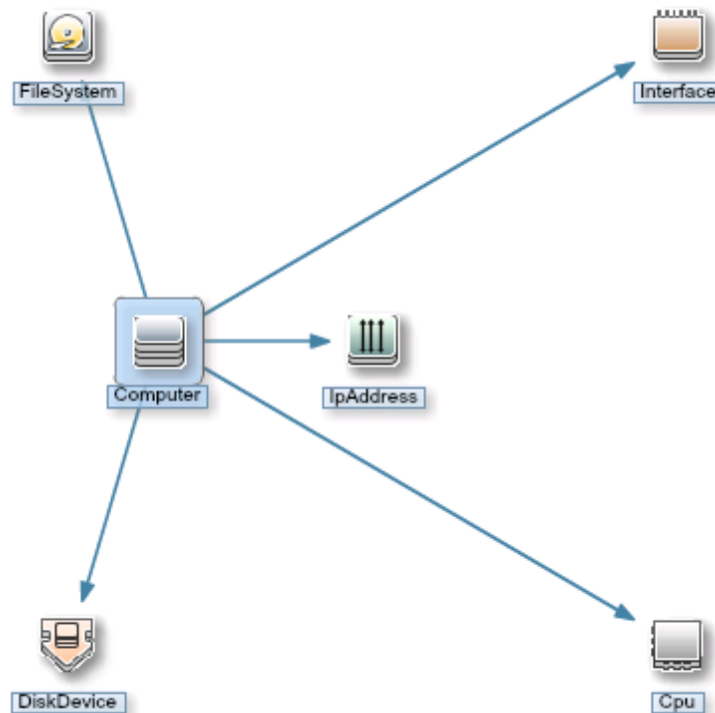
### 詳細

#### 管理テンプレートのポロジ・ビュー

BSM Run-time Service Model(RTSM)は、管理対象環境の物理および論理エンティティ(たとえばハードウェア、ソフトウェア、サービスなど)のデータベースです。エンティティは、RTSMでは構成アイテム(CI)として表現されます。CIにはさまざまなタイプがあります(たとえばComputer, CPU, DiskDevice, WebServer, Oracleなど)。

RTSMには、CIが自動的に挿入されます。これにはData Flow Probeや外部データ・プロバイダ(たとえばHP Operations Manager, HP BSM Integration Adapter)のデータが使用されます。RTSMには大量のCIが含まれますが、ビューを使用して特定のCIに注目することができます。ビューは、CIタイプ、および異なるタイプの他のCIとの関係に基づいてRTSMからCIを選択するクエリです。

次の図は、BSMが提供する標準設定ビューの1つ(Systems\_Infrastructure)を示します。

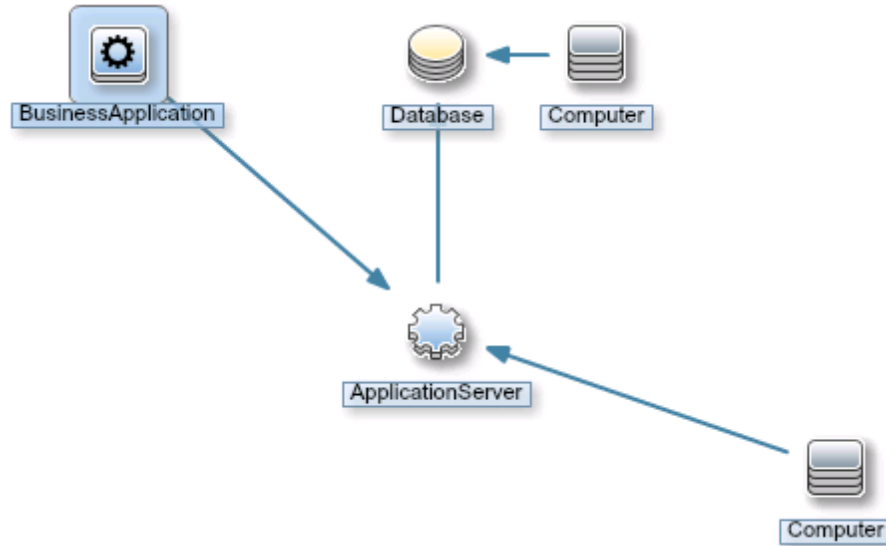


Systems\_Infrastructureビューは、ComputerタイプのCI、および関連するCpu, IPAddress, DiskDevice, Interface, および FileSystemタイプのCIを選択します。

管理テンプレートを作成する場合、いくつかの関連CIから構成されるアプリケーションまたはサービスのための完全な管理ソリューションを作成します。

管理テンプレートを作成する場合、管理対象のアプリケーションまたはサービスに関連付けられた CI を選択するビューから開始します。

次の図は、Business Application タイプの CI、および Application Server, Database, および Computer タイプの関連 CI を選択するビューの例を示します。



管理テンプレートを作成する前に、適切な CI のタイプを選択するビューがあることを確かめてください。必要であれば、モデリング・スタジオを使用して新しいビューを作成することができます。

管理テンプレートに追加する各アспектは、トポロジ・ビューの1つまたは複数の CI タイプに適用されます。たとえば、ある保険アプリケーションの管理テンプレートには、アプリケーション・データベースを監視するための、データベース・パフォーマンス、データベース・プロセス状況、およびデータベース接続という3つのアспектが含まれています。この場合、これら3つのアспектは管理テンプレートに追加され、トポロジ・ビューの CI タイプ Database に適用されます。

## バージョン番号

管理テンプレートのすべての項目にはバージョン番号が付いています。バージョン番号については、下記に注意してください。

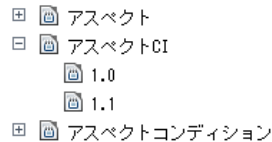
- バージョン番号にはメジャー・バージョン番号とマイナー・バージョン番号があり、ピリオドで区切られています。例：1.2。
- 既存の管理テンプレートを変更する場合は、固有のバージョン番号とバージョン ID を持つ新しいバージョンの管理テンプレートをデータベースに作成します。標準設定では、管理テンプレートを変更するとマイナー・バージョン番号が次の利用可能な番号に自動的に繰り上がります。
- アップロードされるコンテンツに含まれるバージョン番号がすでにシステムに存在する場合（たとえば管理パックを適用する場合）、競合するコンテンツはアップロードされず、アップロード・プロセスはエラーを報告します。
- 一度に管理テンプレートに割り当てられる項目のバージョンは1つだけです。[最新に更新]機能を使用して、管理テンプレートのすべての項目を最新バージョンに更新することができます。

**注:** HP Operations 管理パックの一部である管理テンプレートを変更する場合は、マイナー・バージョン番号のみを増やすことをお勧めします。次のバージョンの管理パックでは、通常次のメ

ジャー・バージョン番号が使用されます。管理パックを更新する場合にこの原則に従うことで、バージョン衝突の問題を防ぐことができます。

バージョンの追跡を簡単にする方法として、**変更ログ**情報を指定することをお勧めします。バージョン管理の詳細については、「タスク」の項の関連するタスクを参照してください。

項目のバージョンはすべて[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインに表示されます。項目を展開してそのすべての利用可能なバージョンを開くと、最新のバージョンが最上部に表示されます。次の AspectComputer アスペクトの場合、1.0 と 1.1 の 2 つのバージョンがあります。



テンプレートまたはアスペクトを作成する場合、システムは標準設定でバージョン番号 1.0 を表示します。ただし、必要に応じて、項目およびそれに含まれるすべての項目のバージョン番号を設定することができます。管理テンプレートを特定のバージョン番号で保存するには、使用したいメジャーおよびマイナー・バージョン番号を選択できます。ただし、既存のバージョンの管理テンプレートを置き換えることはできません。

## パラメータ化

アスペクトは、ポリシー・テンプレートの変数に対応するパラメータを使用し、特定のタイプの CI がどのように監視されるかを制御します。パラメータの値は、アスペクトが割り当てられる CI タイプのオペレータによって設定されます。対応する変数は、ポリシー・テンプレートの定義に従って設定され、CI に渡されます。

パラメータは、ポリシー・テンプレートの物理定義から値を分離します。これには次のようなメリットがあります。

- 値はデプロイ時にアプリケーション内で設定することができます。ポリシー・テンプレート内でハードコードされた変数を変更する必要はありません。
- パラメータは条件付きでデプロイすることができ、パラメータが表す値を複数の状況で使用することができます。ただし、設定が行えるのは一度のみです。
- パラメータ値はさまざまなレベルで設定することができ、標準設定値を下位のレベルで使用することができます。これによって、オペレータによって設定される値の数を大幅に減らすことができます。
- 監視プロセスを開始するときに、割り当てを調整することによって設定された値を上書きすることができます。
- パラメータを組み合わせることにより、複数回使用される値を再利用することができ、値を繰り返し指定する必要がなくなります。典型的な例はパスワードのパラメータで、同じサービスにログオンするために 1 つのアスペクト内で複数のポリシー・テンプレートによって使用されます。

## 条件付きデプロイメント

ポリシー・テンプレートの条件付きデプロイメントには次の基準を使用することができます。

- OS タイプ

ポリシー・テンプレートは、特定のオペレーティング・システム向けにデプロイするように設定できます。単一のアスペクトに複数のポリシー・テンプレートを条件付きでデプロイする場合、プラットフォームに中立的なアスペクトを作成することができます。

たとえば、複数のプラットフォーム上で実行できるMySQLを考えます。プロセスの状況を監視するアスペクトは、Windows、Linux および Solaris に対して条件付きでデプロイされたポリシー・テンプレートで設定されます。アスペクトがLinux ノード上でホストされるMySQL CI に割り当てられる場合、オペレーション管理はポリシー・テンプレートのLinux バリエーションを自動的にデプロイします。

- CI タイプ

ポリシー・テンプレートは、特定のCIタイプ向けにデプロイするように設定できます。条件付きデプロイメントでは、同じパラメータによって管理されるCIを監視し、CIタイプに固有のポリシー・テンプレートを持つアスペクトを作成できます。そのため、オペレーション管理は、CIのCIタイプにとって正しいポリシー・テンプレートを、アスペクトが割り当てられるときに自動的に選択できます。

- CI 属性

ポリシー・テンプレートは、CI属性が特定の値を持つ場合にデプロイされるように設定することができます。条件付きデプロイメントでは、ある属性が特定の値を持つCIにのみ割り当てられるアスペクトを作成できます。

### 標準設定値の指定

パラメータ値は、ポリシー・テンプレートがデプロイされる時に監視エージェント内で設定されます。パラメータ値は、次の場所で定義および変更できます。

- ポリシー・テンプレートは、パラメータの標準設定値を含んでいます。
- ポリシー・テンプレートの標準設定は、アスペクトのポリシー・テンプレート設定のアスペクト・レベルで上書きできます。
- アスペクト・レベルの値は、管理テンプレートのアスペクト設定時に管理テンプレート・レベルで上書きできます。
- パラメータがhiddenまたはread-onlyとして設定されていない場合、管理テンプレートまたはアスペクトをデプロイする時に、管理テンプレート・レベルまたはアスペクト・レベルの値を上書きできます。

### パラメータの結合


複数のパラメータを組み合わせ、単一の結合パラメータを作成できます。結合パラメータの値はそのすべての構成パラメータに渡され、単一の値の定義を複数のCIに使用できます。それにより、パラメータを使用する管理テンプレートまたはアスペクトを簡単に割り当てて維持することができます。



**例:** MySQLのパフォーマンスを管理するために使用されるアスペクトを考えます。このアスペクトには、MySQLにアクセスするためにユーザ名とパスワードを使用する複数のポリシー・テンプレートが含まれています。この場合、アスペクト・レベルで資格情報を渡すパラメータを組み合わせると便利です。アスペクトが割り当てられる時に、パラメータを一度に定義できるようになります。



詳細については、パラメータの結合のタスク、および[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスのUI参照の項を参照してください。

## タスク

### 管理テンプレートの作成および編集方法

1. [構成フォルダ] ペインで、新しい管理テンプレートを作成する構成フォルダを選択するか、新しいフォルダを作成します。構成フォルダの作成および管理の詳細については、「構成フォルダ」(14 ページ)を参照してください。
2. 既存の管理テンプレートを編集するには、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインの管理テンプレートのリストからそれを選択し、[項目の編集] ボタン  をクリックします。[一般] ページで [管理テンプレートの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。

新しい管理テンプレートを作成するには、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインの[新規] ボタン  をクリックし、 [管理テンプレートの作成] を選択します。[一般] ページで管理テンプレートの作成ウィザードが開きます。

**注:** 既存の管理テンプレートの新しいバージョンを作成する場合は、[新規] ボタン  を使用しないでください。このような場合は、新しい管理テンプレートを最初から作成します。既存の管理テンプレートの新しいバージョンを作成するには、[編集] ボタン  を使用し、[一般] ページで新しいバージョンを選択して、必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

3. [一般] ページでは、管理テンプレートについての一般情報を入力できます。

**注:** 必須のフィールドは、赤色のアスタリスク \* 付きで表示されます。すべての必須フィールドの入力が完了するまで、[次へ] ボタンは有効になりません。システムによって入力されたフィールドは青色の背景でマーキングされます。これらのフィールドへの入力操作は必要ありません。




- a. 管理テンプレートの一意的な[名前]を入力します。
- b. オプション。管理テンプレートの[説明]を入力します。
- c. 必要であれば、管理テンプレートのメジャーおよびマイナー・バージョン番号を設定します。標準設定では、新しい管理テンプレートには最新バージョンのメジャー・バージョン番号が選択されます。
- d. オプション。[変更ログ] フィールドに、新しい管理テンプレートを作成する動機を入力します。
- e. [トポロジ ビュー] タブまたは[次へ] をクリックして値を受け入れ、ID を生成して、[トポロジ ビュー] ページに進みます。
- f. [トポロジ ビュー] ページは、管理テンプレートを割り当て可能な CI タイプ、および管理テンプレートのアプリケーション・トポロジを定義するために使用されます。管理テンプレートを割り当て可能な CI タイプはルート CI タイプと呼ばれます。

次の点に注意が必要です。

- ルート CI タイプは、自動割り当てとの整合性を保証するために、トポロジ・ビュー内で一度だけ使用します。
- 管理テンプレートを使用して監視するアプリケーションに存在する CI タイプはすべて、選択されたトポロジ・ビューになければなりません。該当するビューが存在しない場合は、作成しなければなりません。




CI タイプを設定するには、次の手順を実行します。

- i. 次のいずれかの方法で、管理する項目を含むビューを選択します。
  - [トポロジ ビュー] フィールドに関連付けられたドロップダウン・リストから既存のビューを選択します。
  - その他の選択項目が必要な場合は[参照] ボタン ... をクリックします。[ビューの参照] ダイアログ・ボックスが開きます。システム上のビューを参照するか、適切なビューが存在しない場合は、[モデル] ボタン  をクリックし、モデリング・スタジオを起動して新しいビューを作成します。
- ii. [レイアウト] フィールドに関連付けられたドロップダウン・リストから適切なレイアウトを選択します。CI が見やすく表示されない場合は、画像をスクロール・ダウンし、ズーム・ボタン  および  を使用して拡大または縮小します。
- iii. トポロジ・ビューで、管理テンプレートが割り当てられる CI タイプをクリックします。選択された CI の CI タイプは、[CI タイプ] フィールドで選択され、トポロジ・ビュー内で青色の背景で強調表示されます。

**注:** ルート CI タイプの複数の CI が割り当て済みトポロジ・ビューに存在する場合、不整合の可能性についての警告メッセージが表示されますが、CI タイプはルート CI タイプとして設定されます。したがって、不整合が発生する可能性がある場合は、一度のみ現れる別の CI タイプを選択したことを確認してから続行します。

あるいは、[CI タイプ] フィールドに関連付けられたドロップダウン・リストから CI タイプを選択することができます。リストには、トポロジ・ビューのすべての CI の CI タイプが含まれます。

[アスペクト] タブまたは[次へ] をクリックして値を受け入れ、[アスペクト] ページに進みます。




4. [アスペクト] ページは管理テンプレートのアスペクトを定義するために使用されます。
  - a. 含まれるアスペクトを識別します。
    - 左のトポロジ・ビューでノードを選択します。選択されたノードの CI タイプに割り当て可能なすべてのアスペクトは、右側のペインの最上部の利用可能なアスペクトのリストに表示されます。
    - 管理テンプレートにアスペクトを含めるには、利用可能なアスペクトのリストからアスペクトを選択し、 をクリックします。選択されたアスペクトは、ペインの下にある選択されたアスペクトのリストに追加されます。ターゲットは、利用可能なアスペクトをリストするために選択されたノードの CI タイプに自動的に設定されます。

**注:** アスペクトはそれぞれ、一致する CI タイプをビューに持つ少なくとも 1 つのターゲット・ノードに関連付けられている必要があります。

- 標準設定では、アスペクトの最新バージョンが追加されます。古いバージョンを使用する必要がある場合は、追加した後で必要な[バージョン]を選択します。

**注:** 管理テンプレート内のすべてのアスペクト、およびそれらに含まれるパラメータおよびインストールメンテーションをまとめて更新するには、[管理テンプレートおよびアスペク

ト]ペインの[最新に更新]機能を使用します。

- 選択されたアスペクトを削除するには、選択されたアスペクトのリスト内で選択し、 をクリックします。
  - b. [パラメータ]タブまたは[次へ]をクリックして値を受け入れ、[パラメータ]ページに進みます。
5. [パラメータ]ページには、[アスペクト]タブまたは画面に追加したアスペクトに含まれるパラメータがすべてリストされます。
- 監視を簡単に行うには、「パラメータの結合方法」のタスクで説明するようにパラメータを結合すると便利です。パラメータを結合するには、少なくとも2つのパラメータが選択されていることを確認し、 ボタンをクリックします。[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスが開きます。
- また、パラメータ値は管理テンプレート・レベルで設定することもできます。パラメータを編集するには、1つのパラメータが選択されていることを確認し、 ボタンをクリックします。[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスが開きます。
6. [OK]または[完了]をクリックして管理テンプレートを保存し、ウィザードを閉じます。変更された管理テンプレートまたは新しい管理テンプレートが、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインに表示されます。

## 管理テンプレートによる監視の開始方法





監視プロセスは次の2つの場所で開始することができます。

1. [割り当ておよび調整]画面  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整]

構成済みのソリューションをクラウドに適用するにはこの場所を使用します。詳細については、「割り当てと調整」(375ページ)を参照してください。

2. 本項で説明する[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン。  
この場所はソリューションを構成する場合に使用します。

[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインから管理テンプレートを割り当ててデプロイするには、次の手順を実行します。

1. デプロイするテンプレートを[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで選択し、[項目の割り当てとデプロイ]ボタン  をクリックします。[割り当てとデプロイ]ウィザードが開きます。
2. [構成アイテム]ページで、アスペクトを割り当てる構成アイテムをクリックします。Ctrl または Shift キーを押しながら、複数のアスペクトを選択することができます。[次へ]をクリックしてCIを割り当て、[パラメータ]ページに移動します。
3. [パラメータ]ページで、各パラメータの値を指定します。
  - a. オプション。標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。オプションのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。また、 ボタンをクリックしてエキスパート・パラメータを表示することもできます。
  - b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - c. [値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。



パラメータを割り当てて[構成オプション]画面に進むには[次へ]、パラメータを割り当ててウィザードを閉じるには[完了]をクリックします。

4. オプション。割り当てをただちに有効にしない場合は、[構成オプション]画面で[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします(後で、割り当ておよび調整マネージャを使用して割り当てを有効にすることができます。[管理]>[オペレーション管理]>[モニタリング]>[割り当ておよび調整]を選択します)。**[完了]**をクリックしてウィザードを閉じます。


オペレーション管理は、デプロイメント・ジョブを作成してノードに監視設定を転送します。ポリシー・テンプレートがデプロイされた後、[データコレクタ URL の標準設定仮想ゲートウェイサーバ]インフラストラクチャ設定に指定されたBSMサーバは、ノード上でのポリシーの所有者になります。

### 管理テンプレートまたはアスペクトの更新方法

ポリシー・テンプレートまたはアスペクトを変更する場合(たとえば管理パックを更新する、あるいはポリシー・テンプレートまたはアスペクトをカスタマイズする場合など)、含まれるポリシー・テンプレートおよびアスペクトが新しいバージョンとしてデータベースに追加されます。管理テンプレートおよびアスペクトは、特定のバージョンのアスペクトを参照します。したがって、管理パックを更新する場合、更新されるアスペクトおよびポリシー・テンプレートを参照する管理テンプレートおよびアスペクトもすべて更新する必要があります。


オペレーション管理には最新に更新ウィザード機能があり、管理テンプレートおよびアスペクトを自動的に更新することができます。最新に更新ウィザードには、更新された項目のバージョンを管理するための複数の方法があります。状況に応じて、どの方法が最も適しているかを判断してください。

管理テンプレートまたはアスペクト内のすべての項目をデータベース内で最新バージョンに更新するには、次の手順を実行します。



1. 適切な構成フォルダを参照し、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン内で更新する管理テンプレートまたはアスペクトを選択します。単一の管理テンプレートまたはアスペクトを選択します。更新は単一の管理テンプレートまたはアスペクトでのみ実行できます。
2. **[最新に更新]**  をクリックします。最新に更新ウィザードが開きます。
3. 状況に合わせて次のオプションを設定します。
  - a. バージョン管理の選択肢:
    - i. **[最新のメジャーおよびマイナーバージョンに更新します。]**では、メジャーおよびマイナーの両方のバージョンが最新バージョンを反映します。
    - ii. **[最新のマイナーバージョンに更新、メジャーバージョンはすべてそのまま維持します。]**では、変更がマイナー・バージョン番号にのみ反映されます。最新バージョンの項目のメジャー番号が現在の項目よりも高い場合、新しいバージョンには、現在のバージョンと同じメジャー番号に対する一番低い利用可能なマイナー番号が使用されます。


たとえば、現在のバージョンが1.5で、バージョン番号1.6および2.1の2つ新しいバージョンがあるとします。


      - i. **[最新のメジャーおよびマイナーバージョンに更新します。]**を使用すると、バージョン番号は2.1に更新されます。
      - ii. **[最新のマイナーバージョンに更新、メジャーバージョンはすべてそのまま維持します。]**を使用すると、バージョン番号は1.6に更新されます。
  - b. 更新のスコープ:

- i. [このオブジェクトのみを更新, 含まれるオブジェクトは更新しません。]を使用すると, 選択されたオブジェクトのみが最新バージョンに更新されます。ツリー構造内のそれよりも下位のオブジェクトはすべて現在のバージョンのまま残ります。
  - ii. [このオブジェクトとすべての含まれるオブジェクトを更新します。]を使用すると, 管理テンプレートまたはアスペクトによって示されるツリー内のすべてのオブジェクトが最新バージョンに更新されます。
4. [次へ]をクリックします。更新のプレビューは, 管理テンプレートまたはアスペクトの展開されたツリー・ビューとして表示されます。ここで, 更新される項目には「(古いバージョン > 新しいバージョン)」, 更新されない項目には「(現在のバージョン)」というラベルが付けられます。


特定の項目が更新されないようにするには, [プレビュー]画面を使用してそれらを除外します。

- a. 更新から除外したい項目を選択します。
- b. [更新から除外する]  をクリックします。項目のバージョン・ラベルは変更されませんが, 選択された項目は更新から除外されます。これは, [更新から除外する]  アイコンの付いたラベルによって示されます。

注: [更新から除外する]は, 更新する項目に対してのみ有効になります。これは, 「(古いバージョン > 新しいバージョン)」 ラベルによって示されます。


- c. [プレビューの再ロード]をクリックし, 手動での除外を適用します。リストが更新されます。  
手動で除外された項目を再び含めるには, 該当の項目を選択し, [更新に含める] , [プレビューの再ロード]の順にクリックします。
5. [完了]をクリックして, プレビューに示される更新を適用します。

## 管理テンプレートまたはアスペクトの自動的な割り当て方法




1. [割り当ておよび調整]画面に進みます。
2. ビュー・ブラウザ(左ペイン)の[ビューの参照]タブの一番上のドロップダウン・リストで, 自動割り当てを設定するビューを選択します。割り当て済みCOのビューおよび最初のレベルがビュー・ブラウザに表示されます。
3. ビュー自身を選択します。これは,  <ビュー名>とラベルされた最上位の項目です。割り当てのリスト(右ペインの一番上)は, ヘッダ[自動割り当て]が示すように, ビューの自動割り当てを示します。

注: 自動割り当てに選択したビューに管理テンプレートのルートCIタイプが含まれていること, あるいは, アスペクトが自動割り当てされている場合はアスペクトのCIタイプが含まれていることを確認します。

ビューには, 自動割り当てされる管理テンプレートに含まれるアスペクトのすべてのCIタイプが含まれている必要はありません。

4. 自動割り当てのリストのツールバーで[新規割り当て...]  をクリックし, 適切なオプションを選択します。割り当てとデプロイ・ウィザードが表示されます。
5. [構成オブジェクトの選択]ページで, 自動的に割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトの[名前]をクリックします。


リストには、選択したビューに表示されるルート CI タイプを持つ管理テンプレートのみ、あるいは、アスペクトが自動割り当てされている場合は互換性のあるアスペクトのみが表示されます。

6. 割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトの[バージョン]を選択します。  
[次へ]をクリックします。
7. [パラメータ]ページで、各パラメータの値を指定します。
  - a. オプション。標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。すべてのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。また、 ボタンをクリックしてエキスパート・パラメータを表示することもできます。
  - b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。
    - 標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
[値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。
    - インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
インスタンスの値を追加し、各インスタンスの値ごとに依存パラメータの値を指定します。  
インスタンスと依存パラメータの値を指定した後、[OK]をクリックします。




[パラメータ]ページで、[次へ]をクリックします。
8. オプション。割り当てをただちに有効にしない場合は、[構成オプション]ページで[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当てを有効にすることができます。
9. [完了]をクリックします。管理テンプレートまたはアスペクトが自動割り当てのリストに追加されます。

オペレーション管理は、デプロイメント・ジョブを作成してノードに監視設定を転送します。ポリシー・テンプレートがデプロイされた後、[データコレクタ URL の標準設定仮想ゲートウェイサーバ]インフラストラクチャ設定に指定された BSM サーバは、ノード上でのポリシーの所有者になります。

## 管理テンプレートの割り当てレポートの表示方法

1. レポートを作成する管理テンプレートを選択します。
2. [管理テンプレートおよびアスペクト](中央)ペインの[割り当てレポートの生成]  をクリックします。



あらかじめ設定された割り当てレポートが表示されます。

割り当てられた CI 情報を展開または折りたたむには、[展開] () および [折りたたみ] () ボタンを使用します。[表示] () ボタンを使用して、すべての値を表示するか、カスタマイズ値のみを表示するかを切り替えることができます。

「割り当てと調整」(375ページ)画面から追加のタイプのレポートを表示できます。


## UI 参照

### 既存アスペクトの追加





UI 要素	
	<b>更新</b> : このアスペクト内でネストできるアスペクトのリストを再ロードします。
	<b>検索</b> : 文字列を指定すると、アスペクトのリストには名前にその文字列を含むアスペクトのみが表示されます。
名前	アスペクトの名前。リストには、アスペクトの CI タイプまたはより汎用的な CI タイプに割り当てることができるアスペクトのみを示します。
説明	アスペクトの説明。
OK	すべての選択されたアスペクトをネストされたアスペクトとして追加し、ダイアログ・ボックスを閉じます。  Ctrl または Shift キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。
キャンセル	アスペクトを追加せずにダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	ヘルプ: 関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。






## 割り当てとデプロイ・ウィザード

### [構成アイテム]画面

UI 要素	説明
	<b>検索</b> : 文字列を指定すると、CI のリストには名前にその文字列を含む CI のみが表示されます。
名前	構成アイテムの名前。リストには、選択した管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートをデプロイ可能な構成のタイプのみが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>管理テンプレートの場合、リストには検出されたルート CI タイプのすべての CI が含まれます。</li> <li>アスペクトの場合、リストには次の CI を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アスペクトの割り当て済み CI タイプの、検出されたすべての CI。</li> <li>アスペクトの割り当て済み CI タイプの、検出されていないが、<b>互換性のあるノード</b>のフラグが付いた CI。</li> </ul> </li> <li>ポリシー・テンプレートの場合、リストには、検出されたすべての CI、および<b>互換性のあるノード</b>のフラグが付いた CI を含めることができます。</li> </ul>
タイプ	構成アイテムのタイプ。
タイプ・ノードの CI も表示する(ノードと互換性のあるアスペクトのみ)	このチェックボックスをオンにすると、アスペクトと互換性のあるすべての CI が表示されます。オフにすると、CI がノードと互換性を持つタイプの CI のみが表示されます。詳細については、アスペクトの作成ウィザード/[アスペクトの編集]ダイアログ-[CI タイプ]画面/タブ、UI 要素 [互換性のあるノード]を参照してください。

## [パラメータ]画面

UI 要素	説明
パラメータ・リスト	<p>構成オブジェクトに割り当てている管理テンプレート<sup>Cpst</sup>、アスペクト、またはポリシー・テンプレート内のすべてのパラメータをリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集</b> : この割り当てに対して選択されたパラメータの値を指定するダイアログ・ボックスを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[値]を選択する場合、パラメータにとって有効な範囲の値を指定または選択する必要があります。指定する値は、ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を上書きします。</li> <li>ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を使用する場合は、[デフォルト値を使用]を選択します。</li> </ul> </li> </ul> <p>値を適用し、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを閉じるには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスのUI参照の項を参照してください。</li> </ul> <p> <b>必須パラメータのみを表示</b> : パラメータのテーブル内のオプションのパラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>エキスパート・パラメータの表示</b> : パラメータのテーブル内のエキスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI順にソート</b> : パラメータのリストを、UI順序の値に従って並べ替えます(値の小さい順)。</p> <p>パラメータのリストには次のカラムがあります。</p> <p><b>ターゲット(管理テンプレートのみ)</b>      パラメータを使用するアスペクトのCIタイプ。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>定義の場所</b> (管理テンプレートのみ) パラメータが定義される管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレート。</p> <p><b>名前</b> パラメータの名前。</p> <p><b>値</b> この割り当てにおけるパラメータの値。淡色表示されている値が標準設定値です。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul> <p>アイコンが淡色表示されている場合、値は読み取り専用です。</p> <p>無効を意味するアイコン()が表示される場合は、必須のパラメータの値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b> パラメータの説明。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [構成オプション]画面


UI 要素	説明
割り当てオブジェクトの有効化	割り当てをすぐに有効にしない場合は、該当の割り当ての[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当ておよび調整マネージャを使用して割り当てを有効にすることができます。

## 管理テンプレートの作成ウィザード/[管理テンプレートの編集]ダイアログ





### [一般]画面/タブ

UI 要素	説明
名前	管理テンプレートの名前。
説明	管理テンプレートの説明。
ID	管理テンプレートの一意的識別子。
バージョン ID	管理テンプレートのこのバージョンの一意的識別子。
バージョン	管理テンプレートの現在のバージョン。バージョンのフォーマットは次のとおりです。 <メジャー・バージョン番号>.<マイナー・バージョン番号> メジャー・バージョン番号は左側のフィールド、マイナー・バージョン番号は右側のフィールドに指定されます。
変更ログ	管理テンプレートのこのバージョン内で新しいまたは変更された内容を説明するテキスト。
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [トポロジ ビュー] 画面/タブ

UI 要素	説明
トポロジ・ビュー	この管理テンプレートがリンクされるトポロジ・ビュー。この管理テンプレートで管理されるすべての CI タイプを含むトポロジ・ビューを選択します。  [トポロジ ビュー] ドロップダウン・リストからトポロジ・ビューを選択するか、[...] ボタンをクリックして[ビューの参照] ダイアログ・ボックスを開きます。適切なビューが存在しない場合は、  ボタンをクリックしてモデリング・スタジオを起動し、適切なビューを作成します。














UI 要素	説明
トポロジ・マップ	<p>選択したトポロジ・ビューのグラフィカル表現。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>更新</b> : トポロジ・マップを更新します。</p> <p> <b>拡大</b> : トポロジ・マップを拡大します。</p> <p> <b>縮小</b> : トポロジ・マップのより広い部分を表示します。</p> <p> <b>エッジ・ラベルの表示</b> : トポロジ要素を接続する矢印に関連付けられたラベルのオン/オフを切り替えます。</p> <p><b>レイアウト</b> : トポロジ・ビューのフォーマットを変更します。</p>
CI タイプ	<p>割り当てのためのルート CI タイプ。ルート CI タイプを設定するには、オペレーション管理が[トポロジビュー]で管理テンプレートを自動割り当てするノードをクリックするか、ドロップダウン・リストから選択します。選択されたルート CI タイプが青色の背景で強調表示されます。</p> <p><b>注</b>: ルート CI タイプは、自動割り当てとの整合性を保証するために、トポロジ・ビュー内で一度だけ使用します。</p> <p>自動割り当ての詳細については、「管理テンプレートまたはアスペクトの自動的な割り当て方法」のタスクを参照してください。</p> <p><b>注意</b>: 管理テンプレートで、すでにアスペクトが[アスペクト]画面またはタブで選択されている場合、別のルート CI タイプをクリックするとアスペクトはそのターゲットを失います。したがって、ルート CI タイプを変更しても問題がない場合のみ別のルート CI タイプを選択し、そうでない場合は、[アスペクト]画面またはタブでアスペクトを手動で削除および再選択する必要があります。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。


### [アスペクト]画面/タブ

UI 要素	説明
トポロジ・ビュー	管理テンプレートのトポロジ・ビューを表示します。










UI 要素	説明
	<p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>更新</b> : トポロジ・マップを更新します。</p> <p> <b>拡大</b> : トポロジ・マップを拡大します。</p> <p> <b>縮小</b> : トポロジ・マップのより広い部分を表示します。</p> <p> <b>エッジ・ラベルの表示</b> : トポロジ要素を接続する矢印に関連付けられたラベルのオン/オフを切り替えます。</p> <p><b>レイアウト</b>      トポロジ・ビューのフォーマットを変更します。</p> <p>トポロジ・マップ内でノードをクリックすると、選択されたノードの CI タイプに一致するすべてのアスペクトが、利用可能なアスペクトのリスト(右上のリスト)にリストされます。</p>
<p>利用可能なアスペクトのリスト(右上のリスト)</p>	<p>トポロジ・ビューで選択された CI タイプと一致するすべてのアスペクトをリストします。</p> <p>管理テンプレートにアスペクトを追加するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 追加するアスペクトを選択します。</li> <li>2.  をクリックします。選択されたアスペクトは、選択されたアスペクトのリスト(右下のリスト)に追加されます。</li> </ol> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p>ツールバーの上の情報バー      トポロジ・ビューで選択された CI タイプと互換性を持つすべてのアスペクトをリストします。</p> <p> <b>検索</b> : 文字列を指定すると、アスペクトのリストには名前にその文字列を含むアスペクトのみが表示されます。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>名前</b>      アスペクトの名前。</p> <p><b>説明</b>      アスペクトの説明。</p> <p>リストの下のツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p>      利用可能なアスペクトのリスト(右上のリスト)で選択されたアスペクトを管理テンプレートに追加します。</p> <p>      選択されたアスペクトのリスト(右下のリスト)で選択されたアスペクトを管理テンプレートから削除します。</p>
<p>選択済みのリスト(右)</p>	<p>管理テンプレートに含まれるすべてのアスペクトをリストします。</p>

UI 要素	説明
<p>下のリスト)</p>	<p>管理テンプレートにアスペクトを割り当てるには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [アスペクトの追加]をクリックし、割り当てるアスペクトを選択または作成します(詳細については以下を参照)。アスペクトがリストに追加されます。</li> <li>2. アスペクトの使用済みバージョンを変更する必要がある場合は、[バージョン]カラムで使用するバージョンを選択します。</li> <li>3. 同じターゲット CI タイプを持つすべてのアスペクトを選択し、トポロジマップ内で希望のターゲット CI タイプの CI をクリックして、ターゲット CI タイプを割り当てます。クリックされた CI の CI タイプは、すべての選択されたアスペクトの[対象 CI タイプ]カラムに入力されます。</li> </ol> <p>テンプレートからアスペクトを削除するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 削除するアスペクトを選択します。</li> <li>2.  をクリックします。選択されたアスペクトがリストから削除されます。</li> </ol> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>更新</b> : アスペクトのリストを再ロードします。</p> <p> <b>アスペクトの編集</b> : 選択されたアスペクトの[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>名前</b>                    含まれるアスペクトの名前。</p> <p><b>バージョン</b>                ネストされたアスペクトのバージョン。</p> <p>別のバージョンに変更するには、ドロップダウン・リストからバージョンを選択します。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>注</b> : オペレーション管理はアスペクトのバージョンを自動的に更新しません。新しいバージョンのアスペクトが利用可能な場合は、親管理テンプレートの[最新に更新]を使用するか、バージョンを手動で更新します。「<a href="#">管理テンプレートの設定 (18ページ)</a>」の、「<a href="#">管理パックの更新後に管理テンプレートを更新する方法</a>」のタスクも参照してください。</p> </div>

UI 要素	説明
	<p><b>ターゲット</b></p> <p>アスペクトを割り当て可能な CI タイプ。これはまた、CI とトポロジ・ビューを照合して自動割り当てを行うために使用される CI タイプです。</p> <p><b>注:</b> このカラムは、選択したアスペクトに対して空にすることはできません。空のフィールドはエラー・アイコン  でマークされます。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

## [パラメータ] 画面/タブ

UI 要素	説明
パラメータのリスト	<p>管理テンプレートまたはアスペクトに含まれるアスペクトに割り当てられたポリシー・テンプレート内で定義されたパラメータをすべてリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集/結合 ... :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>パラメータの編集方法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. 単一のパラメータを選択します。</li> <li>b. [編集/結合] ボタン  をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、パラメータ設定を編集できます。</li> </ol> <p><b>注:</b> ここでの変更は、アスペクト・レベルで適用されます。変更はポリシー・テンプレート内の定義よりも優先されますが、ポリシー・テンプレート自体は変更しません。</p> </li> <li>• <b>パラメータの結合方法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. 同じタイプ(文字列値や数値など)の複数のパラメータを選択します。</li> </ol> </li> </ul>

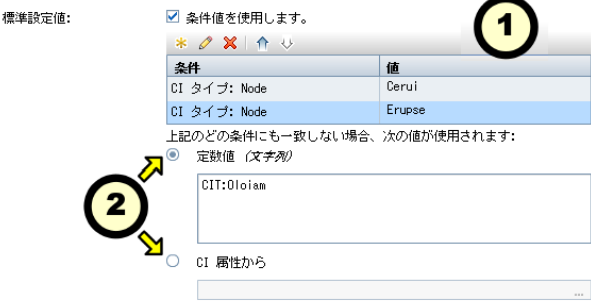
UI 要素	説明
	<p>b. [編集/結合] ボタン  をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、選択したパラメータを結合した新しいパラメータのパラメータ設定を指定できます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注:</b> パラメータは、次の基準を満たす場合のみ結合できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結合するパラメータのタイプは同じである必要があります。</li> <li>○ 結合するパラメータには条件値があってはなりません。</li> <li>○ 結合する数値パラメータの許容値の範囲は、重複している必要があります。</li> <li>○ 結合する列挙パラメータは、少なくとも1つの共通の値を持っている必要があります。</li> </ul> </div> <p> <b>結合/変更を元に戻す:</b> すべての選択されたパラメータの結合と変更を元に戻します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 結合したパラメータでないパラメータを選択した場合、[結合/変更を元に戻す] は選択したパラメータに対するすべての変更を元に戻します。</li> <li>• 結合したパラメータを選択した場合、[結合/変更を元に戻す] は選択した結合パラメータを構成する単一のパラメータを復元し、パラメータを結合する前に実行された変更を含めて、すべての変更を取り消します。</li> </ul> <p> <b>パラメータ詳細の表示:</b> パラメータのテーブルを展開し、追加のカラム[定義の場所]、[説明]、[タイプ] および[インスタンスパラメータ]を表示します。</p> <p> <b>更新:</b> パラメータのリストを再ロードします。</p> <p> <b>検索:</b> 文字列を指定すると、パラメータのリストには名前にその文字列を含むパラメータのみが表示されます。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>I</b>                    <b>インスタンス・パラメータ</b>: ✓ はパラメータがインスタンス・パラメータであること, — はインスタンス・パラメータでないことを示します。</p>
	<p><b>C</b>                    <b>結合パラメータ</b>: ✓ は, パラメータが結合パラメータであること, またはパラメータが変更されたことを示し, — はそうでないことを示します。</p>
	<p><b>UI 順</b>                このパラメータのリスト内での位置。</p>
	<p><b>名前</b>                パラメータの名前。初期状態のリストには, ポリシー・テンプレートのすべてのパラメータ, およびこのアスペクトに含まれるネストされたアスペクトが含まれています。ただし, パラメータをアスペクト・レベルで編集し, それらに代りの名前を与えることができます。また, パラメータを結合するときに名前を指定することができます。</p>
	<p><b>定義の場所 (詳細)</b>      パラメータを含むポリシー・テンプレートまたはアスペクトの名前。パラメータがこのアスペクト内で結合された場合, それはこのアスペクトの名前です。パラメータがネストされたアスペクトの一部である場合, それはネストされたアスペクトの名前です。</p>
	<p><b>説明 (詳細)</b>        パラメータの説明。</p>
	<p><b>タイプ (詳細)</b>      パラメータに指定することができる値のタイプ。変数のタイプには, 文字列, 数値, (複数のオプションの) 列挙, またはパスワードがあります。</p>
	<p><b>インスタンス・パラメータ (詳細)</b>      このパラメータが依存するインスタンス・パラメータの名前 (もしあれば)。</p>
	<p><b>ターゲット (管理テンプレートのみ)</b>      管理テンプレートのルート CI の CI タイプ。</p>
	<p><b>標準設定値</b>        パラメータの標準設定値。パラメータには, ポリシー・テンプレートに定義された標準設定値があります。また, 標準設定値を管理テンプレートまたはアスペクト・レベルで設定し, ポリシー・テンプレートの標準設定値を上書きすることもできます。</p>

UI 要素	説明
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

## [パラメータの編集/結合]ダイアログ

UI 要素	説明
名前	パラメータの名前。パラメータ・リストには、管理テンプレートまたはアスペクト構造の任意のアスペクト内で定義されたパラメータが含まれています。 [詳細]ペインの[構造]タブで管理テンプレートまたはアスペクトの構造を確認できます。
インスタンス・パラメータ	読み取り専用。チェックボックスがオンにされていれば、パラメータはインスタンス・パラメータです。オンにされていなければインスタンス・パラメータではありません。
説明	パラメータの説明。
UI 順	このパラメータのリスト内での位置。
フラグ	次のオプションを提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>必須</b>：読み取り専用。チェックボックスがオンにされていれば、パラメータは必須です。オンにされていなければ必須ではありません。</li> <li>● <b>読み取り専用</b>：管理テンプレートが構成アイテムに割り当てられている場合にパラメータ値が変更されないようにするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、管理テンプレートが割り当てられている場合に標準設定値が使用されます。</li> <li>● <b>エキスパート設定</b>：管理テンプレートが構成アイテムに割り当てられている場合に標準設定でパラメータを非表示にするには、このチェックボックスを選択します。割り当ての際に、ユーザはエキスパート設定を表示するかどうかを選択できます。</li> <li>● <b>非表示</b>：構成アイテムへの割り当て中にパラメータを非表示にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、管理テンプレートが割り当てられている場合に標準設定値が使用されます。</li> </ul>
標準設定値	パラメータの標準設定値。  オペレーション管理によって使用される標準設定値は次の優先度に従います。

UI 要素	説明						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アスペクト・レベルで定義された標準設定値は、ポリシー・テンプレート内の対応する標準設定値より優先されます。</li> <li>管理テンプレート・レベルで定義された標準設定値は、アスペクト・レベルで定義された対応する標準設定値(およびポリシー・テンプレート内で定義された対応する標準設定値)より優先されます。</li> </ul> <p>標準設定値は、次の図に示す標準設定値グループ内のコントロールを使用し、条件値を使用するパラメータに対して割り当てられます。</p>  <p>標準設定値:</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 条件値を使用します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>条件</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CI タイプ: Node</td> <td>Derui</td> </tr> <tr> <td>CI タイプ: Node</td> <td>Erupse</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のどの条件にも一致しない場合、次の値が使用されます:</p> <p><input checked="" type="radio"/> 定数値 (文字列)</p> <p>CIT:01oiam</p> <p><input type="radio"/> CI 属性から</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>いずれかの条件値が条件値リスト ① に存在する場合、条件はリストされた順序で評価され、true に評価される最初の条件に対応する値が標準設定値として使用されます。</li> <li>条件が存在しないか、どれも true に評価されない場合は、定数値あるいは CI 属性の値のうちラジオ・ボタン ② で選択されている方が標準設定値として使用されます。</li> </ol> <p>次の表は、標準設定値グループ内でコントロールを使用する方法を示します。</p> <p><b>条件値を使用する</b> このチェックボックスをオンにすると、条件値リスト ① が表示され、次の UI 要素が利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>* 新規項目</b> :新しい条件を定義するための[条件値の入力]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li><b>✎ 項目の編集...</b> :選択した条件を編集するための[条件値の入力]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li><b>✖ 項目を削除</b> :選択した条件を削除します。</li> <li><b>⬆ 上に移動</b> :条件の優先度を上げます。</li> <li><b>⬇ 下に移動</b> :条件の優先度を下げます。</li> </ul>	条件	値	CI タイプ: Node	Derui	CI タイプ: Node	Erupse
条件	値						
CI タイプ: Node	Derui						
CI タイプ: Node	Erupse						






UI 要素	説明
	<p><b>条件</b> 条件で使用されるすべての式をセミコロンで区切ってリストする文字列。</p> <p><b>値</b> 条件が最初に true に評価された場合に、標準設定として使用される値。</p> <p><b>注:</b> 管理テンプレート・レベルでは、条件を追加、削除、再調整することはできません。ただし、それらを実行するために使用される値を変更できます。</p> <p><b>条件</b> 条件で使用されるすべての式をセミコロンで区切ってリストする文字列。</p> <p><b>値</b> 条件が最初に true に評価された場合に、標準設定として使用される値。</p> <p><b>定数値</b> 条件値が定義されていない場合、あるいは条件値のどれも true に評価されない場合、テキスト・ボックスで指定された値が標準設定値として使用されます。</p> <p><b>CI 属性から</b> CI 属性が選択されていれば、条件値が定義されていない場合、あるいは条件値のどれも true に評価されない場合、選択した属性の値が標準設定値として使用されます。</p> <p><b>注:</b> この条件を実行するために使用される値は常に、値が解決されるアスペクト CI の値になります。これは管理テンプレート・レベルで値が上書きされていても同様です。</p> <p>CI 属性から標準設定値を使用するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [CI 属性から]ラジオ・ボタンを選択します。</li> <li>2. 入力フィールドの右の[...]ボタンをクリックします。[利用可能な属性]ダイアログ・ボックスが表示されます。</li> <li>3. [属性の CI タイプ]リストには、現在のアスペクトまたは、含まれてネストされたアスペクトの[CI タイプ]画面で割り当てられたすべての CI タイプが含まれています。適切な属性を選択します。</li> </ol>










### [条件値の入力]ダイアログ・ボックス








UI 要素	説明
定数値	条件がtrueの場合に使用する特定の値。値を(パラメータのタイプに応じて)入力または選択できます。
CI 属性から	<p>条件がtrueの場合に使用するCI属性。CI属性を選択するには、[...] ボタンをクリックします。[利用可能な属性]ダイアログ・ボックスが開きます。複数のCIタイプにアスペクトを割り当てることができる場合は、[属性のCIタイプ]を選択し、次にCI属性を選択します。アスペクトを1つのCIタイプにしか割り当てることができない場合は、[属性のCIタイプ]を最初に選択する必要はありません。</p> <p>CI属性を指定すると、オペレーション管理はCIからこの属性の実際の値を使用し、基本のポリシー・テンプレートのデプロイ中にパラメータの値を自動的に設定します。</p>

### [インスタンス パラメータの編集]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
[インスタンス値]リスト	<p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>  <b>インスタンス・パラメータの作成</b> : [パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。新しい値を作成するには、[値]を選択して、テキスト・ボックスに値を指定します。ダイアログ・ボックスを閉じ、新しい値を[インスタンス値]リストに追加するには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。 </li> <li>  <b>インスタンス・パラメータの編集</b> : [パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。インスタンス値を変更するには、テキスト・ボックスの値を編集します。ダイアログ・ボックスを閉じ、[インスタンス値]リストの値を新しい値に置き換えるには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。 </li> <li>  <b>インスタンス・パラメータの削除</b> : 選択したインスタンス値を削除します。 </li> <li>  <b>上に移動</b> : 選択したインスタンス値をリスト内で上に移動します。 </li> <li>  <b>下に移動</b> : 選択したインスタンス値をリスト内で下に移動します。 </li> </ul>
[依存値]リスト	<p>[依存値]リストは、[インスタンス値]リストで選択されたインスタンス値に対する依存値をリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p>

UI 要素	
	<p> <b>編集...</b> パラメータの値を指定するための[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを表示します。</p> <p> <b>必須パラメータのみを表示</b> : オプションのパラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>エキスパート・パラメータの表示/非表示</b> : エクスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI 順にソート</b> : 依存値のリストを, オペレーション管理コンソールに示す順序でソートします。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>定義の場所</b> 値の定義を含むポリシー・テンプレート。</p> <p><b>対象 CI タイプ</b> この値が適用される CI タイプの名前。</p> <p><b>名前</b> 依存値の名前。</p> <p><b>値</b> 依存値の値。</p> <p>淡色表示されている値が標準設定値です。</p> <p>アイコンは, パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul> <p>アイコンが淡色表示されている場合, 値は読み取り専用です。</p> <p>値を選択したときに無効を意味するアイコン()が表示される場合は, 必須の値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b> 依存値の説明。</p>
OK	<p>すべての選択されたアスペクトをネストされたアスペクトとして追加し, ダイアログ・ボックスを閉じます。</p> <p><b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら, 複数の項目を選択することができます。</p>
キャンセル	変更せずにダイアログ・ボックスを閉じます。

## レポート・ウィンドウ

UI 要素	説明
	すべて展開:すべてのCIを展開します。
	すべて折りたたむ:すべてのCIを折りたたみます。
	フィルタ・オン/オフ:[カスタマイズ値のみを表示]と[すべての値を表示]を切り替えます。
	カテゴリを展開:カテゴリを展開して、含まれる属性を表示します。
	カテゴリを折りたたみ:カテゴリを折りたたみ、含まれる属性を非表示にします。




## 最新に更新ウィザード

[オプション]画面

UI 要素	説明
最新のメジャーおよびマイナー・バージョンに更新	システムは、メジャーおよびマイナー・バージョン番号の両方を最新バージョンに更新できます。
最新のマイナー・バージョンに更新、メジャー・バージョンはすべてそのまま維持	マイナー・バージョン番号への変更のみを許可します。最新バージョンの項目のメジャー番号が現在の項目よりも高い場合、新しいバージョンには、現在のバージョンと同じメジャー番号に対する一番低い利用可能なマイナー番号が使用されます。
このオブジェクトのみを更新、含まれるオブジェクトは更新しない	選択されたオブジェクトのバージョンのみを更新します。ツリー構造内の配下のオブジェクトのバージョンは更新しません。
再帰的にこのオブジェクトとすべての含まれるオブジェクトを更新	ツリー全体のすべてのオブジェクトを更新します。
次へ	[プレビュー]画面に進みます。
キャンセル	変更せずにウィザードを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

[プレビュー]画面

UI 要素	説明
	展開:構造要素を展開し、含まれる要素のすべてのツリーを表示します。

UI 要素	説明
	折りたたむ: すべての構造ツリーを折りたたみます。
	更新に含める: 手動で除外されたポリシー・テンプレートを強制的に更新に含めます。
	更新から除外する: ポリシー・テンプレートを強制的に更新から除外します。
プレビューの再ロード	適用されるバージョン番号を再計算し、ポリシー・テンプレートを手動で除外または再度含めた後にプレビューを更新します。
戻る	[オプション]画面に戻ります。
完了	提案された変更をすべて適用し、ウィザードを閉じます。
キャンセル	変更せずにウィザードを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

## アスペクトの設定

アスペクトはポリシー・テンプレート、インストールメンテーションおよびパラメータのコンテナです。アスペクトにはそれぞれ、構成アイテム(CI)を監視する機能があります。アスペクトは互いに独立して動作するように設計することができ、複数の管理テンプレートに含めることができます。また、1つまたは複数のアスペクトを別のアスペクト内にネストすることで、アスペクトの重複を避け、管理をしやすことができます。

## 詳細

### ネストされたアスペクト

場合によっては、既存のアスペクトを拡張するアスペクトを作成することができます。この場合、1つまたは複数のアスペクトを別のアスペクト内にネストします。

たとえば、サーバの監視設定を定義する2つの再利用可能なアスペクトを作成することができます。

- 基本的なサーバ監視

10のサーバ・パフォーマンス・メトリクスを監視するポリシー・テンプレートを含むアスペクト。

- 詳細なサーバ監視

基本的なサーバ監視と同じ監視設定に加えて、さらに20のサーバ・パフォーマンス・メトリクスを監視する追加のポリシー・テンプレートを含むアスペクト。

上の例では、最初に基本的なサーバ監視アスペクトを設定し、次にそれを詳細なサーバ監視アスペクト内でネストすることができます。あるアスペクトを別のアスペクト内にネストすることによって、アスペクトの重複を避け、管理をしやすことができます。

アスペクトを作成する場合、アスペクトを割り当て可能な1つまたは複数のCIタイプを選択する必要があります。ネストされたアスペクトは、同じタイプまたはより汎用的なタイプのCIのいずれかに割り

当てできるように設定する必要があります。たとえば、CI タイプ `Computer` のアスペクトには、CI タイプ `Computer` またはより汎用的な CI タイプ `Node` のアスペクトをネストすることができます。

## パラメータ化

アスペクトは、ポリシー・テンプレートの変数に対応するパラメータを使用し、特定のタイプの CI がどのように監視されるかを制御します。パラメータの値は、アスペクトが割り当てられる CI タイプのオペレータによって設定されます。対応する変数は、ポリシー・テンプレートの定義に従って設定され、CI に渡されます。

パラメータは、ポリシー・テンプレートの物理定義から値を分離します。これには次のようなメリットがあります。

- 値はデプロイ時にアプリケーション内で設定することができます。ポリシー・テンプレート内でハードコードされた変数を変更する必要はありません。
- パラメータは条件付きでデプロイすることができます。パラメータが表す値を複数の状況で使用することができます。ただし、設定が行えるのは一度のみです。
- パラメータ値はさまざまなレベルで設定することができます。標準設定値を下位のレベルで使用することができます。これによって、オペレータによって設定される値の数を大幅に減らすことができます。
- 監視プロセスを開始するときに、割り当てを調整することによって設定された値を上書きすることができます。
- パラメータを組み合わせることにより、複数回使用される値を再利用することができます。値を繰り返し指定する必要がなくなります。典型的な例はパスワードのパラメータで、同じサービスにログオンするために1つのアスペクト内で複数のポリシー・テンプレートによって使用されます。

## 条件付きデプロイメント

ポリシー・テンプレートの条件付きデプロイメントには次の基準を使用することができます。

### • OS タイプ

ポリシー・テンプレートは、特定のオペレーティング・システム向けにデプロイするように設定できます。単一のアスペクトに複数のポリシー・テンプレートを条件付きでデプロイする場合、プラットフォームに中立的なアスペクトを作成することができます。

たとえば、複数のプラットフォーム上で実行できる MySQL を考えます。プロセスの状況を監視するアスペクトは、Windows、Linux および Solaris に対して条件付きでデプロイされたポリシー・テンプレートで設定されます。アスペクトが Linux ノード上でホストされる MySQL CI に割り当てられる場合、オペレーション管理はポリシー・テンプレートの Linux バリエーションを自動的にデプロイします。

### • CI タイプ

ポリシー・テンプレートは、特定の CI タイプ向けにデプロイするように設定できます。条件付きデプロイメントでは、同じパラメータによって管理される CI を監視し、CI タイプに固有のポリシー・テンプレートを持つアスペクトを作成できます。そのため、オペレーション管理は、CI の CI タイプにとって正しいポリシー・テンプレートを、アスペクトが割り当てられるときに自動的に選択できます。

### • CI 属性

ポリシー・テンプレートは、CI 属性が特定の値を持つ場合にデプロイされるように設定することができます。条件付きデプロイメントでは、ある属性が特定の値を持つ CI にのみ割り当てられるアスペクトを作成できます。

## 標準設定値の指定

パラメータ値は、ポリシー・テンプレートがデプロイされるときに監視エージェント内で設定されます。パラメータ値は、次の場所で定義および変更できます。

- ポリシー・テンプレートは、パラメータの標準設定値を含んでいます。
- ポリシー・テンプレートの標準設定は、アスペクトのポリシー・テンプレート設定のアスペクト・レベルで上書きできます。
- アスペクト・レベルの値は、管理テンプレートのアスペクト設定時に管理テンプレート・レベルで上書きできます。
- パラメータが `hidden` または `read-only` として設定されていない場合、管理テンプレートまたはアスペクトをデプロイする時に、管理テンプレート・レベルまたはアスペクト・レベルの値を上書きできます。

### パラメータの結合


複数のパラメータを組み合わせて、単一の結合パラメータを作成できます。結合パラメータの値はそのすべての構成パラメータに渡され、単一の値の定義を複数のCIに使用できます。それにより、パラメータを使用する管理テンプレートまたはアスペクトを簡単に割り当てて維持することができます。



**例:** MySQL のパフォーマンスを管理するために使用されるアスペクトを考えます。このアスペクトには、MySQL にアクセスするためにユーザ名とパスワードを使用する複数のポリシー・テンプレートが含まれています。この場合、アスペクト・レベルで資格情報を渡すパラメータを組み合わせると便利です。アスペクトが割り当てられる時に、パラメータを一度に定義できるようになります。



詳細については、パラメータの結合のタスク、および[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスのUI参照の項を参照してください。

## タスク

### アスペクトの作成または編集方法

1. [構成フォルダ] ペインで、新しいアスペクトを作成する構成フォルダを選択するか、新しいフォルダを作成します。構成フォルダの作成および管理の詳細については、「[構成フォルダ](#)」(14ページ)を参照してください。
2. 既存のアスペクトを編集するには、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインのアスペクトのリストからアスペクトを選択し、[項目の編集] ボタン  をクリックします。[一般] ページで[アスペクトの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。

新しいアスペクトを作成するには、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインの[新規] ボタン  をクリックし、 [アスペクトの作成] を選択します。[一般] ページでアスペクトの編集ウィザードが開きます。

**注:** 既存のアスペクトの新しいバージョンを作成する場合は、[新規] ボタン  を使用しないでください。このような場合は、新しいアスペクトを最初から作成します。既存のアスペクトの新しいバージョンを作成するには、[編集] ボタン  を使用し、[一般] ページで新しいバージョン番号を指定して、必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

3. [一般] ページでは、アスペクトについての一般情報を入力できます。


注: 必須のフィールドは、赤色のアスタリスク\*付きで表示されます。すべての必須フィールドの入力が完了するまで、[次へ]ボタンは有効になりません。システムによって入力されたフィールドは青色の背景でマーキングされます。これらのフィールドへの入力操作は必要ありません。

- a. アスペクトの一意の[名前]を入力します。
- b. オプション。アスペクトの[説明]を入力します。
- c. 必要であれば、アスペクトのメジャーおよびマイナー・バージョン番号を設定します。標準設定では、新しいアスペクトには最新バージョンのメジャー・バージョン番号が選択されます。
- d. オプション。[変更ログ]フィールドに、新しいアスペクトを作成する動機を入力します。

[CI タイプ]タブまたは[次へ]をクリックして値を受け入れ、ID を生成して、[CI タイプ]ページに進みます。





4. それぞれのアスペクトは、同じ特性を持つ1種類以上の構成アイテムの1つの特定の特性を監視します。[CI タイプ]ページで、アスペクトを割り当て可能な1つまたは複数の[利用可能なCI タイプ]を選択し、➡ ボタンをクリックします。選択されたCI タイプが、割り当て済みCI タイプのリストに追加されます。Ctrl または Shift キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。アスペクトをタイプがノードのCIに割り当て可能にする必要がある場合は、[互換性のあるノード]をオンにします。

[インストルメンテーション]タブまたは[次へ]をクリックして値を受け入れ、[インストルメンテーション]ページに進みます。

5. [インストルメンテーション]ページで、[インストルメンテーションの追加]ボタン  をクリックし、アスペクトにインストルメンテーションを追加します。[インストルメンテーションの追加]ダイアログ・ボックスが開き、追加するインストルメンテーションを選択できます。

インストルメンテーションには、エージェントがインストールされた管理ノードに対するポリシーの定義に従い、HP Operations Agentによって実行されるスクリプトと実行可能ファイルが含まれています。


[アスペクト]タブまたは[次へ]をクリックして値を受け入れ、[アスペクト]ページに進みます。


6. オプション。[アスペクト]ページでは、ネストされたアスペクトを含めることができます。
  - 新しいアスペクトを最初から作成するには、[アスペクトの追加]ボタン  を選択し、 [新規アスペクトの追加]を選択します。アスペクトの作成ウィザードが開きます。親アスペクトと同じ方法で新しいアスペクトを作成します。プロセスの最後に[完了]をクリックすると、アスペクトの作成ウィザードが閉じ、新しいアスペクトがネストされたアスペクトのリストに追加されます。
  - 以前に作成したアスペクトを含めるには、[アスペクトの追加]ボタン  を選択し、 [既存アスペクトの追加]を選択します。[既存アスペクトの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。既存のアスペクトを追加してネストするには、次の手順を実行します。
    - i. 追加するアスペクトについて、[バージョン]ドロップダウン・リストから適切なバージョンを選択します。
    - ii. このアスペクト内でネストするアスペクトを作成するか、リストから選択します。Ctrl または Shift キーを押しながら、複数のアスペクトを選択することができます。
    - iii. [OK]をクリックしてアスペクトを受け入れ、[既存アスペクトの追加]ダイアログ・ボックスを閉じます。



[ポリシー テンプレート] タブまたは [次へ] をクリックして値を受け入れ、[ポリシー テンプレート] ページに進みます。

7. [ポリシー テンプレート] ページでは、設定された CI タイプを監視するために必要なパラメータとインストールメンションを定義するポリシー テンプレートを割り当てることができます。

ポリシー テンプレートを割り当てるには、[ポリシー テンプレートの追加] ボタン  をクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加] ダイアログ ボックスが開き、システムにインストールされたすべてのポリシー テンプレートをリストします。

- 新しいポリシー テンプレートを最初から作成するには、[新規] ボタン  をクリックします。新規ポリシー テンプレートの作成ウィザードが開きます。「ポリシー テンプレート」(71ページ)の説明に従って新しいポリシー テンプレートを作成します。プロセスの最後に[完了]をクリックすると、新規ポリシー テンプレートの作成ウィザードが閉じ、新しいポリシー テンプレートがポリシー テンプレートのリストに追加されます。
- 以前に作成したポリシー テンプレートを含めるには、次の手順を実行します。
  - i. アスペクトに割り当てるすべてのポリシー テンプレートを選択します。Ctrl または Shift キーを押しながら、複数のポリシー テンプレートを選択することができます。
  - ii. [OK] をクリックして値を受け入れ、ウィザードの[ポリシー テンプレート] ページに戻ります。
- ポリシー テンプレートを変更するには、[項目の編集] ボタンをクリックし、適切なオプションを選択します。ポリシー テンプレートの変更の詳細については、「ポリシー テンプレート」(71ページ)を参照してください。

[パラメータ] タブまたは [次へ] をクリックして値を受け入れ、[パラメータ] ページに進みます。

8. [パラメータ] ページには、[ポリシー テンプレートの追加] ページに追加したポリシー テンプレートに定義されたすべてのパラメータがリストされます。



パラメータの動作を変更すると便利な場合があります。

- パラメータの値はアスペクト レベルで設定できます。
- パラメータは結合できます(「パラメータの結合方法」のタスクを参照)。
- 変更を元に戻したり、結合したパラメータを分割できます。

詳細については、[パラメータの編集/結合] ダイアログ ボックスのUI 参照の項および「アスペクトのパラメータ化」の「詳細」の項を参照してください。


9. [OK] または [完了] をクリックしてすべての画面の値を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。変更されたアスペクトまたは新しいアスペクトが、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインに表示されます。

### パラメータの編集または結合方法

パラメータを編集するには、1つのパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。複数のパラメータを1つの新しいパラメータに結合するには、Ctrl または Shift キーを押しながら複数のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログ ボックスが開き、既存のパラメータまたは結合したパラメータの次の情報を指定できます。

1. 必要に応じて、パラメータの[名前]を入力します。
2. オプション。[説明]を入力します。



3. オプション。[標準設定値]を指定します。標準設定値は次のいずれかの方法で設定できます。
  - [条件値を使用します。]をオンにし、[新規]ボタン  をクリックして[条件値の入力]ダイアログ・ボックスを開き、条件値を指定します。
  - [定数値]を選択し、リストから値を選択して、特定の値を設定します。
  - [CI属性から]を選択してCI属性に対応する値を取得し、CI属性を参照します。CI属性を指定すると、オペレーション管理は、アスペクトのCIからこの属性の実際の値を使用して、ポリシー・テンプレートのデプロイ中にパラメータ値を自動的に設定します。また、ここで条件付きパラメータ値を設定することもできます。




条件値を指定した時に、定義された条件がどれも適用しない場合は、定数値またはCI属性の値(選択されている方)が使用されます。
4. オプション。[読み取り専用]、[エキスパート設定]、および[非表示]から適切なオプションを設定します。
  - [読み取り専用]をオンにすると、アスペクトが構成アイテムに割り当てられたときに、パラメータ値が変更されるのを防ぎます。
  - [非表示]をオンにした場合も同じ効果がありますが、パラメータは非表示になります。
  - [エキスパート設定]をオンにすると、パラメータを割り当てる時にエキスパート設定が有効になります。詳細については、以下の「アスペクトのデプロイ方法」を参照してください。
5. [OK]をクリックしてパラメータを結合し、[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスを閉じます。


## アスペクトのデプロイ方法

注: アプリケーションまたはサービスの監視を開始する場合、CIにアスペクトを直接割り当てることができます。ただし、Monitoring Automation for Composite Applications アドオン・ライセンスを持っている場合は、代替の方法としてアスペクトを含む管理テンプレートをデプロイすることをお勧めします。管理テンプレートのデプロイの詳細については、「管理テンプレートの設定」(18ページ)の「管理テンプレートのデプロイ方法」のタスクを参照してください。

アドオン・ライセンスをインストールしていないユーザ、および開発者はアスペクトのデプロイを選択してかまいません。割り当てとデプロイ・ウィザードについては「管理テンプレートの設定」(18ページ)のUI参照の項にある[割り当てとデプロイ]ダイアログ・ボックスで説明していますが、このピックのUI参照からは削除されました。また、アスペクトを「割り当てと調整」(375ページ)画面でデプロイすることもできます。

## 割り当てレポートの表示方法

1. レポートを作成するアスペクトを選択します。
2. [管理テンプレートおよびアスペクト](中央)ペインの[レポート]ボタン  をクリックします。すべての管理テンプレートおよびアスペクトをリストする新しいブラウザ・ウィンドウが開きます。
3. レポートを作成する管理テンプレートまたはアスペクトを選択します。割り当てレポートが表示されます。
  - 割り当てられたCIのリストを展開または折りたたむには、[展開]  および[折りたたみ]  ボタンを使用します。


- [表示] ボタン  を使用して、すべての値を表示するか、カスタマイズ値のみを表示するかを切り替えることができます。

## 管理テンプレートまたはアスペクトの更新方法


ポリシー・テンプレートまたはアスペクトを変更する場合 (たとえば管理パックを更新する、あるいはポリシー・テンプレートまたはアスペクトをカスタマイズする場合など)、含まれるポリシー・テンプレートおよびアスペクトが新しいバージョンとしてデータベースに追加されます。管理テンプレートおよびアスペクトは、特定のバージョンのアスペクトを参照します。したがって、管理パックを更新する場合、更新されるアスペクトおよびポリシー・テンプレートを参照する管理テンプレートおよびアスペクトもすべて更新する必要があります。

オペレーション管理には最新に更新ウィザード機能があり、管理テンプレートおよびアスペクトを自動的に更新することができます。最新に更新ウィザードには、更新された項目のバージョンを管理するための複数の方法があります。状況に応じて、どの方法が最も適しているかを判断してください。



管理テンプレートまたはアスペクト内のすべての項目をデータベース内で最新バージョンに更新するには、次の手順を実行します。


1. 適切な構成フォルダを参照し、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペイン内で更新する管理テンプレートまたはアスペクトを選択します。単一の管理テンプレートまたはアスペクトを選択します。更新は単一の管理テンプレートまたはアスペクトでのみ実行できます。
  2. [最新に更新]  をクリックします。最新に更新ウィザードが開きます。
  3. 状況に合わせて次のオプションを設定します。
    - a. バージョン管理の選択肢:
      - i. [最新メジャーおよびマイナーバージョンに更新します。] では、メジャーおよびマイナーの両方のバージョンが最新バージョンを反映します。
      - ii. [最新のマイナーバージョンに更新、メジャーバージョンはすべてそのまま維持します。] では、変更がマイナーバージョン番号にのみ反映されます。最新バージョンの項目のメジャー番号が現在の項目よりも高い場合、新しいバージョンには、現在のバージョンと同じメジャー番号に対する一番低い利用可能なマイナー番号が使用されます。


たとえば、現在のバージョンが 1.5 で、バージョン番号 1.6 および 2.1 の 2 つ新しいバージョンがあるとします。
    - i. [最新メジャーおよびマイナーバージョンに更新します。] を使用すると、バージョン番号は 2.1 に更新されます。
    - ii. [最新のマイナーバージョンに更新、メジャーバージョンはすべてそのまま維持します。] を使用すると、バージョン番号は 1.6 に更新されます。
  - b. 更新の範囲:
    - i. [このオブジェクトのみを更新、含まれるオブジェクトは更新しません。] を使用すると、選択されたオブジェクトのみが最新バージョンに更新されます。ツリー構造内のそれよりも下位のオブジェクトはすべて現在のバージョンのまま残ります。
    - ii. [このオブジェクトとすべての含まれるオブジェクトを更新します。] を使用すると、管理テンプレートまたはアスペクトによって示されるツリー内のすべてのオブジェクトが最新バージョンに更新されます。
4. [次へ] をクリックします。更新のプレビューは、管理テンプレートまたはアスペクトの展開されたツリービューとして表示されます。ここで、更新される項目には「古いバージョン > 新しいバージョン」

ジョン)」, 更新されない項目には「(現在のバージョン)」というラベルが付けられます。


特定の項目が更新されないようにするには、[プレビュー]画面を使用してそれらを除外します。

- a. 更新から除外したい項目を選択します。
- b. [更新から除外する]  をクリックします。項目のバージョン・ラベルは変更されませんが、選択された項目は更新から除外されます。これは、[更新から除外する]  アイコンの付いたラベルによって示されます。

注: [更新から除外する]は、更新する項目に対してのみ有効になります。これは、「(古いバージョン > 新しいバージョン)」 ラベルによって示されます。


- c. [プレビューの再ロード]をクリックし、手動での除外を適用します。リストが更新されます。手動で除外された項目を再び含めるには、該当の項目を選択し、[更新に含める] , [プレビューの再ロード]の順にクリックします。
5. [完了]をクリックして、プレビューに示される更新を適用します。

## 管理テンプレートまたはアスペクトの自動的な割り当て方法



1. [割り当ておよび調整]画面に進みます。
2. ビュー・ブラウザ(左ペイン)の[ビューの参照]タブの一番上のドロップダウン・リストで、自動割り当てを設定するビューを選択します。割り当て済み CO のビューおよび最初のレベルがビュー・ブラウザに表示されます。
3. ビュー自身を選択します。これは、 <ビュー名> とラベルされた最上位の項目です。割り当てのリスト(右ペインの一番上)は、ヘッダ[自動割り当て]が示すように、ビューの自動割り当てを示します。

注: 自動割り当てに選択したビューに管理テンプレートのルート CI タイプが含まれていること、あるいは、アスペクトが自動割り当てされている場合はアスペクトの CI タイプが含まれていることを確認します。


ビューには、自動割り当てされる管理テンプレートに含まれるアスペクトのすべての CI タイプが含まれている必要はありません。

4. 自動割り当てのリストのツールバーで[新規割り当て...]  をクリックし、適切なオプションを選択します。割り当てとデプロイ・ウィザードが表示されます。
5. [構成オブジェクトの選択]ページで、自動的に割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトの[名前]をクリックします。

リストには、選択したビューに表示されるルート CI タイプを持つ管理テンプレートのみ、あるいは、アスペクトが自動割り当てされている場合は互換性のあるアスペクトのみが表示されます。
6. 割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトの[バージョン]を選択します。

[次へ]をクリックします。
7. [パラメータ]ページで、各パラメータの値を指定します。
  - a. オプション。標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。すべてのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。また、 ボタンをクリックしてエキスパート・パラ

メータを表示することもできます。

- b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。
  - 標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
[値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。
  - インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
インスタンスの値を追加し、各インスタンスの値ごとに依存パラメータの値を指定します。  
インスタンスと依存パラメータの値を指定した後、[OK]をクリックします。



[パラメータ]ページで、[次へ]をクリックします。

8. オプション。割り当てをただちに有効にしない場合は、[構成オプション]ページで[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当てを有効にすることができます。
9. [完了]をクリックします。管理テンプレートまたはアスペクトが自動割り当てのリストに追加されます。

オペレーション管理は、デプロイメント・ジョブを作成してノードに監視設定を転送します。ポリシー・テンプレートがデプロイされた後、[データコレクタ URL の標準設定仮想ゲートウェイサーバ]インフラストラクチャ設定に指定されたBSMサーバは、ノード上でのポリシーの所有者になります。

## UI 参照

### [既存アスペクトの追加]ダイアログ・ボックス



UI 要素	
	<b>更新</b> : このアスペクト内でネストできるアスペクトのリストを再ロードします。
	<b>検索</b> : 文字列を指定すると、アスペクトのリストには名前とその文字列を含むアスペクトのみが表示されます。
<b>名前</b>	アスペクトの名前。リストには、アスペクトのCIタイプまたはより汎用的なCIタイプに割り当てることができるアスペクトのみを示します。
<b>説明</b>	アスペクトの説明。
<b>OK</b>	すべての選択されたアスペクトをネストされたアスペクトとして追加し、ダイアログ・ボックスを閉じます。  <b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。
<b>キャンセル</b>	アスペクトを追加せずにダイアログ・ボックスを閉じます。
<b>ヘルプ</b>	<b>ヘルプ</b> : 関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。


### [インストルメンテーションの追加]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
-------	----

名前	システムにインストールされたインストルメンテーション・カテゴリの名前。
説明	インストルメンテーション・カテゴリの説明。
更新	インストール済みのインストルメンテーションをシステムから取得し、リストを更新します。
OK	選択されたすべてのインストルメンテーションをアスペクトに追加します。 <b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。
キャンセル	インストルメンテーションを追加せずにダイアログ・ボックスを閉じます。


## [ポリシーテンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
	<b>更新</b> : このアスペクトに追加可能なポリシー・テンプレートのリストを再ロードします。
	<p><b>新規...</b>: 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>* 新規ポリシー・テンプレートの追加</b>: [新規ポリシー・テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスを開きます。作成するポリシー・テンプレートのタイプを選択できます。[OK]をクリックして、ポリシー・テンプレート・エディタを開き、標準モードで新しいポリシー・テンプレートを作成します。</li> <li><b>* 新規ポリシー・テンプレートの追加 (RAW モード)</b>: [新規ポリシー・テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスを開きます。作成するポリシー・テンプレートのタイプを選択できます。[OK]をクリックして、ポリシー・テンプレート・エディタを開き、RAW モードで新しいポリシー・テンプレートを作成します。</li> </ul> <p>次のポリシー・テンプレート・タイプを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Arcsight Logger</li> <li>ConfigFile</li> <li>フレキシブル管理</li> <li>ログファイル・エントリ</li> <li>測定値しきい値</li> <li>ノード情報</li> <li>オープン・メッセージ・インタフェース</li> <li>スケジュールされたタスク</li> <li>サービス自動検出</li> <li>サービス/プロセス監視</li> </ul>

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SiteScope</li> <li>• SNMP インターセプタ</li> <li>• Windows イベント・ログ</li> <li>• Windows 管理 インタフェース</li> <li>• XML ファイル</li> </ul>
	<b>検索</b> : 文字列を指定すると、ポリシー・テンプレートのリストには名前にその文字列を含むポリシー・テンプレートのみが表示されます。
名前	ポリシーの名前。
OS タイプ	ポリシーと互換性のあるオペレーティング・システムの種類。
説明	ポリシーの説明。
タイプ	ポリシー・テンプレートのタイプ。
OK	すべての選択されたポリシー・テンプレートを追加し、ダイアログ・ボックスを閉じます。  <b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。
キャンセル	ポリシー・テンプレートを追加せずにダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	<b>ヘルプ</b> : 関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。



## 割り当てとデプロイ・ウィザード

### [構成アイテム] 画面








UI 要素	説明
	<b>検索</b> : 文字列を指定すると、CI のリストには名前にその文字列を含む CI のみが表示されます。
名前	<p>構成アイテムの名前。リストには、選択した管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートをデプロイ可能な構成のタイプのみが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理テンプレートの場合、リストには検出されたルート CI タイプのすべての CI が含まれます。</li> <li>• アスペクトの場合、リストには次の CI を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アスペクトの割り当て済み CI タイプの、検出されたすべての CI。</li> <li>■ アスペクトの割り当て済み CI タイプの、検出されていないが、<b>互換性のあるノード</b>のフラグが付いた CI。</li> </ul> </li> <li>• ポリシー・テンプレートの場合、リストには、検出されたすべての CI、お</li> </ul>

UI 要素	説明
	よび互換性のあるノードのフラグが付いた CI を含めることができます。
タイプ	構成アイテムのタイプ。
タイプ・ノードの CI も表示する(ノードと互換性のあるアスペクトのみ)	このチェックボックスをオンにすると、アスペクトと互換性のあるすべての CI が表示されます。オフにすると、CI がノードと互換性を持つタイプの CI のみが表示されます。詳細については、アスペクトの作成ウィザード/[アスペクトの編集]ダイアログ-[CI タイプ]画面/タブ、UI 要素[互換性のあるノード]を参照してください。

## [パラメータ]画面

UI 要素	説明
パラメータ・リスト	<p>構成オブジェクトに割り当てている管理テンプレート<sup>Cpst</sup>、アスペクト、またはポリシー・テンプレート内のすべてのパラメータをリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集</b> : この割り当てに対して選択されたパラメータの値を指定するダイアログ・ボックスを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[値]を選択する場合、パラメータにとって有効な範囲の値を指定または選択する必要があります。指定する値は、ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を上書きします。</li> <li>ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を使用する場合は、[デフォルト値を使用]を選択します。</li> </ul> </li> </ul> <p>値を適用し、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを閉じるには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスのUI参照の項を参照してください。</li> </ul> <p> <b>必須パラメータのみを表示</b> : パラメータのテーブル内のオプションのパラメータを表示/非表示にします。</p>



UI 要素	説明
	<p> <b>エキスパート・パラメータの表示</b> : パラメータのテーブル内のエキスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI 順にソート</b> : パラメータのリストを, UI 順序の値に従って並べ替えます(値の小さい順)。</p> <p>パラメータのリストには次のカラムがあります。</p> <p><b>ターゲット(管理テンプレートのみ)</b>      パラメータを使用するアスペクトの CI タイプ。</p> <p><b>定義の場所(管理テンプレートのみ)</b>      パラメータが定義される管理テンプレート, アスペクトまたはポリシー・テンプレート。</p> <p><b>名前</b>      パラメータの名前。</p> <p><b>値</b>      この割り当てにおけるパラメータの値。淡色表示されている値が標準設定値です。</p> <p>アイコンは, パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙(複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul> <p>アイコンが淡色表示されている場合, 値は読み取り専用です。</p> <p>無効を意味するアイコン()が表示される場合は, 必須のパラメータの値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b>      パラメータの説明。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ, 項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに, ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。



## [構成オプション]画面

UI 要素	説明
割り当てオブジェクトの有効化	割り当てをすぐに有効にしない場合は、該当の割り当ての[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当ておよび調整 マネージャを使用して割り当てを有効にすることができます。

## アスペクトの作成ウィザード/[アスペクトの編集]ダイアログ

## [一般]画面/タブ



UI 要素	説明
名前	アスペクトの名前。
説明	アスペクトの説明。
ID	アスペクトの一意の識別子。
バージョン ID	アスペクトのこのバージョンの一意の識別子。
バージョン	アスペクトの現在のバージョン。バージョンのフォーマットは次のとおりです。 <メジャー・バージョン番号>.<マイナー・バージョン番号> メジャー・バージョン番号は左側のフィールド、マイナー・バージョン番号は右側のフィールドに指定されます。
変更ログ	アスペクトのこのバージョン内で新規のものと変更されたものについて説明します。
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

## [CIタイプ]画面/タブ

UI 要素	説明
互換性のあるノード	状況によっては、トポロジ・ビューに関連する CI タイプではなく、タイプがノードの CI にアスペクトを割り当てることができる場合があります。 ノードにアスペクトを割り当てできるようにするには、[互換性のあるノード]をオンにします。
利用可能な CI タイプ	すべての利用可能な CI タイプのリスト。



UI 要素	説明
割り当てられた CI タイプ	ユーザがアスペクトを割り当てたい CI タイプ。
⇒	<b>CI タイプの追加</b> : 選択された CI タイプを, 利用可能な CI タイプのリストから割り当て済みの CI タイプのリストに移動します。
⇐	<b>CI タイプの削除</b> : 選択された CI タイプを, 割り当て済み CI タイプのリストから削除します。
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ, 項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに, ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [インストルメンテーション] 画面/タブ

UI 要素	説明
インストルメンテーション・カテゴリのリスト	<p> <b>インストルメンテーションの追加</b> : [インストルメンテーションの追加] ダイアログ・ボックスを開きます。ここで, このアスペクトに含めるインストルメンテーションのカテゴリを選択できます。</p> <p>インストルメンテーションには, エージェントがインストールされた管理ノードに対するポリシーの定義に従い, HP Operations Agent によって実行されるスクリプトと実行可能ファイルが含まれています。</p> <p> <b>インストルメンテーションの削除</b> : インストルメンテーションの選択されたカテゴリをこのアスペクトから削除します。</p> <p><b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら, 複数の項目を選択することができます。</p> <p><b>名前</b> このアスペクトに含まれるインストルメンテーション・カテゴリの名前。</p> <p><b>説明</b> インストルメンテーション・カテゴリの説明。</p>



UI 要素	説明
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。








### [アスペクト]画面/タブ

UI 要素	説明
アスペクトのリスト	<p>管理テンプレートに割り当てられたアスペクトをリストします。</p> <p><b>注:</b> 次のタイプのアスペクトは追加できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在のアスペクトをネストされたアスペクトとして含んでいるアスペクト。</li> <li>• ネストされたアスペクトを持ち、アスペクト自身内ですでにネストされたアスペクトとして存在するもの。</li> <li>• すでにアスペクト構造の他の場所に含まれているポリシー・テンプレートを含むアスペクト。</li> </ul> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>更新:</b> アスペクトのリストを再ロードします。</p> <p> <b>アスペクトの編集:</b> 選択されたアスペクトの[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>名前</b> 最初のレベルのネストされたアスペクトの名前(アスペクトの完全な再帰リストについては、[詳細]ペインの[構造]タブをアクティブにしてください)。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>バージョン</b>    ネストされたアスペクトのバージョン。</p> <p>別のバージョンに変更するには、ドロップダウン・リストからバージョンを選択します。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注:</b> オペレーション管理はアスペクトのバージョンを自動的に更新しません。アスペクトの新しいバージョンが利用可能な場合は、親管理テンプレートまたはアスペクトに対して[<b>最新に更新</b>]を使用するか、バージョンを手動で更新します。「管理テンプレートの設定」(18ページ)の、「管理パックの更新後に管理テンプレートを更新する方法」のタスクも参照してください。</p> </div> <p><b>説明</b>        ネストされたアスペクトの説明。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。




### [ポリシーテンプレート]画面/タブ





UI 要素	説明
ポリシー・テンプレートのリスト	<p> <b>更新</b> : このアスペクト内のポリシー・テンプレートのリストを再ロードします。</p> <p> <b>ポリシー・テンプレートの追加</b> : [ポリシーテンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスを開きます。ここで、既存のポリシー・テンプレートを追加するか、新しいポリシー・テンプレートを作成することができます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注:</b> 次のいずれかの条件が存在する場合は、アスペクトにポリシー・テンプレートを追加することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アスペクトに、追加するポリシー・テンプレートを使用しているアスペクトがネストされている。</li> <li>• アスペクトがネストされたアスペクトで、その親アスペクトが、追加するポリシー・テンプレートを使用している。</li> </ul> </div>

UI 要素	説明
	<p> <b>項目の編集</b> : 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>ポリシー・テンプレートの編集</b> : ポリシー・テンプレート・エディタを使用して、選択されたポリシー・テンプレートを標準モードで開きます。</li> <li> <b>ポリシー・テンプレートの編集 (RAW モード)</b> : ポリシー・テンプレート・エディタを使用して、選択されたポリシー・テンプレートを RAW モードで開きます。</li> </ul> <p> <b>デプロイ条件の編集</b> : [デプロイ条件の編集] ダイアログ・ボックスを開きます。ここで、選択されたポリシー・テンプレートのデプロイ条件を指定できます。</p> <p> <b>ポリシー・テンプレートの削除</b> : 選択されたポリシー・テンプレートをこのアスペクトから削除します。</p> <p><b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。</p> <p><b>名前</b>      ポリシー・テンプレートの名前。</p> <p><b>バージョン</b>      ポリシー・テンプレートのバージョン。 別のバージョンに変更するには、ドロップダウン・リストからバージョンを選択します。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注:</b> オペレーション管理 はポリシー・テンプレートのバージョンを自動的に更新しません。新しいバージョンのポリシー・テンプレートが利用可能な場合は、親管理テンプレートに対して<b>最新に更新ウィザード</b>を使用するか、またはバージョンを手動で更新します。「<a href="#">管理テンプレートの設定</a>」(18ページ)の、「<a href="#">管理バックの更新後に管理テンプレートを更新する方法</a>」のタスクも参照してください。</p> </div> <p><b>デプロイメント条件</b>      ポリシー・テンプレートのデプロイ条件。ポリシー・テンプレートのデプロイ条件を指定するには、ポリシー・テンプレートを選択し、[項目の編集] ボタン  をクリックして  [デプロイ条件の編集] を選択し、[デプロイ条件の編集] ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p><b>タイプ</b>      ポリシー・テンプレートのタイプ。</p>
<b>タイプ</b>	ポリシー・テンプレートのタイプ。

UI 要素	説明
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [パラメータ]画面/タブ

UI 要素	説明
パラメータのリスト	<p>管理テンプレートまたはアスペクトに含まれるアスペクトに割り当てられたポリシー・テンプレート内で定義されたパラメータをすべてリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集/結合 ... :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>パラメータの編集方法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>単一のパラメータを選択します。</li> <li>[編集/結合]ボタン  をクリックします。[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、パラメータ設定を編集できます。</li> </ol> <p><b>注:</b> ここでの変更は、アスペクト・レベルで適用されます。変更はポリシー・テンプレート内の定義よりも優先されますが、ポリシー・テンプレート自体は変更しません。</p> </li> <li>● <b>パラメータの結合方法</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>同じタイプ(文字列値や数値など)の複数のパラメータを選択します。</li> <li>[編集/結合]ボタン  をクリックします。[パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、選択したパラメータを結合した新しいパラメータのパラメータ設定を指定できます。</li> </ol> <p><b>注:</b> パラメータは、次の基準を満たす場合のみ結合できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結合するパラメータのタイプは同じであ</li> </ul> </li> </ul>

UI 要素	説明
	<div data-bbox="852 275 1357 678" style="border: 1px solid gray; padding: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <p>る必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結合するパラメータには条件値があつてはなりません。</li> <li>○ 結合する数値パラメータの許容値の範囲は、重複している必要があります。</li> <li>○ 結合する列挙パラメータは、少なくとも1つの共通の値を持っている必要があります。</li> </ul> </div> <p> <b>結合/変更を元に戻す:</b></p> <p>すべての選択されたパラメータの結合と変更を元に戻します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 結合したパラメータでないパラメータを選択した場合、[結合/変更を元に戻す]は選択したパラメータに対するすべての変更を元に戻します。</li> <li>● 結合したパラメータを選択した場合、[結合/変更を元に戻す]は選択した結合パラメータを構成する単一のパラメータを復元し、パラメータを結合する前に実行された変更を含めて、すべての変更を取り消します。</li> </ul> <p> <b>パラメータ詳細の表示:</b> パラメータのテーブルを展開し、追加のカラム[定義の場所]、[説明]、[タイプ]および[インスタンスパラメータ]を表示します。</p> <p> <b>更新:</b> パラメータのリストを再ロードします。</p> <p> <b>検索:</b> 文字列を指定すると、パラメータのリストには名前にその文字列を含むパラメータのみが表示されます。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>I</b>      <b>インスタンス・パラメータ:</b> <input checked="" type="checkbox"/> はパラメータがインスタンス・パラメータであること、<input type="checkbox"/> はインスタンス・パラメータでないことを示します。</p> <p><b>C</b>      <b>結合パラメータ:</b> <input checked="" type="checkbox"/> は、パラメータが結合パラメータであること、またはパラメータが変更されたことを示し、<input type="checkbox"/> はそうでないことを示します。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>UI 順</b> このパラメータのリスト内での位置。</p> <p><b>名前</b> パラメータの名前。初期状態のリストには、ポリシー・テンプレートのすべてのパラメータ、およびこのアスペクトに含まれるネストされたアスペクトが含まれていません。ただし、パラメータをアスペクト・レベルで編集し、それらに代りの名前を与えることができます。また、パラメータを結合するときに名前を指定することができます。</p> <p><b>定義の場所 (詳細)</b> パラメータを含むポリシー・テンプレートまたはアスペクトの名前。パラメータがこのアスペクト内で結合された場合、それはこのアスペクトの名前です。パラメータがネストされたアスペクトの一部である場合、それはネストされたアスペクトの名前です。</p> <p><b>説明 (詳細)</b> パラメータの説明。</p> <p><b>タイプ (詳細)</b> パラメータに指定することができる値のタイプ。変数のタイプには、文字列、数値、(複数のオプションの)列挙、またはパスワードがあります。</p> <p><b>インスタンス・パラメータ (詳細)</b> このパラメータが依存するインスタンス・パラメータの名前(もしあれば)。</p> <p><b>ターゲット (管理テンプレートのみ)</b> 管理テンプレートのルート CI の CI タイプ。</p> <p><b>標準設定値</b> パラメータの標準設定値。パラメータには、ポリシー・テンプレートに定義された標準設定値があります。また、標準設定値を管理テンプレートまたはアスペクト・レベルで設定し、ポリシー・テンプレートの標準設定値を上書きすることもできます。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [パラメータの編集/結合]ダイアログ・ボックス



UI 要素	説明
名前	パラメータの名前。パラメータ・リストには、管理テンプレートまたはアスペクト構造の任意のアスペクト内で定義されたパラメータが含まれています。 [詳細]ペインの[構造]タブで管理テンプレートまたはアスペクトの構造を確認できます。
インスタンス・パラメータ	読み取り専用。チェックボックスがオンにされていれば、パラメータはインスタンス・パラメータです。オンにされていなければインスタンス・パラメータではありません。
説明	パラメータの説明。
UI 順	このパラメータのリスト内での位置。
フラグ	<p>次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>必須</b> : 読み取り専用。チェックボックスがオンにされていれば、パラメータは必須です。オンにされていなければ必須ではありません。</li> </ul> <p><b>読み取り専用</b> : 管理テンプレートが構成アイテムに割り当てられている場合にパラメータ値が変更されないようにするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、管理テンプレートが割り当てられている場合に標準設定値が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>エキスパート設定</b> : 管理テンプレートが構成アイテムに割り当てられている場合に標準設定でパラメータを非表示にするには、このチェックボックスを選択します。割り当ての際に、ユーザはエキスパート設定を表示するかどうかを選択できます。</li> <li>● <b>非表示</b> : 構成アイテムへの割り当て中にパラメータを非表示にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、管理テンプレートが割り当てられている場合に標準設定値が使用されます。</li> </ul>
標準設定値	<p>パラメータの標準設定値。</p> <p>オペレーション管理によって使用される標準設定値は次の優先度に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アスペクト・レベルで定義された標準設定値は、ポリシー・テンプレート内の対応する標準設定値より優先されます。</li> <li>● 管理テンプレート・レベルで定義された標準設定値は、アスペクト・レベルで定義された対応する標準設定値(およびポリシー・テンプレート内で定義された対応する標準設定値)より優先されます。</li> </ul> <p>標準設定値は、次の図に示す標準設定値グループ内のコントロールを使用し、条件値を使用するパラメータに対して割り当てられます。</p>

UI 要素	説明						
	<div data-bbox="673 262 1266 577" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>標準設定値: <input checked="" type="checkbox"/> 条件値を使用します。 <span style="float: right;">①</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">条件</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CI タイプ: Node</td> <td>Cerui</td> </tr> <tr> <td>CI タイプ: Node</td> <td>Erupse</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のどの条件にも一致しない場合、次の値が使用されます:</p> <p><input checked="" type="radio"/> 定数値 (文字列)</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; width: 100%;">CIT:Oloian</div> <p><input type="radio"/> CI 属性から</p> <div style="border: 1px solid gray; height: 15px; width: 100%;"></div> </div> <p>②</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いずれかの条件値が条件値リスト ① に存在する場合、条件はリストされた順序で評価され、true に評価される最初の条件に対応する値が標準設定値として使用されます。</li> <li>2. 条件が存在しないか、どれも true に評価されない場合は、定数値あるいは CI 属性の値のうちラジオ・ボタン ② で選択されている方が標準設定値として使用されます。</li> </ol> <p>次の表は、標準設定値グループ内でコントロールを使用する方法を示します。</p> <p><b>条件値を使用する</b></p> <p>このチェックボックスをオンにすると、条件値リスト ① が表示され、次の UI 要素が利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">✱</span> <b>新規項目</b> : 新しい条件を定義するための[条件値の入力]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li><span style="color: orange;">✎</span> <b>項目の編集...</b> : 選択した条件を編集するための[条件値の入力]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li><span style="color: red;">✕</span> <b>項目を削除</b> : 選択した条件を削除します。</li> <li><span style="color: blue;">↑</span> <b>上に移動</b> : 条件の優先度を上げます。</li> <li><span style="color: blue;">↓</span> <b>下に移動</b> : 条件の優先度を下げます。</li> </ul> <p><b>条件</b> 条件で使用されるすべての式をセミコロンで区切ってリストする文字列。</p> <p><b>値</b> 条件が最初に true に評価された場合に、標準設定として使用される値。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>注:</b> 管理テンプレート・レベルでは、条件を追加、削除、再調整することはできません。ただし、それらを実行するために使用される値を変更できます。</p> </div>	条件	値	CI タイプ: Node	Cerui	CI タイプ: Node	Erupse
条件	値						
CI タイプ: Node	Cerui						
CI タイプ: Node	Erupse						

UI 要素	説明
	<p><b>定数値</b> 条件値が定義されていない場合、あるいは条件値のどれも true に評価されない場合、テキスト・ボックスで指定された値が標準設定値として使用されます。</p> <p><b>CI 属性から</b> CI 属性が選択されていれば、条件値が定義されていない場合、あるいは条件値のどれも true に評価されない場合、選択した属性の値が標準設定値として使用されます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注:</b> この条件を評価するために使用される値は常に、値が解決されるアスペクト CI の値になります。これは管理テンプレート・レベルで値が上書きされていても同様です。</p> </div> <p>CI 属性から標準設定値を使用するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [CI 属性から]ラジオ・ボタンを選択します。</li> <li>2. 入力フィールドの右の[...]ボタンをクリックします。[利用可能な属性]ダイアログ・ボックスが表示されます。</li> <li>3. [属性の CI タイプ]リストには、現在のアスペクトまたは、含まれてネストされたアスペクトの[CI タイプ]画面で割り当てられたすべての CI タイプが含まれています。適切な属性を選択します。</li> </ol>

### [条件値の入力]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
<b>定数値</b>	条件が true の場合に使用する特定の値。値を(パラメータのタイプに応じて)入力または選択できます。
<b>CI 属性から</b>	<p>条件が true の場合に使用する CI 属性。CI 属性を選択するには、[...]ボタンをクリックします。[利用可能な属性]ダイアログ・ボックスが開きます。複数の CI タイプにアスペクトを割り当てることができる場合は、[属性の CI タイプ]を選択し、次に CI 属性を選択します。アスペクトを1つの CI タイプにしか割り当てることができない場合は、[属性の CI タイプ]を最初に選択する必要はありません。</p> <p>CI 属性を指定すると、オペレーション管理は CI からこの属性の実際の値を使用し、基本のポリシー・テンプレートのデプロイ中にパラメータの値を自動的に設定します。</p>






### [デプロイ条件の編集]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
<b>OS タイプ</b>	このポリシー・テンプレートに対応するオペレーティング・システム。OS の条件を含めるには、[OS タイプ]チェックボックスをオンにして、ポリシー・テン

UI 要素	説明
	<p>レートをデプロイするオペレーティング・システムをすべてオンにします。</p> <p><b>注:</b> アスペクトには、複数のオペレーティング・システムのポリシー・テンプレートを含めることができます。オペレーション管理は、CI をホストするノードのオペレーティング・システムに適したポリシー・テンプレートを自動的にデプロイします。</p> <p>プラットフォームに依存しないポリシー・テンプレートを設定するには、同じポリシーからプラットフォーム固有のバリエーションを作成し、すべてのバリエーションを1つのアスペクトに含めます。</p>
CI タイプ	<p>ポリシー・テンプレートは、特定の CI タイプのみに適用されるように設定できます。</p> <p>CI タイプの条件を含めるには、[CI タイプ]チェックボックスをオンにして、適切な CI タイプをオンにします。</p>
CI 属性	<p>単一のアスペクトに複数の CI タイプの情報を含める場合、CI 属性の条件を指定して、CI 属性の値に基づいてポリシー・テンプレートを選択的にデプロイすることができます。</p> <p>CI 属性の条件を含めるには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[CI 属性]チェックボックスをオンにします。</li> <li>属性(左端)フィールドの右側の[参照]ボタン[...]をクリックします。[利用可能な属性]ダイアログ・ボックスが表示されます。左ペインには、アスペクトに割り当てられたビューに含まれるすべての CI タイプがリストされます。</li> <li>フィルタとして使用する属性を持つ CI タイプを選択します。選択された CI タイプに利用可能なすべての属性がリストに表示されます。</li> <li>リストから適切な属性を選択し、[挿入]をクリックします。[利用可能な属性]ダイアログ・ボックスが閉じ、選択された属性が属性フィールドに入力されます。</li> <li>演算子(中央)フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。条件に完全一致を使用する場合は[Equals]を選択します。正規表現の一致を使用する場合は[MatchesRegexp]を選択します。</li> <li>値(右)のフィールドに適切な値を入力します。</li> <li>[OK]をクリックします。デプロイ条件はすべて[ポリシー・テンプレート]ペインの[デプロイメント条件]カラムに入力されます。</li> </ol>

UI 要素	説明
OK	すべての条件を適用します。  注: デプロイする項目に対してすべての条件は true である必要があります。
キャンセル	条件を追加せずにダイアログ・ボックスを閉じます。

## [レポート] 画面

UI 要素	説明
	すべて展開: すべての CI を展開します。
	すべて折りたたむ: すべての CI を折りたたみます。
	フィルタ・オン/オフ: [カスタマイズ値のみを表示] と [すべての値を表示] を切り替えます。
	カテゴリを展開: カテゴリを展開して、含まれる属性を表示します。
	カテゴリを折りたたみ: カテゴリを折りたたみ、含まれる属性を非表示にします。





## 最新に更新ウィザード

## [オプション] 画面

UI 要素	説明
最新のメジャーおよびマイナー・バージョンに更新	システムは、メジャーおよびマイナー・バージョン番号の両方を最新バージョンに更新できます。
最新のマイナー・バージョンに更新、メジャー・バージョンはすべてそのまま維持	マイナー・バージョン番号への変更のみを許可します。最新バージョンの項目のメジャー番号が現在の項目よりも高い場合、新しいバージョンには、現在のバージョンと同じメジャー番号に対する一番低い利用可能なマイナー番号が使用されます。
このオブジェクトのみを更新、含まれるオブジェクトは更新しない	選択されたオブジェクトのバージョンのみを更新します。ツリー構造内の配下のオブジェクトのバージョンは更新しません。
再帰的にこのオブジェクトとすべての含まれるオブジェクトを更新	ツリー全体のすべてのオブジェクトを更新します。
次へ	[プレビュー] 画面に進みます。
キャンセル	変更せずにウィザードを閉じます。

UI 要素	説明
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [プレビュー] 画面

UI 要素	説明
	<b>展開</b> : 構造要素を展開し、含まれる要素のすべてのツリーを表示します。
	<b>折りたたむ</b> : すべての構造ツリーを折りたたみます。
	<b>更新に含める</b> : 手動で除外されたポリシー・テンプレートを強制的に更新に含めます。
	<b>更新から除外する</b> : ポリシー・テンプレートを強制的に更新から除外します。
プレビューの再ロード	適用されるバージョン番号を再計算し、ポリシー・テンプレートを手動で除外または再度含めた後にプレビューを更新します。
戻る	[オプション] 画面に戻ります。
完了	提案された変更をすべて適用し、ウィザードを閉じます。
キャンセル	変更せずにウィザードを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

## 詳細表示

管理テンプレートおよびアスペクトには多くのプロパティおよび構造があります。[詳細]ペイン(右ペイン)には、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペイン(中央ペイン)で選択された管理テンプレートまたはアスペクトについての詳細が含まれています。管理テンプレートまたはアスペクトが選択されていない場合、ペインは空です。

どちらの詳細が表示されるかは、管理テンプレートまたはアスペクトのどちらが[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで選択されているかによって決まります。以下のUI参照の項では、管理テンプレートまたはアスペクトのいずれかにのみ関連する詳細カテゴリはマーキングによって識別されます。

## 第3章

---

# ポリシー・テンプレート

ポリシー・テンプレートは、HP Operations Agent、HP SiteScope、または HP ArcSight Logger についての構成情報のセットです。これらの製品によって、ネットワークおよびコンピュータの構成および監視を自動化することができます。ポリシー・テンプレートは、特定の構成および監視タスクの詳細を定義します。

個別ポリシー・テンプレートを作成し、HP Operations Agent や HP SiteScope、または HP Arcsight Logger を実行するコンピュータへデプロイできます。さらに、アспект および管理テンプレート内でポリシー・テンプレートをグループにまとめ、アプリケーションやサービスのための完全な管理ソリューションを作成できます。

## 詳細

本項の内容

- 「ポリシー・テンプレートのタイプ」(71ページ)
- 「ポリシー・テンプレート・グループ」(72ページ)
- 「ポリシー・テンプレートのバージョン」(72ページ)
- 「ポリシー・テンプレートのパラメータ化」(72ページ)
- 「インスタンス・パラメータ」(73ページ)

### ポリシー・テンプレートのタイプ

利用可能なポリシー・テンプレートのタイプ:

- Arcsight Logger
- ConfigFile
- フレキシブル管理
- ログファイル・エントリ
- 測定値しきい値
- ノード情報
- オープン・メッセージ・インタフェース
- スケジュールされたタスク
- サービス自動検出
- サービス/プロセス監視
- SiteScope
- SNMP インターセプタ

- Windows イベント・ログ
- Windows 管理 インタフェース
- XML ファイル

## ポリシー・テンプレート・グループ

ポリシー・テンプレート・グループはポリシー・テンプレートの整理に使用します。ユーザは独自のポリシー・テンプレート・グループを定義し、定義したグループ内にポリシーを置くことができます。これにより、ポリシー・テンプレートとポリシー・テンプレート・グループをリンクさせます。ポリシー・テンプレートは複数のグループ内に配置できます。

[**Templates grouped by type**]テンプレート・グループは、タイプ値に従ってテンプレートを自動的に整理する際に使用します。

## ポリシー・テンプレートのバージョン

既存のポリシー・テンプレートを変更する場合は、データベース内に一意のバージョン番号を付けて、新しいバージョンのポリシーを作成します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。

**注:** HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。

## ポリシー・テンプレートのパラメータ化

パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。

たとえば、CPU 使用率のレベルを監視するポリシー・テンプレートを持っている場合、警戒域イベントしきい値、重要警戒域イベントしきい値、危険域イベントしきい値のパラメータを使用できます。ポリシー・テンプレートのコンシューマはパラメータを使用して、監視するコンピュータにおいて警戒域、重要警戒域、または危険域イベントとなる CPU 使用率のレベルを指定できます。ユーザはポリシー・テンプレートに変更を加える必要はなく、ポリシー・テンプレートが CPU を監視する方法に関する詳細な知識は必要ありません。ユーザは、ポリシー・テンプレートがどんな監視機能を提供するか、そしてパラメータの目的のみを知っていればよいのです。

また、パラメータを使用すると、事前に指定できない値を使用するポリシー・テンプレートを作成できます。

たとえば、データベースのパフォーマンスを監視するポリシー・テンプレートでは、データベースに接続するためにユーザ名とパスワードが必要となる場合があります。適切なパラメータを使用することで、ハード・コード化されたユーザ資格情報がなくても汎用のポリシー・テンプレートの提供が可能になります。

ポリシー・テンプレートを割り当ててデプロイした後、アプリケーションの上級者はできるだけ頻繁にパラメータの値を変更し、監視ソリューションを微調整できます。

ポリシー・テンプレートのテキスト・フィールドの変数は `%%<変数名>%%` の形式 (例:

`%%CriticalThreshold%%`) で指定できます。変数名には英数字 (a-z, A-Z, 0-9) とアンダーバー ( `_` ) を使用できます。これ以外の文字 (またはスペース) は変数名では無効となります。



各変数はポリシー・テンプレート内専用で、テンプレートのコンシューマには表示されません。コンシューマは対応するパラメータを見て、値を設定できます。

許容可能なパラメータ値のタイプを指定できます。パラメータ値には文字列、数字、パスワードを使用したり、許容可能な値の選択元となる列挙を設定できます。パラメータには標準設定値を設定できます。パスワードと列挙パラメータには常に値が必須ですが、文字列と数値パラメータでは、値を必須とするかどうかを制御できます。数値パラメータについては、許容可能な値の範囲を指定できます。また、パラメータをリストに表示する順序を指定することもできます。

## インスタンス・パラメータ

インスタンス・パラメータを使用すると、同じタイプのオブジェクトの複数のインスタンス(複数のデータベース・インスタンスや複数のハード・ディスクなど)を監視するポリシー・テンプレートを作成できます。

各ポリシー・テンプレートにはインスタンス・パラメータを1つだけ持つことができます。ポリシー・テンプレートにインスタンス・パラメータを追加すると、他のすべてのパラメータはそのパラメータに依存します。ユーザは、各インスタンスの依存パラメータの値として、別の値を指定できます。




たとえば、ディスク容量の使用率を監視するポリシー・テンプレートを持っている場合、「ディスク」というインスタンス・パラメータと、「警戒域ディスク使用量しきい値」、「重要警戒域ディスク使用量しきい値」、「危険域ディスク使用量しきい値」という依存パラメータを指定できます。このポリシー・テンプレートのユーザは「ディスク」パラメータを使用して(たとえば、インスタンスの値 C:, D:, E: を追加するなどして)複数のディスク・インスタンスを指定できます。各ディスク・インスタンスについて、ユーザは依存パラメータ用に異なる値を設定できます(たとえば、「危険域ディスク使用量しきい値」をディスク C: では 85%、ディスク D: では 90%、ディスク E: では 95% に指定できます)。

## タスク

本項の内容

- 「ポリシー・テンプレートのデプロイ方法」(73ページ)
- 「テンプレート・グループの作成方法」(74ページ)
- 「ポリシー・テンプレートの検索方法」(74ページ)

### ポリシー・テンプレートのデプロイ方法

1. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
2. [ポリシー・テンプレート グループ] ペインで、ツリーを展開し、デプロイするポリシー・テンプレートに移動します。
3. [ポリシー・テンプレート] ペインで、デプロイするポリシー・テンプレートを選択し、 ボタンをクリックします。割り当てとデプロイ・ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] ページで、ポリシー・テンプレートを割り当てる構成アイテムをクリックしてから、[次へ]をクリックします。
5. [パラメータ] ページで、各パラメータの値を指定します。
  - a. オプション: 標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。すべてのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。
  - b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。

- 標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
[値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。
- インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
必要であればインスタンス値を変更し、各インスタンスの値ごとに依存パラメータの値を変更します。インスタンスと依存パラメータの値を変更した後、[OK]をクリックします。

[次へ]をクリックします。



6. オプション: 割り当てをただちに有効にしない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当ておよび調整マネージャを使用して割り当てを有効にすることができます。
7. [完了]をクリックします。オペレーション管理はポリシー・テンプレートをノードにデプロイするデプロイメント・ジョブを作成します。



ポリシー・テンプレートがデプロイされた後、[データコレクタ URL の標準設定仮想ゲートウェイサーバ]インフラストラクチャ設定に指定されたBSMサーバは、ノード上でのポリシーの所有者になります。

## テンプレート・グループの作成方法


1. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]

2. [ポリシーテンプレート グループ]ペインで[テンプレート グループ]を選択し、 ボタンをクリックします。あるいは、ネストされたテンプレート・グループを作成するには、既存のグループを選択し、 ボタンをクリックします。[新規テンプレート グループの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 新規テンプレート・グループの名前と説明を入力し、[OK]をクリックします。選択したテンプレート・グループの下に新規テンプレート・グループが追加されます。
4. ポリシー・テンプレートを[ポリシーテンプレート]ペインで選択し、テンプレート・グループヘドラッグしてテンプレート・グループに追加します。

あるいは、ポリシー・テンプレートを選択し、 ボタンをクリックします。次に、[ポリシーテンプレート]ペインでポリシー・テンプレートの追加先となるテンプレート・グループを選択し、 ボタンをクリックします。

### 注:

- テンプレート・グループには常に最新のバージョンのポリシー・テンプレートが含まれます。
- ポリシー・テンプレートをテンプレート・グループに追加すると、テンプレートはグループへリンクされます。グループからテンプレートを削除するには、テンプレートを選択し、 **グループから項目を削除**をクリックします。これによってグループからテンプレート・リンクを削除し、実際のポリシー・テンプレートは[**Templates grouped by type**]下に引き続き存在します。

## ポリシー・テンプレートの検索方法

1. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]

2. [ポリシー テンプレート グループ] ペインで 🔍 ボタンをクリックします。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。
3. [名前] と [説明] のいずれかまたは両方に検索文字列を入力します。また、ワイルドカード (\*) を使用することもできます。

名前と説明の両方を検索する場合、検索結果は両方の検索文字列と一致するポリシー・テンプレートのみを返します。

4. 検索場所を選択します。テンプレート・グループに割り当てられたポリシー・テンプレートを検索するには、[ポリシー テンプレート グループ] を選択します。すべてのポリシー・テンプレートを検索するには、[ポリシー テンプレート] を選択します。
5. [検索] をクリックします。検索結果はダイアログ・ボックスの下半分に表示されます。
6. オプション: 検索結果でポリシー・テンプレートを選択し、🔍 をクリックすると、[ポリシー テンプレート] ペインのテンプレート・バージョンがハイライト表示されます。

オプション: ポリシー・テンプレートを選択し、✏️ をクリックすると、テンプレートに対応するポリシー・エディタが開きます。

## UI 参照





本項の内容






- 「割り当てとデプロイ - 構成アイテム」(75ページ)
- 「割り当てとデプロイ - パラメータ」(76ページ)
- 「割り当てとデプロイ - 構成オプション」(77ページ)
- 「[ポリシー パラメータ] ダイアログ・ボックス」(78ページ)
- 「[ポリシー テンプレートの詳細] ペイン」(81ページ)
- 「[ポリシー テンプレート グループ] ペイン」(81ページ)
- 「[ポリシー テンプレート] ペイン」(82ページ)
- 「[検索] ダイアログ・ボックス」(83ページ)
- 「[テンプレート グループ] ダイアログ・ボックス」(83ページ)

### 割り当てとデプロイ - 構成アイテム

UI 要素	説明
名前	構成アイテムの名前。リストには、選択した管理テンプレート、アспектまたはポリシー・テンプレートをデプロイ可能な構成のタイプのみが含まれます。
タイプ	構成アイテムのタイプ。

## 割り当てとデプロイ - パラメータ

UI 要素	説明
パラメータ・リスト	<p>構成オブジェクトに割り当てている管理テンプレート、アスペクト、またはポリシー・テンプレート内のすべてのパラメータをリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集</b> : この割り当てに対して選択されたパラメータの値を指定するダイアログ・ボックスを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[値]を選択する場合、パラメータにとって有効な範囲の値を指定または選択する必要があります。指定する値は、ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を上書きします。</li> <li>ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を使用する場合は、[デフォルト値を使用]を選択します。</li> </ul> </li> </ul> <p>値を適用し、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを閉じるには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスのUI参照の項を参照してください。</li> </ul> <p> <b>必須パラメータのみを表示</b> : パラメータのテーブル内のオプションのパラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>エキスパート・パラメータの表示</b> : パラメータのテーブル内のエキスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI順にソート</b> : パラメータのリストを、UI順序の値に従って並べ替えます(値の小さい順)。</p> <p>パラメータのリストには次のカラムがあります。</p> <p><b>ターゲット(管理テンプレートのみ)</b>      パラメータを使用するアスペクトのCIタイプ。</p>

UI 要素	説明
	<p><b>定義の場所</b> (管理テンプレートのみ)</p> <p>パラメータが定義される管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレート。</p> <p><b>名前</b></p> <p>パラメータの名前。</p> <p><b>値</b></p> <p>この割り当てにおけるパラメータの値。淡色表示されている値が標準設定値です。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul> <p>アイコンが淡色表示されている場合、値は読み取り専用です。</p> <p>無効を意味するアイコン()が表示される場合は、必須のパラメータの値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b></p> <p>パラメータの説明。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。






### 割り当てとデプロイ - 構成オプション

UI 要素	説明
割り当てオブジェクトの有効化	割り当てをすぐに有効にしない場合は、該当の割り当ての[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当ておよび調整マネージャを使用して割り当てを有効にすることができます。

## [ポリシー パラメータ] ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
名前	<p>パラメータのラベル。ユーザ・インタフェースでポリシー・テンプレートのコンシューマに対して表示される名前。</p> <p><b>ヒント:</b> アスペクトおよび管理テンプレートには多くポリシー・テンプレートを含めることができます。したがって、一般的な名前ではなく、具体的なパラメータ名を付けると便利な場合があります。</p> <p>たとえば、「危険域ディスク使用量しきい値」は「危険域しきい値」より良い場合があります。</p>
変数名	<p>ポリシー・テンプレート内の対応する変数の名前。</p> <p>ポリシー・テンプレートの条件内またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドに変数を指定できます。テキスト・ボックスに%%&lt;変数名&gt;%%の形式で変数を入力します(例: %%CriticalThreshold%%)。変数名には英数字(a-z, A-Z, 0-9)とアンダーバー(_)を使用できます。これ以外の文字(またはスペース)は変数名では無効となります。</p> <p>各変数はポリシー・テンプレート内専用で、テンプレートのコンシューマには表示されません。変数名はポリシー・テンプレート内で一意である必要があります。</p>
インスタンス・パラメータ	<p>このパラメータがインスタンス・パラメータであることを定義します。インスタンス・パラメータを使用すると、同じタイプのオブジェクトの複数のインスタンス(複数のデータベース・インスタンスや複数のハード・ディスクなど)を監視するポリシー・テンプレートを作成できます。</p> <p>各ポリシー・テンプレートにはインスタンス・パラメータを1つだけ持つことができます。ポリシー・テンプレートにインスタンス・パラメータを追加すると、他のすべてのパラメータはそのパラメータに依存します。ユーザは、各インスタンスの依存パラメータの値として、別の値を指定できません。</p> <p><b>ヒント:</b> 測定しきい値ポリシー・テンプレートでは、インスタンス・パラメータの変数を使用してOBJECT属性を指定します。</p> <p>たとえば、ハード・ディスクの複数のインスタンスを監視するポリシーがある場合、変数名DISKを使用したインスタンス・パラメータを作成し、作成したパラメータをポリシー・テンプレート内で次のように使用できます。</p> <pre>OBJECT "^%%DISK%%\$" SEPARATORS "      "</pre> <p>次のポリシー・タイプはインスタンス・パラメータをサポートしていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• フレキシブル管理</li> <li>• ノード情報</li> <li>• オープン・メッセージ・インタフェース</li> <li>• サービス自動検出</li> </ul>

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サービスプロセス監視</li> <li>• SNMP インターセプタ</li> <li>• Windows イベント・ログ</li> <li>• Windows 管理 インタフェース</li> </ul>
UI 順	パラメーター 覧内 のこのパラメータの位置。
説 明	パラメータの説明。ユーザ・インタフェースで、ポリシー・テンプレートのコンシューマに対して表示される説明。ユーザがパラメータの目的を理解できる説明を提供します。
変 数 タ イ プ	<p>コンシューマがパラメータに指定可能な値のタイプを定義します。次の変数タイプを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文字列 値には任意の文字列を使用できます。</li> <li>• 数値 値は数字にする必要があります。最小値と最大値を指定できます。</li> <li>• 列挙 値は、許容可能な値として指定されたリストの値のいずれかにする必要があります。</li> <li>• 文字列(パスワード) 値には任意の文字列を使用できますが、ユーザ・インタフェースには値は表示されません。オペレーション管理はデータベースへ保存する前に値を暗号化します。</li> </ul>
最 小 値	許容可能な最小値を定義します(変数タイプが数値の場合)。
最 大 値	許容可能な最大値を定義します(変数タイプが数値の場合)。
受 け 入 れ 可 能 な 値	許容可能値のリストを定義します(変数タイプが列挙の場合)。各値を別々の行で指定します。

UI 要素	説明
標準設定値	<p>パラメータの標準設定値を定義します。</p> <p>条件付きの標準設定値のリストを追加するには、[条件値を使用します]チェック・ボックスを選択します。条件付きの標準設定値は、ポリシー・テンプレートのデプロイ先となるホスト・ノードのオペレーティング・システムのタイプに基づいて設定できます。</p> <p>条件値を使用する場合、オペレーション管理は、ポリシー・テンプレートのデプロイ前に指定した順序で条件を評価し、TRUE となる最初の条件に対応する値を使用します。TRUE となる条件がない場合、オペレーション管理は標準設定値を使用します。そのため、条件付きのパラメータ値を使用する場合は、パラメータに対して条件のない標準設定値も設定する必要があります。</p> <p>条件値では次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>新規項目</b> : [条件値の入力]ダイアログ・ボックスを開き、条件値を追加します。</li> <li> <b>項目の編集</b> : [条件値の入力]ダイアログ・ボックスが開き、選択した条件値の条件を編集できます。</li> <li> <b>項目を削除</b> : 選択した条件値を削除します。</li> <li> <b>上に移動</b> : 選択した条件値をリスト内で上に移動させます。</li> <li> <b>下に移動</b> : 選択した条件値をリスト内で下に移動させます。</li> </ul>
パスワード	パスワードを定義します。
パスワードの確認	確認用にパスワードを繰り返します。
必須	<p>ポリシーを割り当てる前に標準設定値またはユーザ指定値が必要かどうかを指定します。このチェック・ボックスをオンにし、[読み取り専用]、[エキスパート設定]または[非表示]のいずれかを選択した場合は、標準設定値も指定する必要があります。</p> <p>列挙およびパスワード・パラメータは常に必須です。</p>
読み取り専用	<p>アスペクトおよび管理テンプレートのパラメータ値を、ユーザが上書きできないようにします。また、この設定を行うことで、ポリシー・テンプレートを構成アイテムへ割り当てた際、ユーザが(直接、またはアスペクト/管理テンプレートの一部として)値を変更するのを防ぎます。</p>











UI 要素	説明
エキスパート設定	ポリシー・テンプレートが構成アイテムに割り当てられている場合は、標準設定でパラメータを非表示にします。割り当ての際に、ユーザはエキスパート設定を表示するかどうかを選択できます。
非表示	アスペクトと管理テンプレートや、構成アイテムへの割り当ての間、パラメータを完全に非表示にします。このチェック・ボックスが選択されていると、アスペクトをCIに割り当てる際には標準設定値を使用します。













## [ポリシーテンプレートの詳細] ペイン

UI 要素	説明
一般	ポリシー・テンプレートの一般的な属性の概要を示します。
パラメータ	ポリシー・テンプレートが含むパラメータの概要を示します。



## [ポリシーテンプレート グループ] ペイン

UI 要素	説明
	<b>更新</b> : ポリシー・テンプレートのツリーを再ロードします。
	<b>新規テンプレート・グループの追加</b> : [新規テンプレート グループの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>テンプレート・グループの編集</b> : 選択したテンプレート・グループの[テンプレート グループの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>項目を削除</b> : 選択したテンプレート・グループを削除します。テンプレート・グループ内のポリシー・テンプレートやテンプレート・グループもすべて削除されます。  注: ポリシー・テンプレートはグループからしか削除できず、[Templates grouped by type] から再度アクセスできます。
	<b>項目プロパティを表示</b> : 選択したテンプレート・グループの[テンプレート グループプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>検索</b> : [検索] ダイアログ・ボックスを開きます。
	<b>項目の切り取り</b> : 選択したテンプレート・グループをクリップボードに切り取ります。
	<b>項目の貼り付け</b> : 以前切り取ったテンプレート・グループを新しい場所に貼り付けます。

## [ポリシー・テンプレート] ペイン

UI 要素	説明
	<b>更新</b> : ポリシー・テンプレートのリストを再ロードします。
	<b>新規</b> : 次のオプションを提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>新規ポリシー・テンプレートの追加</b> : 選択したポリシー・テンプレート・タイプに適したエディタを開きます。ネイティブのエディタを使用できない場合は、代わりにポリシー・テンプレートのRAW エディタでポリシー・テンプレートを開きます。</li> <li> <b>新規ポリシー・テンプレートの追加 (RAW モード)</b> : 選択したポリシー・テンプレート・タイプのポリシー・テンプレート RAW エディタで、新規ポリシー・テンプレートを開きます。</li> </ul>
	<b>項目の編集</b> : 次のオプションを提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>ポリシー・テンプレートの編集</b> : 選択したポリシー・テンプレートに適したエディタを開きます。ネイティブのエディタを使用できない場合は、代わりにポリシー・テンプレートのRAW エディタでポリシー・テンプレートを開きます。</li> <li> <b>ポリシー・テンプレートの編集 (RAW モード)</b> : ポリシー・テンプレート RAW エディタで編集するポリシーを開きます。</li> </ul>
	<b>グループから項目を削除</b> : 選択したポリシー・テンプレートを現在のテンプレート・グループから削除します。ポリシー・テンプレートはグループからしか削除できず、[ <b>Templates grouped by type</b> ] や、それらのポリシー・テンプレートを含む他のテンプレート・グループから再度アクセスできます。 <p><b>項目を削除</b> : 選択したポリシー・テンプレートやポリシーのバージョンを、オペレーション管理から削除します。ポリシー・テンプレートとポリシーのバージョンを選択するか、すべてのバージョンのポリシーを選択した場合、すべてのバージョンを含むポリシー・テンプレートが削除されます。</p>
	<b>項目をコピー</b> : 選択したポリシー・テンプレートをクリップボードにコピーします。
	<b>項目リンクとして貼り付け</b> : 以前コピーしたポリシー・テンプレートへのリンクを、選択したポリシー・テンプレート・グループ内に貼り付けます。
	<b>項目の貼り付け</b> : 以前コピーしたポリシー・テンプレートを新しい場所に貼り付けます。
	<b>ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイ</b> : 割り当てとデプロイ・ウィザードが開き、選択したポリシー・テンプレートを構成アイテムに割り当て、デプロイできます。

## [検索]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
名前	ポリシー・テンプレート名で検索する文字列。複数の文字を入力し、アスタリスク(*)と組み合わせて0または1つ以上の文字と一致させることができます。  名前を検索するけれども説明は含めない場合は、一番最後の一致バージョンのみを検索結果として返します。
説明	ポリシー・テンプレートの説明内で検索する文字列。複数の文字を入力し、アスタリスク(*)と組み合わせて0または1つ以上の文字と一致させることができます。
検索場所	<b>ポリシー・テンプレート・グループ</b> : テンプレート・グループに割り当てられたポリシー・テンプレート内のみを検索します。  <b>ポリシー・テンプレート</b> : すべてのポリシー・テンプレート内を検索します。
大文字と小文字を区別しない	検索文字列で大文字と小文字を区別するには、このチェック・ボックスをオフにします。  標準設定値: 選択
検索	検索を開始します。
検索結果	
	項目を表示します: [ポリシー・テンプレート] ペインで選択したバージョンのポリシー・テンプレートをハイライト表示します。
	項目の編集: 選択したポリシー・テンプレート・バージョンに適したエディタを開きます。ネイティブのエディタを使用できない場合は、代わりにポリシー・テンプレートの RAW エディタでポリシー・テンプレートを開きます。
名前	ポリシー・テンプレートの名前。
バージョン	ポリシー・テンプレートのバージョン
テンプレート・グループ	ポリシー・テンプレートが割り当てられたテンプレート・グループ名。
パス	ポリシー・テンプレートが割り当てられたテンプレート・グループへのパス。

## [テンプレート グループ]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
名前	テンプレート・グループの名前。
説明	テンプレート・グループの説明。
ID	最初に作成された時にテンプレート・グループに割り当てられた GUID <sup>1</sup>

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)








## HP ArcSight Logger ポリシーの設定

HP ArcSight Logger (ArcSight Logger) は、非常に高いイベント・スループット、効率的な長期ストレージ、迅速なデータ分析用に最適化されたログ管理ソリューションです。ArcSight Logger はイベントの受信や保存を行います。検索、取得、報告をサポートし、オプションとして選択したイベントを転送できます。

ArcSight Logger レシーバ設定ポリシー・テンプレートは ArcSight Logger 内の 1 つ以上のレシーバを設定します。ArcSight Logger 内のレシーバはローカルまたはリモート・システム上でイベント・データをリッスンし、取得します。







### アクセス方法

ArcSight Logger テンプレート・エディタでは、ArcSight Logger テンプレートを作成、編集できます。ArcSight Logger テンプレート・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)] ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[ArcSight Logger Template]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)] ボタンをクリックします。

ArcSight Logger テンプレート・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [ArcSight Logger Receiver Configuration Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。

- 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシーテンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、 **新規ポリシー テンプレートの追加**または **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)** ボタンをクリックします。  
新規 ArcSight Logger テンプレート・エディタが開きます。
- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシーテンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集**または **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)** ボタンをクリックします。  
ArcSight Logger テンプレートの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「ArcSight Logger 設定構文」(85ページ)
- 「ArcSight Logger レシーバ設定ポリシーの例」(88ページ)
- 「ArcSight Logger ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイ」(89ページ)

### ArcSight Logger 設定構文

ArcSight Logger ポリシーはデプロイ先のシステム上にある ArcSight Logger レシーバを設定します。ポリシーは次の構文を使用する必要があります。

#### ● レシーバの名前、タイプ、状態構文

ポリシー名は ArcSight 内のレシーバの名前を決定します。ポリシー・パラメータ `_logger_receiver_type` と `_logger_receiver_state` はレシーバのタイプと状態を定義します。

たとえば、ポリシー・パラメータ `_logger_receiver_type` と値 `localfile`、パラメータ `_logger_receiver_state` と値 `true` を含む「監査ログ」ポリシーは、タイプ「ファイル・レシーバ」の「監査ログ」という名前のレシーバを作成します。このレシーバはデプロイ後に ArcSight Logger で有効になります。

ポリシー・パラメータ `_logger_receiver_type` と `_logger_receiver_state` が定義されていない場合、ポリシー・テンプレートは標準設定で「ファイル・レシーバ」タイプのレシーバを作成し、デプロイ後に有効化します。

パラメータ名	パラメータのタイプ	パラメータの値
<code>_logger_receiver_type</code>	列挙	レシーバのタイプを定義します。サポートされている値は次のとおりです。  udp                      UDP メッセージ(SYSLOG など)用のレシーバを作成します。

パラメータ名	パラメータのタイプ	パラメータの値
		<p>tcp TCP メッセージ(TCPと一緒に送信することも可能な SYSLOG など)用のレシーバを作成します。</p> <p>localfile ローカルやリモート・ファイル・システム(NFS, CIFS, SAN など)からログを読み取るレシーバを作成します。</p> <p>filetransfer scp, sftp または ftp を使用してリモートのログを読み取るレシーバを作成します。</p> <p>smartmsg SmartConnector によって送信された、暗号化済み SmartMessage メッセージのレシーバを作成します。</p> <p>cefudp UDP を通じて送信された CEF (共通イベント・フォーマット)メッセージのレシーバを作成します。</p> <p>ceftcp TCP を通じて送信された CEF (共通イベント・フォーマット)メッセージのレシーバを作成します。</p>
_logger_receiver_state	文字列	<p>レシーバの状態を定義します。サポートされている値は次のとおりです。</p> <p>true ArcSight Logger でレシーバの状態を有効に設定します。</p> <p>false ArcSight Logger でレシーバの状態を無効に設定します。</p>

### ● レシーバ・パラメータ構文

ArcSight Logger ポリシー・テンプレートのデータ部分はレシーバの詳細を定義します。各レシーバ・プロパティはレシーバ・パラメータの名前と値のペアで定義されます。オプションとして、各レシーバ・パラメータに対してポリシー・パラメータを作成し、値の代わりにこのパラメータを変数として挿入できます。

レシーバ・パラメータの詳細については、『ArcSight Logger Administrator's Guide』を参照してください。

**ヒント:** ArcSight Logger ポリシー・テンプレートには、異なるパラメータの名前と値の組み合わせをいくつでも追加できます。ArcSight Logger はポリシー・テンプレートで設定されたレシーバ

と無関係のパラメータを無視します。

### UDP, TCP, CEF UDP, CEF TCP レシーバ・パラメータ

パラメータ名	レシーバ・パラメータ
ip	IP/ホスト
PORT	ポート
Encoding	エンコーディング

### ファイル・レシーバのパラメータ

パラメータ名	レシーバ・パラメータ
rfsname	RFS の名前
folder	フォルダ
sourcetype	ソースのタイプ
wildcard	ワイルドカード (regex)
mode	モード
renameext	名前の変更拡張子
charencoding	文字エンコーディング
delayafterfirstseen	表示後の遅延
datetimelocale	日付と時刻のロケール
datetimezone	日付と時刻のゾーン
datetimelocregex	日付と時刻の loc regex
datetimeformat	日付と時刻の書式
singlelinestart	イベントの開始 (regex)

### ファイル転送レシーバのパラメータ

パラメータ名	レシーバ・パラメータ
protocol	プロトコル
port	ポート
host	IP/ホスト
username	ユーザ

パラメータ名	レシーバ・パラメータ
password	パスワード
filepath	ファイル・パス
schedule	スケジュール
zipformat	ZIP 形式
sourcetype	ソースのタイプ
charencoding	文字エンコーディング
delayafterfirstseen	表示後の遅延
datetimelocale	日付と時刻のロケール
datetimezone	日付と時刻のゾーン
datetimelocregex	日付と時刻の loc regex
datetimeformat	日付と時刻の書式
singlelinestart	イベントの開始 (regex)

### スマート・メッセージ・レシーバのパラメータ

パラメータ名	レシーバ・パラメータ
Encoding	エンコーディング

### ArcSight Logger レシーバ設定ポリシーの例

次のポリシー・データはタイプ「ファイル・レシーバ」の ArcSight Logger レシーバを作成、有効化します。レシーバは ArcSight Logger システムの /home/arcsight/filereceiver01 フォルダ内のすべてのファイルを読み取ります。

例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ParameterValues>
  <Parameter Name="_logger_receiver_type" Value="localfile"/>   <Parameter Name="_
logger_receiver_state" Value="true"/> <Parameter Name="rfsname" Value="LOCAL"/>
  <Parameter Name="folder" Value="/home/arcsight/filereceiver01"/>
  <Parameter Name="sourcetype" Value="Other"/>
  <Parameter Name="wildcard" Value=".*"/>
  <Parameter Name="mode" Value="persist"/>
  <Parameter Name="renameext" Value=".done"/>
  <Parameter Name="charencoding" Value="US-ASCII"/>
  <Parameter Name="delayafterfirstseen" Value="10"/>
  <Parameter Name="datetimelocale" Value="en_US"/>
  <Parameter Name="datetimezone" Value="Europe/Berlin"/>
  <Parameter Name="datetimelocregex" Value=""/>
  <Parameter Name="datetimeformat" Value=""/>
  <Parameter Name="singlelinestart" Value=""/>
</ParameterValues>
```



## ArcSight Logger ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイ

ArcSight Logger ポリシー・テンプレートを、ArcSight Logger でデータを受信するリモート・システムに割り当てます。オペレーション管理は接続されているサーバの設定に基づいて ArcSight Logger サーバを選択し、ポリシー・テンプレートをそのサーバにデプロイします。最後に、ArcSight Logger サーバは対応するレシーバを作成し、対応するホストからのデータ受信を開始します。

ArcSight Logger ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイを有効にするには、オペレーション管理で接続されているサーバとして ArcSight Logger システムを設定し、ノード CI が管理対象ノードのシステムに対して存在する必要があります。さらに、ArcSight Logger ヘータを送信するリモート・システムは RTSM でノード CI として表示する必要があります。

ArcSight Logger ポリシー・テンプレートにパラメータが含まれている場合、標準設定値を使用してポリシー・テンプレートをデプロイするか、割り当てや微調整の際にカスタムの値を提供できます。たとえば、`_logger_receiver_type` パラメータの標準設定値が `localfile` であっても、デプロイ前にこのパラメータを調節し、`udp` に変更できます。

## タスク

本項の内容

- 「前提条件」(89ページ)
- 「HP Operations Subagent for ArcSight Logger のインストール方法」(89ページ)
- 「HP ArcSight Logger ポリシーの作成方法」(90ページ)

### 前提条件

ArcSight Logger を使用してノードからログ・データを収集する前に、次の手順を行ってください。

- ArcSight Logger システムに HP Operations Agent および HP Operations Subagent for ArcSight Logger をインストールする。詳細については、「HP Operations Subagent for ArcSight Logger のインストール方法」(89ページ)を参照してください。
- オペレーション管理で接続されているサーバとして ArcSight Logger システムを設定します。  
詳細については、『BSM アプリケーション管理ガイド』の「接続サーバ」を参照してください。
- ArcSight Logger システムに対し、ノード CI が作成されていることを検証する。次の場所へアクセスします。  
[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタされるノード]
- ArcSight Logger ヘータを送信するシステムが RTSM でノード CI になっていることを確認する。  
次の場所へアクセスします。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタされるノード]

### HP Operations Subagent for ArcSight Logger のインストール方法


1. **前提条件** : ArcSight Logger システムに HP Operations Agent がインストールされていることを確認します。
2. BSM データ処理サーバで、サブエージェント・インストール・ファイルへ移動します。  
`<HPBSM のルート・ディレクトリ>/opr/subagents/arcsight_logger`
3. BSM データ処理サーバから、サブエージェント・インストール・ファイルを ArcSight Logger システム

の一時ディレクトリにコピーします。

- ArcSight Logger システムで、インストール・スクリプト `install_asloggersubagent.sh` を実行します。

スクリプトは、ArcSight Logger システムのインストール・ディレクトリを要求します。たとえば `/opt/arcsight/` と入力します。

## HP ArcSight Logger ポリシーの作成方法



- HP ArcSight Logger ポリシー・エディタの[プロパティ]ページで、ポリシーの[名前]を入力します。  
また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストールメンション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。  
詳細については、「[プロパティ]ページ」(92ページ)を参照してください。
- [ポリシー パラメータ]タブを使用して `_logger_receiver_state` と `_logger_receiver_type` パラメータを作成します。  
詳細については、「レシーバの名前、タイプ、状態構文」(85ページ)と「[ポリシー パラメータ]タブ」(91ページ)を参照してください。
- [ポリシー データ]ページで名前と値のペアを使用してレシーバの詳細を入力します。新規ポリシーを作成する場合は、既存のポリシー・テンプレートからテンプレート・データをコピーして貼り付けます。あるいは、 ボタンをクリックしてコンピュータのポリシー・テンプレート・ファイルからポリシー・データをロードします。  
詳細については、「レシーバ・パラメータ構文」(86ページ)を参照してください。
- [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。
- オプション: レシーバの状態がFALSE(無効)に設定されている場合、デプロイ後に ArcSight Logger([設定] > [Event Input/Output]) でレシーバを有効にします。

## UI 参照

本項の内容









- 「[ポリシー データ]ページ」(90ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(91ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(92ページ)

### [ポリシー データ]ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が <code>_data</code> です。
	HP ArcSight Logger ポリシーでは構文チェックはサポートされません。[構文チェック]はクリックできますが、チェックは実行できません。

UI 要素	説明
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。 詳細については、「ArcSight Logger 設定構文」(85ページ)を参照してください。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。  ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。  パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。
<パラメータ>	このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。  パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。  パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。  アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>
説明	<p>ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。</p>
ポリシーID	<p>ポリシーの初回作成時に GUID<sup>1</sup>がポリシーに割り当てられます。</p>
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in( SPI)の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPIの次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	<p>このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。</p>
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)

UI 要素	説明
インストールメンテーション	このポリシー用に選択されたインストールメンテーション。インストールメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要となる場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OS タイプ	このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。 プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。  OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。

## ConfigFile ポリシーの設定


HP Operations Smart Plug-in( SPI) は、インフラストラクチャ、オペレーティング・システムおよびアプリケーションに対し、あらかじめ定義された監視機能や管理機能を提供します。SPI は、特定の管理タスクや監視タスクを可能にする、インストールメンテーションというスクリプトやプログラムを含む場合があります。デプロイ後にインストールメンテーションの設定が必要となることもあります。ConfigFile ポリシーは SPI インストールメンテーションを設定するためのルールや命令を含みます。








### 注:

- オペレーション管理の本リリースでは、ConfigFile ポリシーを暗号化しません。そのため、これらのポリシーのデータ部分にはパスワードを挿入しないでください。
- オペレーション管理の本リリースでは、ConfigFile テンプレートをサポートしていません。







### アクセス方法

ConfigFile ポリシー・エディタでは、ConfigFile ポリシーを作成、編集できます。ConfigFile ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。

- d. [ポリシー テンプレート] タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
- 新しいポリシー・テンプレートを追加する
    -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
    -  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ] または [  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ] ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。
    - タイプ [ConfigFile Template] を選択し、[OK] をクリックします。
  - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[  ポリシー テンプレートの編集 ] または [  ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード) ] ボタンをクリックします。

ConfigFile ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ] ペインの [ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type] を展開します。
  - c. [ConfigFile Templates] フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート] ペインで  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ] または [  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ] ボタンをクリックします。  
新規 ConfigFile ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、[  ポリシー テンプレートの編集 ] または [  ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード) ] ボタンをクリックします。

ConfigFile ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「ConfigFile の定義」(94ページ)
- 「ConfigFile データ」(95ページ)
- 「ConfigFile ポリシーの例」(95ページ)

### ConfigFile の定義

ConfigFile ポリシーの最初の部分 (ConfigFile バラエティ) はポリシーと関連付けられた設定ファイルのパスとファイル名を定義します。ConfigFile 定義には次の属性が含まれます。

Application

管理アプリケーションの名前を指定します。通常は SPI の名前になります(例: dbspi)。

SubGroup

SPI が設定ファイルを管理するのに役立つ追加のグループ分けメカニズム(カスタムのカテゴリに従ってグループ分けする)。たとえば, dbspi にはサポートされているすべてのデータベース・ベンダーに対して 1 つのサブグループがあります。

Filename

設定ファイルのファイル名を指定します(例: dbmon.cfg)。

## ConfigFile データ

ConfigFile ポリシーのデータ部分にはノードのインストールメカニズムを設定するルールまたは命令を含みます。また、データ部分は、次のキーワードで始まります。

Data:

Data の後には次の汎用キーワードを使用します。

```
#$Installcommand=<コマンド>  
#$Deinstallcommand=<コマンド>
```

<コマンド> には、実行するコマンド(必須パラメータを含む)が含まれます。必要に応じて、引用符を使用してすべてのプラットフォームを処理します。\$Installcommand はポリシーをデプロイまたは有効化した際に実行します。\$Deinstallcommand はポリシーを削除または無効化した際に実行します。

```
#$Commandtype=<値>
```

<値> は使用するコマンドの種類を指定します。

### 1- 実行可能(標準設定)

コマンドのタイプを指定しない場合、ConfigFile ポリシーはそのコマンドが実行可能であると推定します。

### 2- VBScript またはシェル・スクリプト

コマンドに .vbs または .sh 拡張子を追加する必要はありません。オペレーション管理は、1 つのポリシーを Windows と UNIX ノードの両方で実行できるよう適切な拡張子を自動的に追加します。

### 3- Perl スクリプト

## ConfigFile ポリシーの例

次の ConfigFile ポリシー例をデプロイまたは有効化すると、acme.cfg ファイルが作成され、ファイルに最後の 3 行を追加して install.bat ファイルを実行します。ポリシーを削除または無効化すると、acme.cfg ファイルを削除し、deinstall.bat ファイルを実行します。

例:


```
Application=acme  
SubGroup=acme_application  
Filename=acme.cfg  
  
Data:  
#$Installcommand="C:\data\install.bat"
```

```
#$Deinstallcommand=C:\data\deinstall.bat"

AcmeSystemID = ACME
AcmeUserName = acme_root
AcmePassword = acme_password
```

## タスク

### ConfigFile ポリシーの作成方法



1. ConfigFile ポリシー・エディタの[プロパティ]ページでポリシーの[名前]を入力します。  
また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストレーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。  
詳細については、「[プロパティ]ページ」(98ページ)を参照してください。
2. [ポリシー データ]ページで、HP Operations Agent の ConfigFile ポリシー構文を使用して ConfigFile の定義とデータを入力します。新規ポリシーを作成する場合は、既存のポリシー・テンプレートからテンプレート・データをコピーして貼り付けます。あるいは、 ボタンをクリックしてコンピュータのポリシー・テンプレート・ファイルからポリシー・データをロードします。  
詳細については、「ConfigFile の定義」(94ページ)および「ConfigFile データ」(95ページ)を参照してください。  
また、ポリシー・パラメータも使用できます。詳細については、「[ポリシー パラメータ]タブ」(97ページ)を参照してください。
3. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「[ポリシー データ]ページ」(96ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(97ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(98ページ)









### [ポリシー データ]ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が _data です。
	ConfigFile ポリシーでは構文チェックはサポートされません。[構文チェック]はクリックできませんが、チェックは実行できません。



UI 要素	説明
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。 詳細については、「ConfigFile の定義」(94ページ)および「ConfigFile データ」(95ページ)を参照してください。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。  ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。  パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。
<パラメータ>	このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。  パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。  パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。  アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>
説明	<p>ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。</p>
ポリシーID	<p>ポリシーの初回作成時に GUID<sup>1</sup>がポリシーに割り当てられます。</p>
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in( SPI)の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPIの次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	<p>このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。</p>
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)






UI要素	説明
インストールメンテーション	このポリシー用に選択されたインストールメンテーション。インストールメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要となる場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OSタイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OSタイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## フレキシブル管理ポリシーの設定

フレキシブル管理ポリシーでは、時刻とイベント属性に基づいてさまざまサーバにイベントを送信するよう HP Operations Agent を設定できます。また、セカンダリ・サーバや、エージェントでアクションを開始可能なサーバの設定を行うこともできます。




### アクセス方法

フレキシブル管理・ポリシー・エディタでは、フレキシブル管理・ポリシーを作成、編集できます。フレキシブル管理・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシーテンプレートの追加 (RAW モード)]

レートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。

- タイプ[**Flexible Management Template**]を選択し, [OK]をクリックします。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには, リストのポリシー・テンプレート,  ボタンの順にクリックしてから, [ **ポリシー テンプレートの編集**]または[ **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

フレキシブル管理ポリシー・エディタが開きます。




- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには, 次の手順を実行します。

- a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。




[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]

- b. [ポリシーテンプレート グループ] ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。

- c. [**Flexible Management Templates**]フォルダをクリックし, 次のいずれかの操作を実行します。

- 新規ポリシー・テンプレートを追加するには, [ポリシー テンプレート] ペインで  ボタンをクリックし, [ **新規ポリシー テンプレートの追加**]または[ **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

新規フレキシブル管理ポリシー・エディタが開きます。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには, [ポリシー テンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし,  ボタンをクリックしてから, [ **ポリシー テンプレートの編集**]または[ **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

フレキシブル管理ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「フレキシブル管理ポリシー」(100ページ)
- 「フレキシブル管理ポリシーの構文とキーワード」(101ページ)
- 「時間テンプレート」(105ページ)
- 「イベント・ターゲット・ルール」(106ページ)
- 「アクション許可 サーバおよびセカンダリ・サーバ」(107ページ)

### フレキシブル管理ポリシー

フレキシブル管理ポリシーでは, 次の項目を設定できます。

- アクション許可 サーバとセカンダリ・サーバ(ノード上でアクションの実行を許可するサーバを定義する)
- 日時のルール(ノードがどのサーバにいつイベントを送信するかを定義する)
- イベント属性ルール(ノードがどのサーバにいつイベントを送信するかを定義する)

指定した環境のすべてのノードに設定を適用する場合は、すべてのノードに対する1つのポリシーを作成します。ノードごとに異なる設定を使用する場合は、各設定タイプに対して1つのポリシーを作成します。

## フレキシブル管理ポリシーの構文とキーワード

フレキシブル管理ポリシーの設定の基礎として、次の項で説明する構文を使用できます。

- 構文で使用する特殊文字

構文では、次の特殊文字を使用します。

- **e**: 空白の文字列を示します。
- **#(番号記号)**: コメント。例: # This is a comment
- **\(バックスラッシュ)**: エスケープ文字。構文の文字列ではバックスラッシュを使用して引用符をエスケープします。例: \"quotation\"

- 担当サーバ設定ポリシーの構文

担当サーバ設定ポリシーには次の構文を使用します。

```
respmgrconfigs ::= <respmgrconfigs> RESPMGRCONFIG DESCRIPTION
<string> <respmgrconds> | e
respmgrconds ::= SECONDARYMANAGERS <secondmgrs>
ACTIONALLOWMANAGERS <actallowmgrs>
[MSGTARGETRULES <msgtargetrules>]
secondmgrs ::= <secondmgrs> SECONDARYMANAGER NODE <node>
[DESCRIPTION <string>] | e
actallowmgrs ::= <actallowmgrs> ACTIONALLOWMANGER NODE <node>
[DESCRIPTION <string>] | e
msgtargetrules ::= <msgtargetrules> MSGTARGETRULE DESCRIPTION
<string> <msgtargetrule> | e
msgtargetrule ::= MSGTARGETRULECONDS <mtrconditions>
MSGTARGETMANAGERS <msgtargetmgrs>
| MSGTARGETRULECONDS <mtrconditions>
MSGTARGETMANAGERS <msgtargetmgrs> ACKNONLOCALMGR
mtrconditions ::= <mtrconditions> MSGTARGETRULECOND DESCRIPTION
<string> <mtrcond> | e
mtrcond ::= <mtrcond> SEVERITY <severity> |
<mtrcond> NODE <nodelist> |
<mtrcond> APPLICATION <string> |
<mtrcond> MSGGRP <string> |
<mtrcond> OBJECT <string> |
<mtrcond> MSGTYPE <string> |
<mtrcond> TEXT <pattern> |
<mtrcond> SERVICE_NAME <pattern> |
<mtrcond> MSGCONDTYPE <msgcondtype> | e
severity ::= Unknown | Normal | Warning | Critical |
Minor | Major
msgcondtype ::= Match | Suppress
nodelist ::= <node> | <nodelist> <node>
node ::= IP <ipaddress> | IP <ipaddress> <string> | IP
<ipaddress> <string> ID <string>
```

```

string          ::= "any alphanumeric string"
ipaddress       ::= <digits>.<digits>.<digits>.<digits>
pattern        ::= <string> <separators> <icase>
separators     ::= SEPARATORS <string>
icase          ::= ICASE

```

- 時間テンプレートの構文

時間テンプレートには次の構文を使用します。

```

timetmpls      ::= <timetmpls> TIMETEMPLATE <string>
                DESCRIPTION
                <string> <conditions> | e
conditions     ::= TIMETMPLCONDS <timetmplconds> | e
timetmplconds  ::= <timetmplconds> TIMETMPLCOND <timetmplcond>
timetmplcond   ::= [TIMECONDTYPE <timecondtype>] [TIME FROM
                <time> TO <time>] [WEEKDAY <weekday>]
                [DATE <exact_date>] | e
timecondtype   ::= Match | Suppress
time           ::= <hh>:<mm>
weekday        ::= ON <day> | FROM <day> TO <day>
exact_date     ::= ON <date> | FROM <date> TO <date>
day            ::= Monday | Tuesday | Wednesday | Thursday
                | Friday | Saturday | Sunday
date           ::= <mm>/<dd>/<yyyy> |<mm>/<dd>/*

```

**注:** 時間テンプレートはノード上のイベントの作成時間と比較します。イベントの作成時間は常に GMT に設定されています。

- マネジメント担当切り替え用構文

サーバの担当を切り替えるテンプレートには次の構文を使用します。

```

configfile     ::= [TIMETEMPLATES <timetmpls>] RESPMGRCONFIGS
                <respmgrconfigs>

```

- メッセージのターゲット・ルールの構文

メッセージのターゲット・ルールを定義するテンプレートには次の構文を使用します。

```

msgtargetmgrs ::= <msgtargetmgrs> MSGTARGETMANAGER
                TIMETEMPLATE <string> OPCMGR <node> |
                <msgtargetmgrs> MSGTARGETMANAGER
                TIMETEMPLATE <string> OPCMGR <node>
                MSGCONTROLLINGMGR | <msgtargetmgrs>
                MSGTARGETMANAGER TIMETEMPLATE <string>
                OPCMGR <node> NOTIFYMGR | e

```

**注:** <string> を「\$OPC\_ALWAYS」と置き換え、常に TRUE となる時間条件を指定できます。現在のプライマリ・サーバを常にイベント・ターゲット・サーバとして使用するには、<node> を「\$OPC\_PRIMARY\_MGR」と置き換えます。パターン・マッチングは <string> でのみ使用できます。

- フレキシブル管理ポリシーのキーワード

キーワード	定義
RESPMGRCONFIG	担当マネージャの設定。
DESCRIPTION	マネージャの短い説明。
SECONDARYMANAGERS	<p>エージェントのセカンダリ・マネージャ。これらのサーバにはそれぞれエージェントの担当を引き継ぎ、プライマリ・マネージャとなる権限を持ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SECONDARYMANAGER:セカンダリ・マネージャの名前。</li> <li>■ NODE &lt;ノード&gt; :セカンダリ・マネージャのノード名。</li> <li>■ DESCRIPTION :セカンダリ・マネージャの説明。</li> </ul>
ACTIONALLOWMANAGERS	<p>ノード上でアクションの実行を許可されているサーバ。アクション応答はこのマネージャに送信されます。プライマリ・マネージャのみがエージェントのアクション許可マネージャを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ACTIONALLOWMANAGER:ノード上でアクションの実行を許可されているマネージャの名前。</li> <li>■ NODE:アクション許可マネージャのノード名。変数 \$OPC_PRIMARY_MGR を使用して、このノード名を常にプライマリ・マネージャのノード名にするよう指定できます。</li> <li>■ DESCRIPTION :アクション許可マネージャの短い説明。</li> </ul>
MSGTARGETRULES	<p>イベント・ターゲット・ルール。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ MSGTARGETRULE:イベント・ターゲット条件とイベント・ターゲット・マネージャを設定するルール。</li> <li>■ DESCRIPTION :イベント・ターゲット・ルールの説明。</li> </ul>

MSGTARGETMANAGERS	<p>イベント・ターゲット・マネージャ。エージェントがイベントやこれらのイベントへのアクション応答を送信するサーバ。イベントの結果は1つのサーバへのみ送られます。キーワードはあるサーバから別のサーバへイベントをエスカレートする際にも使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ MSGTARGETMANAGER: イベント・ターゲット・マネージャ。イベントを転送するサーバ。ターゲット・サーバのIPアドレスは常に「0.0.0.0」としてください。その後、ドメイン名サーバ(DNS)によって実際のIPアドレスが解決されます。</li><li>■ TIMETEMPLATE: 時間テンプレート。ターゲット・マネージャに対応する時間テンプレートの名前。時間条件を常にTRUEとする場合は、変数 \$OPC_ALWAYS を使用できます。このキーワードを使用する場合、ターゲット・マネージャに対するイベント転送は時間に依存しません。</li><li>■ OPCMGR: ターゲット・マネージャのノード名。キーワード「\$OPC_PRIMARY_MGR」を使用し、これが常にプライマリ・マネージャであることを示すことができます。</li><li>■ MSGCONTROLLINGMGR: イベント制御マネージャ。イベント・ターゲット・マネージャが、メッセージ制御を転送できるようにします。</li><li>■ NOTIFYMGR: 通知マネージャ。イベント・ターゲット・マネージャがその自身を通知できるようにします。イベント・ターゲット・マネージャに属性が定義されていない場合、標準設定でこの属性を設定します。</li><li>■ ACKNONLOCALMGR: イベント・ルールが、ソース・サーバ上で通知イベントを強制的に直接確認できるようにします。</li></ul>
-------------------	---



MSGTARGETRULECONDS	<p>イベント・ターゲット・ルール条件。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ MSGTARGETRULECOND: エージェントに対して、特定のイベントをどのサーバへ送信するかを伝える条件。イベントはイベント属性または時間に基づいて送信されます。エージェントは mgrconf ファイルを読み取ってイベント・ターゲット条件を評価します。mgrconf ファイルが存在しない場合、イベントは primmgr ファイルに保存されたサーバ名へ送信されます。primmgr ファイルが存在しない場合、イベントは ovconfchg コマンドライン・ツールで設定された命令に従って送信されます。</li> <li>■ DESCRIPTION: イベント・ターゲット・ルール条件の説明。</li> <li>■ SEVERITY: イベントの重要度。不明、正常域、注意域、警戒域、重要警戒域、危険域があります。</li> <li>■ NODE &lt;ノード&gt;: スペースで区切られた、1つ以上のノード名。ノードはさまざまな方法で指定できます(例: NODE IP 0.0.0.0 hpbbn)。フォーマット IP &lt;ipaddress&gt; または IP &lt;ipaddress&gt; &lt;string&gt; を使用してノードを定義した場合、IP アドレス「0.0.0.0」を使用してください。その後、ドメイン名サーバ(DNS)によって実際のIPアドレスが解決されます。</li> <li>■ APPLICATION: アプリケーション名。</li> <li>■ MSGGRP: カテゴリ名(または HP Operations Manager のメッセージ・グループ名)。</li> <li>■ OBJECT: オブジェクト名。</li> <li>■ MSGTYPE: タイプの説明。</li> <li>■ MSGCONDTYPE: イベント条件のタイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指定した属性が一致する場合、マッチ条件は TRUE となります。</li> <li>○ 指定した属性が一致しない場合、抑制条件は TRUE となります。</li> </ul> </li> <li>■ TEXT: イベント・タイトルの全部または一部を含む文字列。パターン・マッチを使用可能。</li> <li>■ SERVICE_NAME: サービスの固有の識別子を含む文字列。パターン・マッチを使用可能。例: SERVICE_NAME "Service&lt;*&gt; [A B]" ICASE</li> </ul>
--------------------	---

## 時間テンプレート

時間テンプレートは、エージェントに対し、指定のノードが特定のイベントを、いつどのサーバへ送信するかを伝える一連の条件(またはルール)です。時間条件を作成し、時間テンプレート内に保存します。シンプルなルールを組み合わせ、さらに複雑な構築を設定できます(たとえば、「1月から3月までの、月曜、水曜および木曜、午前10時から11:35まで」など)。時間条件は24時間表記で定義

します(たとえば、「1:00 p.m.」は「13:00」と入力します)。

- 時間間隔の設定

複数の異なる時間間隔を次のように設定できます。

- **時間なし** : 特定の時間、曜日または年を設定しない場合、HP Operations Agent は条件を、毎年同じ日付の 0:00 から 24:00 までの間 TRUE にすると見なします。条件を指定した場合、HP Operations Agent は指定した期間、継続的に条件を適用するものと見なします。

たとえば、「火曜日」と指定すると毎年、年間を通じて毎週火曜日の 0:00 から 24:00 に条件をトリガします。

- **時間範囲** : 時間範囲を指定します(たとえば、「7:00 から 17:00」)。
- **ワイルドカード(\*) 日付または期間** : 日付または期間にワイルドカード(\*)を使用します(たとえば、毎年 1 月 31 日に条件を設定するには「1/31/\*」と入力します)。

- 時間に無関係なテンプレートの設定

HP Operations Agent では、スケジュールされたアクションが時間に無関係な場合でもイベント・ターゲット・ルールの時間テンプレートを設定する必要があります。変数 \$OPC\_ALWAYS を使用して時間に無関係なテンプレートを設定します。

## イベント・ターゲット・ルール

イベント・ターゲット・ルールのリストを使用して、イベントをどのサーバに送信するかを決定できます。

イベント・ターゲット・ルールは 3 つの部分で構成されます。

- イベント属性ルール
- 時間テンプレート
- 定義済みサーバ
- 印刷グループ用 イベント・ターゲット・ルールの例

印刷グループ用 イベント・ターゲット・ルールには、次の概念的構造があります。

例 :

```
category = "printing"
current time fits time template 2 .....(event) --> mgr 2
current time fits time template 1 .....(event) --> mgr 1
current time fits time template 3 .....(event) --> mgr 3
```

この例では、HP Operations Agent はテンプレート 1 の時間条件を満たす、「印刷」カテゴリのすべてのイベントをサーバ 1 に転送します。テンプレート 2 内の時間条件を満たすすべてのイベントはサーバ 2 に転送されます。時間テンプレート 3 も同様に機能します。

- データベース・グループ用 イベント・ターゲット・ルールの例

データベース・グループ用 イベント・ターゲット・ルールには、次の概念的構造があります。

例 :

```
category = "database"
```

```
current time fits time template 1 .....(event) --> mgr 2
current time fits time template 2 .....(event) --> mgr 3
current time fits time template 3 .....(event) --> mgr 1
```

この例では、HP Operations Agent はテンプレート 1 の時間条件を満たす「データベース」カテゴリのすべてのイベントをサーバ2に転送します。テンプレート 2 の時間条件を満たすすべてのイベントはサーバ3に送信されます。その後も同様です。

## アクション許可 サーバおよびセカンダリ・サーバ

標準設定では、ノード上でアクションを開始できるのはノードのプライマリ・サーバのみです。他のサーバがノード上でアクションを開始できるようにするには、フレキシブル管理ポリシー内でアクション許可サーバを指定し、そのサーバをノードにデプロイする必要があります。このポリシーは、自動かつオペレータが開始するアクションがあるイベントを、別のサーバに転送する際に重要となります。

プライマリ・サーバはエージェントのインストール時に初期設定されます。別のサーバをノードのプライマリ・サーバにするために、同一ポリシー内でセカンダリ・サーバを指定できます。セカンダリ・サーバは、最初にプライマリ管理サーバにならなくてもポリシーやパッケージをノードにデプロイできます。

アクション許可サーバおよびセカンダリ・サーバを設定するフレキシブル管理ポリシーには、次のステートメントを含める必要があります。

```
RESPMGRCONFIGS
  RESPMGRCONFIG DESCRIPTION "Policy description"
  SECONDARYMANAGERS
  ACTIONALLOWMANAGERS
```

必要に応じて、この最小限のポリシーに任意の数のセカンダリ・サーバおよびアクション許可マネージャを追加できます。IP アドレスまたはホスト名、次に各サーバの core ID を指定できます。ホスト名のみを指定する場合は、IP アドレス 0.0.0.0 を使用します。

サーバのコア ID を取得するには、コマンド・プロンプトを開いて次のコマンドを入力します。

```
bbcutil -ping <サーバ>
```

応答にはサーバのコア ID が含まれます。

### 例 :

```
RESPMGRCONFIGS
  RESPMGRCONFIG DESCRIPTION "Enable manager1, manager2, and 192.168.1.3"
  SECONDARYMANAGERS
    SECONDARYMANAGER NODE IP 0.0.0.0 "manager1.example.com"
                          ID "e77b4992-5d78-753f-1387-c01230fe2648"
    SECONDARYMANAGER NODE IP 0.0.0.0 "manager2.example.com"
                          ID "68f01602-8bfa-7557-0403-8467ba97477a"
  ACTIONALLOWMANAGERS
    ACTIONALLOWMANAGER NODE IP 0.0.0.0 "manager1.example.com"
                          ID "e77b4992-5d78-753f-1387-c01230fe2648"
    ACTIONALLOWMANAGER NODE IP 0.0.0.0 "manager2.example.com"
                          ID "68f01602-8bfa-7557-0403-8467ba97477a"
```

```
ACTIONALLOWMANAGER NODE IP 192.168.1.3
ID "bc180332-d338-7557-0384-a10be68caa36"
```

ポリシー例では manager1.example.com と manager2.example.com をセカンダリおよびアクション許可マネージャとして指定しています。また、IP アドレスが 192.168.1.3 の管理サーバはアクション許可マネージャであることも指定しています。


## タスク

### フレキシブル管理ポリシーの作成方法

1. フレキシブル管理ポリシー・エディタの[プロパティ]ページでポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストレーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ]ページ」(110ページ)を参照してください。

2. [ポリシー データ]ページで、フレキシブル管理ポリシーの構文を使用してフレキシブル管理ポリシー・データを入力します。新規ポリシーを作成する場合は、既存のポリシー・テンプレートからテンプレート・データをコピーして貼り付けます。あるいは、 ボタンをクリックしてコンピュータのポリシー・テンプレート・ファイルからポリシー・データをロードします。

詳細については、「フレキシブル管理ポリシーの構文とキーワード」(101ページ)を参照してください。

また、ポリシー・パラメータも使用できます。詳細については、「[ポリシー パラメータ]タブ」(109ページ)を参照してください。



3. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容









- 「[ポリシー データ]ページ」(108ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(109ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(110ページ)

### [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が _data です。
	フレキシブル管理ポリシーでは構文チェックはサポートされません。[構文チェック]はクリックできますが、チェックは実行できません。

UI 要素	説明
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。 詳細については、「フレキシブル管理ポリシーの構文とキーワード」(101ページ)を参照してください。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。  ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。  パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。
<パラメータ>	このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。  パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。  パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。  アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>
説明	<p>ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。</p>
ポリシーID	<p>ポリシーの初回作成時に GUID<sup>1</sup>がポリシーに割り当てられます。</p>
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in( SPI)の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPIの次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	<p>このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。</p>
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)






UI 要素	説明
イン スト ルメ ン テ ー シ ョ ン	このポリシー用に選択されたインストールेशन。インストールेशनは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要となる場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールेशनは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OS タイ プ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## ログ・ファイル・エン트리・ポリシーの設定




ログ・ファイル・エン트리・ポリシーを使用すると、特定のルールと一致するエントリのログ・ファイルの監視が可能です。ログ・ファイルがルールと一致したときにイベントを作成し、コマンドを起動するようポリシーを設定できます。

### アクセス方法







ログファイル・エン트리・ポリシー・エディタでは、ログファイル・エン트리・ポリシーを作成、編集できます。ログファイル・エン트리・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。
    - [管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシーテンプレートの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。

レートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。

- タイプ[**Logfile Entry Template**]を選択し、[OK]をクリックします。
- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集**]または **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

ログファイル・エントリ・ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ] ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [Logfile Entry Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート] ペインで  ボタンをクリックし、 **新規ポリシー テンプレートの追加**]または **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。  
新規ログファイル・エントリ・ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集**]または **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。  
ログファイル・エントリ・ポリシーの編集エディタが開きます。

## タスク

### ログ・ファイル・エントリ・ポリシーの作成方法

1. ログ・ファイル・エントリ・ポリシー・エディタの[プロパティ] ページでポリシーの[名前]を入力します。  
また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストレーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。  
詳細については、「[プロパティ] ページ」(127ページ)を参照してください。
2. [ソース] ページで、ポリシーが読み取るログ・ファイルを定義します(ログ・ファイルのパスや名前など)。
  - a. [ログ ファイルのパス/名前]に、ノード上のログ・ファイルへの完全なパスを入力します。
  - b. オプション:ログ・ファイルを前処理します。  
エージェントが読み取る前にオリジナルのログ・ファイルを再フォーマットしたい場合、提供するコマンドまたはプログラムを使用して前処理できます。たとえば、バイナリ・ログ・ファイルを前処理し、エージェントが読み取り可能な形式のテキスト・ファイルを生成できます。  
ログ・ファイルに前処理を行うには、次の手順を実行します。
    - i. [プリプロセス]チェック・ボックスを選択します。
    - ii. [実行対象ファイル]で、ログ・ファイルの前処理を実行するコマンドまたはプログラムの



完全なパスと拡張子を入力します。指定したファイルはノード内にある必要があります。

[ログファイルのパス/名前]が空白の場合、エージェントは指定したポーリング間隔でコマンドを実行します。[ログファイルのパス/名前]にログファイルのパスが含まれている場合、そのログファイルが変更された場合のみ、指定したポーリング間隔でエージェントによりコマンドが実行されます。

- iii. オプション:[読み取り対象ファイル]に前処理コマンドが作成または更新したログファイルの完全なパスを入力します。

[読み取り対象ファイル]でパスを指定した場合、エージェントはログファイルを読み取ります。[読み取り対象ファイル]を空白のままにしておくと、エージェントは代わりに[ログファイルのパス/名前]で指定したログファイルを読み取ります。

- c. [ログファイルの文字セット]をクリックし、監視するログファイルの文字セットを選択します。


詳細については、「[ソース]ページ」(128ページ)を参照してください。

3. オプション:[標準設定]ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

**注:** 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(119ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(120ページ)、「[命令]タブ」(121ページ)、および「[詳細設定]タブ」(117ページ)を参照してください。

4. [ルール]ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。

- a. [ポリシー ルール]リストで、 ボタンをクリックしてから、次のオプションのいずれかをクリックします。

- **一致するルールのイベント**: 条件を満たしたときにイベントをBSMに送信したい場合、このオプションを使用します。
- **一致するルールの抑制**: 指定の条件を満たしたときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
- **一致しないルールの抑制**: 指定した条件を満たしていないときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。

- b. [ルールの説明]をクリックし、ルールの概要を入力します。

詳細については、「[ポリシー ルール]リスト」(125ページ)を参照してください。

5. [ルール内容]の[条件]タブを使用して、ポリシーが監視するログファイル内でポリシーが検索する文字列を指定します。

ほとんどのテキスト・ボックスではポリシー変数やポリシー・パラメータを使用できます。パターン・マッチング式は[ログファイルの行と一致]テキスト・ボックスにのみ入力できます。

たとえば、これらの条件が次のログファイル行と一致するように設定します。

```
Warning:too many users on node celery.example.com
```

- ノード等しい: `celery.example.com`
- Logfile line matches: `^Warning:<*.text>on node<@.node>$`

このパターンは、Warning で開始するメッセージを一致させ、too many users を text に、celery.example.com を node に割り当てます。

詳細については、「[条件]タブ」(118ページ)と「ポリシー・ルールにおけるパターン・マッチング」(366ページ)を参照してください。

6. オプション: タイプ「一致するルールのイベント」のルールを作成する場合は、ポリシーが送信するイベントの属性を設定します。標準設定のイベント属性はここで上書きできます。また、オペレータが関連するイベントを処理し、アクションを設定して問題を自動的に、または手動で解決するのに役立つ命令を作成できます。

テキスト・ボックスでは、インジケータ、ポリシー変数、ポリシー・パラメータを使用できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(119ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(120ページ)、「[カスタム属性]タブ」(118ページ)、「[命令]タブ」(121ページ)、「[詳細設定]タブ」(117ページ)、および「[アクション]タブ」(115ページ)を参照してください。

7. オプション:[オプション]ページで、ローカル・イベント・ログ、不一致イベント、パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については、「[オプション]ページ」(122ページ)を参照してください。

8. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「[アクション]タブ」(115ページ)
- 「[詳細設定]タブ」(117ページ)
- 「[条件]タブ」(118ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(118ページ)
- 「[標準設定]ページ」(119ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(119ページ)
- 「[イベント相関処理]タブ」(120ページ)
- 「[インジケータ]タブ」(120ページ)
- 「[命令]タブ」(121ページ)
- 「[オプション]ページ」(122ページ)
- 「[ポリシー データ]ページ」(123ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(124ページ)
- 「[ポリシー ルール]リスト」(125ページ)
- 「[ポリシー変数]タブ」(126ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(127ページ)

- 「[ルール]ページ」(128ページ)
- 「[ソース]ページ」(128ページ)

## [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。たとえば、ログ・ファイルに "The C: disk is at or near capacity." というメッセージが含まれる場合に、C:\Temp の内容を自動的に削除するログ・ファイル・エントリ・ポリシーを設定できます。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドが Windows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェントユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。
イベントを直ちに送信	ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐに BSM サーバにイベントを送信します。これは標準設定です。

UI 要素	説明
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	<p>BSM サーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSM サーバに通知しないようにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• イベントを送信</li> <li>• ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</li> <li>• ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</li> </ul>
オペレータ開始コマンド	<p>ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSM ユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Web ブラウザに表示される指示などを指定できます。</p>
コマンド	<p>このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。</p>
非エージェントユーザ	<p>標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	<p>コマンドを開始するノードの名前。変数 &lt;\$MSG_NODE_NAME&gt; を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。</p>
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	<p>コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。</p>
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	<p>コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。</p>

## [詳細設定]タブ



注: 標準設定のイベント属性では、イベント・ドリルダウン URL 属性を設定できません。このイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です(Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース(MSI)により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション(イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど)を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合、標準設定をこのルールに適用するか、または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに、イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件]タブ

UI要素	説明
ノード等しい	<p>ポリシーでログ・ファイルの行にあるノードと比較する完全修飾ドメイン名, ノード名, または IP アドレス。ログ・ファイルの行と特定のノードを照合するには, このフィールドに値を入力します。</p> <p>OR 演算子 ( ) を使用して複数のエントリを区切るか, 空白にしてすべてのノードを取得します。</p> <p>例 :celery.example.com broccoli.example.com</p>
ログファイルの行と一致	<p>ポリシーでログ・ファイルの行と比較するパターン。</p> <p><b>注:</b> ログ・ファイルのポリシーでは, ログ・ファイルの行を個別に読み取ります。そのため, ログ・ファイルで複数行にまたがるパターンの照合はできません。</p> <p><b>ヒント:</b> 値を照合するときには, 標準の HP Operations Agent パターン照合ルールを使用できます。▶ をクリックして, パターン・マッチング正規表現ツールボックスを開きます。ツールボックスには, 次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>パターン・マッチング正規表現:</b> 式をクリックして, パターンに式を挿入します。</li> <li>● <b>変数結合オプション:</b> 変数結合オプションには, ルールの大文字小文字の区別, フィールドの区切り文字が含まれます。ルールのパターン・マッチング・オプションを指定しないと, 標準設定(大文字小文字の区別あり, 空白とタブ文字が区切り文字), またはポリシーの標準設定オプションが使用されます。</li> </ul>

## [カスタム属性]タブ

UI要素	説明
	<b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには, 名前をダブルクリックして選択し, 新しい名前を入力します。
	<b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。

UI 要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(119ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(120ページ)、「[命令]タブ」(121ページ)、および「[詳細設定]タブ」(117ページ)を参照してください。

### [イベント属性]タブ

**注:** 標準設定のイベント属性では、重大度、カテゴリ、ノード属性のみを設定できます。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的にはHP Operations Managerのメッセージ・グループに似ています。

UI 要素	説明
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクル・ステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

### [イベント関連処理]タブ



注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。

- キーの付いたイベントを終了
- サーバの重複イベントの削除を抑止




これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。
イベント サプレッションを有効化	<p>このポリシーで生成されるイベントの抑制を有効にします。</p> <p>イベントの標準設定でイベントの抑制が有効な場合、イベントの抑制をこのルールに適用するか、またはイベントの抑制をこのルールでオーバーライドできます。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を使用:</b> イベントで設定したイベントの抑制をこのルールに適用します。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに対して特定のイベント抑制を設定できます。</p>

### [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p>注: BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
	<p>[ドロップターゲット形式を選択]ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li>• <b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>



UI 要素	説明
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールからのリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>

### [命令]タブ


UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>


## [オプション] ページ

UI 要素	説明
ローカルイベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカル・ノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>
ルールに一致し、イベントのトリガとなる	イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。
ルールに一致し、無視されます	イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。
どのルールにも一致しません	ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。
一致しないイベント	<p>適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。</p> <p>イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。</p> <p><b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。</p>
イベント・ブラウザに送信される	イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
閉じたイベント・ブラウザに送信される	[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。





UI 要素	説明
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無, およびフィールド区切り文字を定義します。
大文字と小文字を区別する	ルールのパターンがソース・データと比較される場合に, テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると, ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ, 一致と判断されます。これは標準設定です。
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は, パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む, 合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば, バックスラッシュ, アスタリスク, 文字 A でイベントのフィールドを定義する場合, 「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると, 標準設定の区切り文字(空白, およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無, および区切り文字を設定できます。このためには, ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより, 個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し, [すべてに適用する]をクリックしない場合, パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>





## [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして, [Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して, ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり, 末尾が _data です。






UI 要素	説明
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>

UI 要素	説明
パラ メー タ	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [ポリシー ルール] リスト

UI 要素	説明
	<p><b>新規規則の作成:</b> 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>一致する規則のイベント:</b> 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>• <b>一致する規則の抑制:</b> 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>• <b>一致しない規則の抑制:</b> 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul>
	<p><b>規則のコピー:</b> 選択した規則がコピーされます。コピーした規則の説明は、書き換えおよび編集が可能です。</p>
	<p><b>規則の削除:</b> 選択した規則が削除されます。</p>
	<p><b>上へ移動:</b> 選択した規則がルール順序の上位に移動します。</p>
	<p><b>下へ移動:</b> 選択した規則がルール順序の下位に移動します。</p>

UI 要素	説明
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルール・リストでそのシーケンス番号を持つルールを選択します。</p> <p>ルール・リストから特定のルールを選択するには、[移動先]フィールドでルール・シーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルール・リストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
🔍	<b>ルール フィルタをアクティブ化/非アクティブ化:</b> ルール・フィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。
Seq.	ルール・シーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。
ルールの説明	ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。
ルールのタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul> <p>ルール・タイプを変更するには、ルール・リストで現在のルール・タイプをクリックし、ドロップダウン・リストから別のルール・タイプを選択します。</p>

### [ポリシー変数]タブ

ログ・ファイル・エントリ・ポリシーでは次の変数を使用できます。変数がスペースを含む値を返す場合は、変数を引用符で囲みます。

変数	説明
<\$MSG_NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123

変数	説明
<\$MSG_NODE_NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。ポリシーがネットワーク共有上のログ・ファイルを読み取り、そのログ・ファイルに複数ノードのアプリケーションによりメッセージが書き込まれる場合、エラー・メッセージからノード名を抽出し、そのノード名をユーザ定義変数に格納して、MSG_NODE_NAMEに代入できます。
<\$MSG_TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシー ID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)

UI 要素	説明
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決定します(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>
インストール	<p>このポリシー用に選択されたインストルメンテーション。インストルメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストルメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。</p>
OS タイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1つ以上のポリシー・ルールを定義できます。

詳細については、「[ポリシールール]リスト」(125ページ)、「[条件]タブ」(118ページ)、「[イベント属性]タブ」(119ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(120ページ)、「[カスタム属性]タブ」(118ページ)、「[詳細設定]タブ」(117ページ)、および「[アクション]タブ」(115ページ)を参照してください。

## [ソース] ページ

UI 要素	説明
-------	----



ログ・ファイルのパス名	<p>ポリシーで読み取られるログ・ファイルのパスと名前。このファイルの場所を示すノードのドライブ文字とフル・パスを入力します。</p> <p><b>ヒント:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の環境変数 (winnt や clusterlog など) を使用して、ポリシーをさらに柔軟にすることができます。これらの変数の正しい構文は「&lt;\$変数名&gt;」です (例: &lt;\$winnt&gt;)。</li> <li>また、アクセスするログ・ファイルのパスと名前を返すスクリプトやコマンドを呼び出すこともできます。たとえば次のように入力します。</li> </ul> <pre>&lt;`command`&gt;</pre> <p>この場合の「command」は、ポリシーで読み取るログ・ファイルのパスと名前を返すスクリプトの名前です。またこのコマンドにより、スペース区切りで複数のログ・ファイルのパスを返すこともできます。HP Operations Agent では、このポリシーに設定したのと同じオプションおよび条件を使用して、個々のファイル进行处理します。動的にログ・ファイルのパスを決定する場合、またはログ・ファイルの複数のインスタンス进行处理する場合に便利です。</p> <p><b>注意:</b> ログ・ファイルが処理可能かどうかを確認する必要があります。たとえば、バイナリ・データを含むログ・ファイルはポリシーで読み取ることができないため、ポリシーが応答しなくなるか、または終了してしまう場合もあります。ログ・ファイルにバイナリ・データが含まれている場合、ログ・ファイルの前処理機能を使用してファイルを前処理します。</p>
プリプロセス	<p>エージェントが読み取る前にオリジナルのログ・ファイルを再フォーマットしたい場合、提供するコマンドまたはプログラムを使用して前処理できます。たとえば、バイナリ・ログ・ファイルを前処理し、エージェントが読み取り可能な形式のテキスト・ファイルを生成できます。</p>
実行対象ファイル	<p>ログ・ファイルを前処理するコマンドまたはプログラムの、拡張子付きのパスと名前。指定したファイルはノード内にある必要があります。</p> <p>[ログファイルのパス/名前] が空の場合、指定したポーリング間隔でエージェントによりコマンドが実行されます。[ログファイルのパス/名前] にログ・ファイルのパスが含まれている場合、そのログ・ファイルが変更された場合のみ、指定したポーリング間隔でエージェントによりコマンドが実行されます。</p>
読み取り対象ファイル	<p>前処理コマンドにより作成または更新されるログ・ファイルのパス。</p> <p>[読み取り対象ファイル] でパスを指定した場合、エージェントはログ・ファイルを読み取ります。[読み取り対象ファイル] を空白のままにしておくと、エージェントは代わりに [ログファイルのパス/名前] で指定したログ・ファイルを読み取ります。</p>

ポーリング間隔	<p>ログ・ファイルがポリシーで読み取られる頻度を決定します。この時間がポーリング間隔となります。ファイルに書き込まれる新規データ量や選択する読み取りモードにより異なりますが、ポーリング間隔はできるだけ大きくする必要があります。ポーリング間隔は30秒以上に設定します。通常は5分が適切です。ただし、ポリシーでデータの評価が開始されるのは、初回のポーリング間隔の経過後です。ポリシーをテストする場合、ポーリング間隔はできるだけ短くします。</p> <p>時間を変更するには、▼ ボタンをクリックし、ドロップダウン・リストを使用して、時、分、秒の増分を指定します。</p> <p>時間のフィールドにパラメータを挿入するには、形式「%%&lt;variable_name&gt;%%」でパラメータを入力するか、[ポリシー・パラメータ]タブでパラメータをドラッグ・アンド・ドロップします。</p> <p>標準設定値 :5分</p>
ログファイルの文字セット	<p>ポリシーで読み取られるログ・ファイルで使用する文字セットの名前。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注: 正しい文字セットを選択することが重要です。ポリシーで予想される文字セットがログ・ファイルの文字セットと一致しない場合、パターン・マッチングが動作しない場合があります。そのため、BSMでイベントの詳細の文字が正しく表示されない、あるいは文字が途中で切れてしまう可能性があります。ポリシーで読み取られるログ・ファイルで使用する文字セットが分からない場合は、ファイルを記述するプログラムのドキュメントを参照してください。</p> </div> <p>標準設定値 :UTF-8</p>
ログファイルが存在しない場合イベントを送信	<p>エージェントでは、指定したログ・ファイルが存在しない場合でもイベントが送信されます。</p> <p>標準設定値 :選択なし</p>

読み取り後に閉じる	<p>ポリシーでは、ログ・ファイルの読み取り後、開かれた状態が維持されます(また、ファイル・ハンドルが保持されます)。このオプションを選択した場合、1分よりも小さい値でポーリング間隔を使用しないでください。</p> <p>このオプションを選択していない場合、ログ・ファイルの名前が変更されても、ポリシーでは、新しい名前を付けたログ・ファイルが処理されず、引き続き元のログ・ファイルが読み取られます。たとえば、<code>syslog.log</code> というログ・ファイルがポリシーで読み取られる場合を考えます。月曜日の23:59にファイル名を <code>syslog.monday</code> に変更し、火曜日のログ用に新しいバージョンの <code>syslog.log</code> が作成されるとします。[読み取り後に閉じる]が選択されていない場合、ファイル・ハンドルでは名前を変更した元のファイルを参照するため、ポリシーでは引き続き <code>syslog.monday</code> が読み取られます。</p> <p>標準設定値 : 選択なし</p>
-----------	--









読み取りモード	<p>ログ・ファイル・ポリシーの読み取りモードは、ポリシーでファイル全体を処理するか、新規エントリのみを処理するかを示します。</p>	
	<p><b>前回の位置から読み取る:</b> ポリシーがアクティブな間、ログ・ファイルに書き込まれる新規(追加)エントリのみがポリシーにより読み取られます。読み取りの間にファイル・サイズが縮小した場合、ファイル全体が読み取られます。ポリシーが無効になっている間にファイルに追加されるエントリは、そのポリシーで処理されません。</p> <p>ポリシーが有効な間に発生するエントリのみに関心がある場合は、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> 同じエントリを2回読み取る可能性がありません(一部のエントリが削除されたためにファイル・サイズが縮小する場合を除く)。</p> <p><b>デメリット:</b> ポリシーが無効になっている間に、またはエージェントが実行されていない間にファイルに書き込まれるエントリは、ポリシーで処理されません。</p>
	<p><b>最初から読み取る(初回):</b> ポリシーがアクティブになるたびに、またはエージェントが再起動されるたびに、ログ・ファイル全体がポリシーにより読み取られます。このようにすることで、ファイル内のすべてのエントリが、ポリシー内のルールと比較されます。その後は、ポリシーがファイルを読み取るたびに、ファイルの新しい(追記された)エントリのみが処理されます。</p> <p>ポリシーがアクティブな間にファイルの既存エントリおよび今後に生じるエントリをすべて処理する必要がある場合は、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリがポリシーによって処理されます。</p> <p><b>デメリット:</b> アクティブなポリシーがいったん非アクティブになってから再度アクティブになると、またはエージェントがいったん停止してから再起動されると、エントリの重複が発生する場合があります。</p>
<p><b>最初から読み取る(常時):</b> ファイルの変更が検出されるたびに、ログ・ファイル全体がポリシーにより読み取られます。指定したポーリング間隔で、ポリシーによりファイルがスキャンされます。変更が検出されない場合、ファイルは処理されません。ポリシーが非アクティブの間に、またはエージェントが実行されていない間に上書きされるエントリは、ポリシーで評価されません。</p> <p>追加されたファイルよりも上書きされたファイルをポリシーで読み取る場合は、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> 上書きされたファイルが正しく処理されることを確保します。</p> <p><b>デメリット:</b> 追加されたファイルではなく、上書きされたファイルでのみ有効です。</p>	
<p><b>注:</b> 他のポリシーに依存することなく、すべてのポリシーで同じログ・ファイルが読み取られます。つまり、たとえば読み取りモードが[最初から読み取る(初回)]の「Policy 1」がアクティブで、同じ読み取りモードの「Policy 2」がすでに存在する場合、「Policy 1」がアクティブになると、このポリシーでもファイル全体が読み取られます。</p>		
<p>標準設定値 : 前回の位置から読み取る</p>		

## 測定値しきい値ポリシーの設定




測定値しきい値ポリシーを使用すると、さまざまなソースからのパフォーマンス・メトリクスを監視できます。パフォーマンス・メトリクスが指定したしきい値を超えるとイベントを作成し、コマンドを起動するようポリシーを設定できます。




### アクセス方法

測定値しきい値ポリシー・エディタでは、測定値しきい値ポリシーを作成、編集できます。測定値しきい値ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[Measurement Threshold Template]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

測定値しきい値ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
    - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
    - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
    - c. [Measurement Threshold Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
      - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。
- 新規測定値しきい値ポリシー・エディタが開きます。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシーテンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集** または  **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)** ボタンをクリックします。

測定値しきい値ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「測定値しきい値ポリシー」(134ページ)
- 「インスタンス・フィルタ」(134ページ)
- 「opcmon コマンド」(134ページ)
- 「Java API」(135ページ)
- 「C API」(135ページ)

### 測定値しきい値ポリシー

測定値しきい値ポリシーでは、埋め込みパフォーマンス・コンポーネント (Coda) や外部プロセス (opcmon)、またはポリシーが実行するプログラムから受け取った値を監視できます。また、管理情報ベース、Windows リアルタイム・パフォーマンス・モニタ、Windows 管理インストルメンテーション・データベースの値を監視することも可能です。

測定値しきい値ポリシーは、事前定義された最小および最大処理ルールを提供し、このルールによってしきい値の制限が設定されます。ルールが一致すると見なされるために、監視対象の値はこの制限を下回るか、上回る必要があります。ただし、ユーザは独自の Perl または VB スクリプトを作成して、監視対象のソースを評価し、しきい値の制限を決定することができます。

数字またはブール値以外をもたらすソースを選択した場合や、複数のソースを評価する場合には、スクリプトを使用して、測定値しきい値ポリシー用のしきい値を決定する必要があります。スクリプトを使用することでユーザ独自の計算や、しきい値を超えたかどうかの判断が可能となります。

データ・ソースが1つしかないポリシーは、事前定義した最小ルールや最大ルール、またはスクリプトを使用してデータを処理できます。複数のデータ・ソースを持つポリシーでは、しきい値レベルを評価するためのスクリプトを作成する必要があります。

### インスタンス・フィルタ

インスタンス・フィルタを使用すると、監視対象オブジェクトのさまざまなインスタンスに対して、ポリシーでさまざまなしきい値レベルのセットを適用できます。たとえば、ディスクの使用量を監視するしきい値ポリシーでは、すべてのディスクに対して同じしきい値を適用しますが、インスタンス・フィルタを指定した場合、ディスク C: に対してあるしきい値レベル・セットを指定し、ディスク D: へは別のセットを指定できます。それ以降も同じです。

インスタンス・フィルタは、最小、最大、またはスクリプトに基づいてしきい値を評価するポリシーと併用できます。インスタンス・フィルタはソース MIB に基づいたしきい値ポリシーには使用できません。ポリシーをインスタンス・フィルタに切り替えた場合、元に戻すことはできません。

### opcmon コマンド

opcmon コマンドを使用すると、監視対象値をコマンド・プロンプトやスクリプトから HP Operations Agent に送信できます。HP Operations Agent は測定値しきい値ポリシー設定に基づいて送信された値を評価し、処理します。

```
opcmon [-help]
        <object_name>[-<shortname>]=<value>
        [-object <object>]
        [-option <var>=<value>]
```

opcmon は次の場所のいずれかで使用できます。

- AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/opt/OV/bin/opcmon
- Windows 32 ビット :%OvInstallDir%\bin\opcmon
- Windows 64 ビット :%OvInstallDir%\bin\win64\opcmon

詳細については、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

## Java API

Java API を使用すると、監視対象値を HP Operations Agent に送信する Java プログラムを作成できます。必要な JAR ファイル(jopcagtbase.jar および jopcagtmsg.jar)は次のいずれかの場所に HP Operations Agent とともにインストールされています。

- AIX:/usr/lpp/OV/java/
- HP-UX, Linux, Solaris :/opt/OV/java/
- Windows :%OvInstallDir%\java\

Javadoc スタイル・クラスのドキュメントは次の場所にあります。

- AIX:/usr/lpp/OV/www/htdocs/jdoc\_agent/index.html
- HP-UX, Linux, Solaris :/opt/OV/www/htdocs/jdoc\_agent/index.html
- Windows :%OvInstallDir%\www\htdocs\jdoc\_agent\index.html

詳細については、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

## C API

C API を使用すると、監視対象値を HP Operations Agent に送信する C プログラムを作成できます。必要なヘッダ・ファイル(opcapi.h)は、次のいずれかのディレクトリに HP Operations Agent とともにインストールされています。

- AIX:/usr/lpp/include/
- HP-UX, Linux, Solaris :/opt/OV/include/
- Windows :%OvInstallDir%\include\

必要なライブラリ(libopcagtapi、および UNIX や Linux libOvXpl 上)は次のいずれかのディレクトリに HP Operations Agent とともにインストールされています。

- AIX 32 ビット :/usr/lpp/OV/lib/
- AIX 64 ビット :/usr/lpp/OV/lib64/
- HP-UX Itanium:/opt/OV/lib/hpux32
- HP-UX PA-RISC:/opt/OV/lib/
- Linux および Solaris 32 ビット :/opt/OV/lib/
- Linux および Solaris 64 ビット :/opt/OV/lib64/

- Windows 32ビット :%OvInstallDir%\bin\  
• Windows 64ビット :%OvInstallDir%\bin\win64\  
C API および必要なコンパイラ・オプションについての詳細は、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

C API および必要なコンパイラ・オプションについての詳細は、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

## タスク

### 測定値しきい値ポリシーの作成方法

1. 測定値しきい値ポリシー・エディタの[プロパティ]ページでポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストールメンテーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ]ページ」(156ページ)を参照してください。

2. [ソース]ページで、監視するソースを定義します。

- a. [**\*** ソースの追加]をクリックし、次のソース・タイプのいずれかを選択します。

- **埋め込みパフォーマンス・コンポーネント・ソースの追加** :埋め込みパフォーマンス(Coda)コンポーネントが収集したパフォーマンス・カウンタとインスタンス・データを監視する場合はこのオプションを使用します。
- **外部ソースの追加** :外部プログラム(opcmon コマンドライン・ツールなど)から送信されたデータを監視する場合はこのオプションを使用します。HP Operations Agent は外部プログラムをポーリングせず、値を受信するまで待機します。
- **管理情報ベース・ソースの追加** :管理情報ベース(MIB)に保存されているデータを監視するにはこのオプションを使用します。
- **プログラム・ソースの追加** :外部プログラムから送信されたデータを監視するにはこのオプションを使用します。HP Operations Agent は各ポーリング間隔で外部プログラムを実行します。
- **リアルタイム・パフォーマンス測定値ソースの追加** :Windows パフォーマンス・モニタが収集したデータを監視するにはこのオプションを使用します。
- **Windows 管理インストールメンテーション・ソースの追加** :WMI データベースに保存されたデータを監視するにはこのオプションを使用します。

- b. [短縮名]と、オプションとしてソースの[説明]を入力します。これらのラベルはしきい値ソースの値やメトリックの認識に役立ちます。

- c. オプション。[Coda に保存する]をクリックし、ポリシーが収集したデータを埋め込みパフォーマンス・コンポーネント(Coda)に保存するよう設定します。その後、他のユーザはCodaからデータを利用できます(パフォーマンス・グラフ作成でグラフを作成するなど)。

ここでユーザが独自に開発した[データソース]、[オブジェクト]、[メトリック]を入力できます。ポリシーはそれらを埋め込みパフォーマンス・コンポーネント(Coda)内に作成し、ポーリング間隔ごとにポリシーのソースからのデータを保存します。

- d. オプション。**\*** をクリックし、ポリシーに別のソースを追加します。ソースは必要なだけ追加できます。

- e. 標準設定の[ポーリング間隔]である5分間を受諾するか、別の間隔を設定します。



詳細については、「[ソース]ページ」(159ページ)を参照してください。

3. オプション。[標準設定]ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。

イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

**注:** 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(146ページ)、「[命令]タブ」(151ページ)、および「[詳細設定]タブ」(144ページ)を参照してください。

4. [処理]ページで収集したデータをポリシーで処理する方法を決定するオプションを設定します。

- a. しきい値レベルの設定方法を選択します。

- **最小:** ルールが一致すると見なされるために監視対象値が下回る必要がある最小しきい値レベルを設定します。
- **最大:** ルールが一致すると見なされるために監視対象値が上回る必要がある最大しきい値レベルを設定します。
- **Perl スクリプト:** ポリシーがPerl スクリプトを使用して監視対象ソースの評価としきい値制限の決定を行うよう設定します。
- **VB スクリプト:** ポリシーがVB スクリプトを使用して監視対象ソースの評価としきい値制限の決定を行うよう設定します。

- b. オプション。[インスタンスフィルタを使用]をクリックしてポリシーのインスタンス・フィルタを有効にします。インスタンス・フィルタに切り替えた場合、元に戻すことはできません。

- c. オプション。スクリプトを使用してしきい値の設定や評価を行っている場合、ポリシーが、測定する値の複数のインスタンスを処理する方法を選択できます。

各インスタンスをポリシーで個別に処理させたい場合は、[各インスタンスを個別に処理]をクリックします。たとえば、ポリシーが複数のCPUを搭載しているサーバ内の各CPUを監視し、すべてのCPUのアクティビティがしきい値を超えた場合、各CPUに対してイベントが生成されます。

あるいは、すべてのインスタンスを一度に処理する標準設定を受諾します。

詳細については、「[処理]ページ」(155ページ)を参照してください。

5. インスタンス・フィルタが有効化されていない場合、[ルール]ページで1つ以上のしきい値ルールを定義してください。

- a. [**\*** 新しいしきい値を作成]をクリックして新規しきい値ルールを追加します。

- b. [しきい値定義]の[定義]タブを使用して、監視対象値に対して評価するしきい値を定義します。

- i. [しきい値レベルの説明]で、識別に役立つルールの説明を入力します。

- ii. しきい値の制限を定義します。

- 最小しきい値 :<=(以下): 監視対象値がこの値以下となったとき、イベントをトリガする値を設定します。
- 最大しきい値 :>=(以上): 監視対象値がこの値以上となったとき、イベントをトリガする値を設定します。
- スクリプト: 監視対象のソースを評価し、ルール・オブジェクトを TRUE または FALSE のいずれかに設定するスクリプトを作成します。

スクリプトは短い名前とポリシー・オブジェクトを使用して各ソースの値にアクセスし、しきい値を超えたかどうかを判別するための計算を実行します。スクリプトではしきい値を超えている場合はルール・オブジェクトを TRUE に、超えていない場合は FALSE に設定します。

ポリシーをデプロイすると、スクリプトはポーリング間隔が経過するたびにソースを評価し、ルール・オブジェクトを TRUE または FALSE に設定します。ルール・オブジェクトを TRUE に設定すると、ポリシーは、しきい値を超えてからの経過時間に応じて開始、継続または終了アクションを実行します。また、開始、継続、終了アクションの他にも柔軟な処理が必要な場合は、スクリプトを使用してイベントを送信または直接コマンドを実行することもできます。

- iii. オプション。[次の期間に発生する1回の短時間のピークを無視]をクリックし、ポリシーのポーリング間隔の倍数となる値を設定します。継続期間を0に設定するか、ボックスを空白のままにした場合、HP Operations Agent はしきい値に達するか、しきい値を超えたことを検出するとただちにアラームを生成します。
- iv. オプション。[しきい値レベルの特定のリセット値を指定]をクリックし、リセット値を設定します。最小ルールや最大ルールの場合はフィールドに値を入力します。スクリプトの場合は、ソースを評価し、リセット値を決定するスクリプトを作成します。あるいは、しきい値の制限と同じ値を使用することもできます。

詳細については、「しきい値ルール-[定義]タブ」(164ページ)を参照してください。

- c. オプション。[アクション]をクリックし、しきい値レベルの評価後にポリシーが実行する動作を示します。ポリシーはイベントの送信、コマンドの開始、オペレータが開始できるようコマンドを準備、またはこれらのアクションの組み合わせを実行したり、アクションのいずれも実行しないことが可能です。
  - 開始アクションは常に実行されます。
  - 継続アクションはオプションです。ルールの開始アクションが前回のポーリング間隔で実行済みで、リセット値に達していない場合、各ポーリング間隔で継続アクションが実行されます。継続アクションを設定するには、[特殊な'アクションの続行'を定義]をクリックします。
  - 終了アクションもまたオプションです。ルールの開始アクションが実行済みで、しきい値がリセット値を超えた後に実行されます。終了アクションを設定するには、[指定された'アクションの停止'を開始]をクリックします。

開始、継続、終了アクションを設定するには、次の手順を実行します。

- i. オプション。[アクションの開始]をクリックし、タブを使用してしきい値を初めて超えた時にエージェントが送信するイベントを設定します。イベントの詳細を設定していない場合は、イベントの標準設定が使用されます。
- ii. オプション。[アクションの続行]をクリックし、タブを使用してリセット値に達しない場合に

各ポーリング間隔でエージェントが送信するイベントを設定します。イベントの詳細を設定していない場合は、イベントの標準設定が使用されます。

- iii. オプション。[アクションの終了]をクリックし、タブを使用してしきい値がリセット値を超えた後にエージェントが送信するイベントを設定します。イベントの詳細を設定していない場合は、イベントの標準設定が使用されます。

詳細については、「しきい値ルール-[アクション]タブ」(167ページ)を参照してください。

6. インスタンス・フィルタが有効化されている場合は、[ルール]ページで1つ以上のインスタンス・ルールを定義してください。

- a. [**\*** 新規ルールの作成]をクリックし、次のルール・タイプのいずれかを選択します。

- 一致した場合にしきい値を評価：インスタンスが条件と一致した場合、すべてのしきい値を評価し、BSMにイベントを送信します。
- 一致した場合に評価を停止：インスタンスが条件と一致した場合、エージェントは処理を中止し、BSMへのイベント送信を行いません。
- 一致しない場合に評価を停止：インスタンスが条件と一致していない場合、エージェントは処理を中止し、BSMへのイベント送信を行いません。

詳細については、「インスタンス・ルール-概要」(148ページ)を参照してください。

- b. [インスタンスルール定義]の[定義]タブを使用して、インスタンスと一致する必要がある条件を定義します。

- i. [ルールの説明]を指定します(たとえば、「Cドライブと一致」)。
- ii. オプション。[ルールタイプ]を確認します。これは前の手順で選択したタイプです。必要に応じて、ドロップダウン・リストから別のタイプを選択します。
- iii. 監視するインスタンスを指定します。

- 最小と最大：

[オブジェクト名]で特定のルールを作成するインスタンスと一致するパターン・マッチング文字列を入力します。

- スクリプト：

特定のルールを作成するインスタンスと一致するパターン・マッチング文字列を使用する場合は、[オブジェクト名のパターンによるフィルタ]をクリックします。

あるいは、[スクリプトの使用によるフィルタ]をクリックし、オブジェクト・インスタンスをフィルタするVBスクリプトまたはPerlスクリプトを入力します。

VBスクリプトしきい値では、オブジェクト・インスタンスが条件と一致する場合には `Rule.Status = True` に設定します。それ以外の場合は、`Rule.Status = False` に設定してください。

Perlスクリプトしきい値では、オブジェクト・インスタンスが条件と一致する場合には `$Rule->Status(TRUE);` に設定します。それ以外の場合は `$Rule->Status(FALSE);` に設定してください。

詳細については、「インスタンス・ルール-定義」(149ページ)を参照してください。

- c. オプション。タイプ「一致した場合にしきい値を評価」のルールを作成する場合は、インスタンス値を比較して評価するしきい値を作成します。

[インスタンスルール定義]で, [しきい値], [**\* 新しいしきい値を作成**]の順にクリックし, 新規しきい値ルールを追加します。

- d. [しきい値定義]の[定義]タブを使用して, インスタンス値と比較して評価するしきい値を定義します。
- i. [しきい値レベルの説明]で, 識別に役立つルールの説明を入力します。
  - ii. しきい値の制限を定義します。
    - 最小しきい値 :<=(以下): 監視対象値がこの値以下となったとき, イベントをトリガする値を設定します。
    - 最大しきい値 :>=(以上): 監視対象値がこの値以上となったとき, イベントをトリガする値を設定します。
    - スクリプト: 監視対象のソースを評価し, ルール・オブジェクトを TRUE または FALSE のいずれかに設定するスクリプトを作成します。

スクリプトは短い名前とポリシー・オブジェクトを使用して各ソースの値にアクセスし, しきい値を超えたかどうかを判別するための計算を実行します。スクリプトではしきい値を超えている場合はルール・オブジェクトを TRUE に, 超えていない場合は FALSE に設定します。

ポリシーをデプロイすると, スクリプトはポーリング間隔が経過するたびにソースを評価し, ルール・オブジェクトを TRUE または FALSE に設定します。ルール・オブジェクトを TRUE に設定すると, ポリシーは, しきい値を超えてからの経過時間に応じて開始, 継続または終了アクションを実行します。また, 開始, 継続, 終了アクションの他にも柔軟な処理が必要な場合は, スクリプトを使用してメッセージを送信または直接コマンドを実行することもできます。

- iii. オプション。[次の期間に発生する1回の短時間のピークを無視]をクリックし, ポリシーのポーリング間隔の倍数となる値を設定します。継続期間を0に設定するか, ボックスを空白のままにした場合, HP Operations Agent はしきい値に達するか, しきい値を超えたことを検出するとただちにアラームを生成します。
- iv. オプション。[しきい値レベルの特定のリセット値を指定]をクリックし, リセット値を設定します。最小ルールや最大ルールの場合はフィールドに値を入力します。スクリプトの場合は, ソースを評価し, リセット値を決定するスクリプトを作成します。あるいは, しきい値の制限と同じ値を使用することもできます。

詳細については, 「しきい値ルール- [定義]タブ」(164ページ)を参照してください。

- e. オプション。[アクション]をクリックし, しきい値レベルの評価後にポリシーが実行する動作を示します。ポリシーはイベントの送信, コマンドの開始, オペレータが開始できるようコマンドを準備, またはこれらのアクションの組み合わせを実行したり, アクションのいずれも実行しないことが可能です。
- 開始アクションは常に実行されます。
  - 継続アクションはオプションです。ルールの開始アクションが前回のポーリング間隔で実行済みで, リセット値に達していない場合, 各ポーリング間隔で継続アクションが実行されます。継続アクションを設定するには, [特殊な 'アクションの続行' を定義]をクリックします。
  - 終了アクションもまたオプションです。ルールの開始アクションが実行済みで, しきい値がリ

セット値を超えた後に実行されます。終了アクションを設定するには、[指定された 'アクションの停止' を開始] をクリックします。

開始, 継続, 終了アクションを設定するには, 次の手順を実行します。

- i. オプション。[アクションの開始] をクリックし, タブを使用してしきい値を初めて超えた時にエージェントが送信するイベントを設定します。イベントの詳細を設定していない場合は, イベントの標準設定が使用されます。
- ii. オプション。[アクションの続行] をクリックし, タブを使用してリセット値に達しない場合に各ポーリング間隔でエージェントが送信するイベントを設定します。イベントの詳細を設定していない場合は, イベントの標準設定が使用されます。
- iii. オプション。[アクションの終了] をクリックし, タブを使用してしきい値がリセット値を超えた後にエージェントが送信するイベントを設定します。イベントの詳細を設定していない場合は, イベントの標準設定が使用されます。

詳細については, 「しきい値ルール - [アクション] タブ」(167ページ)を参照してください。

- f. 各オブジェクト・インスタンスに対してこの操作を繰り返します。

7. オプション。[オプション] ページで, ローカル・イベント・ログ, 不一致イベント, パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については, 「[オプション] ページ」(151ページ)を参照してください。

8. [OK] をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「[アクション] タブ」(142ページ)
- 「[詳細設定] タブ」(144ページ)
- 「[カスタム属性] タブ」(145ページ)
- 「[標準設定] ページ」(146ページ)
- 「[イベント属性] タブ」(146ページ)
- 「[イベント関連処理] タブ」(147ページ)
- 「[インジケータ] タブ」(147ページ)
- 「インスタンス・ルール - 概要」(148ページ)
- 「インスタンス・ルール - 定義」(149ページ)
- 「インスタンス・ルール - しきい値」(150ページ)
- 「[命令] タブ」(151ページ)
- 「[オプション] ページ」(151ページ)
- 「[ポリシー データ] ページ」(153ページ)
- 「[ポリシー パラメータ] タブ」(154ページ)
- 「[ポリシー変数] タブ」(154ページ)

- 「[処理]ページ」(155ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(156ページ)
- 「[ルール]ページ」(158ページ)
- 「[スクリプト API]タブ」(158ページ)
- 「[ソースオブジェクト]タブ」(158ページ)
- 「[ソース]ページ」(159ページ)
- 「しきい値ルール-概要」(163ページ)
- 「しきい値ルール-[定義]タブ」(164ページ)
- 「しきい値ルール-[アクション]タブ」(167ページ)
- 「しきい値ルール-[アクションの開始]タブ」(167ページ)
- 「しきい値ルール-[アクションの続行]タブ」(168ページ)
- 「しきい値ルール-[アクションの終了]タブ」(168ページ)

### [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェント ユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数 (%password% など) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。



UI 要素	説明
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。
イベントを直ちに送信	ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐに BSM サーバにイベントを送信します。これは標準設定です。
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	BSM サーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSM サーバに通知しないようにすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• イベントを送信</li> <li>• ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</li> <li>• ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</li> </ul>
オペレータ開始コマンド	ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSM ユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Web ブラウザに表示される指示などを指定できます。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドが Windows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェントユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• Enable policy parameter in Password field : [パスワード]フィールドへの変数 (%password% など) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>

UI 要素	説明
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

### [詳細設定]タブ

注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。

- イベント・ドリルダウン URL
- タイプ



これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です(Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。



UI 要素	説明
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース (MSI) により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部 イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション ( イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど) を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合、標準設定をこのルールに適用するか、または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに、イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [カスタム属性] タブ

UI 要素	説明
	<p><b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには、名前をダブルクリックして選択し、新しい名前を入力します。</p>
	<p><b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。</p>

UI要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(146ページ)と「[詳細設定]タブ」(144ページ)を参照してください。

### [イベント属性]タブ

注: 標準設定のイベント属性では、次の属性のみ設定できます。

- 重大度
- カテゴリ
- ノード

他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前 (Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクル・ステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

### [イベント関連処理]タブ




注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。

- キーの付いたイベントを終了
- サーバの重複イベントの削除を抑制

これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。







UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。

### [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p>注: BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
	<p>イベント統合ポリシーのみ: [ドロップターゲット形式を選択]ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li>• <b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがリストから選択されます。← および → のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>

UI 要素	説明
<インジケータ>	構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI), およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。

### インスタンス・ルール - 概要

UI 要素	説明
	<p><b>新規ルールの作成:</b> 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致した場合にしきい値を評価: インスタンスが条件と一致した場合、すべてのしきい値を評価し、BSM にイベントを送信します。</li> <li>一致した場合に評価を停止: インスタンスが条件と一致した場合、エージェントは処理を中止し、BSM へのイベント送信を行いません。</li> <li>一致しない場合に評価を停止: インスタンスが条件と一致していない場合、エージェントは処理を中止し、BSM へのイベント送信を行いません。</li> </ul>
	<b>ルールのコピー:</b> 選択したインスタンスのルールをコピーします。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。
	<b>項目を削除:</b> 選択したインスタンスのルールを削除します。
	<b>上へ移動:</b> 選択したインスタンスをルール順序の上位へ移動させます。
	<b>下へ移動:</b> 選択したインスタンスをルール順序の下位へ移動させます。
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルールのリストでそのシーケンス番号を持つインスタンスのルールを選択します。</p> <p>ルール・リストから特定のインスタンス・ルールを選択するには、[移動先]フィールドでルールのシーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<しきい値を検索>	<p>入力した検索文字列を使用してインスタンス・ルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むインスタンス・ルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルールのリストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
	<b>しきい値フィルタのアクティブ化/非アクティブ化:</b> インスタンス・ルールのフィルタをアクティブまたは非アクティブにします。
Seq.	インスタンス・ルールのシーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。







UI 要素	説明
ルールの説明	インスタンス・ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。
ルールのタイプ	<p>ルールのタイプは次の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致した場合にしきい値を評価: 監視対象オブジェクトが条件と一致すると、すべてのしきい値が評価され、イベントがBSMに送信されます。</li> <li>一致した場合に評価を停止: 監視対象オブジェクトが条件と一致すると、エージェントでの処理が停止し、イベントがBSMに送信されません。</li> <li>一致しない場合に評価を停止: 監視対象オブジェクトが条件と一致しない場合、エージェントでの処理が停止し、イベントがBSMに送信されません。</li> </ul>
数量しきい値	選択したインスタンス・ルールに設定したしきい値の数。

### インスタンス・ルール - 定義

UI 要素	説明
ルールの説明	これは、ルールの識別を容易にするために、ルールに付ける名前です。この名前はルールのリストに表示されます。
ルールのタイプ	<p>ルールのタイプは次の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致した場合にしきい値を評価: 監視対象オブジェクトが条件と一致すると、すべてのしきい値が評価され、イベントがBSMに送信されます。 評価の停止: 残りのルールの評価をキャンセルします。</li> <li>一致した場合に評価を停止: 監視対象オブジェクトが条件と一致すると、エージェントでの処理が停止し、イベントがBSMに送信されません。</li> <li>一致しない場合に評価を停止: 監視対象オブジェクトが条件と一致しない場合、エージェントでの処理が停止し、イベントがBSMに送信されません。</li> </ul>
オブジェクト名	<p>最大および最小の処理ルールのみ:</p> <p>特定のルールを記述するインスタンス(単一または複数)と照合するパターン・マッチング文字列を入力します。</p>
オブジェクト名のパターンによるフィルタ	<p>スクリプト処理のみ:</p> <p>特定のルールを記述するインスタンス(単一または複数)と照合するパターン・マッチング文字列を入力します。</p>

UI 要素	説明
スクリプトの使用によるフィルタ	<p>スクリプト処理のみ:</p> <p>オブジェクトのインスタンスをフィルタする VB スクリプトまたは Perl スクリプトを入力します。</p> <p>VB スクリプトしきい値では、オブジェクト・インスタンスが条件と一致する場合には <code>Rule.Status = True</code> に設定します。それ以外の場合には、<code>Rule.Status = False</code> に設定してください。</p> <p>Perl スクリプトしきい値では、オブジェクト・インスタンスが条件と一致する場合には <code>\$Rule-&gt;Status (TRUE)</code> ; に設定します。それ以外の場合には <code>\$Rule-&gt;Status (FALSE)</code> ; に設定してください。</p>

### インスタンス・ルール-しきい値

UI 要素	説明
	新しいしきい値を作成: 空のしきい値ルールをリストに追加し、編集できるようにします。
	しきい値をコピー: 選択したしきい値のルールをコピーします。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。
	項目を削除: 選択したしきい値のルールを削除します。
	上へ移動: 選択したしきい値のルールを上位の順序へ移動させます。
	下へ移動: 選択したしきい値のルールを下位の順序へ移動させます。
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルールリストでそのシーケンス番号を持つしきい値のルールを選択します。</p> <p>ルールリストから特定のしきい値ルールを選択するには、[移動先]フィールドでルールのシーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<しきい値を検索>	<p>入力した検索文字列を使用してしきい値ルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むしきい値ルールを検索するには、[しきい値を検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルールリストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
	しきい値フィルタのアクティブ化/非アクティブ化: しきい値ルールのフィルタをアクティブまたは非アクティブにします。
Seq.	しきい値ルールのシーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。

UI 要素	説明
しきい値レベルの説明	しきい値ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。

## [命令]タブ

UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>

## [オプション] ページ



UI 要素	説明
ローカル・イベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカル・ノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>

UI 要素	説明
ルールに一致し、イベントのトリガとなる	イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。
ルールに一致し、無視されます	イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。
どのルールにも一致しません	ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。
一致しないイベント	適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。  イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。  <b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。
イベント・ブラウザに送信される	イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
閉じたイベント・ブラウザに送信される	[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無、およびフィールド区切り文字を定義します。











UI 要素	説明
大文字と小文字を区別する	<p>ルールのパターンがソース・データと比較される場合に、テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると、ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ、一致と判断されます。これは標準設定です。</p>
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は、パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む、合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば、バックスラッシュ、アスタリスク、文字 A でイベントのフィールドを定義する場合、「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると、標準設定の区切り文字(空白、およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無、および区切り文字を設定できます。このためには、ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより、個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し、[すべてに適用する]をクリックしない場合、パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>

## [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	<p><b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が _data です。</p>
	<p><b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。</p>
<ポリシー データ>	<p>テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。</p>

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>
<パラメータ>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します (<code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

## [ポリシー変数] タブ

変数	説明
<\$INSTANCE>	現在のインスタンスの名前を返します。サンプル出力: C;
<\$MSG_NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123

変数	説明
<\$MSG_NODE_NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_OBJECT>	イベントに関連付けられたオブジェクトの名前を返します。これは、ポリシー・エディタのイベント・デフォルト・セクションで設定されます。
<\$MSG_TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$NAME>	イベントを送信したポリシーの名前を返します。サンプル出力:cpu_util
<\$OPTION (N) >	opcmsg または opcmonにより設定されたオプションの変数の値を返します (<\$OPTION (A) >, <\$OPTION (B) >, など)。
<\$THRESHOLD>	[しきい値定義]タブで設定されるしきい値の制限の値を返します。しきい値がスクリプトにより設定される場合、スクリプト言語の名前が返されます (VBScript など)。サンプル出力: 95.00
<\$VALUE>	測定値しきい値ポリシーで測定される値を返します。サンプル出力: 100.00
<\$VALAVG>	測定値しきい値ポリシーによって報告されたすべてのメッセージの平均値を返します。サンプル出力: 100.00
<\$VALCNT>	しきい値モニタがブラウザにメッセージを送信した回数を返します。サンプル出力: 1

## [処理] ページ

UI 要素	説明
スクリプト・タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>最小</b> : ルールが一致すると見なされるために監視対象値が下回る必要がある最小しきい値レベルを設定します。</li> <li>● <b>最大</b> : ルールが一致すると見なされるために監視対象値が上回る必要がある最大しきい値レベルを設定します。</li> <li>● <b>Perl スクリプト</b> : ポリシーが Perl スクリプトを使用して監視対象ソースの評価としきい値制限の決定を行うよう設定します。</li> <li>● <b>VB スクリプト</b> : ポリシーが VB スクリプトを使用して監視対象ソースの評価としきい値制限の決定を行うよう設定します。</li> </ul> <p><b>注意:</b> 測定値しきい値ポリシーには、次のルール・タイプのいずれかのみを含めることができます。しきい値のタイプ間で常に変換できるわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最小と最大の変更: ルールは削除されません。</li> <li>● 最小または最大から VB または Perl への変更: ルールがスクリプトに変換されます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• VB または Perl から最小または最大への変更: ルールが削除されます。</li> <li>• VB と Perl 間での変更: 変換は行われません。スクリプトを書き換える必要があります。</li> </ul> <p>ヒント: 数字またはブール値以外をもたらすソースを選択した場合や、複数のソースを評価する場合には、スクリプトを使用して、測定値しきい値ポリシー用のしきい値を決定する必要があります。スクリプトを使用することでユーザー独自の計算や、しきい値を超えたかどうかの判断が可能となります。</p>
インスタンス・フィルタ	<p>インスタンス・フィルタを使用すると、測定値しきい値ポリシーで、監視対象オブジェクトのさまざまなインスタンスに、異なる一連のしきい値レベルを適用できます。たとえば、ディスクの使用量を監視するしきい値ポリシーでは、すべてのディスクに対して同じしきい値を適用しますが、インスタンス・フィルタを指定した場合、ディスク C: に対してあるしきい値レベル・セットを指定し、ディスク D: へは別のセットを指定できます。それ以降も同じです。</p> <p>インスタンス・フィルタは、最小、最大、またはスクリプトに基づいてしきい値を評価するポリシーと併用できます。インスタンス・フィルタはソース MIB に基づいたしきい値ポリシーには使用できません。</p> <p><b>インスタンス・フィルタを使用:</b> ポリシーのインスタンス・フィルタを有効にします。インスタンス・フィルタに切り替えた場合、元に戻すことはできません。</p>
処理オプション	<p>ポリシーで測定対象値の複数のインスタンスを処理する方法を選択できます。たとえば、ポリシーでディスク・スペースを監視する場合、監視対象ノードの各ディスクが1つのインスタンスとなり、ディスクを個別に扱うか、すべてのディスクを全体として扱うかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>各インスタンスを個別に処理:</b> ポリシーでインスタンスを個別に処理する場合に、このオプションを選択します。たとえば、ポリシーが複数の CPU を搭載しているサーバ内の各 CPU を監視し、すべての CPU のアクティビティがしきい値を超えた場合、各 CPU に対してイベントが生成されます。</li> <li>• <b>すべてのインスタンスを一括処理:</b> このオプションを使用できるのは、しきい値のルールで (最小または最大ではなく) スクリプトの出力結果をしきい値として使用する場合のみです。スクリプトですべてのインスタンスを評価し、ポリシーでテストする値を1つ送信する場合は、このオプションを選択します (選択するスクリプト言語が、ポリシーを配信する予定のプラットフォームでサポートされていることを確認してください)。</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号 (=) は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>

UI 要素	説明
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p><b>注:</b> HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。

<sup>1</sup>(グローバル一意識別子)

UI 要素	説明
インストールメンテーション	このポリシー用に選択されたインストールメンテーション。インストールメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要となる場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OS タイプ	このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。 プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。  OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。

### [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1つ以上のインスタンスやしきい値ルールを定義できます。

インスタンス・ルールの詳細については、「しきい値ルール-概要」(163ページ)、「しきい値ルール-[定義]タブ」(164ページ)、「しきい値ルール-[アクション]タブ」(167ページ)、「しきい値ルール-[アクションの開始]タブ」(167ページ)、「しきい値ルール-[アクションの続行]タブ」(168ページ)、および「しきい値ルール-[アクションの終了]タブ」(168ページ)を参照してください。

しきい値ルールの詳細については、「インスタンス・ルール-概要」(148ページ)、「インスタンス・ルール-定義」(149ページ)、「インスタンス・ルール-しきい値」(150ページ)、「しきい値ルール-[定義]タブ」(164ページ)、「しきい値ルール-[アクション]タブ」(167ページ)、「しきい値ルール-[アクションの開始]タブ」(167ページ)、「しきい値ルール-[アクションの続行]タブ」(168ページ)、および「しきい値ルール-[アクションの終了]タブ」(168ページ)を参照してください。




### [スクリプト API] タブ

UI 要素	説明
<ソース・オブジェクト>	VB スクリプトおよび Perl スクリプトで利用できるポリシー・オブジェクトのリスト。詳細については、「スクリプトのポリシー・オブジェクト」(343ページ)を参照してください。

### [ソース オブジェクト] タブ

UI 要素	説明
<ソース・オブジェクト>	ポリシーにより監視されるソースのリスト。ドラッグ・アンド・ドロップすることで、ソース・オブジェクトをイベント属性のフィールドに挿入できます。

## [ソース] ページ

UI 要素	説明
ソース	<p> <b>ソースの追加:</b> 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>埋め込みパフォーマンス・コンポーネント・ソースの追加:</b> 埋め込みパフォーマンス (Coda) コンポーネントでは、パフォーマンス・カウンタとインスタンス・データを収集します。</li> <li>● <b>外部ソースの追加:</b> 外部プログラム (opcmom コマンドライン・ツールなど) から送信されたデータを、しきい値アラームのソースとして使用します。HP Operations Agent は外部プログラムをポーリングせず、値を受信するまで待機します。</li> <li>● <b>管理情報ベース・ソースの追加:</b> MIB (管理情報ベース) のエントリをしきい値アラームのソースとして使用します。</li> <li>● <b>プログラム・ソースの追加:</b> 外部プログラムから送信されたデータをしきい値アラームのソースとして使用します。HP Operations Agent は各ポーリング間隔で外部プログラムを実行します。</li> <li>● <b>リアルタイム・パフォーマンス測定値ソースの追加:</b> パフォーマンス・モニタで収集されたデータをしきい値アラームのソースとして使用します。</li> <li>● <b>Windows 管理インストルメンテーション・ソースの追加:</b> WMI データベースの情報をしきい値アラームのソースとして使用します。</li> </ul> <p>複数のソースを持つポリシーの場合、しきい値レベルを評価するスクリプトを記述する必要があります。単一ソースから複数ソースに切り替えると、ルールが自動的に <b>Perl スクリプト</b> に変換されます。</p> <p>選択するスクリプト言語が、ポリシーを使用する予定のオペレーティング・システムで実行されることを確認してください。</p> <p> <b>ソースのコピー:</b> 選択したソース以下にソースがコピーおよび挿入され、編集の準備が完了します。</p> <p> <b>ソースの削除:</b> 選択したソースを削除します。</p> <p>[<b>短縮名</b>] および [<b>説明</b>] のラベルを選択すると、しきい値ソースの値またはメトリックを認識しやすくなります。これらのラベルは [ソース] ページに表示され、複数のソースを持つポリシーを記述する場合に役立ちます。スクリプトを使用してしきい値レベルを決定する場合、これらの名前をスクリプトで使用してソースを識別します。</p> <p><b>Coda に保存する:</b> ここでユーザが独自に開発した [<b>データソース</b>]、 [<b>オブジェクト</b>]、 [<b>メトリック</b>] を入力できます。ポリシーはそれらを埋め込みパフォーマンス・コンポーネント (Coda) 内に作成し、ポーリング間隔ごとにポリシーのソースからのデータを保存します。その後これらのデータは他の目的にも使用できます。たとえば、埋め込みパフォーマンス・コンポーネントに保存したデータを使用して、パフォーマンス・グラフのグラフを作成できます。</p> <p><b>注意:</b> WMI インスタンス・クラスごとに、専用の Coda オブジェクトを指定する必要があります。たとえば、Win32_SystemUsers 型の WMI インスタンス・クラスは、すべて「users」という Coda オブジェクトに保存できますが、同じ「users」という Coda</p>



	<p>オブジェクトに Win32_LogicalDisk 型の WMI インスタンス・クラスを保存することはできません。Win32_LogicalDisk 型のインスタンス・クラスの場合、「logical_disk」などの Coda オブジェクトを使用します。</p>
埋め込みパフォーマンス・コンポーネント	<p>埋め込みパフォーマンス・コンポーネントでは、パフォーマンス・カウンタとインスタンス・データを収集します。イベント/アクションのしきい値を定義する際に、これらのメトリクスを使用できます。これらのしきい値により、可用性、応答時間、スループット測定値に基づきリアルタイムでアラームが生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>データ・ソース:</b> CODA</li> <li>• <b>オブジェクト:</b> GLOBAL, CPU, NETIF, FILESYSTEM, DISK</li> <li>• <b>メトリック:</b> 収集するメトリック( GBL_CPU_TOTAL_UTIL など)</li> </ul> <p>使用可能なメトリクスのリストは、<a href="#">HP ソフトウェア製品 マニュアル</a>から入手できるオペレーティング・システム・パフォーマンス・メトリクスの <a href="#">HP パフォーマンス・エージェント・ディクショナリ</a>で確認できます(製品の <b>Operations Agent</b>, 必要なバージョン, OS, および言語を選択します)。</p> <p><b>メトリクスについて</b></p> <p>埋め込みパフォーマンス・コンポーネントでは、次のタイプのメトリクスを収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>基本 (ゴールデン) メトリクス:</b> 約 30 のメトリクスがあり、サポートされるすべてのプラットフォームで収集されます。これらを使用して、システムのグローバル設定、CPU、ディスク、スワップ、メモリの使用率などの質問の大半に答えることができます。また、最大数のプラットフォームに最適な情報を提供できるように、これらのメトリクスは厳選されています。</li> <li>• <b>追加のメトリクス:</b> データ収集コンポーネントでは、サポートされるプラットフォームごとに追加のパフォーマンス・メトリクスも得られます。これらのメトリクスはプラットフォームにより異なりますが、多くのプラットフォームで使用でき、一般的に特定のシステムでのドリルダウンや診断に役立ちます。</li> </ul> <p>収集間隔は 5 分です。golden メトリクスと追加のメトリクスを含むすべてのメトリクスが収集されます。データは最大 5 週間データ・ストアに保管されます。5 週間が経過すると、1 週間分のデータがロールアウトされます。</p> <p><b>注:</b> 埋め込みパフォーマンス・コンポーネントには、ディスク・メトリクスのレポートに使用できる物理ディスク・オブジェクトが必要です。ノードでレポートされるディスク・メトリクスを取得するには、<b>diskperf -Y</b> を実行して、物理ディスク・オブジェクトのカウンタを有効にする必要があります。</p>
外部	<p>外部プログラムから送信されたデータをしきい値アラームのソースとして使用する場合、<b>[外部]</b>を選択します。プログラムで値を作成し、ポリシーに配信する必要があります( <a href="#">opcmon</a> を参照)。このソースを選択すると、HP Operations Agent によりプログラムが開始または停止しなくなります。HP Operations Agent で外部プログラムを実行するには、代わりに<b>[プログラム]</b>を選択します。</p>









<b>管理情報ベース</b>	<p>管理情報ベースのエントリをしきい値アラームのソースとして使用する場合, [管理情報ベース]を選択します。MIB ID とその ID を生成するノードを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>MIB ID:</b> MIB に割り当てるオブジェクト ID(例 : 1.3.6.1.4.1.11.2.3.9.4.2.1.1)。</li> <li>• <b>対象ノード:</b> OID を生成するノードの完全修飾ドメイン名。</li> </ul> <p>HP Operations Agent では, SNMP クエリの標準設定コミュニティ public が使用されていました。MIB オブジェクトが別のコミュニティに存在する場合, MIB の監視を実行するノードでコミュニティ名を設定する必要があります( ovconfchg を使用して, eaagt 名前空間の SNMP_COMMUNITY &lt;community&gt; パラメータを設定します)。</p> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;"> <p><b>注:</b> インスタンス・フィルタはソース MIB に基づいたしきい値ポリシーには使用できません。</p> </div>
<b>プログラム</b>	<p>外部プログラムから送信されたデータをしきい値アラームのソースとして使用する場合, [プログラム]を選択します。</p> <p>外部プログラムが HP Operations Agent により開始されます。この外部プログラムで値を作成し, ポリシーに配信する必要があります。HP Operations Agent で外部プログラムの実行を制御しないようにするには, 代わりに[外部]を選択します。</p> <p><b>プログラム:</b> 管理対象ノードで実行するプログラムの完全パスと拡張子を入力します(例 : %OvDataDir%\bin\instrumentation\collector.exe)。指定するファイルがノードに存在する必要があります。</p> <p>管理対象ノードで実行されるプログラムを自動的にデプロイするには, そのプログラムをこのポリシーのインストールメンテーションとして設定します。</p> <p>次のポリシー名変数を[プログラム]で使用できます。</p> <p>&lt;\$FULLNAME&gt;</p> <p>ポリシー名とソース名がハイフン(-)でつながれた状態で返されます。サンプル出力:example_policy_name-example_source_name</p> <p>&lt;\$NAME&gt;</p> <p>ポリシー名が返されます。ポリシーを保存する際にこの名前を指定します。サンプル出力:example_policy_name</p> <p>&lt;\$SRCNAME&gt;</p> <p>ソース名が返されます。[短縮名]でこの名前を指定します。サンプル出力:example_source_name</p> <p>エージェントでは, これらの変数を解決してからプログラムを開始します。このようにすることで, プログラム名を変更せずにポリシー名を変更できます。</p> <p>バックスラッシュ(\)付きの変数を生成すると, その変数はエージェントで無視されます。</p> <p>監視対象ノードの eaagt 名前空間で OPC_MON_DISABLE_PROG_VARS パラメータを TRUE に設定すると, ポリシー名の変数を無効にすることができます。</p>

リアルタイム・パフォーマンス測定値	<p>パフォーマンス・モニタで収集されるデータをしきい値アラームのソースとして使用する場合、[リアルタイムパフォーマンス測定値]を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>オブジェクト</b>: Performance Manager のオブジェクト・エントリ。</li> <li>• <b>カウンタ</b>: Performance Manager のカウンタ・エントリ。</li> <li>• <b>インスタンス</b>: Performance Manager のインスタンス・エントリ。</li> </ul> <p>標準設定のオブジェクト・カウンタの完全なリストと説明については、Microsoft が提供するドキュメントを参照してください。</p> <p><b>追加設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カウンタにパーセント記号 (%) が存在する場合、パーセントではなく未処理の値を受信したい場合にこの記号を省略できます。</li> <li>• 親インスタンスを持つインスタンスの場合、疑問符 (?) をワイルドカードとして使用し、親インスタンスを照合できます。例 : ?/C: は 0/C と 1/C に一致します。</li> </ul> <p><b>例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SCSI ポート 0 の C ドライブの空きディスク容量の割合: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>オブジェクト</b>: LogicalDisk</li> <li><b>カウンタ</b>: 空き容量の割合</li> <li><b>インスタンス</b>: 0/C:</li> </ul> </li> <li>• 任意の C: ドライブでの空きメガバイト数: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>オブジェクト</b>: LogicalDisk</li> <li><b>カウンタ</b>: 空きメガバイト</li> <li><b>インスタンス</b>: ?/C:</li> </ul> </li> <li>• RAM の使用可能なバイト: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>オブジェクト</b>: メモリ</li> <li><b>カウンタ</b>: 利用可能なバイト</li> <li><b>インスタンス</b>: empty</li> </ul> </li> <li>• 特定のプロセスで使用される CPU 時間: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>オブジェクト</b>: プロセス</li> <li><b>カウンタ</b>: プロセッサ時間の割合</li> <li><b>インスタンス</b>: プロセス名</li> </ul> </li> <li>• ページング・ファイルの使用率: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>オブジェクト</b>: ページング・ファイル</li> <li><b>カウンタ</b>: 使用率</li> <li><b>インスタンス</b>: /DosDevices/C:/pagefile.sys</li> </ul> </li> </ul>
-------------------	--

<b>Windows 管理インストールメンテーション</b>	<p>WMI データベースの情報をしきい値アラームのソースとして使用する場合、[Windows 管理インストールメンテーション]を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>WMI 名前空間</b>: 監視するデータを含む名前空間。</li> <li>• <b>インスタンス・クラス名</b>: 監視するプロパティを含むインスタンス。</li> <li>• <b>プロパティ名</b>: 監視するプロパティ。このプロパティは、多くの場合整数値またはブール値となります。その他のタイプのプロパティ(文字列など)を選択すると、しきい値レベルの選択肢がポリシーで自動的に<b>VB スクリプト</b>または<b>Perl スクリプト</b>に制限されます。そのため、文字列を解釈し、ルール・オブジェクトを True または False に設定するスクリプトを記述する必要があります。</li> <li>• <b>非エージェント ユーザ</b>: 選択すると、次のアカウント情報を使用してエージェントからノードの WMI データベースにアクセスします。このアカウントはエージェントレス・ノードに存在する必要があります。また、ローカル管理者権限が必要となります。選択しない場合、エージェントのアカウントが使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>ユーザ名</b>: エージェントから WMI データベースへの接続に使用するアカウントのユーザ名。</li> <li>■ <b>パスワード</b>: 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>■ <b>Enable policy parameter in Password field</b>: [パスワード]フィールドへの変数(%%password%% など)の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul> </li> </ul>
<b>ポーリング間隔</b>	<p>ポリシーで新しい情報源を確認する頻度。パフォーマンスを向上させるために、ポーリング間隔をできるだけ長くしながらも、変更が予測される割合でデータを監視するのに十分な頻度に行います。初回のポーリング間隔の経過後に、ポリシーでデータの評価が開始されます。ポリシーをテストする場合、ポーリング間隔はできるだけ短くします。</p> <p>時間を変更するには、▼ ボタンをクリックし、ドロップダウン・リストを使用して、時、分、秒の増分を指定します。</p> <p>時間のフィールドにパラメータを挿入するには、形式「%%&lt;variable_name&gt;%%」でパラメータを入力するか、[ポリシー パラメータ]タブでパラメータをドラッグ・アンド・ドロップします。</p> <p>標準設定値 :5分</p>

## しきい値ルール-概要

UI 要素	説明
	<b>新しいしきい値を作成</b> : 空のしきい値ルールをリストに追加し、編集できるようにします。
	<b>しきい値をコピー</b> : 選択したしきい値のルールをコピーします。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。
	<b>項目を削除</b> : 選択したしきい値のルールを削除します。

UI 要素	説明
	<b>上へ移動</b> : 選択したしきい値のルールを上位の順序へ移動させます。
	<b>下へ移動</b> : 選択したしきい値のルールを下位の順序へ移動させます。
<移動先>	入力した数値を使用して、ルールでそのシーケンス番号を持つしきい値のルールを選択します。 ルールリストから特定のしきい値ルールを選択するには、[移動先]フィールドでルールのシーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。
<しきい値を検索>	入力した検索文字列を使用してしきい値ルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。 ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むしきい値ルールを検索するには、[しきい値を検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルールリストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。
	<b>しきい値フィルタのアクティブ化/非アクティブ化</b> : しきい値ルールのフィルタをアクティブまたは非アクティブにします。
Seq.	しきい値ルールのシーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。
しきい値レベルの説明	しきい値ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。

### しきい値ルール - [定義] タブ

UI 要素	説明
しきい値レベルの説明	これは、ルールの識別を容易にするために、ルールに付ける名前です。この名前はルールリストに表示されます。
しきい値の制限 (最小または最大)	最小しきい値 :<math>\leq</math>(以下): 監視対象値がこの値以下となったとき、イベントをトリガする値を設定します。 最大しきい値 :<math>\geq</math>(以上): 監視対象値がこの値以上となったとき、イベントをトリガする値を設定します。 最小または最大のしきい値を指定する際は、次の構文ガイドラインを使用します。

UI 要素	説明
	<p>一連の数 小数点が含まれている場合があります(区切りに使用する文字は、オペレーティング・システムの言語により決まります)。 例 : 0.5, 100.1</p> <p>符号(オプション): プラス記号(+)。例 : +50 マイナス記号(-)。例 : -730</p> <p>指数(オプション): 指数文字 :e または E。例 : 15e2, 7E4 指数記号。例 : 8e+2, 4E-2</p> <p>1桁以上の10進数。例 : 25.88e4</p> <p><b>ヒント:</b> 最小または最大のしきい値の制限を設定すると、ノードごとにオーバーライドできます。</p> <p>個々のノードでしきい値の制限をオーバーライドするには、「<b>eaagt.thresholds</b>」という名前空間のノードでローカルにパラメータを設定します。次の形式でパラメータ値を指定します。</p> <pre>&lt;policy_name&gt;/&lt;threshold_level_ description&gt;/&lt;limit&gt;:&lt;reset_value&gt;</pre> <p>たとえば、condition critical というしきい値レベルを持つ cpu load というポリシーがあり、それを制限値 75 とリセット値 70 でオーバーライドする場合、次の値でパラメータを設定します。</p> <pre>cpu load/condition critical/75:70</pre> <p>次の制限事項が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>&lt;policy_name&gt;</code> と <code>&lt;threshold_level_description&gt;</code> は、ポリシー・エディタに表示されるとおり正確に指定してください。先頭と末尾のスラッシュ(/)は <code>&lt;threshold_level_description&gt;</code> を区切るもので、このしきい値レベルの説明自体にスラッシュが含まれる場合もあります。</li> <li>• <code>&lt;reset_value&gt;</code> は、<code>&lt;limit&gt;</code> と同じ場合でも指定する必要があります。</li> </ul> <p>次のいずれかの方法を使用してパラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 次の行を含むノード情報ポリシーをデプロイします。 <pre>&lt;parameter_name&gt; (thresholds) &lt;parameter_value&gt;</pre> <code>&lt;parameter_name&gt;</code> に使用できるのは、<b>eaagt.thresholds</b> 名前空間内で一意の英数字の文字列です。(thresholds) を <code>&lt;parameter_name&gt;</code> の後に追加すると、ノード情報ポリシーで <b>eaagt.thresholds</b> 名前空間のパラメータを設定できます。 </li> <li>• ovconfpar コマンドには次の構文を使用します。 <pre>ovconfpar -change -host &lt;node_hostname&gt; -ns</pre> </li> </ul>

UI 要素	説明
	<pre>eaagt.thresholds -set &lt;parameter_name&gt; &lt;parameter_value&gt;</pre> <p>&lt;parameter_name&gt;に使用できるのは、<b>eaagt.thresholds</b> 名前空間内で一意の英数字の文字列です。</p>
<b>しきい値の制限 (Perl または VB スクリプト)</b>	<p>監視対象のソースを評価し、ルール・オブジェクトを TRUE または FALSE のいずれかに設定するスクリプトを作成します。</p> <p>スクリプトは短い名前とポリシー・オブジェクトを使用して各ソースの値にアクセスし、しきい値を超えたかどうかを判別するための計算を実行します。スクリプトではしきい値を超えている場合はルール・オブジェクトを TRUE に、超えていない場合は FALSE に設定します。</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HP Operations Agent では、Microsoft の汎用スクリプト・エンジンを使用して VB スクリプトを実行します。そのため、自身のスクリプトに標準の VB スクリプト・オブジェクト (FileSystemObject オブジェクトなど) を使用できます。WScript や CScript に固有のオブジェクト (WScript オブジェクトなど) はサポートされていません。</li> <li>エージェントは標準入力、標準出力、または標準のエラー・ストリームがないサービスとして実行されます。そのため、定義済みのファイル・ハンドル STDIN, STDOUT, および STDERR は、測定値しきい値ポリシーで Perl スクリプトに使用できません。また、コマンド・パイプを使用するファイル・ハンドル、またはアクセント記号 ( ` ) 内のコマンドからの標準出力をキャプチャするファイル・ハンドルを開くこともできません。</li> </ul>
<b>短時間のピーク</b>	<p>短い間だけしきい値を超えた場合にイベントを作成するのは妥当でない場合もあるため、監視対象値がしきい値を越えてからイベントが生成されるまでの最小期間を定義できます。イベントを送信するには、選択する継続時間の間、値が測定されるたびに、値がしきい値よりも大きくなければなりません。</p> <p><b>次の期間に発生する1回の短時間のピークを無視:</b> ポリシーのポーリング間隔の倍数となる値を選択します。たとえば、ポーリング間隔が2m(2分)の場合、短時間のピークの継続時間を4m, 6m, 8m, 10mなどに設定します。継続期間を0に設定するか、ボックスを空白のままにした場合、HP Operations Agent はしきい値に達するか、しきい値を超えたことを検出するとただちにアラームを生成します。</p> <p>時間を変更するには、▼ ボタンをクリックし、ドロップダウン・リストを使用して、時、分、秒の増分を指定します。</p> <p>時間のフィールドにパラメータを挿入するには、形式「%%&lt;variable_name&gt;%%」でパラメータを入力するか、[ポリシー パラメータ] タブでパラメータをドラッグ・アンド・ドロップします。</p>
<b>リセット</b>	<p>リセット値は一定の制限値で、監視対象値はこの値を下回る(または最小しきい値の</p>

UI 要素	説明
	<p>場合は上回る) 必要があります。これらの条件を満たすと、監視対象オブジェクトのステータスが通常に戻ります。監視対象オブジェクトのステータスが通常に戻ると、監視対象値が再度しきい値を超えた場合に新しい開始イベントが実行されます。同じ値をしきい値の制限として使用するか、または別のリセット値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リセット値がしきい値の制限と同じです</li> <li>• しきい値レベルの特定のリセット値を指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最小しきい値 : &lt;ソース名&gt; &lt;(より小さい)&gt;</li> <li>■ 最大しきい値 : &lt;ソース名&gt; &gt;(より大きい)</li> <li>■ スクリプトしきい値: ソースを評価しリセット値を決定するスクリプトを記述します。</li> </ul> </li> </ul>

## しきい値ルール - [アクション] タブ

UI 要素	説明
アクションの開始	<p>初めてしきい値に到達したか超えた場合、アクションの開始が実行されます。</p> <p>「アクションの開始」イベントを編集:[アクションの開始]タブが開き、特定のしきい値レベルの評価後にポリシーの動作を定義できます。</p>
アクションの続行	<p>前回のポーリング間隔でルールのアクションの開始が実行され、リセット値に到達していない場合、ポーリング間隔ごとにアクションの続行が実行されます。</p> <p>特殊な「アクションの続行」を定義: このルールでアクションの続行が有効になります。</p> <p>「アクションの続行」イベントを編集:[アクションの続行]タブが開きます。</p>
アクションの終了	<p>そのルールでアクションの開始が実行された場合に限り、しきい値がリセット値を超えるとアクションの終了が実行されます。1回のポーリング間隔で値が2つのしきい値を下回ると、アクションの開始を実行した最下位のルールでアクションの終了が実行されます。</p> <p>指定された「アクションの終了」を開始: このルールでアクションの終了が有効になります。</p> <p>「アクションの終了」イベントを編集:[アクションの終了]タブが開きます。</p>

## しきい値ルール - [アクションの開始] タブ

UI 要素	説明
イベント属性	開始イベントの属性を設定できるようになります。
イベント関連処理	開始イベントの関連処理オプションを設定できるようになります。

UI 要素	説明
カスタム属性	開始イベントにカスタム属性を追加できるようになります。
命令	続行イベントをオペレータが処理する助けとなる命令情報を追加できるようになります。
詳細	開始イベントの詳細な属性を設定できるようになります。
アクション	開始イベントに自動的に開始されるコマンドと、オペレータが開始するコマンドを追加できるようになります。

### しきい値ルール - [アクションの続行] タブ

UI 要素	説明
イベント属性	続行イベントの属性を設定できるようになります。
イベント関連処理	続行イベントの関連処理オプションを設定できるようになります。
カスタム属性	続行イベントにカスタム属性を追加できるようになります。
命令	続行イベントをオペレータが処理する助けとなる命令情報を追加できるようになります。
詳細	続行イベントの詳細な属性を設定できるようになります。
アクション	続行イベントに自動的に開始されるコマンドと、オペレータが開始するコマンドを追加できるようになります。

### しきい値ルール - [アクションの終了] タブ

UI 要素	説明
イベント属性	終了イベントの属性を設定できるようになります。
イベント関連処理	終了イベントの関連処理オプションを設定できるようになります。
カスタム属性	終了イベントにカスタム属性を追加できるようになります。
命令	続行イベントをオペレータが処理する助けとなる命令情報を追加できるようになります。
詳細	終了イベントの詳細な属性を設定できるようになります。
アクション	終了イベントに自動的に開始されるコマンドと、オペレータが開始するコマンドを追加できるようになります。















## ノード情報ポリシーの設定

ノード情報ポリシーを使用すると、管理対象ノード上の HP Operations Agent の設定パラメータを変更できます。



## アクセス方法

ノード情報ポリシー・エディタでは、ノード情報ポリシーを作成、編集できます。ノード情報ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ]または[  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[Node Info Template]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[  ポリシー テンプレートの編集 ]または[  ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。  
ノード情報ポリシー・エディタが開きます。
- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [Node Info Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ]または[  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。  
新規ノード情報ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、[  ポリシー テンプレートの編集 ]または[  ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。  
ノード情報ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「ノード情報ポリシーの構文」(170ページ)
- 「ノード情報ポリシーの例」(170ページ)

### ノード情報ポリシーの構文

ノード情報ポリシーでは次の構文を使用します。

```
;XPL config  
[<namespace>  
<parameter_name>=<parameter_value>
```

```
[<namespace>
```

更新する HP Operations Agent 構成の名前空間。

```
<parameter_name>
```

HP Operations Agent 設定パラメータの名前。

```
<parameter_value>
```

HP Operations Agent 設定パラメータの値。ASCII 文字のみを使用できます。改行文字は使用できません。

サポートされている設定パラメータと名前空間のリストについては、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

### ノード情報ポリシーの例

次のノード情報ポリシーの例では、管理対象ノード上でメッセージ・ストリーム・インタフェース (MSI) を有効にし、MSI インスタンスに対し、自動アクションのあるイベントの作成や変更を許可します。また、ポリシーはエージェントがすべての通信をポート 80 のプロキシ proxy1.example.com にリダイレクトするように設定します。

例：

```
;XPL config  
[eaagt]  
OPC_AGTMSI_ENABLE=TRUE  
OPC_AGTMSI_ALLOW_AA=FALSE  
[bbc.http]  
PROXY=proxy1.example.com:8080
```


## タスク

### ノード情報ポリシーの作成方法

1. ノード情報ポリシー・エディタの[プロパティ]ページでポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストルメンテーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ]ページ」(172ページ)を参照してください。

2. [ポリシー データ] ページで、HP Operations Agent ノード情報ポリシー構文を使用して設定パラメータと値を入力します。新規ポリシーを作成する場合は、既存のポリシー・テンプレートからテンプレート・データをコピーして貼り付けます。あるいは、 ボタンをクリックしてコンピュータのポリシー・テンプレート・ファイルからポリシー・データをロードします。

詳細については、「ノード情報ポリシーの構文」(170ページ)を参照してください。

また、ポリシー・パラメータも使用できます。詳細については、「[ポリシー パラメータ] タブ」(171ページ)を参照してください。



3. [OK] をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照




本項の内容






- 「[ポリシー データ] ページ」(171ページ)
- 「[ポリシー パラメータ] タブ」(171ページ)
- 「[プロパティ] ページ」(172ページ)

### [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が <code>_data</code> です。
	ノード情報ポリシーでは構文チェックはサポートされません。[構文チェック] はクリックできませんが、チェックは実行できません。
<ポリシー データ>	テキスト形式のポリシー・データ。 詳細については、「ノード情報ポリシーの構文」(170ページ)を参照してください。

### [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	パラメータの作成: [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	パラメータの編集: [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	パラメータの削除: 選択したパラメータをリストから削除します。

UI要素	説明
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期]ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>
<p>&lt;パラメータ&gt;</p>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します (<code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>
説明	<p>ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。</p>

UI要素	説明
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新项目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。
インストルメンテーション	このポリシー用に選択されたインストルメンテーション。インストルメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストルメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。

<sup>1</sup>(グローバル一意識別子)









UI要素	説明
OSタイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OSタイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーの設定

HP Operations Agent は `opcmsg` と呼ばれるコマンド、Java API、C API を提供します。これらを使用すると、エージェントのメッセージ・インタフェースにメッセージを送信できるようになります。オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーでは、ルールを通じてこれらのメッセージをフィルタ処理できます。各ルールは条件の定義(およびオプションとしてイベントの定義)で構成されます。メッセージが条件と一致するときはいつでも、イベントを作成できます。







### アクセス方法

オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシー・エディタでは、オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーを作成、編集できます。オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[Open Message Interface Template]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの

**編集 (RAW モード)** ボタンをクリックします。

オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ] ペインの [ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type] を展開します。
  - c. [Open Message Interface Templates] フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート] ペインで  ボタンをクリックし、 **新規ポリシー テンプレートの追加** または  **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)** ボタンをクリックします。  
新規オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集** または  **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)** ボタンをクリックします。  
オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「opcmsg コマンド」(175ページ)
- 「Java API」(176ページ)
- 「C API」(176ページ)

### opcmsg コマンド

opcmsg コマンドを使用すると、コマンド・プロンプトまたはスクリプトからオープン・メッセージ・インタフェースにメッセージを送信できます。

```
opcmsg [-help]
        [-id]
        [severity=normal|warning|minor|major|critical]
        application=<application>
        object=<object>
        msg_text=<text>
        [msg_grp=<message group>]
        [node=<node>]
        [service_id=<svcid>]
        [-option <var>=<value>]
```

opcmsg は次の場所のいずれかで使用できます。

- AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/opt/OV/bin/opcmsg
- Windows 32 ビット :%OvInstallDir%\bin\opcmsg

- Windows 64 ビット :%OvInstallDir%\bin\win64\opcmsg

詳細については、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

## Java API

Java API を使用すると、オープン・メッセージ・インタフェースにメッセージを送信する Java プログラムを作成できます。必要な JAR ファイル(jopcagtbase.jar および jopcagtmsg.jar) は次のいずれかの場所に HP Operations Agent とともにインストールされています。

- AIX:/usr/lpp/OV/java/
- HP-UX, Linux, Solaris:/opt/OV/java/
- Windows :%OvInstallDir%\java\

Javadoc スタイル・クラスのドキュメントは次の場所にあります。

- AIX:/usr/lpp/OV/www/htdocs/jdoc\_agent/index.html
- HP-UX, Linux, Solaris:/opt/OV/www/htdocs/jdoc\_agent/index.html
- Windows :%OvInstallDir%\www\htdocs\jdoc\_agent\index.html

詳細については、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

## C API

C API を使用すると、オープン・メッセージ・インタフェースにメッセージを送信する C プログラムを作成できます。必要なヘッダ・ファイル(opcapi.h) は、次のいずれかのディレクトリに HP Operations Agent とともにインストールされています。

- AIX:/usr/lpp/include/
- HP-UX, Linux, Solaris:/opt/OV/include/
- Windows :%OvInstallDir%\include\

必要なライブラリ(libopcagtapi, および UNIX や Linux libOvXp1 上) は次のいずれかのディレクトリに HP Operations Agent とともにインストールされています。

- AIX 32 ビット :/usr/lpp/OV/lib/
- AIX 64 ビット :/usr/lpp/OV/lib64/
- HP-UX Itanium:/opt/OV/lib/hpux32
- HP-UX PA-RISC:/opt/OV/lib/
- Linux および Solaris 32 ビット :/opt/OV/lib/
- Linux および Solaris 64 ビット :/opt/OV/lib64/
- Windows 32 ビット :%OvInstallDir%\bin\
- Windows 64 ビット :%OvInstallDir%\bin\win64\

C API および必要なコンパイラ・オプションについての詳細は、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。



## タスク

### オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーの作成方法

1. メッセージ・インタフェース・ポリシー・エディタの[プロパティ] ページで、ポリシーの[名前]を入力します。


また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストルメンテーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ] ページ」(191ページ)を参照してください。

2. オプション:[標準設定] ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

**注:** 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性] タブ」(183ページ), 「[イベント相関処理] タブ」(184ページ), 「[命令] タブ」(185ページ), および「[詳細設定] タブ」(180ページ)を参照してください。

3. [ルール] ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。
  - a. [ポリシー ルール] リストで、 ボタンをクリックしてから、次のオプションのいずれかをクリックします。
    - **一致するルールのイベント**: 条件を満たしたときにイベントをBSMに送信したい場合、このオプションを使用します。
    - **一致するルールの抑制**: 指定の条件を満たしたときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
    - **一致しないルールの抑制**: 指定した条件を満たしていないときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
  - b. [ルールの説明] をクリックし、ルールの概要を入力します。

詳細については、「[ポリシー ルール] リスト」(189ページ)を参照してください。

4. [ルール内容] の[条件] タブを使用して、エージェントのメッセージ・インタフェースに到着するメッセージと比較して評価する値を定義します。[条件] タブで利用可能な属性は、メッセージをメッセージ・インタフェースに送信する際に設定した属性に対応しています。

テキスト・ボックスでは、ポリシー変数、ポリシー・パラメータ、およびパターン・マッチングを使用できます。

たとえば、保険アプリケーションのサーバ・プロセスについて、致命的エラー・メッセージすべてを一致させるには、次の属性を使用します。

- **アプリケーション**: Insurance Application
- **オブジェクト**: Server Process
- **メッセージ・テキスト**: FATAL ERROR<\*>

この条件は次のコマンドを使用してメッセージ・インタフェースに送信するメッセージを一致させます。

```
opcmsg application="Insurance Application" object="Server Process"
msg_text="FATAL ERROR: The server process failed to start."
```

詳細については、「[条件]タブ」(181ページ)を参照してください。

5. オプション: タイプ「一致するルールのイベント」のルールを作成する場合は、ポリシーが送信するイベントの属性を設定します。標準設定のイベント属性はここで上書きできます。また、オペレータが関連するイベントを処理し、アクションを設定して問題を自動的に、または手動で解決するのに役立つ命令を作成できます。

テキスト・ボックスでは、インジケータ、ポリシー変数、ポリシー・パラメータを使用できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(183ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(184ページ)、「[カスタム属性]タブ」(182ページ)、「[命令]タブ」(185ページ)、「[詳細設定]タブ」(180ページ)、および「[アクション]タブ」(179ページ)を参照してください。

6. オプション:[オプション]ページで、ローカル・イベント・ログ、不一致イベント、パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については、「[オプション]ページ」(186ページ)を参照してください。

7. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

### 本項の内容

- 「[アクション]タブ」(179ページ)
- 「[詳細設定]タブ」(180ページ)
- 「[条件]タブ」(181ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(182ページ)
- 「[標準設定]ページ」(183ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(183ページ)
- 「[イベント関連処理]タブ」(184ページ)
- 「[インジケータ]タブ」(184ページ)
- 「[命令]タブ」(185ページ)
- 「[オプション]ページ」(186ページ)
- 「[ポリシー データ]ページ」(187ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(188ページ)
- 「[ポリシー ルール]リスト」(189ページ)
- 「[ポリシー変数]タブ」(190ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(191ページ)
- 「[ルール]ページ」(192ページ)

## [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェントユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>Enable policy parameter in Password field : [パスワード]フィールドへの変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。
イベントを直ちに送信	ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐにBSM サーバにイベントを送信します。これは標準設定です。
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	BSM サーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSM サーバに通知しないようにすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントを送信</li> <li>ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</li> <li>ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</li> </ul>

UI 要素	説明
オペレータ開始コマンド	ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSM ユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力を必要とするスクリプト、Web ブラウザに表示される指示などを指定できます。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドが Windows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェントユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>Enable policy parameter in Password field : [パスワード]フィールドへの変数 (%%password%% など) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

### [詳細設定]タブ

注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。

- イベント・ドリルダウン URL
- タイプ

これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。



UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です(Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース(MSI)により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション(イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど)を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合、標準設定をこのルールに適用するか、または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに、イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件]タブ

UI 要素	説明
ノード	<p>ポリシーでソース・メッセージに含まれるノードと比較する完全修飾ドメイン名、ノード名、または IP アドレス。</p> <p>OR 演算子 ( ) を使用して複数のエントリを区切るか、空白にしてすべてのノードを取得します。</p> <p>このフィールドは、opcmsg コマンドの node オプションと等価です。</p>

UI 要素	説明
メッセージ・グループ	<p>ポリシーでソース・メッセージに含まれるメッセージ・グループと比較するメッセージ・グループ。</p> <p>OR 演算子 ( ) を使用して複数のエントリを区切るか、空白にしてすべてのメッセージ・グループを取得します。</p> <p>このフィールドは、opcmsg コマンドの msg_grp オプションと等価です。</p>
アプリケーション	<p>ポリシーでソース・メッセージに含まれるアプリケーションと比較するアプリケーション。</p> <p>OR 演算子 ( ) を使用して複数のエントリを区切るか、空白にしてすべてのアプリケーションを取得します。</p> <p>このフィールドは、opcmsg コマンドの application オプションと等価です。</p>
オブジェクト	<p>ポリシーでソース・メッセージに含まれるオブジェクトと比較するオブジェクト。</p> <p>OR 演算子 ( ) を使用して複数のエントリを区切るか、空白にしてすべてのオブジェクトを取得します。</p> <p>このフィールドは、opcmsg コマンドの object オプションと等価です。</p> <p><b>注:</b> 通常、アプリケーションという語は一般的なプログラム名を指し、オブジェクトという語はプロセスまたはサブプログラムを指しますが、名称にこだわらず、これらの値を組織の独自の方針で活用すべきです。</p>
重大度	<p>ポリシーでソース・メッセージに含まれる重大度と比較する重大度。少なくとも1つの重大度を選択する必要があります。</p> <p>このフィールドは、opcmsg コマンドの severity オプションと等価です。</p>
メッセージ・テキスト	<p>ポリシーでソース・メッセージに含まれるメッセージ・テキストと比較するメッセージ・テキストまたはパターン。</p>

## [カスタム属性] タブ

UI 要素	説明
	<p><b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには、名前をダブルクリックして選択し、新しい名前を入力します。</p>
	<p><b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。</p>

UI 要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(183ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(184ページ)、および「[詳細設定]タブ」(180ページ)を参照してください。

### [イベント属性]タブ

**注:** 標準設定のイベント属性では、カテゴリ属性のみ設定できます。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。

UI 要素	説明
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクル・ステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

### [イベント関連処理]タブ



注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。

- キーの付いたイベントを終了
- サーバの重複イベントの削除を抑止




これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。
イベント サプレッションを有効化	<p>このポリシーで生成されるイベントの抑制を有効にします。</p> <p>イベントの標準設定でイベントの抑制が有効な場合、イベントの抑制をこのルールに適用するか、またはイベントの抑制をこのルールでオーバーライドできます。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を使用:</b> イベントで設定したイベントの抑制をこのルールに適用します。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに対して特定のイベント抑制を設定できます。</p>

### [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p>注: BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
	<p>イベント統合ポリシーのみ: [ドロップターゲット形式を選択]ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li>• <b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>



UI 要素	説明
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>

### [命令]タブ


UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>


## [オプション] ページ

UI 要素	説明
ローカルイベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカルノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>
ルールに一致し、イベントのトリガとなる	<p>イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。</p>
ルールに一致し、無視されます	<p>イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。</p>
どのルールにも一致しません	<p>ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。</p>
一致しないイベント	<p>適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。</p> <p>イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。</p> <p><b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。</p>
イベント・ブラウザに送信される	<p>イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。</p>
閉じたイベント・ブラウザに送信される	<p>[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。</p>





UI 要素	説明
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無, およびフィールド区切り文字を定義します。
大文字と小文字を区別する	ルールのパターンがソース・データと比較される場合に, テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると, ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ, 一致と判断されます。これは標準設定です。
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は, パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む, 合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば, バックスラッシュ, アスタリスク, 文字 A でイベントのフィールドを定義する場合, 「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると, 標準設定の区切り文字(空白, およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無, および区切り文字を設定できます。このためには, ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより, 個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し, [すべてに適用する]をクリックしない場合, パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>





## [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして, [Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して, ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり, 末尾が _data です。






UI 要素	説明
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>

UI 要素	説明
パラ メー タ	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [ポリシー ルール] リスト

UI 要素	説明
	<p>イベント・ポリシー:新規ルールの作成: 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>一致するルールのイベント:</b> 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>• <b>一致するルールの抑制:</b> 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>• <b>一致しないルールの抑制:</b> 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul>
	<p><b>ルールのコピー:</b> 選択したルールがコピーされます。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。</p>
	<p><b>ルールの削除:</b> 選択したルールが削除されます。</p>
	<p><b>上へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の上位に移動します。</p>
	<p><b>下へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の下位に移動します。</p>

UI 要素	説明
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルール・リストでそのシーケンス番号を持つルールを選択します。</p> <p>ルール・リストから特定のルールを選択するには、[移動先]フィールドでルール・シーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルール・リストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
🔿	<p><b>ルール フィルタをアクティブ化/非アクティブ化:</b> ルール・フィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。</p>
Seq.	<p>ルール・シーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。</p>
ルールの説明	<p>ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。</p>
ルールのタイプ	<p>イベント・ポリシーには次の3つのルール・タイプがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul> <p>メトリック・ポリシーには次の3つのルール・タイプがあります。</p> <p>ルール・タイプを変更するには、ルール・リストで現在のルール・タイプをクリックし、ドロップダウン・リストから別のルール・タイプを選択します。</p>

## [ポリシー変数]タブ

変数	説明
<\$MSG_NODE>	<p>元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123</p>

変数	説明
<\$MSG_ NODE_ NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_ TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーの場合、この値は、opcmsg コマンドにより送信される msg_text パラメータです。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$OPTION (N) >	opcmsgにより設定されたオプションの変数の値を返します(<\$OPTION (A) >, <\$OPTION (B) >, など)。

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新しいバージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p><b>注:</b> HP Operations Smart Plug-in( SPI)の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPIの次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)

UI要素	説明
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>
インストール	<p>このポリシー用に選択されたインストルメンテーション。インストルメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストルメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。</p>
OSタイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1つ以上のポリシー・ルールを定義できます。

詳細については、「[ポリシールール] リスト」(189ページ)、「[条件] タブ」(181ページ)、「[イベント属性] タブ」(183ページ)、「[イベント関連処理] タブ」(184ページ)、「[カスタム属性] タブ」(182ページ)、「[詳細設定] タブ」(180ページ)、および「[アクション] タブ」(179ページ)を参照してください。

## スケジュール・タスク・ポリシーの設定


スケジュール・タスク・ポリシーを使用すると、HP Operations Agent を持つノード上でコマンドやスクリプトを開始できます。タスクは1回だけ開始したり、スケジュールに従って定期的を開始することができます。また、タスクを開始し、成功または失敗した場合にイベントを作成するようポリシーを設定することもできます。








### アクセス方法






スケジュール・タスク・ポリシー・エディタでは、スケジュール・タスク・ポリシーを作成、編集できます。スケジュール・タスク・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。




- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。

[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[**Scheduled Task Template**]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

スケジュール・タスク・ポリシー・エディタが開きます。
- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [**Scheduled Task Templates**]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

新規スケジュール・タスク・ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

スケジュール・タスク・ポリシーの編集エディタが開きます。

## タスク

### スケジュール・タスク・ポリシーの作成方法

1. スケジュール・タスク・ポリシー・エディタの[プロパティ]ページでポリシーの[名前]を入力します。  
また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストレーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。  
詳細については、「[プロパティ]ページ」(200ページ)を参照してください。
2. [タスク]ページで、[タスクタイプ]をクリックしてから次のオプションのいずれかをクリックします。
  - **コマンド** :ノード上にすでに存在するコマンドやプログラムを開始します。
  - **VB スクリプト** :ポリシー内に組み込まれているVB スクリプトを開始します。
  - **Perl スクリプト** :ポリシー内に組み込まれているPerl スクリプトを開始します。詳細については、「[タスク]ページ」(203ページ)を参照してください。
3. [スケジュール]ページで、タスク実行のタイミングを指定します。次のオプションを利用できます。
  - **1 度** :特定の日時にタスクを1回だけ実行します。
  - **間隔ごとに一度** :定期的な間隔でタスクを実行します。
  - **詳細設定** :複雑なスケジュールでタスクを実行します。タスクの実行を年、月、日、時刻(時、分)単位で完全に制御することができます。詳細については、「[スケジュール]ページ」(201ページ)を参照してください。
4. オプション:[**開始イベント**]、[**成功イベント**]、[**失敗イベント**]ページで、タスクを開始、成功または失敗した際にポリシーで送信するイベントの属性を設定します。また、オペレータの関連イベントへの対応に役立てるよう、指示書を作成することもできます。  
テキスト・ボックスでは、ポリシー変数とポリシー・パラメータを使用できます。  
詳細については、「[イベント属性]タブ」(196ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(196ページ)、「[カスタム属性]タブ」(195ページ)、「[命令]タブ」(197ページ)、および「[詳細設定]タブ」(195ページ)を参照してください。
5. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容



- 「[詳細設定]タブ」(195ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(195ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(196ページ)
- 「[イベント相関処理]タブ」(196ページ)
- 「[インジケータ]タブ」(197ページ)
- 「[命令]タブ」(197ページ)

- 「[ポリシー データ] ページ」(198ページ)
- 「[ポリシー パラメータ] タブ」(198ページ)
- 「[ポリシー 変数] タブ」(199ページ)
- 「[プロパティ] ページ」(200ページ)
- 「[スケジュール] ページ」(201ページ)
- 「[開始 イベント], [成功 イベント], [失敗 イベント] ページ」(203ページ)
- 「[タスク] ページ」(203ページ)

### [詳細設定] タブ

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です(Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース(MSI)により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部 イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション(イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど)を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p>

### [カスタム属性] タブ

UI 要素	説明
	<b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには、名前をダブルクリックして選択し、新しい名前を入力します。
	<b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。

UI 要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。





### [イベント属性]タブ

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前 (Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクル・ステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

### [イベント関連処理]タブ

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。



## [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p><b>注:</b> BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>





## [命令]タブ





UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>

## [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	<b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして, [Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して, ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり, 末尾が <code>_data</code> です。
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合, 検証ツールによりエラーが通知され, エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。
<ポリシー データ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され, 形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には, 対応するパラメータが1つ必要です。  ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない, 未使用のパラメータもチェックされます。  パラメータが不足している, または未使用のパラメータが存在する場合, [パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み, [変更], または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると, 不足しているパラメータは自動的に作成され, 未使用のパラメータは自動的に削除されます。

UI要素	説明
<パラメータ>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

### [ポリシー変数]タブ

変数	説明
<\$MSG_NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123
<\$MSG_NODE_NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$NAME>	イベントを送信したポリシーの名前を返します。サンプル出力:cpu_util
<\$PROG>	スケジュール・タスク・ポリシーにより実行されたプログラムの名前を返します。サンプル出力:check_for_upgrade.bat
<\$USER>	スケジュールされたタスクを実行したときのユーザの名前を返します。サンプル出力:administrator

## [プロパティ] ページ



UI 要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>
説明	<p>ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。</p>
ポリシーID	<p>ポリシーの初回作成時に GUID<sup>1</sup>がポリシーに割り当てられます。</p>
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in( SPI)の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPIの次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	<p>このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。</p>
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>


<sup>1</sup>(グローバル意識別子)



UI 要素	説明
インストールメンテーション	このポリシー用に選択されたインストールメンテーション。インストールメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OS タイプ	このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。 プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。  OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。

## [スケジュール] ページ


UI 要素	説明
	
	すべて選択: すべての時刻単位を選択します。
スケジュールオプション	次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1度:[1度]を選択すると、コマンドは特定の日の指定した時刻に実行されます。 <p>注: 過去の日付または時刻を選択すると、コマンドは実行されず、[スケジュール]タブに警告が表示されます。</p> </li> <li>間隔ごとに一度:[間隔ごとに一度]を選択すると、コマンドは、指定した間隔が経過するたびに1回実行されます。</li> <li>詳細:[詳細]を選択すると、コマンドを実行すべき特定の日時を指定できます。特定の曜日、特定の日、および特定の月を選択します。これにより、「その月の2日が月曜日の場合」などの複雑なスケジュールを指定できます。特定の年にのみコマンドを実行するように指定することもできます。 <p>注: [詳細]を選択してスケジュールを指定しない場合、コマンドは標準設定で1分ごとに実行されます。</p> </li> </ul>
1度	

UI 要素	説明
現在の時刻に設定	スケジュールで現在の時刻を選択します。
分の指定	0 ~ 59 分。
時間の指定	1 ~ 12 AM および 1 ~ 12 PM。
日付: <> 	コマンドを実行すべき日付。カレンダー・アイコンをクリックして、現在の月のカレンダー表示を開きます。
<b>間隔ごとに一度</b>	
間隔: <> h <> m <> s	時間, 分, および秒単位の間隔。
<b>Advanced (daily execution)</b>	
分の指定	0 ~ 59 分。
時間の指定	1 ~ 12 AM および 1 ~ 12 PM。
日の指定	月の 1 ~ 31 日。
月の指定	1 月から 12 月の月。
曜日の指定	日曜日 から 土曜日 までの曜日。
スケジュールを次の年に限定	指定した年のみにタスクをスケジュールします。

## [開始イベント], [成功イベント], [失敗イベント] ページ

UI 要素	説明
開始イベントの送信	クリックすると、コマンドが実行を開始するときにイベントが送信されます。
成功イベントの送信	クリックすると、コマンドが正常に完了するときにイベントが送信されます。
失敗イベントの送信	クリックすると、コマンドが実行できないとき、または正常に完了できないときにイベントが送信されます。

## [タスク] ページ

UI 要素	説明
	ロード: ファイルを選択するためのダイアログ・ボックスが開き、ポリシーにロードする VB スクリプトまたは Perl スクリプトを選択します。
タスク・タイプ	タスクのタイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>• コマンド</li> <li>• VB スクリプト</li> <li>• Perl スクリプト</li> </ul>
コマンド	実行するコマンドの完全パスと拡張子 (%OvDataDir%\bin\instrumentation\cleanup.exe など)。指定するファイルは、システム上に存在する必要があります。  標準設定では、コマンドはエージェントが実行されるのと同じアカウント(標準設定で Local System または root) で実行されます。
ユーザ名	コマンドを実行するユーザ名。ユーザが存在する必要があり、システム上でコマンドを実行するための権限が必要です。存在しないユーザを指定すると、コマンドは実行できません。
パスワード	ユーザのパスワード。
Enable policy parameter in Password field	[パスワード] フィールド への変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。

UI 要素	説明
VB スクリプト	<p>VB スクリプトを定義するコード。フィールドにスクリプトを入力せずに、既存スクリプトをアップロードできます。</p> <p><b>ヒント:</b> ポリシー・メソッド <code>Rule.Status</code> を使用して、タスクが成功したかどうかを指定します。たとえば、タスクが失敗したことを指定して、失敗イベントをトリガするには、<code>Rule.Status=False</code> を使用します。(「Rule オブジェクト」(358ページ)を参照してください)。</p> <p><b>注:</b> HP Operations Agent では、Microsoft の汎用スクリプト・エンジンを使用して VB スクリプトを実行します。そのため、自身のスクリプトに標準の VB スクリプト・オブジェクト (FileSystemObject オブジェクトなど) を使用できます。WScript や CScript に固有のオブジェクト (WScript オブジェクトなど) はサポートされていません。</p>
Perl スクリプト	<p>Perl スクリプトを定義するコード。フィールドにスクリプトを入力せずに、既存スクリプトをアップロードできます。</p> <p><b>ヒント:</b> ポリシー・メソッド <code>\$Rule-&gt;Status</code> を使用して、タスクが成功したかどうかを指定します。たとえば、タスクが失敗したことを指定して、失敗メッセージをトリガするには、<code>\$Rule-&gt;Status (False)</code> を使用します。</p> <p><b>注:</b> エージェントは、標準入力、標準出力、標準エラーのないサービスとして実行されます。そのため、定義済みのファイル・ハンドル STDIN, STDOUT, および STDERR は、スケジュール・タスク・ポリシーで Perl スクリプトに使用できません。また、コマンド・パイプを使用するファイル・ハンドル、またはアクセント記号 ( ` ) 内のコマンドからの標準出力をキャプチャするファイル・ハンドルを開くこともできません。</p>

## サービス自動検出ポリシーの設定















サービス自動検出ポリシーを使用すると、管理環境で構成アイテムを検出するスクリプト (またはプログラム) を実行できます。検出スクリプトの出力は、BSM Run-time Service Model (RTSM) の自動生成に使われます。HP Operations Smart Plug-in (SPI) には多くのサービス自動検出ポリシーがあります。また、独自のサービス自動検出ポリシーを作成することもできます。

### アクセス方法

ディスクバリ・ポリシー・エディタでは、サービス自動検出・ポリシーを作成、編集できます。ディスクバリ・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集] ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

- b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
- c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
- d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
  - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
    -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
    -  ボタンをクリックし、[ **新規ポリシー テンプレートの追加**]または[ **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
    - タイプ[**Service Auto-Discovery Template**]を選択し、[**OK**]をクリックします。
  - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ **ポリシー テンプレートの編集**]または[ **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。  
ディスカバリ・ポリシー・エディタが開きます。
- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [**Service Auto-Discovery Templates**]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[ **新規ポリシー テンプレートの追加**]または[ **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。  
新規ノード情報ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、[ **ポリシー テンプレートの編集**]または[ **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。  
ノード情報ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

### 本項の内容

- 「サービス自動検出ポリシーの構文」(206ページ)
- 「構成アイテムのXMLスキーマ定義(XSD)」(206ページ)
- 「構成アイテムのXML要素の説明」(208ページ)

## サービス自動検出ポリシーの構文

サービス自動検出ポリシーのデータ部分はXMLにあり、管理モジュール、サービス・タイプの定義、検出コマンド、スケジュールを定義します。カスタムのサービス自動検出ポリシーを作成する場合は、`customdiscovery` 管理モジュールと `DiscoveredElement` サービス・タイプの定義を選択します。

**ヒント:** サービス自動検出ポリシーXMLは複雑ですので、既存の検出ポリシーからポリシー・データをコピーして貼り付け、変更する方法をお勧めします。

## 構成アイテムのXMLスキーマ定義(XSD)

検出スクリプトは、次のスキーマに一致するXMLを出力する必要があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<xs:schema xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  <xs:element name="Service">
    <xs:complexType>
      <xs:choice maxOccurs="unbounded">
        <xs:element ref="NewInstance" />
        <xs:element ref="DeleteInstance" />
        <xs:element ref="NewRelationship" />
        <xs:element ref="DeleteRelationship" />
      </xs:choice>
    </xs:complexType>
    <xs:key name="InstanceKey">
      <xs:selector xpath="NewInstance|DeleteInstance">
        </xs:selector>
      <xs:field xpath="Key"></xs:field>
    </xs:key>
    <xs:keyref refer="InstanceKey" name="InstanceKeyRef">
      <xs:selector xpath="NewInstance|DeleteInstance">
        </xs:selector>
      <xs:field xpath="@ref"></xs:field>
    </xs:keyref>
    <xs:keyref refer="InstanceKey" name="InstanceRef">
      <xs:selector
xpath="NewRelationship/*/Instance|DeleteRelationship/*/Instance">
        </xs:selector>
      <xs:field xpath="@ref"></xs:field>
    </xs:keyref>
  </xs:element>
  <xs:element name="NewInstance" type="InstanceType" />
  <xs:element name="DeleteInstance" type="InstanceType" />
  <xs:complexType name="InstanceType">
    <xs:sequence>
      <xs:element ref="Std" />
      <xs:element ref="Virtual" minOccurs="0" />
      <xs:element ref="Key" />
      <xs:element ref="Attributes" />
    </xs:sequence>
    <xs:attribute name="ref" type="xs:string" use="required" />
  </xs:complexType>
</xs:schema>
```

```
</xs:complexType>
<xs:element name="NewRelationship" type="RelationType" />
<xs:element name="DeleteRelationship" type="RelationType" />
<xs:complexType name="RelationType">
  <xs:sequence>
    <xs:element ref="Parent" />
    <xs:element ref="GenericRelations" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<xs:element name="Std">
  <xs:simpleType>
    <xs:restriction base="xs:string">
      <xs:enumeration value="DiscoveredElement" />
    </xs:restriction>
  </xs:simpleType>
</xs:element>
<xs:element name="Virtual">
  <xs:complexType />
</xs:element>
<xs:element name="Key" type="xs:string" />
<xs:element name="Attributes">
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element ref="Attribute" maxOccurs="unbounded" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="Attribute">
  <xs:complexType>
    <xs:attribute name="value" type="xs:string" use="required" />
    <xs:attribute name="name" type="xs:string" use="required" />
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="Parent">
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element ref="Instance" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="GenericRelations" type="RelationsList" />
<xs:complexType name="RelationsList">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="Relations" maxOccurs="unbounded">
      <xs:complexType>
        <xs:attribute name="type" type="xs:string"
use="required" />
        <xs:sequence>
          <xs:element ref="Instance" maxOccurs="unbounded" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
```

```

    </xs:element>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<xs:element name="Instance">
  <xs:complexType>
    <xs:attribute name="ref" type="xs:string" use="required" />
  </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:schema>

```

## 構成アイテムのXML要素の説明

次の表に、XMLドキュメントに含めることのできる要素について説明します。

要素	説明
NewInstance	検出されたCIを表します。ref属性を追加できます。これは、Key要素で指定する一意のCI IDと一致する必要があります。関係を作成、削除する場合に、現在のXMLドキュメントのInstance要素でこの参照を使用できます。
DeleteInstance	ただちに削除するCIを表します。  XMLドキュメントにCIをNewInstanceとして含めずに検出スクリプトを5回(標準設定)実行すると、これまでに検出されたCIがエージェントによりエージェント・リポジトリから自動的に削除されます。  <b>注:</b> XMLドキュメントに含まれないCIが自動的に削除される検出スクリプトの実行回数を制御できます。このためには、agtrep名前空間のエージェント・パラメータINSTANCE_DELETION_THRESHOLDを変更します。ただし、この要素を指定すると、エージェントによりCIはただちに削除され、変更がRTSM <sup>1</sup> にパブリッシュされます。
NewRelationship	CI間の新しい関係を定義します。この要素は、正確に1つのParent要素を含む必要があり、1つ以上のGenericRelations要素を含むことができます。
DeleteRelationship	削除する関係を定義します。この要素は、正確に1つのParent要素を含む必要があり、1つ以上のGenericRelations要素を含むことができます。
Std	文字列DiscoveredElementを含む必要があります。
Virtual	CIが仮想の場合、この要素を含めます。仮想CIは抽象的概念であり、どのノードCI上にも存在しません。CIがノードCI上にホストされている場合、この要素を省略します。

<sup>1</sup>(実行時サービス・モデル)



要素	説明
Key	このCIの完全CI IDを含みます。一意である必要があります。すべての <i>NewInstance</i> および <i>DeleteInstance</i> 要素にこの要素を含める必要があります。同じXMLドキュメント内で同じキーの <i>NewInstance</i> および <i>DeleteInstance</i> を指定することはできません。
Attributes	<i>Attribute</i> 要素を含みます。
Attribute	<p>name 属性とvalue 属性があります。</p> <p>次の名前の属性には、特別な意味があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>hpom_citype</i> では、RTSMに格納されているCIタイプを指定します (ntなど)。</li> </ul> <p>BSM サーバの default 同期パッケージにより、<i>hpom_citype</i> 属性があるCIすべてにコンテキスト <i>IntegrationAdapter</i> が割り当てられます。これにより、該当するCIがトポロジ同期の対象に含まれます。この属性がないCIはフィルタリングされ、トポロジ同期から除外されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>hpom_rootcontainer</i> では、このCIを含むかホストするCIの完全IDを指定します。CI属性 <i>Container</i> にマップします。構成関係を作成します。</li> <li>• プレフィックス <i>ucmdb_</i> が設定された属性名はCI属性に直接マップされます(たとえば、<i>ucmdb_primary_dns_name</i> はCI属性 <i>Primary DNS Name</i> に直接マップされます)。</li> </ul>
Parent	<p><i>Instance</i> 要素を含みます。この要素はこの関係の親となるCIを定義します。</p> <p>指定する親インスタンスは、RTSMに存在する必要があります。</p> <p>指定する親インスタンスは、RTSMおよびノードのエージェント・リポジトリに存在する必要があります。このため、RTSMに親がすでに存在する場合でも、エージェント・リポジトリに親を追加するため、<i>NewInstance</i> 要素を含める必要が生じる場合があります。</p>
Instance	現在のXMLドキュメント内の <i>NewInstance</i> 要素を参照する <i>ref</i> 属性があります。
GenericRelations	1つ以上の <i>Relations</i> 要素を含みます。
Relations	RTSMに格納されている関係のタイプを参照する <i>type</i> 属性があります ( <i>usage</i> など)。1つ以上の <i>Instance</i> 要素を含みます。この要素は、指定された <i>Parent</i> 要素に関連するCIを参照します。


## タスク

### サービス自動検出ポリシーの作成方法

1. [プロパティ] ページで、ポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストールメンテーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ]ページ」(211ページ)を参照してください。

2. [ポリシー データ]ページで、HP Operations Agent サービス自動検出ポリシーの構文を使用して、ポリシー・データを入力します。新規ポリシーを作成する場合は、既存のポリシー・テンプレートからテンプレート・データをコピーして貼り付けます。あるいは、 ボタンをクリックしてコンピュータのポリシー・テンプレート・ファイルからポリシー・データをロードします。

詳細については、「サービス自動検出ポリシーの構文」(206ページ)を参照してください。

ポリシーで参照する検出コマンドは、「構成アイテムのXMLスキーマ定義(XSD)」(206ページ)に記載されているとおり、XSDに応じたXMLを出力する必要があります。

また、ポリシー・パラメータも使用できます。詳細については、「[ポリシー パラメータ]タブ」(210ページ)を参照してください。



3. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照


本項の内容








- 「[ポリシー データ]ページ」(210ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(210ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(211ページ)

### [ポリシー データ]ページ

UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして、[Select file to upload]ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が_data です。
	サービス自動検出ポリシーでは構文チェックはサポートされません。[構文チェック]はクリックできますが、チェックは実行できません。
<ポリシー データ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。 詳細については、「サービス自動検出ポリシーの構文」(206ページ)を参照してください。

### [ポリシー パラメータ]タブ

UI 要素	説明
	パラメータの作成: [パラメータの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。

UI要素	説明
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>
<パラメータ>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号 (=) は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>

UI要素	説明
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。

<sup>1</sup>(グローバル一意識別子)






UI要素	説明
インストールメーション	このポリシー用に選択されたインストールメーション。インストールメーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要となる場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールメーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OSタイプ	このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。 プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。  OSタイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。

## サービス/プロセス監視ポリシーの設定

サービス/プロセス監視ポリシーを使用すると、サービスの状態(Windowsの場合)や、プロセス(HP Operations Agent がサポートしているすべてのオペレーティング・システム)の状態を監視できます。サービスの状態または実行中のプロセスの数が増減したときにイベントを作成し、コマンドを起動するようポリシーを設定できます。




### アクセス方法

サービス/プロセス監視・ポリシー・エディタでは、サービス/プロセス監視・ポリシーを作成、編集できます。サービス/プロセス監視・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加(RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。




レートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。




- タイプ[Service/Process Monitoring Template]を選択し, [OK]をクリックします。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには, リストのポリシー・テンプレート,  ボタンの順にクリックしてから, [ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

サービス/プロセス監視ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには, 次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシーテンプレート グループ] ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [Service/Process Monitoring Templates] フォルダをクリックし, 次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには, [ポリシー テンプレート] ペインで  ボタンをクリックし, [ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

新規 サービス/プロセス監視ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには, [ポリシー テンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし,  ボタンをクリックしてから, [ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]ボタンをクリックします。

サービス/プロセス監視ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「標準設定とカスタムのアクション」(214ページ)
- 「標準設定のセッション・オブジェクトの値」(215ページ)

### 標準設定とカスタムのアクション

サービス/プロセス監視ポリシーでは, サービスの状態または実行中のプロセスの数に変化したときにアクションを実行できます。アクション応答には次のようなタイプがあります。

- **開始アクション**: 開始アクションは, サービスが指定した状態ではなくなったとき, またはプロセスの数, CPU 利用率, メモリ使用量が指定とは異なったときにトリガされます。
- **継続アクション**: 開始アクションを実行した後, それ以降のポーリング間隔のたびにリセット値に達していない場合, 継続アクションを実行します。
- **終了アクション**: 開始アクションを始動し, サービスまたプロセスが予測された状態を返した後に終了アクションが実行されます。

すべてのサービスやプロセス・モニタに適用される標準設定のアクションを設定できます。あるいは, ポリシー・ルールでカスタムのアクションを設定することもできます。カスタムのアクションは個別のサービスやプ

プロセス・モニタに適用されます。標準設定では、サービスまたはプロセス・モニタには標準設定のアクションは指定されていません。

### 標準設定のセッション・オブジェクトの値

また、イベントおよびコマンド・テキスト・ボックスで使用可能な標準設定のセッション・オブジェクト値もあります。エージェントはサービス/プロセス監視ポリシーに対し、これらの値を自動的に設定します。

- **サービス監視ポリシー用のセッション・オブジェクトの値** : エージェントはサービス監視ポリシーのセッション・オブジェクトで、次の値を自動的に設定します。

<\$SESSION (SERVICENAME) >

ノードの Windows サービスへのアクセスに使用する名前を返します。

<\$SESSION (SERVICEDISPLAYNAME) >

Windows サービスの表示名を返します。この値は指定したノード上で取得され、ノードのローカルの言語で表示できます。

<\$SESSION (SERVICEMONITORSTATE) >

監視対象となっている Windows サービスの状態を返します(例:「実行中」、「停止」、「無効」など)。ノードのローカル言語でエージェント・カタログが利用可能な場合、この言語がモニタの状態を示すローカライズされたテキストとなります。ノードのローカル言語でエージェント・カタログを利用できない場合、英語のテキストを使用してモニタの状態を示します。

<\$SESSION (SERVICECURRENTSTATE) >

監視対象となっている Windows サービスの現在の状態を返します(例:「実行中」、「停止」、「無効」など)。ノードのローカル言語でエージェント・カタログが利用可能な場合、この言語がモニタの状態を示すローカライズされたテキストとなります。ノードのローカル言語でエージェント・カタログを利用できない場合、英語のテキストを使用してモニタの状態を示します。

<\$SESSION (SERVICEACTION) >

イベント・タイトルの構築に使用される文字列を返します。この文字列は定義するモニタ・モードによって異なります。

- モニタの状態「実行中」  
**net start /Y <サービス名>**
- モニタの状態「停止」  
**net stop /Y <サービス名>**
- モニタの状態「無効」  
empty

- **プロセス監視ポリシー用のセッション・オブジェクトの値** : エージェントはプロセス監視ポリシーのセッション・オブジェクトで、次の値を自動的に設定します。

<\$SESSION (PROCESSNAME) >

ノードのプロセスへのアクセスに使用する名前を返します。

<\$SESSION (PROCESSPARAMETERS) >

ノードのプロセスへのアクセスに使用するパラメータ・パターンを返します。

<\$SESSION (PROCESSNBREXPECTED) >

監視対象プロセスの数を返します。

```
<$SESSION (PROCESSNBRAVAILABLE) >
```

プロセス名とパラメータ・パターンを一致する、利用可能なプロセスの数を返します。

```
<$SESSION (PROCESSCPUUSAGEEXPECTED) >
```

プロセスの予測 CPU 使用率をパーセンテージで返します。

```
<$SESSION (PROCESSCPUUSAGE) >
```

監視対象プロセスの現在の CPU 使用率をパーセンテージで返します。

```
<$SESSION (PROCESSMEMUSAGEEXPECTED) >
```

プロセスの予測メモリ使用量(メガバイト単位)を返します。

```
<$SESSION (PROCESSMEMUSAGE) >
```

監視対象プロセスの現在のメモリ使用量を返します。

```
<$SESSION (PROCESSMODE) >
```

メッセージ・テキストの構築に使用される文字列を返します。指定したモニタによって異なります。例：

- MIN

PROCESSMODE は: ">= "

- MAX

PROCESSMODE は: "<= "

- EQUAL

PROCESSMODE は: "(空白文字列)"

## タスク

### サービスプロセス監視ポリシーの作成方法

1. サービスプロセス監視ポリシー・エディタの[プロパティ]ページでポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデPLOYされる[インストレーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ]ページ」(229ページ)を参照してください。

2. [ソース]ページで、[サービス]または[プロセス]を選択します(監視対象によって異なります)。オプションとして、ポーリング間隔を変更します。ポーリング間隔は、ポリシーが新しい情報がないかソースに確認する頻度を決定します。


3. オプション:[標準設定]ページで、ポリシーの開始アクション、継続アクション、終了アクションを設定します。標準設定のアクションはすべてのサービスやプロセス・モニタに適用されます。あるいは、ポリシー・ルールでカスタムのアクションを設定することもできます。カスタムのアクションは個別のサービスやプロセス・モニタに適用されます。標準設定では、サービスまたはプロセス・モニタには標準設定のアクションは指定されていません。

詳細については、「開始、続行、終了アクション(標準設定)」(231ページ)を参照してください。



イベントとコマンドのテキスト・ボックスでは、ポリシー変数と標準設定のセッション・オブジェクト値を使用できます。エージェントはサービス/プロセス監視ポリシーに対し、これらの値を自動的に設定します。

各イベント・タブの詳細については、「[イベント属性]タブ」(225ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(226ページ)、「[カスタム属性]タブ」(225ページ)、「UI要素」(226ページ)、「[詳細設定]タブ」(222ページ)、および「[アクション]タブ(イベント)」(219ページ)を参照してください。

4. [ルール]ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。監視する各サービスまたはプロセスについて、 ボタンをクリックしてルールを追加します。  
詳細については、「[ポリシールール]リスト」(227ページ)を参照してください。
5. サービス・モニタのみ:[条件]タブで、監視するサービスと期待する状態を定義します。
  - a. 監視するWindows サービスの実際の名前を入力します。
  - b. オプション: モニタの[表示名]を入力します。表示名は、情報目的でのみポリシー・エディタに使用されます。Windows サービスの識別には使用されません。
  - c. 選択したWindows サービスで監視する状態を選択します。たとえば、標準設定の監視状態「実行中」は、選択したWindows サービスが実行中かどうかを確認します。その他の状態には「無効」や「停止」などがあります。ポリシーは、選択したWindows サービスの状態の変化を検出すると、ポリシーで定義されたアクションを開始します。
  - d. オプション:[サービスが存在していない場合メッセージを送信]をクリックし、ポリシーをノードにデプロイする際、Windows サービスが存在しない場合は情報が通知されるようにします。
6. プロセス・モニタのみ:[条件]タブで、監視するプロセスを選択します。
  - a. 監視するプロセスの名前を入力します。

Windows ノードの場合、ここに入力する文字列は拡張子も含め、Windows で知られているプロセス名と一致する必要があります。例: "notepad.exe"。重複は使用できません。

UNIX または Linux ノードの場合、監視するプロセスで実行可能なファイルの名前のみを指定してください。パスは含めないでください。
  - b. オプション:[パラメータ]フィールドで、一致する必要のある文字列またはパラメータを定義します。このオプションを使用する場合、指定したパラメータは実行中のプロセスの識別に使用されます。標準のパターン・マッチングは、このフィールドの内容の評価に使用されます。Windows の管理対象ノードでは、大文字と小文字を区別しません。注:
    - [パラメータ]フィールドが空白になっている場合、ポリシー・エディタはパラメータを使用していない、実行中のプロセスのみを照合します。
    - [パラメータ]フィールドに含まれる文字列にパターン・マッチング文字が使用されていない場合、ポリシー・エディタは定義された文字列を含むプロセスのみを照合します。
    - [パラメータ]フィールドにパターン・マッチング文字が含まれている場合、ポリシー・エディタは定義されている文字列があるすべてのプロセス・パラメータを照合します(例: <\*> はすべてのパラメータを、<\*>abc<\*> は文字列「abc」を含むすべてのパラメータを照合します)。
  - c. ドロップダウン・リストを使用して演算子を指定し、[処理の数]テキスト・ボックスを使用して実行予定のプロセスの数を指定します。完全一致には等価演算子(==)を使用します。あるいは、以下(<=)または以上(>=)を使用して範囲を指定します(例: >=1)。

- d. オプション: ドロップダウン・リストを使用して演算子を指定し, [CPU 使用率] テキスト・ボックスを使用してプロセスの予測 CPU 使用量 (パーセンテージ) を指定します。完全一致には等価演算子 (==) を使用します。あるいは, 以下 (<=) または以上 (>=) を使用して範囲を指定します (例: <=60)。
- e. オプション: ドロップダウン・リストを使用して演算子を指定し, [メモリの使用率] テキスト・ボックスを使用してプロセスの予測メモリ使用量 (単位: メガバイト) を指定します。完全一致には等価演算子 (==) を使用します。あるいは, 以下 (<=) または以上 (>=) を使用して範囲を指定します (例: <=200)。
7. オプション: [アクション] タブを使用して, 監視対象サービスの状態が変化したとき (例: 「実行中」から「停止」へ), またはプロセスの数, CPU 使用率, メモリ使用量が変化したときにポリシーがどのように応答するかを定義します。次の手順を完了し, サービスまたはプロセス・モニタのカスタム・アクションを設定します。

- a. [標準設定のアクションを上書き] をクリックします。
- b. [アクションの開始 イベントを編集] をクリックして [アクションの開始] タブを開きます。開始アクションは, サービスが指定した状態ではなくなったとき, またはプロセスの数, CPU 使用率, またはメモリ使用量が指定とは異なったときにトリガされます。

[アクションの開始] タブのイベント・タブを使用してイベントの詳細を定義します。

各イベント・タブの詳細については, 「[イベント属性] タブ」 (225ページ), 「[イベント関連処理] タブ」 (226ページ), 「[カスタム属性] タブ」 (225ページ), 「UI 要素」 (226ページ), 「[詳細設定] タブ」 (222ページ), および「[アクション] タブ (イベント)」 (219ページ) を参照してください。

- c. オプション: 継続アクションを設定する場合は, 次のいずれかをクリックします。
- 指定した「アクションの開始」を使用: このオプションを使用することで, 開始アクション・イベントの重複となるイベントを送信することができます。さらに, 開始アクションに自動コマンドが含まれる場合, エージェントはこのコマンドを再度開始します。
  - 特殊な「アクションの続行」を定義: このオプションを使用することで, 開始アクション内とは異なるイベントやコマンドを設定することができます。

継続アクションが送信するイベントを設定するには, [アクションの続行 イベントを編集] をクリックし, [アクションの続行] タブ内のタブでイベントの詳細を定義します。

各イベント・タブの詳細については, 「[イベント属性] タブ」 (225ページ), 「[イベント関連処理] タブ」 (226ページ), 「[カスタム属性] タブ」 (225ページ), 「UI 要素」 (226ページ), 「[詳細設定] タブ」 (222ページ), および「[アクション] タブ (イベント)」 (219ページ) を参照してください。

- d. オプション: 終了アクションを設定するには, [指定された「アクションの停止」を開始] をクリックします。次に, [アクションの終了 イベントを編集] をクリックし, [アクションの終了] タブ内のタブでイベントの詳細を定義します。

各イベント・タブの詳細については, 「[イベント属性] タブ」 (225ページ), 「[イベント関連処理] タブ」 (226ページ), 「[カスタム属性] タブ」 (225ページ), 「UI 要素」 (226ページ), 「[詳細設定] タブ」 (222ページ), および「[アクション] タブ (イベント)」 (219ページ) を参照してください。

イベントとコマンドのテキスト・ボックスでは、ポリシー変数と標準設定のセッション・オブジェクト値を使用できます。エージェントはサービス/プロセス監視ポリシーに対し、これらの値を自動的に設定します。

8. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「[アクション]タブ( イベント)」(219ページ)
- 「[アクション]タブ( ルール)」(221ページ)
- 「[詳細設定]タブ」(222ページ)
- 「[条件]タブ」(223ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(225ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(225ページ)
- 「[イベント関連処理]タブ」(226ページ)
- 「[命令]タブ」(226ページ)
- 「[ポリシー データ] ページ」(226ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(227ページ)
- 「[ポリシー ルール]リスト」(227ページ)
- 「[ポリシー変数]タブ」(228ページ)
- 「[プロパティ] ページ」(229ページ)
- 「[ソース] ページ」(230ページ)
- 「開始, 続行, 終了アクション( 標準設定)」(231ページ)
- 「開始, 続行, 終了アクション( ルール)」(231ページ)

### [アクション]タブ( イベント)

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。

UI 要素	説明
非エージェントユーザ	<p>標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数(%%password%% など)の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	<p>コマンドを開始するノードの名前。変数 &lt;\$MSG_NODE_NAME&gt; を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。</p>
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	<p>コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。</p>
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	<p>コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。</p>
イベントを直ちに送信	<p>ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐにBSMサーバにイベントを送信します。これは標準設定です。</p>
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	<p>BSMサーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSMサーバに通知しないようにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>イベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</b></li> </ul>
オペレータ開始コマンド	<p>ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSMユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Webブラウザに表示される指示などを指定できます。</p>

UI 要素	説明
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェント ユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ] を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>Enable policy parameter in Password field : [パスワード] フィールド への変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

## [アクション] タブ(ルール)

UI 要素	説明
ルール・アクション	標準設定のアクションを使用: イベントの標準設定で行ったアクション設定をこのルールに適用します。 標準設定のアクションを上書き: このルールに対して特定のアクション設定を有効にできます。

アクションの開始	<p>サービスが指定した状態でない場合、またはプロセス数、CPU 使用率、またはメモリ使用率が指定した値でない場合、アクションの開始が起動されます。</p> <p><b>「アクションの開始」イベントを編集:</b> [アクションの開始] タブが開きます。このタブでアクションの開始を定義できます。</p>
アクションの続行	<p>アクションの開始が実行された後で、リセット値に到達していない場合、以降のポーリング間隔ごとにアクションの続行が実行されます。</p> <p><b>「アクションの続行」を開始しない:</b> アクションの続行を開始しない場合は、このオプションを選択します。</p> <p><b>指定した「アクションの開始」を使用:</b> このオプションを使用することで、開始アクション・イベントの重複となるイベントを送信することができます。さらに、開始アクションに自動コマンドが含まれる場合、エージェントはこのコマンドを再度開始します。</p> <p><b>特殊な「アクションの続行」を定義:</b> このオプションを使用することで、開始アクション内とは異なるイベントやコマンドを設定することができます。</p> <p><b>「アクションの続行」イベントを編集:</b> [アクションの続行] タブが開きます。このタブでアクションの続行を定義できます。</p>
アクションの終了	<p>アクションの開始が実行された後で、サービスまたはプロセスが予想した状態に戻ってから、アクションの終了が実行されます。</p> <p><b>指定された「アクションの終了」を開始:</b> このオプションでは、アクションの終了のイベントおよびコマンドを設定できます。</p> <p><b>「アクションの終了」イベントを編集:</b> [アクションの終了] タブが開きます。このタブでアクションの終了を定義できます。</p>

## [詳細設定] タブ

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です (Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です (C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。

UI 要素	説明
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース (MSI) により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部 イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション (イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど) を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合、標準設定をこのルールに適用するか、または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに、イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件] タブ



UI 要素	説明
<b>Monitoring Services</b>	
サービス名	<p>監視対象となる Windows サービスの実際の名前。</p> <p>ポリシー・エディタでは、(サービス名の入力間違っているなどの理由で) 指定した Windows サービスが存在しない場合のための確認が行われません。[サービスが存在しない場合イベントを送信] オプションを選択すると、ポリシーをノードにデプロイする際に、ここで指定する Windows サービスが存在しないかどうか通知されます。</p>
表示名	表示名は、情報目的でのみポリシー・エディタに使用されます。Windows サービスの識別には使用されません。
監視	<p>選択した Windows サービスの監視対象となる状態。たとえば、標準設定の監視状態「実行中」は、選択した Windows サービスが実行中かどうかを確認します。その他の状態には「無効」や「停止」などがあります。ポリシーは、選択した Windows サービスの状態の変化を検出すると、ポリシーで定義されたアクションを開始します。</p>
サービスが存在しない場合イベントを送信	<p>ポリシーをデプロイする際に、ポリシーで指定したサービスがノードに存在しない場合、イベントが送信されます。</p>
<b>プロセスの監視</b>	



<b>Process</b>	<p>監視するプロセスの名前。</p> <p>Windows ノードの場合、ここに入力する文字列は拡張子も含め、Windows で知られているプロセス名と一致する必要があります。例: "notepad.exe"。重複は使用できません。</p> <p>UNIX または Linux ノードの場合は、監視するプロセスで実行可能なファイルの名前のみを指定してください。パスは含めないでください。</p> <p>パラメータを使用してインスタンスを区別すれば、プロセスの複数のインスタンスを監視できます(例: <code>svchost.exe -k rpcss</code> と <code>svchost.exe -k netsvcs</code>)。詳細については、以下の「パラメータ」を参照してください。</p>
<b>パラメータ</b>	<p>一致させる必要のある文字列またはパラメータを定義します。このオプションを使用する場合、指定したパラメータは実行中のプロセスの識別に使用されます。標準のパターン・マッチングを使用してこのフィールドの内容を評価します。Windows の管理対象ノードの場合、大文字と小文字の区別はありません。注:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [パラメータ]フィールドが空白になっている場合、ポリシー・エディタはパラメータを使用していない、実行中のプロセスのみを照合します。</li> <li>• [パラメータ]フィールドに含まれる文字列にパターン・マッチング文字が使用されていない場合、ポリシー・エディタは定義された文字列を含むプロセスのみを照合します。</li> <li>• [パラメータ]フィールドにパターン・マッチング文字が含まれている場合、ポリシー・エディタは定義されている文字列があるすべてのプロセス・パラメータを照合します(例: <code>&lt;*&gt;</code> はすべてのパラメータを、<code>&lt;*&gt;abc&lt;*&gt;</code> は文字列「abc」を含むすべてのパラメータを照合します)。</li> </ul>
<b>処理の数</b>	<p>ドロップダウン・リストを使用して演算子を指定します。またテキスト・ボックスを使用して、実行が予測される処理の数を指定します。完全一致には等価演算子(==)を使用します。あるいは、以下(&lt;=)または以上(&gt;=)を使用して範囲を指定します(例: <code>&gt;=1</code>)。</p> <p>ここで入力する値により、ポリシーによる検索が予想され、正しいとみなされる状態が定義されます。検索された状態が予想と異なる場合のみ、ポリシーからイベントが送信されます。たとえば、<code>&gt;= 1</code>(1以上)により、処理の1つ以上のインスタンスが実行されていることを確認します。ポリシーで、実行されている処理のインスタンスが0(ゼロ)個であることが検出されると、イベントが送信されます。</p>
<b>CPU 使用率</b>	<p>ドロップダウン・リストを使用して演算子を指定します。またテキスト・ボックスを使用して、処理における使用が予測されるCPUの割合を指定します。完全一致には等価演算子(==)を使用します。あるいは、以下(&lt;=)または以上(&gt;=)を使用して範囲を指定します(例: <code>&lt;=60</code>)。</p>
<b>メモリの使用率</b>	<p>ドロップダウン・リストを使用して演算子を指定します。またテキスト・ボックスを使用して、処理における使用が予測されるメモリの容量(MB単位)を指定します。完全一致には等価演算子(==)を使用します。あるいは、以下(&lt;=)または以上(&gt;=)を使用して範囲を指定します(例: <code>&lt;=200</code>)。</p>



## [カスタム属性]タブ

UI 要素	説明
	<b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには、名前をダブルクリックして選択し、新しい名前を入力します。
	<b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。
<b>名前</b>	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできます。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
<b>値</b>	カスタム属性の値。

## [イベント属性]タブ

UI 要素	説明
<b>カテゴリ</b>	イベントが属している論理グループの名前 (Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。
<b>クローズ済みステータスとして送信</b>	イベントのライフサイクル・ステータスを [解決済み] に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。



## [イベント関連処理]タブ

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。









## [命令]タブ

UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>



## [ポリシーデータ]ページ




UI 要素	説明
	<b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして、[Select file to upload]ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が <code>_data</code> です。
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>
<パラメータ>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します (<code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul>

## [ポリシー ルール] リスト

UI 要素	説明
	<b>新規ルールの作成:</b> ルールをサービス/プロセス・モニタリング・ポリシーに追加します。
	<b>ルールのコピー:</b> 選択したルールがコピーされます。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。

UI 要素	説明
	ルールの削除: 選択したルールが削除されます。
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してサービス名またはプロセス名を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>サービス名またはプロセス名に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルールのリストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
	ルール フィルタをアクティブ化/非アクティブ化: ルール・フィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。
Seq.	リスト内のルールの数。
<b>サービス・モニタのルール</b>	
サービス名	監視対象となる Windows サービスの名前。
表示名	監視対象となる Windows サービスの表示名。
監視	監視対象サービスの予想される状態は、[実行中]、[停止]、[無効]のいずれかです。
ルール・アクション	ルールに設定されているアクションで、[標準設定]か[カスタム]のいずれかとなります。
<b>プロセス・モニタのルール</b>	
Process	監視対象となるプロセスの名前。
パラメータ	プロセスのパラメータと一致する文字列またはパターン。
演算子	<p>equals 演算子 (==)</p> <p>以下 (&lt;=)</p> <p>または以上 (&gt;=)</p>
処理の数	予想される実行中の処理の数。
ルール・アクション	ルールに設定されているアクションで、[標準設定]か[カスタム]のいずれかとなります。

### [ポリシー変数]タブ

Windows イベント・ログ・ポリシーでは次の変数を使用できます。変数がスペースを含む値を返す場合は、変数を引用符で囲みます。

変数	説明
<\$MSG_ NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123
<\$MSG_ NODE_ NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_ TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$NAME>	イベントを送信したポリシーの名前を返します。サンプル出力:cpu_util

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)

UI 要素	説明
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>
インストール	<p>このポリシー用に選択されたインストール。インストールは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。</p>
OS タイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## [ソース] ページ

UI 要素	説明
監視	<p>サービス(Windows 上)またはプロセス(HP Operations Agent でサポートされるオペレーティング・システム上)のステータスを監視するかどうかを選択します。</p>
ポーリング間隔	<p>ポリシーで新しい情報源を確認する頻度を示します。この時間がポーリング間隔となります。</p> <p>パフォーマンスを向上させるために、ポーリング間隔をできるだけ長くしながらも、変更が予測される割合でデータを監視するのに十分な頻度にしします。初回のポーリング間隔の経過後に、ポリシーでデータの評価が開始されます。ポリシーをテストする場合、ポーリング間隔はできるだけ短くします。</p>

## 開始, 続行, 終了アクション(標準設定)

注: 標準設定の[アクションの開始], [アクションの続行], [アクションの終了]ページでは, ポリシーによって開始するすべてのアクションの標準設定を行うことができます。各タブの詳細については, 「[イベント属性]タブ」(225ページ), 「[イベント関連処理]タブ」(226ページ), 「[カスタム属性]タブ」(225ページ), 「UI要素」(226ページ), 「[詳細設定]タブ」(222ページ), および「[アクション]タブ(イベント)」(219ページ)を参照してください。

UI要素	説明
アクションの開始の標準設定を定義	サービスが指定した状態でない場合, またはプロセス数, CPU使用率, またはメモリ使用率が指定した値でない場合, アクションの開始が起動されます。
アクションの続行の標準設定を定義	アクションの開始が実行された後で, リセット値に到達していない場合, 以降のポーリング間隔ごとにアクションの続行が実行されます。
アクションの終了の標準設定を定義	アクションの開始が実行された後で, サービスまたはプロセスが予想した状態に戻ってから, アクションの終了が実行されます。

## 開始, 続行, 終了アクション(ルール)

UI要素	説明
イベント属性	開始イベント, 続行イベント, または終了イベントの属性を設定できるようになります。
イベント関連処理	開始イベント, 続行イベント, または終了イベントの関連処理オプションを設定できるようになります。
カスタム属性	開始イベント, 続行イベント, または終了イベントのカスタム属性を追加できるようになります。
命令	開始イベント, 続行イベント, または終了イベントをオペレータが処理する助けとなる命令情報を追加できるようになります。
詳細	開始イベント, 続行イベント, または終了イベントの詳細な属性を設定できるようになります。
アクション	開始イベント, 続行イベント, または終了イベントに自動的に開始されるコマンドと, オペレータが開始するコマンドを追加できるようになります。















## SNMP インターセプタ・ポリシーの設定

SNMP インターセプタ・ポリシーを使用すると, HP Operations Agent に SNMP 通知を送信するデバイス(例: プリンタ, ルータ, サポートされていないオペレーティング・システムを使用したコンピュータ)を監視できます。SNMP インターセプタ・ポリシーでは, ルールを通じて SNMP 通知をフィルタ処理できま

す。各ルールは条件の定義(およびオプションとしてイベントの定義)で構成されます。SNMP 通知が条件に一致すると、イベントを作成できます。

## アクセス方法

SNMPトラップ・ポリシー・エディタでは、SNMP インターセプタ・ポリシーを作成、編集できます。SNMPトラップ・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加(RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[SNMP Interceptor Template]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集(RAW モード)]ボタンをクリックします。  
SNMP ポリシー・エディタが開きます。
- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [SNMP Interceptor Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加(RAW モード)]ボタンをクリックします。  
新規 SNMPトラップ・ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集(RAW モード)]ボタンをクリックします。  
SNMPトラップ・ポリシーの編集エディタが開きます。



## 詳細

### SNMP 通知の受信

SNMP インターセプタ・ポリシーを使用すると、他のデバイスが HP Operations Agent を実行するノードに送信する SNMP 通知をフィルタ処理することができます。HP Operations Agent には内蔵の SNMP インターセプタ・デーモンまたはサービス(`opctrapi`)があり、標準設定ではポート 162 で SNMP 通知を受け入れます。したがって、多くの場合、SNMP デバイスを設定し、HP Operations Agent を実行するノードのポート 162 に通知を送信することができます。

別のプロセス(Microsoft SNMP Trap サービスまたは Linux `snmptrapd` デーモンなど)がすでにポート 162 を使用している場合、`opctrapi` は開始できません。この場合、`opctrapi` を再設定し、`SNMP_TRAP_PORT` エージェント設定変数(`eaagt` 名前空間)を設定して別のポートを使用することができます。同じポートに通知を送信するよう、SNMP デバイスでも設定を行う必要があります。

あるいは、Windows オペレーティング・システムを実行するノードの場合、`opctrapi` を設定して Microsoft SNMP Trap サービスの購読を行うことができます。ただし、この設定では SNMPv1 しか提供されません。

`opctrapi` を設定して Microsoft SNMP Trap サービスを購読するには、次の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトを開いて、次を入力します。

```
ovconfchg -ns eaagt -set SNMP_SESSION_MODE WIN_SNMP
```

2. SNMP インターセプタを再起動します。

```
ovc -restart opctrapi
```

利用可能な SNMP 設定変数と設定方法については、『HP Operations Agent Reference Guide』を参照してください。

## タスク

### SNMP インターセプタ・ポリシーの作成方法

1. SNMP ポリシー・エディタの[プロパティ]ページで、ポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストレーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。


詳細については、「[プロパティ]ページ」(250ページ)を参照してください。

2. オプション:[標準設定]ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

**注:** 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(241ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(242ページ)、「[命令]タブ」(243ページ)、および「[詳細設定]タブ」(237ページ)を参照してください。

3. [ルール]ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。

- a. [ポリシー ルール]リストで、 ボタンをクリックしてから、次のオプションのいずれかをクリックします。
  - **一致するルールのイベント**: 条件を満たしたときにイベントをBSMに送信したい場合、このオプションを使用します。
  - **一致するルールの抑制**: 指定の条件を満たしたときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
  - **一致しないルールの抑制**: 指定した条件を満たしていないときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。

- b. [ルールの説明]をクリックし、ルールの概要を入力します。

詳細については、「[ポリシー ルール]リスト」(247ページ)を参照してください。

4. [ルール内容]の[条件]タブを使用して、エージェント側に到着するSNMP通知と比較して評価する値を定義します。[条件]タブで利用可能な属性は、SNMP通知に含まれる可能性のある属性に対応しています。

テキスト・ボックスでは、ポリシー変数、ポリシー・パラメータ、およびパターン・マッチングを使用できます。


たとえば、192.168.100.123 から汎用のlinkDownトラップを照合する場合、次の属性を設定します。

- **ノード**: 192.168.100.123
- **SNMPv1 表記**(選択済み)
- **ジェネリック ID**: linkDown

詳細については、「[条件]タブ」(238ページ)を参照してください。

5. [条件変数結合]タブで、ポリシーで評価する変数結合を選択し、各結合に対して1つ以上のマッチ・パターンを作成します。変数結合を照合する際には、パターン・マッチング・ルールを使用できます。

たとえば、多くのSNMP通知では、\$2に送信者のホスト名が含まれています。ドメインexample.comのシステムからのイベントのみを照合するには、次の手順を実行します。

- a.  ボタンをクリックします。
- b. [変数]で、2 と入力します。
- c. [パターン]で、<\*>.example.com と入力します。

6. オプション: タイプ「一致するルールのイベント」のルールを作成する場合は、ポリシーが送信するイベントの属性を設定します。標準設定のイベント属性はここで上書きできます。また、オペレータが関連するイベントを処理し、アクションを設定して問題を自動的に、または手動で解決するのに役立つ命令を作成できます。

テキスト・ボックスでは、インジケータ、ポリシー変数、ポリシー・パラメータを使用できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(241ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(242ページ)、「[カスタム属性]タブ」(240ページ)、「[命令]タブ」(243ページ)、「[詳細設定]タブ」(237ページ)、および「[アクション]タブ」(235ページ)を参照してください。

7. オプション:[オプション]ページで、ローカル・イベント・ログ、不一致イベント、パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については、「[オプション]ページ」(244ページ)を参照してください。

8. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「[アクション]タブ」(235ページ)
- 「[詳細設定]タブ」(237ページ)
- 「[条件]タブ」(238ページ)
- 「[条件変数結合]タブ」(239ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(240ページ)
- 「[標準設定]ページ」(241ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(241ページ)
- 「[イベント相関処理]タブ」(242ページ)
- 「[インジケータ]タブ」(242ページ)
- 「[命令]タブ」(243ページ)
- 「[オプション]ページ」(244ページ)
- 「[ポリシーデータ]ページ」(246ページ)
- 「[ポリシーパラメータ]タブ」(246ページ)
- 「[ポリシールール]リスト」(247ページ)
- 「[ポリシー変数]タブ」(248ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(250ページ)
- 「[ルール]ページ」(252ページ)

### [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindowsコマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。

UI 要素	説明
非エージェントユーザ	<p>標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数(%%password%% など)の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	<p>コマンドを開始するノードの名前。変数 &lt;\$MSG_NODE_NAME&gt; を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。</p>
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	<p>コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。</p>
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	<p>コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。</p>
イベントを直ちに送信	<p>ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐにBSMサーバにイベントを送信します。これは標準設定です。</p>
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	<p>BSMサーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSMサーバに通知しないようにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>イベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</b></li> </ul>
オペレータ開始コマンド	<p>ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSMユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Webブラウザに表示される指示などを指定できます。</p>

UI 要素	説明
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェント ユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ] を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード] フィールド への変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

### [詳細設定] タブ

注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。

- イベント・ドリルダウン URL
- タイプ

これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です (Oracle, OS など)。

UI 要素	説明
オブジェクト	コンピュータ, プリンタ, モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり, オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり, BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース(MSI)により, 外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部 イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして, 読み書き型のアプリケーション( イベントを読み取り, 属性を変更し, サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど)を使用できます。アプリケーションも, イベントの読み取り, 独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると, サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを, MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合, 標準設定をこのルールに適用するか, または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに, イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件] タブ

UI 要素	説明
ノード	<p>イベント転送の対象となる構成アイテムの FQDN<sup>1</sup>, プライマリ・ノード名, または IP アドレス。</p> <p>特定の構成アイテムからの SNMP イベントのみを取得する場合, FQDN<sup>2</sup>, プライマリ・ノード名, または IP アドレスを入力します。OR 演算子を使用して複数のエントリを指定するか(例: celery.example.com broccoli.example.com), 空白にしてすべての構成アイテムを取得します。</p>
イベント・オブジェクト ID	<p>取得する SNMP トラップの完全なイベント・オブジェクト ID。</p> <p>例: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1.0.40000001</p>

<sup>1</sup>(完全修飾ドメイン名)



<sup>2</sup>(完全修飾ドメイン名)

<b>SNMPv1 表記</b>	オンにすると、イベント・オブジェクト ID 全体ではなく、ID の一部のみを指定できます。 たとえば、エンタープライズ ID のみを指定することにより、特定のエンタープライズ ID が設定されたすべてのイベントを取得できます。
<b>エンター プライズ ID</b>	この条件と比較する、受信 SNMPトラップのエンタープライズ ID。エンタープライズ ID は、トラップのためのベンダー固有の ID です。標準のパターン一致構文はこのフィールドには使用できません。ただし、プレフィックスのみを入力することで、特定範囲のオブジェクトを取得できます。たとえば、次のパターン .1.3.6.1.4.1.11.2.17 は、以下の項目に一致します。 .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1 .1.3.6.1.4.1.11.2.17.2 それ以降も同じです。
<b>ジェネ リック ID</b>	一般トラップ ID。使用可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• (0) <b>ColdStart</b></li> <li>• (1) <b>WarmStart</b></li> <li>• (2) <b>LinkDown</b></li> <li>• (3) <b>LinkUp</b></li> <li>• (4) <b>Authentication</b></li> <li>• (5) <b>EgpNeighborLoss</b></li> <li>• (6) <b>EnterpriseSpecific</b></li> <li>• (7) <b>don't care</b></li> </ul> <b>[(6) EnterpriseSpecific]</b> を選択すると、固有のトラップ ID を入力できます。 <b>[don't care]</b> を選択すると、任意のトラップをインターセプトします。
<b>特殊 ID</b>	<b>[(6) EnterpriseSpecific]</b> を選択した場合、固有のトラップ ID を入力します。エンタープライズ固有の SNMPトラップは、ベンダーが自社の固有のネットワーク・デバイスに実装できます。固有のトラップ ID を使用して、トラップのソースを特定します。



注: エディタが使用する SNMP 構文では、トラップ文字列はドットで開始する必要があります。

### [条件変数結合]タブ

UI 要素	説明
	新しい変数結合が作成されます。

UI要素	説明
	選択した変数結合を削除します。
	[変数結合オプション]ページが開きます。
変数	ポリシーで読み取る変数結合。1はイベントの最初の変数結合、2は2番目の変数結合を表します(以下同様)。変数の先頭にドル記号(\$)を付ける必要はありません。この記号はエディタで自動的に付きます。
パターン	結合の一致パターン。  ヒント: ▶ ボタンをクリックすると、パターン・マッチング正規表現 ToolBox を開くことができます。

## [カスタム属性]タブ

UI要素	説明
	<b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには、名前をダブルクリックして選択し、新しい名前を入力します。
	<b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。



UI 要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(241ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(242ページ)、および「[詳細設定]タブ」(237ページ)を参照してください。

### [イベント属性]タブ

**注:** 標準設定のイベント属性では、重大度およびカテゴリ属性のみを設定できます。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。

UI 要素	説明
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクル・ステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

### [イベント関連処理]タブ



注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。




- キーの付いたイベントを終了
- サーバの重複イベントの削除を抑止

これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。
イベント サプレッションを有効化	<p>このポリシーで生成されるイベントの抑制を有効にします。</p> <p>イベントの標準設定でイベントの抑制が有効な場合、イベントの抑制をこのルールに適用するか、またはイベントの抑制をこのルールでオーバーライドできます。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を使用:</b> イベントで設定したイベントの抑制をこのルールに適用します。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに対して特定のイベント抑制を設定できます。</p>

### [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p>注: BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
	<p>イベント統合ポリシーのみ: [ドロップターゲット形式を選択]ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li>• <b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>

UI 要素	説明
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>

## [命令]タブ



UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>

## [オプション] ページ





UI 要素	説明
ローカルイベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカルノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>
ルールに一致し、イベントのトリガとなる	<p>イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。</p>
ルールに一致し、無視されます	<p>イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。</p>
どのルールにも一致しません	<p>ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。</p>
一致しないイベント	<p>適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。</p> <p>イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。</p> <p><b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。</p> <p><b>注:</b> 入力イベントがノードのすべてのSNMPトラップ・ポリシーと一致しない場合のみ、一致しないイベントに関するイベントがノードで作成されます。一致しない入力イベントごとに、イベントが1つのみ送信されます。</p>
イベント・ブラウザに送信される	<p>イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。</p>





UI 要素	説明
閉じたイベント・ブラウザに送信される	[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無, およびフィールド区切り文字を定義します。
大文字と小文字を区別する	ルールのパターンがソース・データと比較される場合に, テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると, ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ, 一致と判断されます。これは標準設定です。
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は, パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む, 合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば, バックスラッシュ, アスタリスク, 文字 A でイベントのフィールドを定義する場合, 「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると, 標準設定の区切り文字(空白, およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無, および区切り文字を設定できます。このためには, ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより, 個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し, [すべてに適用する]をクリックしない場合, パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>

## [ポリシー データ] ページ






UI 要素	説明
	<b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして, [Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して, ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり, 末尾が <code>_data</code> です。
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合, 検証ツールによりエラーが通知され, エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。
<ポリシー データ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され, 形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には, 対応するパラメータが1つ必要です。  ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない, 未使用のパラメータもチェックされます。  パラメータが不足している, または未使用のパラメータが存在する場合, [パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み, [変更], または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると, 不足しているパラメータは自動的に作成され, 未使用のパラメータは自動的に削除されます。

UI 要素	説明
パラ メー タ	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [ポリシー ルール] リスト

UI 要素	説明
	<p>イベント・ポリシー:新規ルールの作成: 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>一致するルールのイベント:</b> 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>• <b>一致するルールの抑制:</b> 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>• <b>一致しないルールの抑制:</b> 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul>
	<p><b>ルールのコピー:</b> 選択したルールがコピーされます。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。</p>
	<p><b>ルールの削除:</b> 選択したルールが削除されます。</p>
	<p><b>上へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の上位に移動します。</p>
	<p><b>下へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の下位に移動します。</p>

UI 要素	説明
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルール・リストでそのシーケンス番号を持つルールを選択します。</p> <p>ルール・リストから特定のルールを選択するには、[移動先]フィールドでルール・シーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルール・リストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
🔍	<b>ルール フィルタをアクティブ化/非アクティブ化:</b> ルール・フィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。
Seq.	ルール・シーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。
ルールの説明	ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。
ルールのタイプ	<p>イベント・ポリシーには次の3つのルール・タイプがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul> <p>メトリック・ポリシーには次の3つのルール・タイプがあります。</p> <p>ルール・タイプを変更するには、ルール・リストで現在のルール・タイプをクリックし、ドロップダウン・リストから別のルール・タイプを選択します。</p>

## [ポリシー変数]タブ

変数	説明
<\$#>	企業固有のSNMP イベント内の変数を返します(一般イベント 6 企業固有のID)。サンプル出力: 2



変数	説明
<\$*>	イベントに割り当てられるすべての変数を返します。変数の数は最大 15 個です。サンプル出力:[1] .1.1 (OctetString):arg1 [2] .1.2 (OctetString):turnip.example.com
<\$@>	<i>time_t</i> 表記を使用して、イベントを受信した時間を 1970 年 1 月 1 日からの経過秒数で返します。サンプル出力: 859479898
<\$1>	SNMP イベントの一部である利用可能な 15 のイベント・パラメータの 1 つ以上を返します。( <\$1> が最初の変数, <\$2> が 2 番目の変数, のように返します)。
<\$\>1>	<i>n</i> より大きいすべての属性を <i>value</i> 文字列として返します。引数の数が可変の場合の出力に便利です。 <\$\>0> は \$* と等価ですが、連続番号、名前およびタイプは出力されません。サンプル出力:bokchoy.example.com
<\$\>+1>	<i>n</i> より大きいすべての属性を <i>name:value</i> 文字列として返します。サンプル出力:.1.2: asparagus.example.com
<\$+2>	<i>n</i> 番目の変数結合を <i>name:value</i> として返します。サンプル出力:.1.2: artichoke.example.com
<\$\>- <i>n</i> >	<i>n</i> より大きいすべての属性を [ <i>seq</i> ] <i>name (type):value</i> 文字列として返します。サンプル出力:[2] .1.2 (OctetString):cauliflower.example.com
<\$-2>	<i>n</i> 番目の変数結合を [ <i>seq</i> ] <i>name-type:value</i> として返します。サンプル出力:[2] .1.2 (OctetString):brusselsprouts.example.com
<\$A>	イベントを生成したノードを返します。サンプル出力:eggplant.example.com
<\$C>	イベントのコミュニティを返します。サンプル出力:public
<\$E>	イベントのエントリープライズ ID を返します。サンプル出力: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1
<\$e>	エントリープライズ・オブジェクト ID を返します。サンプル出力: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1
<\$F>	イベントが転送されたものである場合に、リモート・ポストマスター・デーモンのコンピュータのテキスト名を返します。サンプル出力:cress.example.com
<\$G>	一般イベント ID を返します。サンプル出力: 6
<\$MSG_ NODE>	元のイベントが発生したノードの IP アドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123
<\$MSG_ NODE_ NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。たとえば、ポリシーが他のデバイスから発信された SNMP トラップを受け取っている場合、この変数をトラップが発信されるデバイスの名前に設定すると便利です。
<\$MSG_ OBJECT>	イベントに関連付けられたオブジェクトの名前を返します。これは、ポリシー・エディタのイベント・デフォルト・セクションで設定されます。

変数	説明
<\$MSG_TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$N>	イベント・コンフィギュレータに定義され、イベントの書式設定に使用されるイベント形式仕様のイベント名(テキストのエイリアス)を返します。サンプル出力:OV_Node_Down
<\$O>	イベントの名前(オブジェクト識別子)を返します。サンプル出力: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1.0.58916865
<\$o>	イベントの数値オブジェクト識別子を返します。サンプル出力: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1.0.58916865
<\$R>	イベントの真のソースを返します。この値は、イベントを配布したトランスポート・メカニズムを介して推測されます。サンプル出力:carrot.example.com
<\$r>	イベントの暗黙のソースを返します。これは、真のソースが別のソースのプロキシである場合は(リモート・ノードの情報を通知する、ローカルで実行されるアプリケーションの場合など)、イベントの真のソースではない可能性があります。サンプル出力:rutabaga.example.com
<\$S>	特定のイベント ID を返します。サンプル出力: 5891686
<\$s>	イベントの重大度を返します。サンプル出力:Normal
<\$T>	イベントのタイム・スタンプを返します。サンプル出力: 0
<\$V>	イベントが受信されたときのトランスポートに応じて、イベント・タイプを返します。現在サポートされるタイプは、SNMPv1、SNMPv2、CMIP、GENERIC、およびSNMPv2INFORM です。サンプル出力:SNMPv1
<\$X>	ローカルの時間表記を使用してイベントを受信した時間を返します。サンプル出力: 17:24:58
<\$x>	ローカルの日付表記を使用してイベントを受信した日付を返します。サンプル出力: 03/27/10

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。

UI要素	説明
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。
インストルメンテーション	このポリシー用に選択されたインストルメンテーション。インストルメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストルメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。

<sup>1</sup>(グローバル一意識別子)

UI 要素	説明
OS タイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

### [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1つ以上のポリシー・ルールを定義できます。






詳細については、「[ポリシー・ルール] リスト」(247ページ)、「[条件] タブ」(238ページ)、「[条件変数結合] タブ」(239ページ)、「[イベント属性] タブ」(241ページ)、「[イベント関連処理] タブ」(242ページ)、「[カスタム属性] タブ」(240ページ)、「[詳細設定] タブ」(237ページ)、および「[アクション] タブ」(235ページ)を参照してください。

## Windows イベント・ログ・ポリシーの設定

Windows イベント・ログ・ポリシーを使用すると、特定のルールと一致するエントリのWindows イベント・ログの監視が可能です。イベント・ログ・エントリがルールと一致したときにイベントを作成し、コマンドを起動するようポリシーを設定できます。




### アクセス方法

Windows イベント・ログ・ポリシー・エディタでは、Windows イベント・ログ・ポリシーを作成、編集できます。Windows イベント・ログ・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集] ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。
    - [管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ] ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。[アスペクトの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート] タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ] または [  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ] ボタンをクリックします。[新規ポリシーテンプレートの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。

レートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。

- タイプ[ **Windows Event Log Template**]を選択し、[OK]をクリックします。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集**]または **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

Windows イベント・ログ・ポリシー・エディタが開きます。




- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。

- a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。




[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]

- b. [ポリシー テンプレート グループ] ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。

- c. [Windows Event Log Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。

- 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート] ペインで  ボタンをクリックし、 **新規ポリシー テンプレートの追加**]または **新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

新規 Windows イベント・ログ・ポリシー・エディタが開きます。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート] ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集**]または **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

Windows イベント・ログ・ポリシーの編集エディタが開きます。

## タスク

### Windows イベント・ログ・ポリシーの作成方法

1. Windows イベント・ログ・ポリシー・エディタの[プロパティ] ページで、ポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストルメンテーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ] ページ」(268ページ)を参照してください。


2. [ソース] ページでポリシーが読み取るイベント・ログと、ポリシーがイベント・ログの読み取りを開始する場所を示します。また、イベント・ログがない場合にはイベントを受信するよう選択することもできます。

詳細については、「[ソース] ページ」(269ページ)を参照してください。

3. オプション:[標準設定] ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

**注:** 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(260ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(261ページ)、「[命令]タブ」(262ページ)、および「[詳細設定]タブ」(257ページ)を参照してください。

4. [ルール]ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。
  - a. [ポリシー ルール]リストで、 ボタンをクリックしてから、次のオプションのいずれかをクリックします。
    - **一致するルールのイベント**:条件を満たしたときにイベントをBSMに送信したい場合、このオプションを使用します。
    - **一致するルールの抑制**:指定の条件を満たしたときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
    - **一致しないルールの抑制**:指定した条件を満たしていないときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。

- b. [ルールの説明]をクリックし、ルールの概要を入力します。

詳細については、「[ポリシー ルール]リスト」(266ページ)を参照してください。

5. [ルール内容]の[条件]タブを使用して、ポリシーが監視するWindows イベント・ログ内のエントリを照合します。

テキスト・ボックスでは、ポリシー変数、ポリシー・パラメータ、およびパターン・マッチングを使用できません。

たとえば、BSM Connector サービスの問題を報告するシステム・イベント・ログ内のエントリを照合するよう、次の条件を設定します。

- **Source 等しい**:Service Control Manager
- **タイプ等しい**:Error / Critical
- **イベント ID 等しい**:7016
- **説明と一致**:<\*>BSM Connector service has reported an invalid current state<\*>

詳細については、「[条件]タブ」(258ページ)と「[ポリシー・ルールにおけるパターン・マッチング」(366ページ)を参照してください。

6. オプション:タイプ「一致するルールのイベント」のルールを作成する場合は、ポリシーが送信するイベントの属性を設定します。標準設定のイベント属性はここで上書きできます。また、オペレータが関連するイベントを処理し、アクションを設定して問題を自動的に、または手動で解決するのに役立つ命令を作成できます。

テキスト・ボックスでは、インジケータ、ポリシー変数、ポリシー・パラメータを使用できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(260ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(261ページ)、「[カスタム属性]タブ」(259ページ)、「[命令]タブ」(262ページ)、「[詳細設定]タブ」(257ページ)、および「[アクション]タブ」(255ページ)を参照してください。

7. オプション:[オプション]ページで、ローカル・イベント・ログ、不一致イベント、パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については、「[オプション]ページ」(263ページ)を参照してください。

8. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「[アクション]タブ」(255ページ)
- 「[詳細設定]タブ」(257ページ)
- 「[条件]タブ」(258ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(259ページ)
- 「[標準設定]ページ」(260ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(260ページ)
- 「[イベント関連処理]タブ」(261ページ)
- 「[インジケータ]タブ」(261ページ)
- 「[命令]タブ」(262ページ)
- 「[オプション]ページ」(263ページ)
- 「[ポリシーデータ]ページ」(264ページ)
- 「[ポリシーパラメータ]タブ」(265ページ)
- 「[ポリシールール]リスト」(266ページ)
- 「[ポリシー変数]タブ」(267ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(268ページ)
- 「[ルール]ページ」(269ページ)
- 「[ソース]ページ」(269ページ)

### [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。

UI 要素	説明
非エージェントユーザ	<p>標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数(%%password%% など)の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	<p>コマンドを開始するノードの名前。変数 &lt;\$MSG_NODE_NAME&gt; を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。</p>
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	<p>コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。</p>
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	<p>コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。</p>
イベントを直ちに送信	<p>ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐにBSMサーバにイベントを送信します。これは標準設定です。</p>
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	<p>BSMサーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSMサーバに通知しないようにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>イベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</b></li> </ul>
オペレータ開始コマンド	<p>ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSMユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Webブラウザに表示される指示などを指定できます。</p>



UI 要素	説明
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェント ユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ] を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>Enable policy parameter in Password field : [パスワード] フィールド への変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

### [詳細設定] タブ

注: 標準設定のイベント属性では、イベント・ドリルダウン URL 属性を設定できません。このイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です (Oracle, OS など)。



UI 要素	説明
オブジェクト	コンピュータ, プリンタ, モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり, オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり, BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース(MSI)により, 外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして, 読み書き型のアプリケーション( イベントを読み取り, 属性を変更し, サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど)を使用できます。アプリケーションも, イベントの読み取り, 独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると, サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを, MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合, 標準設定をこのルールに適用するか, または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに, イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件] タブ

UI 要素	説明
コンピュータ等しい	<p>イベントが発生したコンピュータの名前。このフィールドに値を入力して, 特定ノードからのイベント・ログ・エントリを照合します。</p> <p>OR 演算子 ( ) を使用して複数のエントリを区切るか, 空白にしてすべてのノードを取得します。</p> <p>例 :celery.example.com broccoli.example.com</p>
source 等しい	<p>イベントのソース(アプリケーション, セキュリティ, システムなど)。</p> <p><b>ヒント:</b> [ソース]フィールドでパターン・マッチングを使用できますが, まずこの機能を使用するノードでこの機能を有効にする必要があります。[ソース]フィールドのパターン・マッチングを有効にするには, eaagt 名前空間のエージェント・パラメータ OPC_COND_EVT_LOG_SRC_PAT を TRUE にします。</p>
カテゴリ等しい	イベント・ソースによるイベントの分類。

UI 要素	説明
タイプ等しい	<p>イベントのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーション, システム, およびその他のイベント・ログ: <ul style="list-style-type: none"> <li>情報 / 成功の監査</li> <li>警告 / 失敗の監査</li> <li>エラー / 重大</li> </ul> </li> <li>セキュリティ・イベント・ログ: <ul style="list-style-type: none"> <li>失敗の監査</li> <li>成功の監査</li> </ul> </li> </ul>
イベント ID 等しい	<p>イベント・タイプを特定するイベント番号。</p> <p>形式: 10 進数, 16 進数</p>
Description matches	<p>イベントの説明。</p> <p>注: 照合パターンには, 改行文字を含められません。複数行のパターンを照合する必要がある場合, 特殊文字 &lt;*&gt; を使用して, 任意のキャリッジ・リターン/ラインフィード文字を照合します。</p> <p>ヒント: 値を照合するときには, 標準の HP Operations Agent パターン照合ルールを使用できます。▶ をクリックして, パターン・マッチング正規表現ツールボックスを開きます。ツールボックスには, 次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>パターン・マッチング正規表現:</b> 式をクリックして, パターンに式を挿入します。</li> <li><b>変数結合オプション:</b> 変数結合オプションには, ルールの大文字小文字の区別, フィールドの区切り文字が含まれます。ルールのパターン・マッチング・オプションを指定しないと, 標準設定(大文字小文字の区別あり, 空白とタブ文字が区切り文字), またはポリシーの標準設定オプションが使用されます。</li> </ul>

### [カスタム属性]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>新規カスタム属性の作成:</b>「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには, 名前をダブルクリックして選択し, 新しい名前を入力します。</p>
	<p><b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。</p>

UI 要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(260ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(261ページ)、「[命令]タブ」(262ページ)、および「[詳細設定]タブ」(257ページ)を参照してください。

### [イベント属性]タブ

**注:** 標準設定のイベント属性では、重大度、カテゴリ、ノード属性のみを設定できます。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。

UI 要素	説明
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクル・ステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

### [イベント関連処理]タブ



注: 標準設定のイベント属性では、次の属性を設定できません。




- キーの付いたイベントを終了
- サーバの重複イベントの削除を抑止

これらのイベント属性は個別ルール内で設定できます。

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。
イベント サプレッションを有効化	このポリシーで生成されるイベントの抑制を有効にします。 イベントの標準設定でイベントの抑制が有効な場合、イベントの抑制をこのルールに適用するか、またはイベントの抑制をこのルールでオーバーライドできます。 <b>イベント抑制の標準設定を使用:</b> イベントで設定したイベントの抑制をこのルールに適用します。 <b>イベント抑制の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに対して特定のイベント抑制を設定できます。

### [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。  注: BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。
	<b>[ドロップターゲット形式を選択]</b> ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li>• <b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>

UI 要素	説明
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>

## [命令]タブ


UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>

## [オプション] ページ


UI 要素	説明
ローカル・イベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカル・ノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>
ルールに一致し、イベントのトリガとなる	イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。
ルールに一致し、無視されます	イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。
どのルールにも一致しません	ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。
一致しないイベント	<p>適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。</p> <p>イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。</p> <p><b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。</p>
イベント・ブラウザに送信される	イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
閉じたイベント・ブラウザに送信される	[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。

UI 要素	説明
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無, およびフィールド区切り文字を定義します。
大文字と小文字を区別する	ルールのパターンがソース・データと比較される場合に, テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると, ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ, 一致と判断されます。これは標準設定です。
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は, パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む, 合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば, バックスラッシュ, アスタリスク, 文字 A でイベントのフィールドを定義する場合, 「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると, 標準設定の区切り文字(空白, およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無, および区切り文字を設定できます。このためには, ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより, 個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し, [すべてに適用する]をクリックしない場合, パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>





## [ポリシー データ] ページ





UI 要素	説明
	ローカル・ファイル・システムからロード: クリックして, [Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して, ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり, 末尾が _data です。








UI 要素	説明
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>

UI 要素	説明
パラ メー タ	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [ポリシー ルール] リスト

UI 要素	説明
	<p><b>新規規則の作成:</b> 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>一致する規則のイベント:</b> 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>• <b>一致する規則の抑制:</b> 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>• <b>一致しない規則の抑制:</b> 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul>
	<p><b>規則のコピー:</b> 選択した規則がコピーされます。コピーした規則の説明は、書き換えおよび編集が可能です。</p>
	<p><b>規則の削除:</b> 選択した規則が削除されます。</p>
	<p><b>上へ移動:</b> 選択した規則がルール順序の上位に移動します。</p>
	<p><b>下へ移動:</b> 選択した規則がルール順序の下位に移動します。</p>

UI 要素	説明
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルール・リストでそのシーケンス番号を持つルールを選択します。</p> <p>ルール・リストから特定のルールを選択するには、[移動先]フィールドでルール・シーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルール・リストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
🔿	<p><b>ルール フィルタをアクティブ化/非アクティブ化:</b> ルール・フィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。</p>
Seq.	<p>ルール・シーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。</p>
ルールの説明	<p>ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。</p>
ルールのタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>一致するルールのイベント:</b> 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>● <b>一致するルールの抑制:</b> 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>● <b>一致しないルールの抑制:</b> 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul> <p>ルール・タイプを変更するには、ルール・リストで現在のルール・タイプをクリックし、ドロップダウン・リストから別のルール・タイプを選択します。</p>

### [ポリシー変数]タブ

Windows イベント・ログ・ポリシーでは次の変数を使用できます。変数がスペースを含む値を返す場合は、変数を引用符で囲みます。

変数	説明
<\$MSG_NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123

変数	説明
<\$MSG_ NODE_ NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_ TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。Windows イベント・ログの場合、この値はイベントIDと説明です。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシーID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新しいバージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p><b>注:</b> HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)

UI 要素	説明
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決定します(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	<p>ポリシーを最後に保存したユーザの名前。</p>
インストール	<p>このポリシー用に選択されたインストール。インストールは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。</p>
OS タイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1つ以上のポリシー・ルールを定義できます。

詳細については、「[ポリシールール]リスト」(266ページ)、「[条件]タブ」(258ページ)、「[イベント属性]タブ」(260ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(261ページ)、「[カスタム属性]タブ」(259ページ)、「[詳細設定]タブ」(257ページ)、および「[アクション]タブ」(255ページ)を参照してください。

## [ソース] ページ

UI 要素	説明
イベント・ログ名	<p>Windows により、いくつかのイベント・ログが生成されます。どのイベント・ログをポリシーで監視するか選択できます。複数のイベント・ログを監視する場合、複数のポリシーが必要になります。</p>

ログ・ファイルが存在しない場合イベントを送信	何らかの理由によりイベント・ログが存在しない場合, エージェントがイベントを送信します。 標準設定値 : 選択なし
------------------------	--









読み取りモード	<p>イベント・ログ・ポリシーの読み取りモードは、ポリシーがイベント・ログ全体を処理するか、新しいエントリのみを処理するかを示します。</p>			
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="423 275 1159 877"> <p><b>前回の位置から読み取る:</b> ポリシーが管理対象ノード上で有効な場合、ポリシーはイベント・ログに書き込まれた、新しい(追記された)エントリのみを読み取ります。前回の読み取りからイベント・ログのサイズが減少している場合は、イベント・ログ全体が読み取られます。ポリシーが無効なときにイベント・ログに追加されるイベント・ログ・エントリは、ポリシーによって処理されません。エージェントが停止すると、エージェントの停止中に監視対象イベント・ログに書き込まれるすべてのエントリは、エージェントの再開後に処理されます。</p> <p>ポリシーが有効なときに発生するイベント・ログ・エントリのみを処理対象とする場合、このオプションを選択します。</p> </td> <td data-bbox="1159 275 1383 877"> <p><b>メリット:</b> 同じエントリを2回読み取る可能性があります(いくつかのエントリが削除されたことにより、イベント・ログのサイズが減少する場合を除く)。</p> <p><b>デメリット:</b> ポリシーが無効なときにイベント・ログに書き込まれるエントリが、ポリシーにより処理されない。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="423 877 1159 1499"> <p><b>最初から読み取る(初回):</b> ポリシーが有効になるか、エージェントが再開するたびに、ポリシーがイベント・ログ全体を読み取ります。このようにすることで、ファイル内のすべてのエントリが、ポリシー内のルールと比較されます。その後は、ポリシーがファイルを読み取るたびに、ファイルの新しい(追記された)エントリのみが処理されます。</p> <p>ポリシーが有効なときに、ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリをポリシーが処理するように設定する場合、このオプションを選択します。</p> </td> <td data-bbox="1159 877 1383 1499"> <p><b>メリット:</b> ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリがポリシーによって処理されます。</p> <p><b>デメリット:</b> 有効なポリシーが無効にされてから再度有効になった場合、またはエージェントが停止して再開した場合、重複エントリが発生することがあります。</p> </td> </tr> </table>	<p><b>前回の位置から読み取る:</b> ポリシーが管理対象ノード上で有効な場合、ポリシーはイベント・ログに書き込まれた、新しい(追記された)エントリのみを読み取ります。前回の読み取りからイベント・ログのサイズが減少している場合は、イベント・ログ全体が読み取られます。ポリシーが無効なときにイベント・ログに追加されるイベント・ログ・エントリは、ポリシーによって処理されません。エージェントが停止すると、エージェントの停止中に監視対象イベント・ログに書き込まれるすべてのエントリは、エージェントの再開後に処理されます。</p> <p>ポリシーが有効なときに発生するイベント・ログ・エントリのみを処理対象とする場合、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> 同じエントリを2回読み取る可能性があります(いくつかのエントリが削除されたことにより、イベント・ログのサイズが減少する場合を除く)。</p> <p><b>デメリット:</b> ポリシーが無効なときにイベント・ログに書き込まれるエントリが、ポリシーにより処理されない。</p>	<p><b>最初から読み取る(初回):</b> ポリシーが有効になるか、エージェントが再開するたびに、ポリシーがイベント・ログ全体を読み取ります。このようにすることで、ファイル内のすべてのエントリが、ポリシー内のルールと比較されます。その後は、ポリシーがファイルを読み取るたびに、ファイルの新しい(追記された)エントリのみが処理されます。</p> <p>ポリシーが有効なときに、ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリをポリシーが処理するように設定する場合、このオプションを選択します。</p>
<p><b>前回の位置から読み取る:</b> ポリシーが管理対象ノード上で有効な場合、ポリシーはイベント・ログに書き込まれた、新しい(追記された)エントリのみを読み取ります。前回の読み取りからイベント・ログのサイズが減少している場合は、イベント・ログ全体が読み取られます。ポリシーが無効なときにイベント・ログに追加されるイベント・ログ・エントリは、ポリシーによって処理されません。エージェントが停止すると、エージェントの停止中に監視対象イベント・ログに書き込まれるすべてのエントリは、エージェントの再開後に処理されます。</p> <p>ポリシーが有効なときに発生するイベント・ログ・エントリのみを処理対象とする場合、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> 同じエントリを2回読み取る可能性があります(いくつかのエントリが削除されたことにより、イベント・ログのサイズが減少する場合を除く)。</p> <p><b>デメリット:</b> ポリシーが無効なときにイベント・ログに書き込まれるエントリが、ポリシーにより処理されない。</p>			
<p><b>最初から読み取る(初回):</b> ポリシーが有効になるか、エージェントが再開するたびに、ポリシーがイベント・ログ全体を読み取ります。このようにすることで、ファイル内のすべてのエントリが、ポリシー内のルールと比較されます。その後は、ポリシーがファイルを読み取るたびに、ファイルの新しい(追記された)エントリのみが処理されます。</p> <p>ポリシーが有効なときに、ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリをポリシーが処理するように設定する場合、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリがポリシーによって処理されます。</p> <p><b>デメリット:</b> 有効なポリシーが無効にされてから再度有効になった場合、またはエージェントが停止して再開した場合、重複エントリが発生することがあります。</p>			
<p><b>注:</b> 各ポリシーは、その他のポリシーとは独立して同じイベント・ログを読み取ります。たとえば、読み取りモード[最初から読み取る(初回)]の「ポリシー1」が有効で、さらに同じ読み取りモードの「ポリシー2」がすでに存在する場合、「ポリシー1」が有効になるとファイル全体を読み取ることを意味します。</p> <p>標準設定値: 前回の位置から読み取る</p>				

## Windows 管理 インタフェース・ポリシーの設定




Windows 管理 インタフェース(WMI) ポリシーを使用すると、WMI クラスやインスタンスのプロパティを監視できます。WMI ポリシーは、WMI プロパティがユーザにより指定された値と一致したとき、または指定した WMI インスタンスが作成、変更、削除されたときに、イベントを作成し、コマンドを起動するよう設定できます。

### アクセス方法

Windows 管理 インタフェース・ポリシー・エディタでは、Windows 管理 インタフェース・ポリシーを作成、編集できます。Windows 管理 インタフェース・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード)]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[Windows Management Interface Templates]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[ ポリシー テンプレートの編集]または[ ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]ボタンをクリックします。




Windows 管理 インタフェース・ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [Windows Management Interface Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[ 新規ポリシー テンプレートの追加]または[ 新規ポリシー テンプレートの追



加(RAW モード)]ボタンをクリックします。

新規 Windows 管理 インタフェース・ポリシー・エディタが開きます。

- 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、 **ポリシー テンプレートの編集**または **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)**]ボタンをクリックします。

Windows 管理 インタフェース・ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「WMI の情報」(273ページ)
- 「WMI インスタンスとイベント」(273ページ)

### WMI の情報

WMI には Windows の設定や WMI 名前空間に情報を書き込むその他のプログラムの設定に関する膨大な情報が含まれています。便利な WMI ポリシーを作成するには、WMI で利用可能な情報の種類を理解しておく必要があります。

WMI で提供される情報は名前空間に分割されます。WMI が提供する標準設定の名前空間は Root, Root\Default, Root\Security, Root\CimV2 です。その他のアプリケーションでは別の名前空間が追加される場合があります。

名前空間 Root\CimV2 は最も興味深い名前空間の1つです。ここには、Windows オペレーティング・システムと、コンピュータにインストールされているハードウェアに関する膨大な情報が含まれています。最も便利なクラスには Win32\_ というプレフィックスが付いています。たとえば、Win32\_Service, Win32\_Desktop, Win32\_Share, Win32\_PhysicalDisk などがあります。情報に親しむ優れた方法は、wbemtest などのツールを使用してクラスのコンテンツを調べることです。

### WMI インスタンスとイベント

インスタンスは、WMI リポジトリに書き込まれる静的情報です。この情報は、変更または削除されるまでリポジトリ内に残ります。

WMI イベントには、WMI リポジトリで簡潔に表示される情報が含まれます。この情報は一時的で、リポジトリ内には残りません。一部のイベントは標準設定で WMI によって定義されており、**組み込みイベント**と呼ばれます。組み込みイベントには、インスタンス、クラス、名前空間の作成、修正、削除が含まれます。その他のイベントは**外部イベント**と呼ばれ、名前空間作成者が定義した場合にのみ WMI ポリシーで利用できます。いずれの場合も、名前空間作成者がイベントのプロバイダを作成した場合にのみ WMI ポリシーでイベントを使用できますが、組み込みイベントはポーリング間隔を使用して WMI ポリシーによってシミュレートできます。

## タスク

Windows 管理 インタフェース・ポリシーの作成方法

1. Windows 管理 インタフェース・ポリシー・エディタの[プロパティ]ページで、ポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストールメンション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。

詳細については、「[プロパティ] ページ」(288ページ)を参照してください。

2. [ソース] ページから、WMI ポリシーで監視するインスタンスまたはイベントを選択します。
  - a. オプション: 監視する WMI データベースをホストする[ノード]を入力します。ノードを指定していない場合は、ポリシーはデプロイ先のノードの WMI データベースを監視します。
  - b. 管理するデータを含む[WMI 名前空間]を入力します。例: Root\CimV2
  - c. [オブジェクト タイプ]を[イベント]または[インスタンス]にします。
  - d. 監視するイベントを含む[イベント/インスタンス クラス名]を入力します。例: Win32\_Service
  - e. オプション: 標準設定のエージェント・アカウント以外アカウントを使用して WMI データベースにアクセスする場合は、[非エージェント ユーザ]をクリックし、ローカルの管理者権限を持つユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
  - f. ポリシーがイベントまたはインスタンスをクエリする方法を定義します。
    - プロバイダを定義しているイベントを監視する場合は、[クエリのタイプ]に情報を入力する必要はありません。
    - プロバイダが定義されていない組み込みイベントを監視する場合は、[クエリのタイプ]でポーリング間隔を指定する必要があります。
    - クラス内に含まれる特定の値との照合を行う場合は、[クラスのインスタンスをクエリ]を選択します。選択したインスタンスを WMI ポリシーがチェックする頻度を表すポーリング間隔を指定する必要があります。
    - あるいは、インスタンス、インスタンスを含むクラス、インスタンスを含む名前空間の作成、変更または削除が行われたかどうかをチェックする場合は、[これらのインスタンスの組み込みイベントのクエリ]を選択します。イベントのプロバイダが定義されていない場合は、Windows 管理 インタフェース・ポリシーが選択したオブジェクトをチェックする頻度を示す[ポーリング間隔]も指定する必要があります(この結果は WBEM クエリ言語の within 句に反映されます)。
  - g. オプション:[グローバル WQL フィルタを使用]をクリックすると、ポリシーが評価を開始する前に、インスタンスやイベントに適用するグローバル・フィルタを定義します。フィルタを通過しないイベントやインスタンスは、ポリシーによって評価されません。

構文 *PROPERTY OPERATOR VALUE* を使用します。たとえば、StartMode = "Auto" はプロパティ StartMode が Auto に設定されているすべてのインスタンスをフィルタします。

グローバル・フィルタで組み込みイベントをフィルタする場合、構文は次のいずれかになります。


- TargetInstance.*PROPERTY OPERATOR VALUE*
- TargetClass.*PROPERTY OPERATOR VALUE*
- TargetNamespace.*PROPERTY OPERATOR VALUE*

例: TargetInstance ISA "ds\_domaindns"

3. オプション:[標準設定] ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

注: 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(281ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(282ページ)、「[命令]タブ」(283ページ)、および「[詳細設定]タブ」(278ページ)を参照してください。

4. [ルール] ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。
  - a. [ポリシー ルール] リストで、 ボタンをクリックしてから、次のオプションのいずれかをクリックします。
    - **一致するルールのイベント**: 条件を満たしたときにイベントをBSMに送信したい場合、このオプションを使用します。
    - **一致するルールの抑制**: 指定の条件を満たしたときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
    - **一致しないルールの抑制**: 指定した条件を満たしていないときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。

- b. [ルールの説明] をクリックし、ルールの概要を入力します。

詳細については、「[ポリシー ルール] リスト」(287ページ)を参照してください。

5. [ルール内容] の[条件] タブを使用して、WMI ポリシー・ルールの条件を指定します。条件は一連のWMI インスタンスまたはイベント・プロパティと、照合を成功させるためにこれらのプロパティで必要となる値です。

テキスト・ボックスでは、ポリシー変数、ポリシー・パラメータ、およびパターン・マッチングを使用できません。

たとえば、次の条件はサービス(名前空間 `Root\CimV2` のクラス `Win32_Service` のインスタンス)が「停止」状態かどうかを調べます。

- **プロパティ名**: `State`
- **演算子**: `equals`
- **オペランド**: `Stopped`

詳細については、「[条件]タブ」(279ページ)と「ポリシー・ルールにおけるパターン・マッチング」(366ページ)を参照してください。

6. オプション: タイプ「一致するルールのイベント」のルールを作成する場合は、ポリシーが送信するイベントの属性を設定します。標準設定のイベント属性はここで上書きできます。また、オペレータが関連するイベントを処理し、アクションを設定して問題を自動的に、または手動で解決するのに役立つ命令を作成できます。

テキスト・ボックスでは、インジケータ、ポリシー変数、ポリシー・パラメータを使用できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(281ページ)、「[イベント関連処理]タブ」(282ページ)、「[カスタム属性]タブ」(280ページ)、「[命令]タブ」(283ページ)、「[詳細設定]タブ」(278ページ)、および「[アクション]タブ」(276ページ)を参照してください。

7. オプション: [オプション] ページで、ローカル・イベント・ログ、不一致イベント、パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については、「[オプション] ページ」(283ページ)を参照してください。

8. [OK]をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

### 本項の内容

- 「[アクション]タブ」(276ページ)
- 「[詳細設定]タブ」(278ページ)
- 「[条件]タブ」(279ページ)
- 「[カスタム属性]タブ」(280ページ)
- 「[標準設定]ページ」(281ページ)
- 「[イベント属性]タブ」(281ページ)
- 「[イベント関連処理]タブ」(282ページ)
- 「[インジケータ]タブ」(282ページ)
- 「[命令]タブ」(283ページ)
- 「[オプション]ページ」(283ページ)
- 「[ポリシー データ]ページ」(285ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(286ページ)
- 「[ポリシー ルール]リスト」(287ページ)
- 「[ポリシー変数]タブ」(288ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(288ページ)
- 「[ルール]ページ」(290ページ)
- 「[ソース]ページ」(290ページ)

### [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。

UI 要素	説明
非エージェントユーザ	<p>標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数(%%password%% など)の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	<p>コマンドを開始するノードの名前。変数 &lt;\$MSG_NODE_NAME&gt; を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。</p>
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	<p>コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。</p>
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	<p>コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。</p>
イベントを直ちに送信	<p>ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐにBSMサーバにイベントを送信します。これは標準設定です。</p>
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	<p>BSMサーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSMサーバに通知しないようにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>イベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</b></li> <li>• <b>ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</b></li> </ul>
オペレータ開始コマンド	<p>ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSMユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Webブラウザに表示される指示などを指定できます。</p>









UI 要素	説明
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に <code>cmd /c</code> を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェント ユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ] を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>Enable policy parameter in Password field : [パスワード] フィールド への変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

## [詳細設定] タブ

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です (Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です (C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意な識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。

UI 要素	説明
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース (MSI) により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部 イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション (イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど) を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合、標準設定をこのルールに適用するか、または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに、イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件] タブ

UI 要素	説明
	<b>新規項目:</b> 標準設定の equals 演算子で新しい条件を作成します。
	<b>項目の削除:</b> 選択した条件を削除します。
	<b>上へ移動:</b> 選択した条件を上位の順序へ移動させます。
	<b>下へ移動:</b> 選択した条件を下位の順序へ移動させます。
	<b>展開:</b> 条件のリストを展開し、すべての詳細情報を表示します。
	<b>折りたたみ:</b> 条件のリストを折りたたみ、名前のみを表示して詳細情報を非表示にします。
	クリックすると、条件の詳細情報が表示されます。
	クリックすると、条件の詳細情報が非表示になります。
プロパティ	ルールを検証対象となるプロパティの名前。プロパティ名は英字で始まっている必要があります。



UI 要素	説明
演算子	<p>次の演算子を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次と等しい</li> <li>等しくない</li> <li>より小さい</li> <li>より大きい</li> <li>以下</li> <li>以上</li> <li>一致 ([演算数]フィールドにパターンを入力できます)</li> </ul>
演算数	<p>比較対象となる値 (またはプロパティ)。これは、選択した比較演算子を使用して、[プロパティ]で指定したプロパティと比較する値またはプロパティです。プロパティ名は英字で始まっている必要があります。</p> <p><b>ヒント:</b> 値を照合するときには、標準のHP Operations Agent パターン照合ルールを使用できます。[演算数]フィールドで照合演算子を選択して ▶ をクリックし、パターン・マッチング正規表現ツールボックスを開きます。ツールボックスには、次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>パターン・マッチング正規表現:</b> 式をクリックして[演算数]フィールドに挿入します。</li> <li><b>変数結合オプション:</b> 変数結合オプションには、ルールの大文字小文字の区別、フィールドの区切り文字が含まれます。ルールのパターン・マッチング・オプションを指定しないと、標準設定 (大文字小文字の区別あり、空白とタブ文字が区切り文字)、またはポリシーの標準設定オプションが使用されます。</li> </ul>

## [カスタム属性]タブ

UI 要素	説明
✱	<p><b>新規カスタム属性の作成:</b> 「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには、名前をダブルクリックして選択し、新しい名前を入力します。</p>
✖	<p><b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。</p>



UI 要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(281ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(282ページ)、「[命令]タブ」(283ページ)、および「[詳細設定]タブ」(278ページ)を参照してください。






### [イベント属性]タブ

UI 要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(Database, Security, Network など)。イベント・カテゴリは、概念的には HP Operations Manager のメッセージ・グループに似ています。
クローズ済みステータスとして送信	イベントのライフサイクルステータスを[解決済み]に設定してから、オペレーション管理のイベント・ブラウザに送信します。

## [イベント関連処理]タブ

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。
イベント サブ レクションを有 効化	<p>このポリシーで生成されるイベントの抑制を有効にします。</p> <p>イベントの標準設定でイベントの抑制が有効な場合、イベントの抑制をこのルールに適用するか、またはイベントの抑制をこのルールでオーバーライドできます。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を使用:</b> イベントで設定したイベントの抑制をこのルールに適用します。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに対して特定のイベント抑制を設定できます。</p>

## [インジケータ]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p><b>注:</b> BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
	<p>[<b>ドロップターゲット形式を選択</b>]ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li><b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールからのリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>

## [命令]タブ

UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>



## [オプション] ページ

UI 要素	説明
ローカル・イベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカル・ノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>
ルールに一致し、イベントのリガとなる	<p>イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。</p>
ルールに一致し、無視されます	<p>イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。</p>









UI 要素	説明
どのルールにも一致しません	ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。
一致しないイベント	適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。  イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。  <b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。
イベント・ブラウザに送信される	イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
閉じたイベント・ブラウザに送信される	[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無、およびフィールド区切り文字を定義します。
大文字と小文字を区別する	ルールのパターンがソース・データと比較される場合に、テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると、ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ、一致と判断されます。これは標準設定です。

UI 要素	説明
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は、パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む、合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば、バックスラッシュ、アスタリスク、文字 A でイベントのフィールドを定義する場合、「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると、標準設定の区切り文字(空白、およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無、および区切り文字を設定できます。このためには、ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより、個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し、[すべてに適用する]をクリックしない場合、パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>







## [ポリシー データ] ページ

UI 要素	説明
	<p><b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が _data です。</p>
	<p><b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。</p>
<ポリシー・データ>	<p>テキスト形式のポリシー・データ。</p>

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	パラメータの作成:[パラメータの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
	パラメータの編集:[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
	パラメータの削除: 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p>パラメータを同期: ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期]ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>
<パラメータ>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ]タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [ポリシールール]リスト

UI要素	説明
	<p><b>新規ルールの作成:</b> 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul>
	<p><b>ルールのコピー:</b> 選択したルールがコピーされます。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。</p>
	<p><b>ルールの削除:</b> 選択したルールが削除されます。</p>
	<p><b>上へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の上位に移動します。</p>
	<p><b>下へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の下位に移動します。</p>
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルールでそのシーケンス番号を持つルールを選択します。</p> <p>ルールリストから特定のルールを選択するには、[移動先]フィールドでルールのシーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルールリストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
	<p><b>ルールフィルタをアクティブ化/非アクティブ化:</b> ルールフィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。</p>
Seq.	<p>ルールのシーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。</p>
ルールの説明	<p>ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。</p>

UI 要素	説明
ルール の タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul> <p>ルール・タイプを変更するには、ルール・リストで現在のルール・タイプをクリックし、ドロップダウン・リストから別のルール・タイプを選択します。</p>

### [ポリシー変数]タブ

Windows イベント・ログ・ポリシーでは次の変数を使用できます。変数がスペースを含む値を返す場合は、変数を引用符で囲みます。

変数	説明
<\$MSG_NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123
<\$MSG_NODE_NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$WBEM:WMI class property>	変数内で指定されるWMIプロパティの値を返します (<\$WBEM:TimeCreated> など)。サンプル出力: 19991130105330.000000+060)

### [プロパティ]ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。



UI 要素	説明
ポリシー ID	ポリシーの初回作成時に GUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p>注: HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新项目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。
インストルメンテーション	このポリシー用に選択されたインストルメンテーション。インストルメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストルメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。

<sup>1</sup>(グローバル一意識別子)

UI 要素	説明
OS タイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

### [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1つ以上のポリシー・ルールを定義できます。

詳細については、「[ポリシー ルール] リスト」(287ページ)、「[条件] タブ」(279ページ)、「[イベント属性] タブ」(281ページ)、「[イベント 関連処理] タブ」(282ページ)、「[カスタム属性] タブ」(280ページ)、「[詳細設定] タブ」(278ページ)、および「[アクション] タブ」(276ページ)を参照してください。

### [ソース] ページ

UI 要素	説明
ノード	監視する WMI データベースをホストするノード。このノードをエージェントレス・ノードにすることができます。ノードを指定していない場合は、ポリシーはデプロイ先のノードの WMI データベースを監視します。
WMI 名前空間	管理するデータを含む名前空間。
オブジェクトタイプ	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>インスタンス:</b> WMI リポジトリに書き込む静的な情報。この情報は、変更または削除されるまでリポジトリ内に残ります。</li> <li><b>イベント:</b> WMI リポジトリに簡易表示される情報。この情報は一時的で、リポジトリ内には残りません。一部のイベントは標準設定で WMI によって定義されており、<b>組み込みイベント</b>と呼ばれます。組み込みイベントには、インスタンス、クラス、名前空間の作成、修正、削除が含まれます。その他のイベントは<b>外部イベント</b>と呼ばれ、名前空間作成者が定義した場合にのみ WMI ポリシーで利用できます。いずれの場合も、名前空間作成者がイベントのプロバイダを作成した場合にのみ WMI ポリシーでイベントを使用できますが、組み込みイベントはポーリング間隔を使用して WMI ポリシーによってシミュレートできます。</li> </ul>

イベント・クラス名/インスタンス・クラス名	監視するイベントまたはインスタンスを含むクラス(クラスはデータ・プロパティの集合で、WMI リポジトリに保存される情報の定義となります)。
エージェント・ユーザ	<p>選択すると、次のアカウント情報を使用してエージェントからノードのWMI データベースにアクセスします。このアカウントはエージェントレス・ノードに存在する必要があります。また、ローカル管理者権限が必要となります。選択しない場合、エージェントのアカウントが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b>: エージェントからWMI データベースへの接続に使用するアカウントのユーザ名。</li> <li>• <b>パスワード</b>: 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b>: [パスワード]フィールドへの変数 (%%password%% など) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシーパラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
クエリのタイプ	クエリのタイプは、監視中のオブジェクト・タイプ( イベントまたはインスタンス)により異なります。
クエリ・イベント	プロバイダが定義されているイベントを監視する場合、ここに情報を入力する必要はありません。プロバイダが定義されている組み込みイベントを監視する場合、ここでポーリング間隔を指定する必要はありません。
クラスのインスタンスをクエリ	クラス内に含まれる特定の値との照合を行う場合は、[クラスのインスタンスをクエリ]を選択します。選択したインスタンスをWMI ポリシーがチェックする頻度を表すポーリング間隔を指定する必要があります。

これらのインスタンスの組み込みイベントのクエリ	<p>インスタンス、インスタンスを含むクラス、またはインスタンスを含む名前空間の作成、変更、または削除を確認する必要がある場合、[これらのインスタンスの組み込みイベントのクエリ]を選択します。イベントのプロバイダが定義されていない場合は、Windows 管理インタフェース・ポリシーが選択したオブジェクトをチェックする頻度を示す[ポーリング間隔]も指定する必要があります(この結果はWBEM クエリ言語の <b>within</b> 句に反映されます)。</p>
グローバル WQL フィルタを使用	<p>グローバル・フィルタをルールとして記述できます。これは、ポリシーでインスタンスまたはイベントを評価する前に、インスタンスまたはイベントに適用するテストです。グローバル・フィルタにより、フィルタを通らないイベントまたはインスタンスはポリシーにより評価されないため、パフォーマンスが向上します(グローバル・フィルタは、WBEM クエリ言語の <b>where</b> 句で表します)。</p> <p><b>グローバル・フィルタの例</b></p> <p>グローバル・フィルタの構文は、次の3つの部分からなります。</p> <p>プロパティ 演算子 値</p> <p>例: <code>_PATH = "C:/program files"</code></p> <p>グローバル・フィルタにより組み込みイベントがフィルタリングされる場合、次のように構文が若干異なります。</p> <p>TargetInstance.<i>PROPERTY OPERATOR VALUE</i>  または  TargetClass.<i>PROPERTY OPERATOR VALUE</i>  または  TargetNamespace.<i>PROPERTY OPERATOR VALUE</i></p> <p>例:</p> <pre>TargetInstance.InteractWithDeskTop = 1 TargetNamespace.name = "CIMV2"</pre>


## XML ファイル・ポリシーの設定








XML ファイル・ポリシーを使用すると、特定のルールと一致する要素や属性がないかXML ファイルを監視できます。各ルールは条件の定義(およびオプションとしてイベントの定義)で構成されます。XML ファイルに条件と一致する要素やイベントが含まれているときに、イベントを作成できます。

### アクセス方法

XML ファイル・ポリシー・エディタでは、XML ファイル・ポリシーを作成、編集できます。XML ファイル・ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。




- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。




[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。
  - c. [管理テンプレートおよびアスペクト]ペインで、アスペクトをクリックし、 ボタンをクリックします。

[アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [ポリシー テンプレート]タブをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新しいポリシー・テンプレートを追加する
      -  ボタンをクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
      -  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ]または[  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
      - タイプ[XML File Template]を選択し、[OK]をクリックします。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、リストのポリシー・テンプレート、 ボタンの順にクリックしてから、[  ポリシー テンプレートの編集 ]または[  ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。

XML ポリシー・エディタが開きます。

- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ]ペインの[ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type]を展開します。
  - c. [XML File Templates]フォルダをクリックし、次のいずれかの操作を実行します。
    - 新規ポリシー・テンプレートを追加するには、[ポリシー テンプレート]ペインで  ボタンをクリックし、[  新規ポリシー テンプレートの追加 ]または[  新規ポリシー テンプレートの追加 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。

新規 XML ファイル・ポリシー・エディタが開きます。
    - 既存のポリシー・テンプレートを編集するには、[ポリシー テンプレート]ペインでポリシー・テンプレートをクリックし、 ボタンをクリックしてから、[  ポリシー テンプレートの編集 ]または[  ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード) ]ボタンをクリックします。

XML ファイル・ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「XML ソース・ファイルの要件」(294ページ)
- 「マッピングの概要」(294ページ)

### XML ソース・ファイルの要件

XML ファイルは、XML ファイル・ポリシーで正しく処理できるように、次の基準を満たしている必要があります。

- ルート要素はオプションです。
- ルート要素が存在する場合、終了タグで終了させることはできません。
- その他のXML 要素は、すべて完了している必要があります。

次のXML の例は、ルート・タグ <AllAlerts> で始まっていて、パフォーマンスの警告と可用性の警告という2タイプのイベントが含まれています。XML ファイル・ポリシーの[ソース]タブで <PerformanceAlert> と <AvailabilityAlert> というXML 要素をイベント・タグとして定義すると、それらのイベントのみがXML ファイル・ポリシーで処理されます。

```
<AllAlerts>
  <AvailabilityAlert>
    <Title>Host Unreachable</Title>
    <Severity>Critical</Severity>
    <TimeOccured>02/11/10 03:52:18AM</TimeOccured>
    <Object>Host:fish.example.com</Object>
  </AvailabilityAlert>
  <PerformanceAlert>
    <Title>Disk IO rate high</Title>
    <Severity>Warning</Severity>
    <TimeOccured>02/11/10 04:08:31AM</TimeOccured>
    <Object>Disk:disk0:dog.example.com</Object>
  </PerformanceAlert>
  <AvailabilityAlert>
    <Title>Web Application unresponsive</Title>
    <Severity>Critical</Severity>
    <TimeOccured>02/11/10 05:01:26AM</TimeOccured>
    <Object>WebApp:http://employeeportal.intra.example.com</Object>
  </AvailabilityAlert>
  <PerformanceAlert>
    <Title>Phyiscal Read Rate high for Bufferpool BP1</Title>
    <Severity>Warning</Severity>
    <TimeOccured>02/11/10 08:37:09AM</TimeOccured>
    <Object>DB:USRDB:cat.example.com</Object>
  </PerformanceAlert>
  <PerformanceAlert>
    <Title>Phyiscal Read Rate high for Bufferpool BP1</Title>
    <Severity>Warning</Severity>
    <TimeOccured>02/11/10 08:37:09AM</TimeOccured>
    <Object>DB:USRDB:cat.example.com</Object>
  </PerformanceAlert>
```

### マッピングの概要

カスタム変数は、マッピング名、オプションのXML プロパティ(XML の要素または属性)、および1つ以

上のソース値とターゲット値のペアからなります。たとえば、Severity というXML 要素を mapSeverity というマッピング名に割り当て、Warning のソース値を追加できます。次に、Major というターゲット値を変数に割り当てると、XML ログファイル内で変数が使用されていてソース値が Warning であるイベントのすべての場所に、HP Operations Agent により Major の値が挿入されます。

標準設定値マッピング

マッピング名	入力データ プロパティ	ソース値	ターゲット値
mapSeverity	<CDATA:/PerformanceAlert/severity>	serious	critical
		not so serious	warning

XML プロパティでは、次の構文を使用します。<CDATA:/<XML\_property>>

<XML\_property> は XML のパスで、XML イベント・タグから XML 要素または属性までがスラッシュ(/) で区切られています。

たとえば、カスタム変数 mapSeverity に次の XML プロパティがあります。<CDATA:/Performance\_Alert/Severity>。この Severity は Performance\_Alert の子要素です。


XML プロパティはオプションです。XML プロパティを変数に割り当てない場合は、イベント属性に変数を挿入する際、ソース値を変数に直接追加する必要があります。

**注:** サンプル・データがポリシーにロードされていない場合、またはサンプル・データが指定した XML イベント・タグと一致しない場合、[サンプルデータ]タブは空のままです。



サンプル・データを使用できる場合、[サンプルデータ]タブには次の情報が表示されます。

- [XML プロパティ]セクション

サンプル・データを使用できる場合、[サンプルデータ]タブの[XML プロパティ]セクションに、XML イベント・タグと一致するすべての XML 属性および要素が表示されます。(属性は前にあるアットマーク(@)に基づいて識別できます)。

標準設定では、XML のプロパティまたは値への短いパスが[XML プロパティ]セクションに表示されます。フル・パスを表示するには、 をクリックします。このフル・パスは、[ソース]タブで指定する XML イベント・タグで始まります。

XML プロパティまたは値を検索するには、[プロパティの検索]ボックスに検索文字列を入力します。入力に合わせてリストが変わり、一致する項目のみが表示されます。

- [値]セクションに[XML プロパティ]セクションで選択した XML プロパティの値が表示されます。値が複数回表示される場合、 をクリックして重複する値を表示または非表示にすることができます。複数の XML プロパティに属する値を検索するには、値を選択してから  をクリックします。[XML サンプルデータ]ウィンドウが開き、選択した値を持つ XML プロパティがすべて表示されます。

XML 要素または属性を XML プロパティのリストから[標準設定値マッピング]リストヘドラッグ・アンド・ドロップすると、エディタにより自動的に標準設定のプレフィックス map がマッピング名に付けられ、XML プロパティへの正しいパスが挿入されます。これで、複数の XML ソース値を XML 値のリストから[ソ-

ス値]リストへドラッグ・アンド・ドロップできるようになります。そうすれば、あとはターゲット値を入力するだけです。

## タスク

### XML ファイル・ポリシーの作成方法

1. XML ファイル・ポリシー・エディタの[プロパティ]ページで、ポリシーの[名前]を入力します。

また、ポリシーの[説明]を入力し、ポリシーによってデプロイされる[インストールメンテーション]を選択し、このポリシーと互換性を持つ[OS タイプ]を選択することができます。


詳細については、「[プロパティ]ページ」(312ページ)を参照してください。

2. [ソース]ページで、ポリシーが読み取る XML ファイルを定義します(XML ファイルのパスや名前など)。

a. [ログファイルのパス/名前]に、ノード上の XML ファイルへの完全なパスを入力します。

b. [ログファイルの文字セット]をクリックし、監視する XML ファイルの文字セットを選択します。

c. オプション: システムからサンプル XML ファイルをロードするには、 をクリックします。

d. 1 つ以上の XML イベント・タグを作成するには  をクリックします。XML 要素を入力して手動でタグを作成できます。サンプル・データを使用する場合には、リストの XML 要素をダブルクリックしてタグを作成できます。


XML イベント・タグはポリシーで処理する XML 要素へのショートカットを作成します。イベント・タグは一般的に、XML ログ・ファイル内のイベント・レコードを判別します。1 つ以上のイベント・タグを定義できます。たとえば、XML ファイルには、<PerformanceAlert> と <AvailabilityAlert> の 2 つのタイプのイベントを含めることができます。両方のタイプを処理するには、両方の要素をイベント・タグとして定義します。

詳細については、「[ソース]ページ」(314ページ)を参照してください。

3. [マッピング]ページで、XML 要素と属性の標準設定のマッピングをカスタムの変数に設定します。


a. 1 つ以上のカスタム変数を作成します。

サンプル・データを使用する場合は、XML プロパティ・リストから XML 要素または属性を[マッピング名]列にドラッグします。エディタはマッピング名に標準設定のプレフィックスである map を自動的に追加し、XML プロパティへの正確なパスを挿入します。

あるいは、[マッピング名]列の上の  をクリックし、マッピング名フィールドに変数名を入力します。XML プロパティはオプションです。XML プロパティを変数に割り当てない場合は、イベント属性に変数を挿入する際、ソース値を変数に直接追加する必要があります。

b. 各カスタム変数に 1 つ以上のソース値とターゲット値のペアを追加します。

○ サンプル・データを使用する場合は、[値]リストからグループ値を[ソース値]列にドラッグし、対応するフィールドにターゲット値を入力します。

あるいは、[ソース値]列の上の  をクリックし、対応するフィールドにソース値とターゲット値を入力します。

○ オプションとして、[インジケータ]タブを使用してソース値またはターゲット値フィールドにインジケータを追加します。BSM サーバからインジケータをロードすると、[インジケータ]タブ



に構成アイテム・タイプの階層が関連付けられた状況インジケータ(HI)とイベント・タイプ・インジケータ(ETI)とともに表示されます。


ソース値またはターゲット値フィールドにインジケータを挿入するには、[インジケータ]タブからインジケータをドラッグします。インジケータ状態をドロップする際には、状態のみ(Normal など)を挿入するか、またはインジケータの名前と状態(HTTPServer:Normal)を挿入できます。

詳細については、「[マッピング]ページ」(306ページ)と「[インジケータ]タブ」(305ページ)を参照してください。



4. オプション:[標準設定]ページで、ポリシーが送信するすべてのイベントに対し、標準設定の属性を設定します。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

**注:** 標準設定はイベント属性のサブセットに対してのみ設定可能です。他のイベント属性は個別ルール内で設定できます。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(304ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(305ページ)、「[カスタム属性]タブ」(303ページ)、「[命令]タブ」(306ページ)、および「[詳細設定]タブ」(301ページ)を参照してください。

5. [ルール]ページで、ポリシー・ルールを1つ以上定義します。
  - a. [ポリシー ルール]リストで、 ボタンをクリックしてから、次のオプションのいずれかをクリックします。
    - **一致するルールのイベント**: 条件を満たしたときにイベントをBSMに送信したい場合、このオプションを使用します。
    - **一致するルールの抑制**: 指定の条件を満たしたときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
    - **一致しないルールの抑制**: 指定した条件を満たしていないときにポリシーの処理を中止したい場合はこのオプションを使用します。
  - b. [ルールの説明]をクリックし、ルールの概要を入力します。

詳細については、「[ポリシー ルール]リスト」(311ページ)を参照してください。

6. [ルール内容]の[条件]タブを使用して、XML ファイルの要素と属性と比較して評価する値を定義します。
  - a.  をクリックして新しい条件を作成します。標準設定では新規条件は equals 演算子を使用します。
  - b.  をクリックして新しい条件を展開します。
  - c. [プロパティ]フィールドで、ポリシーが検索するXML 要素または属性を指定します。XML イベント・タグからプロパティへのXML パスを、スラッシュ記号(/)で区切って指定する必要があります(例: /PerformanceAlert/Severity)。

サンプル・データを使用している場合は、[XML プロパティ]リストから[プロパティ]フィールドにXML 要素または属性をドラッグ・アンド・ドロップできます。
  - d. パターン演算子を選択します。

matches 演算子を選択する場合は、[オペランド]フィールドにパターンを入力できます。

- e. **[オペランド]**フィールドに、ポリシーがXMLプロパティと比較する値またはパターンを入力します。サンプルデータを使用する場合は、**[値]**リストから値をドラッグして、**[オペランド]**フィールドにドロップできます。

**ヒント:** 値を照合するときには、標準のHP Operations Agentパターン照合ルールを使用できます。**[演算数]**フィールドで照合演算子を選択して▶をクリックし、パターン・マッチング正規表現ツールボックスを開きます。ツールボックスには、次の項目が表示されます。

- **パターン・マッチング正規表現:** 式をクリックして**[演算数]**フィールドに挿入します。
- **変数結合オプション:** 変数結合オプションには、ルールの大文字小文字の区別、フィールドの区切り文字が含まれます。ルールのパターン・マッチング・オプションを指定しないと、標準設定(大文字小文字の区別あり、空白とタブ文字が区切り文字)、またはポリシーの標準設定オプションが使用されます。

詳細については、「**[条件]タブ**」(302ページ)を参照してください。

7. **オプション:** タイプ「一致するルールのイベント」のルールを作成する場合は、ポリシーが送信するイベントの属性を設定します。標準設定のイベント属性はここで上書きできます。また、オペレータが関連するイベントを処理し、アクションを設定して問題を自動的に、または手動で解決するのに役立つ命令を作成できます。

テキスト・ボックスでは、サンプルデータ、マッピング、パターン・マッチング変数、インジケータ、ポリシー変数、ポリシー・パラメータを使用できます。

詳細については、「**[イベント属性]タブ**」(304ページ)、「**[イベント相関処理]タブ**」(305ページ)、「**[カスタム属性]タブ**」(303ページ)、「**[命令]タブ**」(306ページ)、「**[詳細設定]タブ**」(301ページ)および「**[アクション]タブ**」(299ページ)を参照してください。

8. **オプション:** **[オプション]**ページで、ローカル・イベント・ログ、不一致イベント、パターン・マッチングのオプションを設定します。

詳細については、「**[オプション]ページ**」(307ページ)を参照してください。

9. **[OK]**をクリックしてポリシー・テンプレートを保存します。

## UI 参照

本項の内容

- 「**[アクション]タブ**」(299ページ)
- 「**[詳細設定]タブ**」(301ページ)
- 「**[条件]タブ**」(302ページ)
- 「**[カスタム属性]タブ**」(303ページ)
- 「**[標準設定]ページ**」(304ページ)
- 「**[イベント属性]タブ**」(304ページ)
- 「**[イベント相関処理]タブ**」(305ページ)
- 「**[インジケータ]タブ**」(305ページ)

- 「[命令]タブ」(306ページ)
- 「[マッピング]ページ」(306ページ)
- 「[マッピング]タブ」(307ページ)
- 「[オプション]ページ」(307ページ)
- 「[パターン マッチング変数]タブ」(309ページ)
- 「[ポリシー データ]ページ」(309ページ)
- 「[ポリシー パラメータ]タブ」(310ページ)
- 「[ポリシー ルール]リスト」(311ページ)
- 「[ポリシー 変数]タブ」(312ページ)
- 「[プロパティ]ページ」(312ページ)
- 「[ルール]ページ」(314ページ)
- 「[サンプル データ]タブ」(314ページ)
- 「[ソース]ページ」(314ページ)

### [アクション]タブ

UI 要素	説明
自動コマンド	ルールが一致するときに実行される自動コマンド。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドで指定するノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドがWindows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェント ユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ(\$AGENT_USER)として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名</b> : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• <b>パスワード</b> : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• <b>Enable policy parameter in Password field</b> : [パスワード]フィールドへの変数 (%%password%% など) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが[ポリシー パラメータ]タブに存在する必要があります。</li> </ul>
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。









UI 要素	説明
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。
イベントを直ちに送信	ノード上でローカル自動コマンドが開始すると、すぐに BSM サーバにイベントを送信します。これは標準設定です。
ローカルコマンドが完了するまで待機して次を実行	BSM サーバへの不要なネットワークトラフィック量を減らすためのオプション。イベントを生成した問題が自動コマンドにより解決された場合などに、BSM サーバに通知しないようにすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• イベントを送信</li> <li>• ローカルコマンドが失敗した場合にイベントを送信</li> <li>• ローカルコマンドが成功した場合にのみイベントを送信</li> </ul>
オペレータ開始コマンド	ルールによりイベント・ブラウザにイベントが送信される際、イベントに添付されるオペレータ開始コマンド。このコマンドは、BSM ユーザがイベント・ブラウザから開始できます。コマンドには、問題を解決するためのユーザ入力が必要とするスクリプト、Web ブラウザに表示される指示などを指定できます。
コマンド	このイベントのためにコマンドを開始する場合に、実行するコマンドとパラメータ。コマンドは、[ノード]フィールドに指定されたノード上で実行されます。コマンドに空白が含まれる場合、引用符で囲みます。コマンドが Windows コマンド・シェルの内部コマンド (echo, move など) の場合、コマンドの前に cmd /c を指定する必要があります。cmd の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。
非エージェントユーザ	標準設定で、コマンドはエージェント・ユーザ (\$AGENT_USER) として実行されます。別の方法としては、[非エージェント ユーザ]を選択して、ノードに存在するユーザ・アカウントとパスワードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ名 : 指定されたユーザ・アカウントでコマンドを実行。アカウントはノードに存在する必要があります。</li> <li>• パスワード : 指定されたユーザ・アカウントのパスワード。</li> <li>• Enable policy parameter in Password field : [パスワード]フィールドへの変数 (%password%) の入力を有効にします。対応するポリシー・パラメータが [ポリシー パラメータ] タブに存在する必要があります。</li> </ul>

UI 要素	説明
ノード	コマンドを開始するノードの名前。変数 <\$MSG_NODE_NAME> を使用して、複製されたサイトのための再使用可能なポリシーを設定することもできます。
コマンドの出力を注釈としてイベントに追加	コマンドが完了すると、イベントに注釈を追加します。注釈には、コマンドの開始時刻、出力、終了値、終了時刻が含まれます。コマンドが失敗すると、この項目が選択されていない場合にも注釈が追加されます。
コマンドが正常に完了した場合は閉じる	コマンドが成功したときに、イベントを自動的に終了します。

## [詳細設定]タブ



UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は単純な文字列タイプの属性です(Oracle, OS など)。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。RTSM の CI と直接関係する関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は単純な文字列タイプの属性です(C:, /dev/spool など)。
HPOM サービス ID	イベントに関連付けられているサービスの ID。サービス ID はサービスの一意的識別子であり、BSM でイベントに関連付けられたノードと CI を特定するのに使用できます。
エージェント MSI を有効化	<p>メッセージ・ストリーム・インタフェース (MSI) により、外部アプリケーションが HP Operations Agent の内部イベント・フローと通信できます。外部アプリケーションとして、読み書き型のアプリケーション(イベントを読み取り、属性を変更し、サーバに再転送する新しいイベントを生成するイベント処理プログラムなど)を使用できます。アプリケーションも、イベントの読み取り、独自のイベントの送信が可能です。</p> <p><b>イベントを転用:</b> 外部アプリケーションによりイベントが要求されると、サーバにではなく MSI にイベントを転用します。</p> <p><b>イベントをコピー:</b> サーバにイベントを、MSI にイベントのコピーを送信します。</p> <p>イベントの標準設定でエージェント MSI が有効な場合、標準設定をこのルールに適用するか、または標準設定をこのルールでオーバーライドするかを選択できます。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を使用:</b> このルールに、イベントの標準設定のエージェント MSI 設定を適用します。</p> <p><b>エージェント MSI の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに固有のエージェント MSI 設定を行えるようにします。</p>

## [条件]タブ

UI要素	説明
	<b>新規項目</b> : 標準設定の equals 演算子で新しい条件を作成します。
	<b>項目の削除</b> : 選択した条件を削除します。
	<b>上へ移動</b> : 選択した条件を上位の順序へ移動させます。
	<b>下へ移動</b> : 選択した条件を下位の順序へ移動させます。
	<b>展開</b> : 条件のリストを展開し、すべての詳細情報を表示します。
	<b>折りたたみ</b> : 条件のリストを折りたたみ、名前のみを表示して詳細情報を非表示にします。
	クリックすると、条件の詳細情報が表示されます。
	クリックすると、条件の詳細情報が非表示になります。
<b>プロパティ</b>	XML ファイル・ポリシー:ポリシーの検索対象となる XML プロパティ。XML イベント・タグからプロパティへの XML パスを、スラッシュ記号 (/) で区切って指定する必要があります(例: /PerformanceAlert/Severity)。
<b>演算子</b>	次の演算子を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>次と等しい</li> <li>等しくない</li> <li>より小さい</li> <li>より大きい</li> <li>以下</li> <li>以上</li> <li>一致([演算数]フィールドにパターンを入力できます)</li> </ul>

UI 要素	説明
演算数	<p>XML ファイル・ポリシー:ポリシーで XML プロパティと比較する値またはパターン。サンプル・データで作業する場合, [XML Values]リストから[演算数]フィールドに値をドラッグ・アンド・ドロップできます。</p> <p>ヒント: 値を照合するときには, 標準の HP Operations Agent パターン照合ルールを使用できます。[演算数]フィールドで照合演算子を選択して ▶ をクリックし, パターン・マッチング正規表現ツールボックスを開きます。ツールボックスには, 次の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>パターン・マッチング正規表現:</b> 式をクリックして[演算数]フィールドに挿入します。</li> <li>• <b>変数結合オプション:</b> 変数結合オプションには, ルールの大文字小文字の区別, フィールドの区切り文字が含まれます。ルールのパターン・マッチング・オプションを指定しないと, 標準設定(大文字小文字の区別あり, 空白とタブ文字が区切り文字), またはポリシーの標準設定オプションが使用されます。</li> </ul>

## [カスタム属性]タブ

UI 要素	説明
	<p><b>新規カスタム属性の作成:</b>「CA_n」という標準設定の名前で新規のカスタム属性を作成します。カスタム属性の名前を変更するには, 名前をダブルクリックして選択し, 新しい名前を入力します。</p>
	<p><b>カスタム属性の削除:</b> 既存のカスタム属性を削除します。</p>

UI要素	説明
名前	<p>カスタム属性の名前。この名前では、大文字と小文字が区別されません。</p> <p>カスタム属性は、有意義な情報を含む追加属性です。たとえば、会社名、連絡先情報、所在地などをイベントに追加できます。1つのイベントに複数のカスタム属性をアタッチできません。</p> <p>次のカスタム属性名は、内部使用目的で予約されているため使用できません。</p> <p>Description</p> <p>EtiHint</p> <p>HP_OPR_SAAS_CUSTOMER_ID</p> <p>NoDuplicateSuppression</p> <p>RelatedCiHint</p> <p>SourceCiHint</p> <p>SourcedFromExternalId</p> <p>SourcedFromExternalUrl</p> <p>SubCategory</p> <p>SubCiHint</p>
値	カスタム属性の値。

### [標準設定]ページ

[標準設定]ページでは、ポリシーが送信するすべてのイベントの標準設定の属性を設定できます。イベントの標準設定は新規ルールにのみ影響します。個別ルールの標準設定は上書きが可能です。

詳細については、「[イベント属性]タブ」(304ページ)、「[イベント相関処理]タブ」(305ページ)、「[カスタム属性]タブ」(303ページ)、「[命令]タブ」(306ページ)、および「[詳細設定]タブ」(301ページ)を参照してください。

### [イベント属性]タブ






UI要素	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(Database, Security, Networkなど)。イベント・カテゴリは、概念的にはHP Operations Managerのメッセージ・グループに似ています。



## [イベント関連処理]タブ

UI 要素	説明
イベント・キー	重複の識別および[キーの付いたイベントを終了]に使用する識別子。
イベント サブ レクションを有 効化	<p>このポリシーで生成されるイベントの抑制を有効にします。</p> <p>イベントの標準設定でイベントの抑制が有効な場合、イベントの抑制をこのルールに適用するか、またはイベントの抑制をこのルールでオーバーライドできます。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を使用:</b> イベントで設定したイベントの抑制をこのルールに適用します。</p> <p><b>イベント抑制の標準設定を上書き:</b> このポリシー・ルールに対して特定のイベント抑制を設定できます。</p>






## [インジケータ]タブ






UI 要素	説明
	<p><b>更新:</b> 設定済みインジケータを BSM サーバから読み込みます。</p> <p><b>注:</b> BSM サーバからインジケータを読み込むのに数秒かかる場合があります。</p>
	<p>[<b>ドロップターゲット形式を選択</b>]ドロップダウン・パネルを表示または非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>インジケータの状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータの状態のみに変更するには、このオプションをクリックします。</li> <li><b>インジケータ名と状態を使用:</b> ドロップ・ターゲット形式をインジケータ名と状態に変更するには、このオプションをクリックします。</li> </ul>
<検索...>	<p>入力した検索文字列を使用してインジケータを検索し、指定の文字列を含むインジケータのみを強調表示します。</p> <p>名前に特定のテキスト文字列を含むインジケータを検索するには、[検索...]フィールドに文字列を入力し、 ボタンをクリックします。最初に一致するインジケータがルールからのリストから選択されます。 および  のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するインジケータに移動します。</p>
<インジケータ>	<p>構成アイテム・タイプと関連する状況インジケータ(HI)、およびイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の階層。インジケータをポリシーに挿入するには、インジケータを[インジケータ]タブからポリシー内の適切なフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。</p>

## [命令] タブ

UI 要素	説明
命令	<p>イベントに付随する命令</p> <p>ポリシーにより生成されるイベントに、イベント生成時の動作内容を説明する命令を含めることができます。この命令テキストは、オペレータが特定のイベント・タイプを受信した場合の問題解決に役立ちます。オペレータは、イベント・ブラウザの[イベント詳細]ペインで、イベントに含まれる命令を確認できます。ポリシー内のすべてのルールに対して標準設定の命令を定義できます。また、任意のルールに対して標準設定を別の命令でオーバーライドすることもできます。</p> <p>テキストに URL を入力すると、イベント・ブラウザで自動的にクリック可能なハイパーリンクに変換されます。たとえば、外部 Web サイト、サポート・サイト、ドキュメント・リポジトリ、トラブルシューティング情報や同様のサイトなどの URL を追加できます。</p> <p>リンクを追加するには、次のいずれかの URI スキーマ名で始まる URL を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• http://</li> <li>• https://</li> <li>• ftp://</li> <li>• ftps://</li> </ul>

## [マッピング] ページ

UI 要素	説明
	新規マッピング定義の作成: 新しいマッピングの定義がマッピング・リストに追加されます。
	マッピング定義の削除: 選択したマッピングの定義が削除されます。
	マッピング定義のコピー: 選択したマッピング定義のコピーが作成されます。
	上へ移動: 選択したマッピング定義を上位に移動します。
	下へ移動: 選択したマッピング定義を下位に移動します。
マッピング名	カスタム変数の名前。サンプル・データから変数が作成されると、エディタにより自動的に標準設定のプレフィックス <code>map</code> がマッピング名に付けられます。

入力データ・プロパティ	<p>カスタム変数に割り当てられる XML 要素または属性。</p> <p>XML プロパティでは、次の構文を使用します。&lt;\$DATA:!/&lt;XML_property&gt;&gt;</p> <p>&lt;XML_property&gt; は XML のパスで、XML イベント・タグから XML 要素または属性までがスラッシュ(/)で区切られています。</p> <p>エージェントでは、実行時にこのXMLプロパティが指定したXML要素または属性の値に置き換わります。XMLの値が挿入されると、その値が使用されます。</p>
	<b>新規マッピングの作成:</b> ソース値とターゲット値の新しいペアがマッピング定義に追加されます。
	<b>マッピングの削除:</b> 選択したソース値とターゲット値のペアを削除します。
	<b>値マッピングのコピー:</b> 選択した値マッピングのコピーが作成されます。
	<b>上へ移動:</b> 選択した値マッピングを上位に移動します。
	<b>下へ移動:</b> 選択した値マッピングを下位に移動します。
ソース値	XML 要素または属性の元の値。
ターゲット値	XML 要素または属性の新しい値。

## [マッピング] タブ

UI 要素	説明
<マッピング>	ポリシーで設定したマッピングの定義を表示します。

## [オプション] ページ

UI 要素	説明
ローカルイベントのログ	<p>イベントの発生元ノード上でログ記録するイベントを定義します(イベントが存在する場合)。これらのイベントは、ローカルノードのログ・ファイルにログ記録されます。</p> <p>Windows :%OvDataDir%\log\OpC\opcmsglg  AIX, HP-UX, Linux, Solaris :/var/opt/OV/log/OpC/opcmsglg</p>
ルールに一致し、イベントのトリガとなる	イベント・ソース内のイベントのうち、ポリシー・ルールに一致するすべてのイベントがログ記録されます。



UI 要素	説明
ルールに一致し、無視されず	イベント・ソース内の抑制されたイベントがすべてログ記録されます(抑制されたイベントはイベント・ブラウザに送信されません)。
どのルールにも一致しません	ポリシー内のどのルールにも一致しないイベントがすべてログ記録されます。
一致しないイベント	適用される条件が存在しない、ポリシーにルールが含まれないなどの理由で、イベントがポリシー内のどのルールにも一致しないときに、イベント・ブラウザにイベントが送信されます。このようにすることで、重要である可能性がある不測のイベントの通知漏れを防ぎます。標準設定では、一致しないイベントは無視されます。  イベント・ブラウザに一致しないイベントを送信する各ポリシーにより、ポリシーの標準設定値でイベントが作成されます。  <b>ヒント:</b> ポリシーで標準設定値のみのイベントを送信する場合、ポリシーからすべてのルールを削除します。  <b>注:</b> 複数のXMLファイル・ポリシーにより、一致しないイベントがBSMに転送される場合、単一の入力イベントに関するイベントを複数受信することがあります。
イベント・ブラウザに送信される	イベント・ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
閉じたイベント・ブラウザに送信される	[終了したイベント]ブラウザに一致しないイベントが送信されます。
無視されます	一致しないイベントは無視されます。
パターン・マッチング・オプション	すべてのルールでの大文字小文字の区別の有無、およびフィールド区切り文字を定義します。

UI 要素	説明
大文字と小文字を区別する	ルールのパターンがソース・データと比較される場合に、テキスト文字列の大文字小文字を区別するかどうかを定義します。オンにすると、ソース・データとパターンの両方の大文字小文字が正確に一致する場合にのみ、一致と判断されます。これは標準設定です。
フィールド区切り	<p>フィールド区切り文字とみなすべき文字を定義します。フィールド区切り文字は、パターン内でルール条件の区切り文字として使用されます。以下の特殊文字を含む、合計で7個までの区切り文字を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• \n 改行 (NL)</li> <li>• \r キャリッジ・リターン (CR)</li> <li>• \t 水平タブ (HT)</li> <li>• \f フォーム・フィード (FF)</li> <li>• \v 垂直タブ (VT)</li> <li>• \a 警告 (BEL)</li> <li>• \b バックスペース (BS)</li> <li>• \\ バックスラッシュ (\)</li> </ul> <p>たとえば、バックスラッシュ、アスタリスク、文字 A でイベントのフィールドを定義する場合、「\\*A」(文字間にスペースなし)と入力します。</p> <p>このボックスを空欄にすると、標準設定の区切り文字(空白、およびタブ文字)が標準設定で使用されます。</p> <p>ポリシー内の個別ルールの大文字小文字の区別の有無、および区切り文字を設定できます。このためには、ルールの一一致条件の ▶ ボタンをクリックします。</p>
すべてに適用する	<p>パターン・マッチング・オプションがポリシー内の既存のすべてのルールに適用されます。これにより、個別ルールで行ったパターン・マッチング・オプションの変更がすべて上書きされます。</p> <p>パターン・マッチング・オプションを変更し、[すべてに適用する]をクリックしない場合、パターン・マッチング・オプションはポリシー内の新しいルールすべてにのみ適用されます。</p>

### [パターン マッチング変数] タブ









UI 要素	説明
<変数>	[条件] タブで設定されたユーザ定義変数が表示されます。

### [ポリシー データ] ページ







UI 要素	説明
	<b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして、[Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して、ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり、末尾が _data です。
	<b>構文チェック:</b> ポリシー・データの構文を検証します。ポリシーの構文が正しくない場合、検証ツールによりエラーが通知され、エラーの行と予期しないトークン(正しくないキーワードなど)の位置が出力されます。

UI 要素	説明
<ポリシーデータ>	テキスト形式のポリシー・データ。このデータには HP Operations Agent ポリシー構文が使用されます。

## [ポリシー パラメータ] タブ

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には、対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない、未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している、または未使用のパラメータが存在する場合、[パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み、[変更]、または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると、不足しているパラメータは自動的に作成され、未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>
<パラメータ>	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [ポリシールール]リスト

UI要素	説明
	<p><b>新規ルールの作成:</b> 次のオプションを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul>
	<p><b>ルールのコピー:</b> 選択したルールがコピーされます。コピーしたルールの説明は、書き換えおよび編集が可能です。</p>
	<p><b>ルールの削除:</b> 選択したルールが削除されます。</p>
	<p><b>上へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の上位に移動します。</p>
	<p><b>下へ移動:</b> 選択したルールがルール順序の下位に移動します。</p>
<移動先>	<p>入力した数値を使用して、ルールでそのシーケンス番号を持つルールを選択します。</p> <p>ルールリストから特定のルールを選択するには、[移動先]フィールドでルールのシーケンス番号を入力し、▶ ボタンをクリックします。</p>
<ルールの検索>	<p>入力した検索文字列を使用してルールの説明を検索し、指定の文字列を含むルールのみを強調表示します。</p> <p>ルールの説明に特定のテキスト文字列を含むルールを検索するには、[ルールの検索]フィールドに文字列を入力し、🔍 ボタンをクリックします。最初に一致するルールがルールリストから選択されます。◀ および ▶ のボタンをクリックすると、1つ前および次の一致するルールに移動します。</p>
	<p><b>ルールフィルタをアクティブ化/非アクティブ化:</b> ルールフィルタをアクティブ化/非アクティブ化します。</p>
Seq.	<p>ルールのシーケンス番号。ルールは特定の順序で評価されます。ある条件に一致すると、それ以降のルールは評価されません。</p>
ルールの説明	<p>ルールの説明。ルールの動作内容が分かりやすい説明を使用すると便利です。</p>

UI 要素	説明
ルール の タイ プ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一致するルールのイベント: 一致する場合、エージェントによりイベントがBSMに送信されます。イベントには、ルール用に定義された設定が使用されます。これらの設定を行わない場合、標準設定が使用されます。</li> <li>一致するルールの抑制: 一致する場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> <li>一致しないルールの抑制: 一致しない場合、エージェントは処理を停止します。イベントはBSMに送信されません。</li> </ul> <p>ルール・タイプを変更するには、ルール・リストで現在のルール・タイプをクリックし、ドロップダウン・リストから別のルール・タイプを選択します。</p>

## [ポリシー変数]タブ

変数	説明
<\$MSG_ NODE>	元のイベントが発生したノードのIPアドレスを返します。サンプル出力: 192.168.1.123
<\$MSG_ NODE_ NAME>	元のイベントが発生したノードの名前を返します。これは、エージェントがノードを解決するホスト名です。この変数は修正されませんが、イベントごとにポリシーにより変更できます。
<\$MSG_ TEXT>	イベントのフル・テキストを返します。サンプル出力:SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root

## [プロパティ]ページ

UI 要素	説明
名前	ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できません。等号記号(=)は使用できません。ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。
説明	ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です(使用されるデータ・ソースなど)。
ポリシーID	ポリシーの初回作成時にGUID <sup>1</sup> がポリシーに割り当てられます。

<sup>1</sup>(グローバル意識別子)



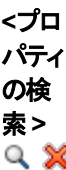





UI要素	説明
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p><b>注:</b> HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。
インストール	このポリシー用に選択されたインストール。インストールは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストールは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OS タイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

## [ルール] ページ

[ルール] ページでは、1 つ以上のポリシー・ルールを定義できます。

詳細については、「[ポリシー・ルール] リスト」(311 ページ)、「[条件] タブ」(302 ページ)、「[イベント属性] タブ」(304 ページ)、「[イベント相関処理] タブ」(305 ページ)、「[カスタム属性] タブ」(303 ページ)、「[詳細設定] タブ」(301 ページ)、および「[アクション] タブ」(299 ページ)を参照してください。

## [サンプルデータ] タブ

UI 要素	説明
 <プロパティの検索>	入力した検索文字列を使用して XML のプロパティまたは値を検索します。入力に合わせてリストが変わり、一致する項目のみが表示されます。  検索結果をクリアするには、  をクリックします。
	<b>ショート/フルパス表記をトグル:</b> XML のプロパティまたは値へのフルパスを表示または非表示にします。このフルパスは、[ソース] タブで指定する XML イベント・タグで始まります。標準設定では、XML のプロパティまたは値への短いパスが [XML プロパティ] セクションに表示されます。
	<b>一致するイベントを検索:</b> 複数の XML プロパティに属する値を検索するには、値を選択してから  をクリックします。[XML サンプルデータ] ウィンドウが開き、選択した値を持つ XML プロパティがすべて表示されます。
	<b>重複除外をトグル:</b> 重複する値を表示または非表示にします。
<b>XML プロパティ</b>	XML イベント・タグと一致する XML の要素および属性がすべて表示されます(属性は前にあるアットマーク(@)に基づいて識別できます)。  <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;"> <p>注: サンプル・データがポリシーにロードされていない場合、またはサンプル・データが指定した XML イベント・タグと一致しない場合、XML プロパティのリストは空のままです。</p> </div>
<b>&lt;...&gt; の値</b>	[XML プロパティ] セクションで選択した XML プロパティの値が表示されます。





## [ソース] ページ

UI 要素	説明
-------	----

<b>ログ・ファイルのパス名</b>	<p>ポリシーで読み取られる XML ファイルのパスと名前。このファイルの場所を示すノードのドライブ文字とフルパスを入力します。</p> <p><b>ヒント:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows の環境変数 (<code>winnt</code> や <code>clusterlog</code> など) を使用して、ポリシーをさらに柔軟にすることができます。これらの変数の正しい構文は「<code>&lt;\$変数名&gt;</code>」です(例: <code>&lt;\$winnt&gt;</code>)。</li> <li>また、アクセスするログ・ファイルのパスと名前を返すスクリプトやコマンドを呼び出すこともできます。たとえば次のように入力します。</li> </ul> <pre>&lt;`command`&gt;</pre> <p>この場合の「<code>command</code>」は、ポリシーで読み取るログ・ファイルのパスと名前を返すスクリプトの名前です。またこのコマンドにより、スペース区切りで複数のログ・ファイルのパスを返すこともできます。HP Operations Agent では、このポリシーに設定したのと同じオプションおよび条件を使用して、個々のファイル进行处理します。動的にログ・ファイルのパスを決定する場合、またはログ・ファイルの複数のインスタンス进行处理する場合に便利です。</p> <p><b>注:</b> エージェントでは、2 GB を超えるログ・ファイル进行处理できません。</p>
<b>ポーリング間隔</b>	<p>XML ファイルがポリシーで読み取られる頻度を決定します。この時間がポーリング間隔となります。ファイルに書き込まれる新規データ量や選択する読み取りモードにより異なりますが、ポーリング間隔はできるだけ大きくする必要があります。ポーリング間隔は 30 秒以上に設定します。通常は 5 分が適切です。ただし、ポリシーでデータの評価が開始されるのは、初回のポーリング間隔の経過後です。ポリシーをテストする場合、ポーリング間隔はできるだけ短くします。</p> <p>時間を変更するには、▼ ボタンをクリックし、ドロップダウン・リストを使用して、時、分、秒の増分を指定します。</p> <p>時間のフィールドにパラメータを挿入するには、形式「<code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code>」でパラメータを入力するか、[ポリシー パラメータ] タブでパラメータをドラッグ・アンド・ドロップします。</p> <p>標準設定値 : 5 分</p>
<b>ログファイルの文字セット</b>	<p>ポリシーで読み取られる XML ファイルで使用する文字セットの名前。</p> <p><b>注:</b> 正しい文字セットを選択することが重要です。ポリシーで予想される文字セットが XML ファイルの文字セットと一致しない場合、パターン・マッチングが動作しない場合があるため、BSM でイベントの詳細の文字が正しく表示されない、あるいは文字が途中で切れてしまう可能性があります。ポリシーで読み取られる XML ファイルで使用する文字セットが分からない場合は、ファイルを記述するプログラムのドキュメントを参照してください。</p> <p>標準設定値 : UTF-8</p>

ログファイルが存在しない場合イベントを送信	<p>エージェントでは、指定したXMLファイルが存在しない場合でもイベントが送信されます。</p> <p>標準設定値 : 選択なし</p>
読み取り後に閉じる	<p>ポリシーでは、XMLファイルの読み取り後、開かれた状態が維持されます(また、ファイル・ハンドルが保持されます)。このオプションを選択した場合、1分よりも小さい値でポーリング間隔を使用しないでください。</p> <p>このオプションを選択していない場合、XMLファイルの名前が変更されても、ポリシーでは、新しい名前を付けたXMLファイルが処理されず、引き続き元のXMLファイルが読み取られます。たとえば、<code>syslog.log</code> というログ・ファイルがポリシーで読み取られる場合を考えてみます。月曜日の23:59にファイル名を <code>syslog.monday</code> に変更し、火曜日のログ用に新しいバージョンの <code>syslog.log</code> が作成されるとします。[読み取り後に閉じる]が選択されていない場合、ファイル・ハンドルでは名前を変更した元のファイルを参照するため、ポリシーでは引き続き <code>syslog.monday</code> が読み取られます。</p> <p>標準設定値 : 選択なし</p>

<b>読み取りモード</b>	XML ファイル・ポリシーの読み取りモードは、ポリシーでファイル全体を処理するか、新規エントリのみを処理するかを示します。	
	<p><b>前回の位置から読み取る:</b> ポリシーがアクティブな間、XML ファイルに書き込まれる新規(追加)エントリのみがポリシーにより読み取られます。読み取りの間にファイル・サイズが縮小した場合、ファイル全体が読み取られません。ポリシーが無効になっている間にファイルに追加されるエントリは、そのポリシーで処理されません。</p> <p>ポリシーが有効な間に発生するエントリのみに関心がある場合は、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> 同じエントリを2回読み取る可能性がありません(一部のエントリが削除されたためにファイル・サイズが縮小する場合を除く)。</p> <p><b>デメリット:</b> ポリシーが無効になっている間に、またはエージェントが実行されていない間にファイルに書き込まれるエントリは、ポリシーで処理されません。</p>
	<p><b>最初から読み取る(初回):</b> ポリシーがアクティブになるたびに、またはエージェントが再起動されるたびに、XML ファイル全体がポリシーにより読み取られます。このようにすることで、ファイル内のすべてのエントリが、ポリシー内のルールと比較されます。その後は、ポリシーがファイルを読み取るたびに、ファイルの新しい(追記された)エントリのみが処理されます。</p> <p>ポリシーがアクティブな間にファイルの既存エントリおよび今後に生じるエントリをすべて処理する必要がある場合は、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> ファイル内の既存の各エントリおよび今後に生じる各エントリがポリシーによって処理されます。</p> <p><b>デメリット:</b> アクティブなポリシーがいったん非アクティブになってから再度アクティブになると、またはエージェントがいったん停止してから再起動されると、エントリの重複が発生する場合があります。</p>
	<p><b>最初から読み取る(常時):</b> ファイルの変更が検出されるたびに、XML ファイル全体がポリシーにより読み取られます。指定したポーリング間隔で、ポリシーによりファイルがスキャンされます。変更が検出されない場合、ファイルは処理されません。ポリシーが非アクティブの間に、またはエージェントが実行されていない間に上書きされるエントリは、ポリシーで評価されません。</p> <p>追加されたファイルよりも上書きされたファイルをポリシーで読み取る場合は、このオプションを選択します。</p>	<p><b>メリット:</b> 上書きされたファイルが正しく処理されることを確保します。</p> <p><b>デメリット:</b> 追加されたファイルではなく、上書きされたファイルでのみ有効です。</p>
<p><b>注:</b> 他のポリシーに依存することなく、すべてのポリシーで同じXML ファイルが読み取られます。つまり、たとえば読み取りモードが[最初から読み取る(初回)]の「Policy 1」がアクティブで、同じ読み取りモードの「Policy 2」がすでに存在する場合、「Policy 1」がアクティブになると、このポリシーでもファイル全体が読み取られます。</p>		
標準設定値 : 前回の位置から読み取る		

サ ン プ ル デ ー タ	XML サンプル・ファイルをアップロードできるようになります。エディタでは、サンプル・ファイルの XML 要素および値を[イベント]ページと[ルール]ページで使用できるため、ドラッグ・アンド・ドロップでこれらを読み込むことができます。
	<p>ローカル・ファイル・システムからサンプル・データをロード: Web ブラウザが実行されているシステムから XML サンプル・ファイルをロードします。</p> <p><b>注:</b> エディタは、最大で 50 MB までのサンプル・データをロードできます。</p>
	[XML サンプルデータ]ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログ・ボックスには、アップロードした XML サンプル・ファイルの内容が表示されます。
XML イ ベ ン ト ・ タ グ	1 つ以上の XML イベント・タグを指定できるようになります。XML イベント・タグにより、処理する XML 要素へのショートカットが作成されます。イベント・タグでは、通常 XML ファイルのイベント・レコードを識別します。1 つ以上のイベント・タグを定義できます。
	<p>新しい XML イベント・タグを手動で作成: 所定のボックスに XML 要素を入力できるようになります。</p> <p>XML サンプル・データから新しい XML イベント・タグを作成:[XML サンプルデータ概要]ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログ・ボックスには、アップロードした XML サンプル・データに含まれる XML 要素および属性が表示されます。</p>
	<p>選択した XML イベント・タグを削除します。</p> <p><b>注意:</b> ポリシーで参照されているイベント・タグを削除すると、ポリシーが破損して使用できなくなります。</p>








## HP SiteScope テンプレートのインポート

HP SiteScope( SiteScope) は、IT インフラストラクチャ( サーバ、オペレーティング・システム、ネットワーク・デバイス、ネットワーク・サービス、アプリケーション、アプリケーション・コンポーネントなど)の可用性とパフォーマンスをリモートで監視できる、エージェントレス監視ソリューションです。オペレーション管理が提供するスクリプトを使用すると、SiteScope サーバからテンプレートをインポートし、アスペクトに含めることができます。

### アクセス方法

SiteScope ポリシー・エディタでは、SiteScope ポリシーを作成、編集できます。SiteScope ポリシー・エディタの開き方は次のとおりです。

- [アスペクトの編集]ダイアログ・ボックスからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. 管理テンプレートおよびアスペクト・マネージャを起動します。
    - [管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
  - b. [構成フォルダ]ペインで、構成フォルダを展開します。

- c. [管理テンプレートおよびアспект] ペインで、アспектをクリックし、 ボタンをクリックします。  
[アспектの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
- d. [ポリシー テンプレート] タブをクリックし、リストから [SiteScope policy template] をクリックします。  
 ボタンをクリックし、 **ポリシー テンプレートの編集** または  **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)** ボタンをクリックします。  
SiteScope ポリシー・エディタが開きます。
- ポリシー・テンプレート・マネージャからエディタを開くには、次の手順を実行します。
  - a. ポリシー・テンプレート・マネージャを開きます。  
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー・テンプレート]
  - b. [ポリシー テンプレート グループ] ペインの [ポリシー テンプレート グループ] > [Templates grouped by type] を展開します。
  - c. [SiteScope Templates] フォルダをクリックし、[ポリシー テンプレート] ペインから SiteScope ポリシー・テンプレートをクリックします。  
 ボタンをクリックし、 **ポリシー テンプレートの編集** または  **ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)** ボタンをクリックします。  
SiteScope ポリシーの編集エディタが開きます。

## 詳細

本項の内容

- 「モニタ」(319ページ)
- 「テンプレート」(319ページ)
- 「SiteScope テンプレートのインポートの前提条件」(320ページ)
- 「SiteScope ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイ」(320ページ)
- 「ConfigExchangeSIS」(320ページ)

### モニタ

SiteScope では、モニタはリモート・サーバから特定の可用性とパフォーマンス・データを取得できるツールです。さまざまなタイプのシステムでさまざまなタイプのモニタを使用できます。特定のタイプのモニタを使用する場合は、そのモニタのインスタンスを新しく作成します。モニタの新しいインスタンスそれぞれについて、監視するリモート・サーバと、モニタを設定するその他の設定の値を指定する必要があります。

たとえば、SiteScope はリモート・サーバ上の CPU 使用レベルを監視できる「CPU」というモニタを提供します。CPU モニタのインスタンスを作成するときは、監視するリモート・サーバを指定する必要があります。また、そのサーバ上の CPU 使用量をチェックする頻度と、モニタでエラーや警告を報告するしきい値も指定できます。

### テンプレート

テンプレートを SiteScope で使用し、まとめてデプロイするモニタ・セットを作成できます。テンプレートに



モニタを追加する際には、モニタの設定として固定値を指定できます。さらに、テンプレートに変数を追加し、テンプレートをデプロイするときに一部の設定値を設定できるようにします。

たとえば、CPU およびメモリという名前のモニタを含むテンプレートを使用できます。これらのモニタに毎回使用する固定設定を行い、テンプレートをデプロイするたびに指定する設定には、リモート・ホストや監視間隔といった変数を追加することもできます。

SiteScope からテンプレートをインポートする際、オペレーション管理は変数を、結果のポリシー・テンプレート内のパラメータに変換します。

### SiteScope テンプレートのインポートの前提条件

SiteScope テンプレートには、監視するリモート・サーバに関する情報が含まれています。この情報は通常変数内に保存され、テンプレートをデプロイする際に、リモート・サーバの一覧によって置き換えられます。

SiteScope テンプレートをインポートする際、インポート・ツールは結果のポリシー・テンプレートの対応インスタンス・パラメータを作成するため、ホスト情報を含む変数を判別する必要があります。インポート・ツールは次の SiteScope 変数のいずれかを次の順序で選択し、ホスト・インスタンス・パラメータを作成します。

1. SiteScope で表示順番号「0」の変数。
2. SiteScope テンプレートの「host」変数。

**注:** SiteScope テンプレートに変数「host」が存在するけれども値が入っていない場合、テンプレートのインポート時に、値は「%%HOST%%」に設定されます。

3. SiteScope テンプレート内の、値「%%HOST%%」の入った変数。

上記の変数が存在しない場合、SiteScope テンプレートはインポートできず、エラーが報告されます。

### SiteScope ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイ

SiteScope ポリシー・テンプレートを、SiteScope で監視するリモート・サーバに割り当てます。ポリシー・テンプレートをデプロイする前に、オペレーション管理は値「%%HOST%%」の入ったパラメータを、ポリシー・テンプレートを割り当てるリモート・サーバのリストに置き換えます。接続されているサーバの設定に基づいて、オペレーション管理は続いてリモート・サーバを監視する資格を持つ SiteScope サーバを選択し、ポリシー・テンプレートをサーバにデプロイします。最後に、SiteScope サーバは対応するモニタを作成し、リモート・サーバの監視を開始します。

SiteScope ポリシー・テンプレートの割り当てとデプロイを有効にするには、オペレーション管理で接続されているサーバとして SiteScope サーバを設定し、ノード CI が管理対象ノードのシステムに対して存在する必要があります。さらに、SiteScope が監視するリモート・システムは RTSM でノード CI として表示する必要があります。

### ConfigExchangeSIS

オペレーション管理は、SiteScope サーバからテンプレートをインポートする次のスクリプトを提供します。

- Windows の場合 :

```
<HP BSM のルート・ディレクトリ>\opr\bin\ConfigExchangeSIS.bat
```

- Linux の場合 :

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/ConfigExchangeSIS.sh
```



コマンドは次のパラメータを受け入れます。

-sis\_group\_container

SiteScope サーバ上のテンプレート・コンテナの名前。コマンドはそのコンテナとすべてのサブコンテナからすべてのテンプレートをインポートします。

-sis\_hostname

SiteScope サーバのホスト名。標準設定の localhost の代わりに、SiteScope サーバの完全修飾ドメイン名を入力します(例: sitescope1.example.com)。

-sis\_user

オプション: テンプレートの読み取り権限を持つ SiteScope ユーザの名前(標準設定: admin)。

-sis\_passwd

オプション: SiteScope ユーザのパスワード(標準設定: admin)。

-sis\_port

オプション: SiteScope サーバのポート(標準設定: 8080)。

-sis\_ssl

オプション: SiteScope サーバへの HTTPS 接続を開きます(標準設定: HTTP)。

-bsm\_hostname

BSM サーバのホスト名。標準設定の localhost の代わりに、BSM サーバの完全修飾ドメイン名を入力します(例: bsm1.example.com)。

-bsm\_user

オプション: ポリシー・テンプレートの作成権限を持つ BSM ユーザのユーザ名(標準設定: admin)。

-bsm\_passwd

オプション: BSM ユーザのパスワード(標準設定: admin)。

-bsm\_port

オプション: BSM サーバのポート(標準設定: 80)。

-bsm\_root\_dir

オプション: BSM サーバの基本パス(標準設定: c:\HPBSM\)

-bsm\_ssl

オプション: BSM サーバへの HTTPS 接続を開きます(標準設定: HTTP)。

-verbose

オプション: 詳細な情報を表示します(標準設定: false)。

#### 例

次のコマンドは sitescope1.example.com から「Template Examples」というテンプレート・コンテナ内のテンプレートをロードします。

```
c:\HPBSM\opr\bin\ConfigExchangeSIS.bat -sis_group_container
"Template Examples" -sis_hostname sitescope1.example.com -sis_user
integrationViewer -sis_passwd password -bsm_hostname
bsm1.example.com -bsm_user admin -bsm_passwd password -bsm_port 80
```

## タスク

本項の内容

- 「前提タスク」(322ページ)
- 「SiteScope システムでエージェントを設定する方法」(323ページ)

### 前提タスク

SiteScope を使用して構成アイテム(CI)を監視する前に、次の手順を実行する必要があります。

- SiteScope システムにエージェントをインストール、設定する。
  - SiteScope システムに HP Operations Agent をインストールします。詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』を参照してください。
  - エージェントを BSM に接続します(SiteScope の[プリファレンス]>[統合プリファレンス]>[新規統合]>[HP Operations Manager 統合])に移動)。接続を確立するため、エージェントは BSM に対し、証明書要求を送信します。この要求は、BSM 内で許可する必要があります。詳細については、SiteScope ヘルプを参照してください。

- デプロイメントを行う SiteScope システム上のエージェントを準備する。
  - SiteScope ユーザ資格情報を使用してエージェントを設定します。SiteScope ポリシー・テンプレートをデプロイする際には、SiteScope ユーザ資格情報が必要です。
  - BSM サーバを認証マネージャとして受諾するよう、SiteScope システム上のエージェントを設定します。

詳細については、「SiteScope システムでエージェントを設定する方法」(323ページ)を参照してください。

- オペレーション管理で接続されているサーバとして SiteScope システムを設定する。  
詳細については、『BSM アプリケーション管理ガイド』の「接続サーバ」を参照してください。
- SiteScope システムに対し、ノード CI が作成されていることを検証する。次の場所にアクセスします。  
[管理]>[オペレーション管理]>[セットアップ]>[モニタされるノード]
- SiteScope が監視するシステムが RTSM でノード CI になっていることを確認する。次の場所にアクセスします。  
[管理]>[オペレーション管理]>[セットアップ]>[モニタされるノード]
- SiteScope でテンプレートを設定し、インポートする。詳細については、「SiteScope テンプレートのインポートの前提条件」(320ページ)および「ConfigExchangeSIS」(320ページ)を参照してください

い。

**注:**

- オペレーション管理で SiteScope ポリシー・テンプレートを作成することはできません。
- インポート後は、SiteScope ポリシー・テンプレートの一般的なプロパティのみを編集できません。データ部分は読み取り専用となります。

## SiteScope システムでエージェントを設定する方法

1. SiteScope ユーザ資格情報を使用してエージェントを設定します。

a. SiteScope システムで、次のコマンドライン・ツールを実行します。

```
Windows :%OvInstallDir%\lbin\sisconfig\sisSetCredentials.bat
```

```
UNIX または Linux :/opt/OV/lbin/sisconfig/sisSetCredentials.sh
```

b. ツールからは次の情報を要求されます。

SiteScope ログイン :SiteScope ユーザのユーザ名 (標準設定 :admin)。

SiteScope パスワード :SiteScope ユーザのパスワード (標準設定 :admin)。

SiteScope ポート :SiteScope サーバのポート (標準設定 : 8080)。

c. オプション: ツールが完了した後、次のように入力して資格情報を検証します。

```
ovconfget opr.sisconfig
```

2. SiteScope システム上で MANAGER\_ID を設定します。MANAGER\_ID は外部からエージェントへのアクセスを許可された人物を定義します。

a. BSM ゲートウェイ・サーバ・システムで、次のコマンドを入力してコア ID を探します。

```
ovcoreid -ovrg server
```

b. SiteScope システムで、MANAGER\_ID を BSM ゲートウェイ・サーバのコア ID に設定します。

```
ovconfchg -ns sec.core.auth -set MANAGER_ID <BSM ゲートウェイ・サーバの  
コア ID>
```

c. 次のように入力して、エージェント・プロセスを再起動します。

```
ovc -restart
```

d. オプション: 次のように入力し、MANAGER\_ID を検証します。

```
ovconfget sec.core.auth
```



## UI 参照

本項の内容

- 「[ポリシー データ] ページ」 (324 ページ)
- 「[ポリシー パラメータ] タブ」 (324 ページ)
- 「[プロパティ] ページ」 (325 ページ)





## [ポリシー データ] ページ





注: HP SiteScope テンプレートでは, [ポリシー データ] ページは読み取り専用です。

UI 要素	説明
	<b>ローカル・ファイル・システムからロード:</b> クリックして, [Select file to upload] ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスを使用して, ポリシー・ファイルをアップロードします。これらのファイルはデータ・ファイルであり, 末尾が <code>_data</code> です。
	HP SiteScope ポリシーでは構文チェックはサポートされません。[構文チェック] はクリックできますが, チェックは実行できません。
<ポリシー データ>	テキスト形式のポリシー・データ。

## [ポリシー パラメータ] タブ

注: HP SiteScope テンプレートでは, [ポリシー パラメータ] タブは読み取り専用です。

UI 要素	説明
	<b>パラメータの作成:</b> [パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの編集:</b> [パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>パラメータの削除:</b> 選択したパラメータをリストから削除します。
	<p><b>パラメータを同期:</b> ポリシー・テンプレートが確認され, 形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> の変数に対応するパラメータが存在することが確認されます。各変数には, 対応するパラメータが1つ必要です。</p> <p>ポリシー・テンプレートに対応する変数が存在しない, 未使用のパラメータもチェックされます。</p> <p>パラメータが不足している, または未使用のパラメータが存在する場合, [パラメータを同期] ダイアログ・ボックスが開きます。サマリを読み, [変更], または[無視]をクリックします。[変更]をクリックすると, 不足しているパラメータは自動的に作成され, 未使用のパラメータは自動的に削除されます。</p>

UI 要素	説明
パラ メータ	<p>このポリシー・テンプレート用に設定されたパラメータのリスト。</p> <p>パラメータを使用すると、他のユーザが簡単にカスタマイズできるポリシー・テンプレートを作成できます。各パラメータはポリシー・テンプレートの変数に対応しています。パラメータを指定することで、コンシューマはポリシー・テンプレート自体に変更を加えなくても、変数の値を指定できます。</p> <p>パラメータを挿入するには、[ポリシー パラメータ] タブから、ポリシー・テンプレートの条件またはイベント定義内の任意のテキスト・フィールドにパラメータをドラッグします。別の方法では、形式 <code>%%&lt;variable_name&gt;%%</code> でテキスト・ボックスにパラメータを入力します ( <code>%%CriticalThreshold%%</code> など)。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul>

## [プロパティ] ページ

UI 要素	説明
名前	<p>ポリシーの名前。名前に空白文字を使用できます。等号記号 (=) は使用できません。</p> <p>ポリシーが作成されると名前が設定されますが、ポリシーの新しいバージョンでは変更できません。</p>
説明	<p>ポリシーの機能の説明。その他のメモを追加することも可能です (使用されるデータ・ソースなど)。</p>
ポリ シー ID	<p>ポリシーの初回作成時に GUID<sup>1</sup>がポリシーに割り当てられます。</p>

<sup>1</sup>(グローバル一意識別子)

UI要素	説明
バージョン	<p>ポリシーの現在のバージョン。既存ポリシーを変更する場合、データベースにポリシーの新バージョンを作成し、一意のバージョン番号を設定します。標準設定では、マイナー・バージョン番号は、ポリシーを変更、保存した後に自動的に1増加します。特定のバージョン番号でポリシーを保存したい場合は、希望するメジャー/マイナー・バージョン番号を選択できます。ポリシーの既存のバージョンを置き換えることはできませんが、特定のバージョンを削除できます。</p> <p><b>注:</b> HP Operations Smart Plug-in (SPI) の一部となっているポリシー・テンプレートを変更すると、マイナー・バージョン番号のみが増加します。SPI の次のバージョンは通常、次のメジャー・バージョン番号を使用します。</p>
変更ログ	このバージョンのポリシーの、新項目または変更項目を記述するテキスト。
最終更新日時	<p>ポリシーが保存された日時。</p> <p>Web ブラウザが実行されるコンピュータの現在のタイムゾーンで、日時が表示されます。Web ブラウザの言語設定により日時の形式が決まります(たとえば、英語(アメリカ)では 09/14/2010 8:16:38 AM が使用されます)。Web ブラウザとサーバを実行するコンピュータで異なる言語が設定されている場合、Web ブラウザの言語設定が優先されます。ただし、Web ブラウザがサーバで使用できない言語を使用するように設定されている場合、英語が標準設定言語になります。</p>
最終更新者	ポリシーを最後に保存したユーザの名前。
インストメンテーション	このポリシー用に選択されたインストメンテーション。インストメンテーションは、一部のポリシーで設定および監視タスクの遂行に必要な場合がある、1つ以上のプログラム(スクリプト、実行可能プログラムなど)から構成されます。インストメンテーションは、ポリシーの展開時に HP Operations Agent がインストールされたノードにデプロイされます。
OSタイプ	<p>このポリシーと互換性を持つオペレーティング・システムのタイプ。</p> <p>プラットフォーム中立性を維持するため、同一ポリシーのプラットフォーム固有バリエーションを複数作成して1つのアスペクトに含めることが可能です。オペレーション管理により、ポリシーは、ユーザが指定するオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにのみデプロイされます。</p> <p>OS タイプのチェックボックスをすべてオフのままにすると、任意のオペレーティング・システムがインストールされたホスト・ノードにポリシーをデプロイできます。</p>

# HP Operations Manager ポリシーとインストレーションのインポート

HP Operations Manager (HPOM) は、IT インフラストラクチャやサービスの可用性とパフォーマンスを監視できる、サーバおよびエージェント・ベースの監視ソリューションです。HPOM では、ポリシーをデプロイすることで、管理するノード上の HP Operations Agent を設定することができます。HP BSM オペレーション管理が提供するスクリプトを使用することで、HPOM からポリシーをインポートしてアスペクトに含め、HP BSM オペレーション管理からそれらのポリシーを直接デプロイできます。

## 詳細

### テンプレート・グループ

HPOM では、ポリシー・グループはいくつかの共通の属性または論理的接続を共有するポリシーのセットを意味します。ポリシー・グループを使用すると、複数のポリシーでの同時作業をより簡単に行うことができます。たとえば、グループ内のすべてのポリシーを、まとめて管理対象ノードにデプロイできます。

HP Operations Manager からポリシー・グループをエクスポートし、オペレーション管理にインポートすることもできます。ポリシー・グループはポリシー・テンプレート・マネージャの[テンプレート グループ]の下に表示されます。

### インストレーション

インストレーションは1つ以上のプログラムで構成され、HP Operations Agent を持つノードにポリシーとともにデプロイされます。プログラムはポリシーで使用可能なスクリプトまたは実行可能ファイルです。

インストレーションはカテゴリにグループ化されています。ポリシーをインストレーション・カテゴリと関連付け、HP Operations Manager がポリシーをデプロイする際、自動的にインストレーションをデプロイすることができます。

HPOM からポリシーの設定データをエクスポートする際、関連付けられた任意のインストレーション・カテゴリを含めるよう選択できます。この設定データをインポートする場合、インストレーション・カテゴリはオペレーション管理から利用できます。インストレーション・カテゴリを個別のポリシーとともにデプロイしたり、アスペクトにインストレーションを追加することができます。

### スクリプト・パラメータ

HPOM では、VB スクリプトまたは Perl スクリプトを含む測定値しきい値を作成できます。スクリプトは複雑な計算、しきい値の評価、または機能の追加などを行うことができます。スクリプト・パラメータを使用すると、スクリプト自体を編集しなくてもスクリプトの変数の値を変更できます。

HPOM から測定値しきい値ポリシーをインポートする際、すべてのスクリプト・パラメータはオペレーション管理ポリシー・テンプレート・パラメータに変換されます。

### 自動コマンドとオペレータ開始コマンド

HPOM ポリシーは、自動コマンドとオペレータ開始コマンドを含むイベント (HPOM では「メッセージ」と言います) を作成できます。

- 自動コマンドは、HP Operations Agent がイベントを検出すると管理対象ノードでローカルに実行できます。また、HPOM は、管理サーバにイベントが到着した際に、管理サーバまたはリモート・

ノード上で自動コマンドを実行することもできます。オペレータは HPOM メッセージ・ブラウザから手動で自動コマンドを再開できます。

- HPOM オペレータは、イベントの詳細を評価した後で、HPOM メッセージ・ブラウザからオペレータ開始コマンドを手動で開始することができます。

HPOM からオペレーション管理にポリシーをインポートする場合、自動コマンドとオペレータ開始コマンドがある場合はこれらも含まれます。オペレーション管理を使用してポリシー・テンプレートをデプロイした後、管理対象ノードで自動コマンドをローカルに実行できます。ただし、オペレーション管理は BSM サーバやリモート・ノードで自動コマンドを実行しません。オペレーション管理から自動コマンドを再開し、オペレータ開始コマンドを開始することはできません。

HPOM 管理サーバをオペレーション管理に接続し、オペレーション管理から HPOM にイベントを転送する場合は、HPOM メッセージ・ブラウザを使用してこれらのイベント内に存在するコマンドを開始することができます。

## HPOM のポリシーのエクスポート

HPOM 管理サーバの次のツールを使用して、HPOM からポリシー、ポリシー・グループ、インストールメンテーションをエクスポートできます。

- HPOM for Windows:

```
ovpmutil cfg pol dnl <フォルダ> /p <ID> [/instrument]
```

- <フォルダ> をポリシーの設定データのダウンロード先となるフォルダのパスに置き換えます。
- <ID> をポリシーのダウンロード元となるポリシー・グループへのパスに置き換えます。パスには、コンソール・ツリーに表示されているとおり、ポリシーへのパスを含める必要があります(ポリシー・グループの下から開始)。ポリシー・グループのパスをバックスラッシュ(\)で開始し、サブグループもバックスラッシュ(\)で区切ります。ポリシー・グループの名前にスペースが含まれる場合、パス全体を引用符で囲みます。
- 関連するインストールメンテーション・カテゴリをエクスポートする場合は、/instrumentを追加します。

### 例:

次のコマンドは、ポリシー・グループ「サンプル」から c:\test フォルダにポリシーとインストールメンテーションをダウンロードします。

```
ovpmutil cfg pol dnl c:\test /p \Samples /instrument
```

詳細については、HPOM for Windows オンライン・ヘルプを参照してください。

- HPOM on UNIX または HPOM on Linux :

ショッピング・カート機能を使用してポリシー、ポリシー・グループ、インストールメンテーションをエクスポートすることができます。

- a. 管理 UI で、[参照] > [すべてのポリシー グループ] をクリックします。
- b. リストのポリシー・グループを選択し、[アクションの選択] > [ショッピング カートに追加] をクリックします。
- c. オプション:[参照] > [全カテゴリ] をクリックします。ポリシーで必要なインストールメンテーションのいずれかのカテゴリを選択し、[アクションの選択] > [ショッピング カートに追加] をクリックします。



- d. [参照] > [ショッピングカート]をクリックし, [アクションの選択] > [ショッピングカートのダウンロード]をクリックします。コメントを入力し, [OK]をクリックします。
- e. すると, [参照] > [ダウンロード]の新規サブフォルダ, および管理サーバの次のフォルダでデータを利用できるようになります。

```
/opt/OV/OMU/adminUI/data/clipboard/
```

あるいは, `opccfgdwn` コマンドを使用することもできます。詳細については, `opccfgdwn` マニュアル・ページを参照してください。

出力サーバを HPOM サーバから BSM サーバにコピーします。

## UI 参照

### ConfigExchange

オペレーション管理は HP Operations Manager からポリシー, ポリシー・グループ, インストルメンテーションをインポートする次のスクリプトを提供します。

- Windows の場合 :

```
<HP BSM のルート・ディレクトリ>\opr\bin\ConfigExchange.bat
```

- Linux の場合 :

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/ConfigExchange.sh
```

コマンドでは次のパラメータを(次の順序で)含める必要があります。

```
-uploadOM -input <フォルダ>
```

ポリシー・データとインストルメンテーションを含むフォルダへのパス。フォルダは `ovpmutil`(HPOM for Windows) または `opccfgdwn`(HPOM on UNIX または HPOM on Linux) の出力である必要があります。

```
-server <ゲートウェイ・サーバ> [-port <ポート>] [-ssl]
```

BSM ゲートウェイ・サーバのホスト名。

標準設定では, コマンドは HTTP 接続の場合はポート 80, HTTPS 接続の場合はポート 443 への接続を試みます。BSM ゲートウェイ・サーバが別のポートを使用する場合は `-port` を指定します。

HTTPS を使用して BSM ゲートウェイ・サーバに接続する `-ssl` を指定します。

```
-username
```

ポリシー・テンプレートの作成権限を持つ BSM ユーザのユーザ名。

```
-password
```

BSM ユーザのパスワード。

```
-verbose
```

オプション: 詳細な出力を印刷します。

```
-force
```

オプション: エラーが発生してもアップロードを続行します。

例:

次のコマンドは example\_policy\_group というフォルダからポリシー、ポリシー・グループ、インストルメンテーションをアップロードします。

```
c:\HPBSM\opr\bin\ConfigExchange.bat -uploadOM -input
c:\Users\Administrator\Desktop\example_policy_group -server
bsm1.example.com -port 8080 -username admin -password password
```

## インストルメンテーション開発

インストルメンテーションには、エージェントがインストールされた管理ノードに対するポリシーの定義に従い、HP Operations Agent によって実行されるスクリプトと実行可能ファイルが含まれています。

専用の監視パッケージを開発する場合、SPI 開発者およびユーザはこれらのガイドラインに従ってインストルメンテーションを開発、テストおよび更新する必要があります。インストルメンテーションは BSM の外部で開発されています。インストルメンテーションを RTSM にアップロードするには、「[ConfigExchange のコマンドライン・ツール](#)」(340ページ)を使用します。インストルメンテーションの本番稼働の準備ができれば、コンテンツ・パックを使用して他の BSM インスタンスに配布することができます。

注: インストルメンテーションの詳細については、HP Operations Manager for Windows および HP Operations Agent のドキュメントを参照してください。

注: テンプレートまたはアスペクトには、基本パッケージのみを割り当てることができます。パッチまたはホットフィックスを割り当てようとすると、エラーが表示されます。

### アクセス方法

ConfigExchange コマンドライン・インタフェースは次の場所にあります。

<BSM のルート・ディレクトリ>/opr/bin

## 詳細

### インストルメンテーションの開発

インストルメンテーション開発ユーティリティは、インストルメンテーションの開発を支援する目的で設計されています。次の機能を提供します。

- インストルメンテーション・ディレクトリ構造を作成する
- インストルメンテーション・ディレクトリ構造をアップロードおよびダウンロードする
- インストルメンテーション・ディレクトリ構造をパッチとしてアップロードおよびダウンロードする
- インストルメンテーション・ディレクトリ構造をホットフィックスとしてアップロードおよびダウンロードする

インストルメンテーション開発が完了したら、BSM サーバに配布するため、インストルメンテーション・コンポーネントをコンテンツ・パックに含める必要があります。

## インストルメンテーション・パッケージのデプロイメント

インストルメンテーション・パッケージ(パッチとホットフィックスを含む)は管理ノードにデプロイする必要があります。

## インストルメンテーション・パッケージの命名規則

3つのインストルメンテーション・アーティファクトがあります。

- インストルメンテーション・パッケージ(基本パッケージとも呼ばれる)
- インストルメンテーション・パッケージのパッチ
- インストルメンテーション・パッケージのホットフィックス

アーティファクト・タイプは次の命名規則を使用して定義されます。

- インストルメンテーション・パッケージ名に使用できるのは英数字と下線(\_)のみです(HPOMのカテゴリ名と同様)。
- パッチ名に使用できるのは英数字と下線(\_)のみで、次のサフィックスを含める必要があります。\_\_PATCH\_\_ <番号>。
- c) ホットフィックス名に使用できるのは英数字と下線(\_)のみで、次のサフィックスを含める必要があります。\_\_PATCH\_\_ <番号> \_\_HOTFIX\_\_ <名前>。

## パッチとホットフィックスの作成方法

インストルメンテーションのパッチとホットフィックスの作成方法の概要を次に示します。

### • 基本パッケージ定義

基本パッケージ定義は、カテゴリのディレクトリ構造を圧縮したものです。

基本パッケージを削除すると、ホットフィックスとパッチもすべて削除されます。

基本パッケージを再アップロードするには、`-force` オプションを使用します。

### • インストルメンテーション・パッチ定義

パッチの命名規則 : <base\_pkg\_name>\_\_PATCH\_\_ <番号>

インストルメンテーション・パッチ定義は関連付けられた基本パッケージにデプロイされ、基本パッケージのファイルを上書きします。ディレクトリ構造は基本パッケージと同じでなければなりません。ファイル・セットは通常、基本パッケージ・ファイルのサブセットです。

1つの基本パッケージに複数のパッチが存在する場合は、バージョン番号順に表示されます。

バージョン番号の構文 : <major>.<minor>( <major> と <minor> は 1 以上の整数 )

パッチをロールバックすると、パッチおよび関連するホットフィックスはすべてデータベースから削除されます。同じ基本パッケージに関連付けられた他のパッチは変更されません。

パッチを再アップロードするには、`-force` オプションを使用します。

### • ホットフィックス定義

ホットフィックスの命名規則 : <カテゴリ名>[ \_\_PATCH\_\_ <番号> ] \_\_HOTFIX\_\_ <ホットフィックス名>

ホットフィックス定義は、関連付けられた基本パッケージにアルファベット順にデプロイされ、基本パッケージおよび先行するパッチの同じ名前前のファイルを上書きします。ディレクトリ構造は基本パッ

ケースと同じでなければなりません。ファイル・セットは通常、基本パッケージ・ファイルのサブセットです。

1つの基本パッケージまたはパッチに複数のホットフィックスが存在する場合は、バージョン番号順に表示されます。

バージョン番号の構文:<major>.<minor>( <major> と <minor> は 1 以上の整数)

ホットフィックスをロールバックすると、ホットフィックスのみがデータベースから削除されます。

**注:** 2つのホットフィックスに矛盾するファイルが含まれているかの確認はされませんが、デプロイメントの順序は定義されます(アルファベット順)。

ホットフィックスを再アップロードするには、`-force` オプションを使用します。

#### ● パッチとホットフィックスのデプロイ方法

バージョン番号の高いパッチが、バージョン番号の低いパッチより優先されます。

エージェント・ノードは常に、利用可能な最新のパッチ、および最新のパッチの利用可能なホットフィックスとマージされた基本パッケージを取得します。パッチが存在しない場合、基本パッケージの利用可能なホットフィックスがマージされます。

#### 注:

- パッチまたはホットフィックスが存在する場合は、基本パッケージとともにデプロイされます。
- ホットフィックスが存在する場合、関連する基本パッケージまたはパッチは個別にデプロイすることはできません。
- 一番高いバージョン番号が割り当てられていないパッチをデプロイすることはできません。

たとえば、mySPI には次の2つのパッチが利用可能です。mySpi\_\_PATCH\_\_1 および mySpi\_\_PATCH\_\_2。mySpi\_\_PATCH\_\_1 をデプロイすることはできません。常に mySpi\_\_PATCH\_\_2 が選択されます。

#### ● インストルメンテーション・パッケージの分岐

同じ基本パッケージから分岐した複数のインストルメンテーション・パッケージが必要な場合は、インストルメンテーション・パッケージの名前付けによって解決する必要があります。これは、基本パッケージを新しい名前でも複製するだけです。

### ConfigExchange CLI のインストルメンテーション・コマンド

ConfigExchange コマンドライン・インタフェースには、次のインストルメンテーション専用のオプションが含まれています。

詳細については、「[ConfigExchange のコマンドライン・ツール](#)」(340ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
<b>-createinstrumdir -output &lt;カテゴリ名&gt;</b>	Windows および Unix オペレーティング・システムのためのサブディレクトリを含む、ファイル・システムに必要なディレクトリ構造を作成します。完全なディレクトリ構造が利用できるため、さまざまなインストール・セッション・コンポーネントが配置される場所を明確にすることができます。規定された構造に従うことが必要です。  <b>注:</b> オペレーティング・システムのバージョン名はハードコードされており、HP Operations Agent バージョン 11.10 から取られます。
<b>-description &lt;説明&gt;</b>	基本パッケージ、パッチまたはホットフィックスの説明テキスト。オプションを省略するには、"" に設定します。
<b>-force</b>	<code>-force</code> オプションを指定すると、データベース項目が置き換えられます。指定しないと、インストール・セッション・パッケージ(あるいはパッチまたはホットフィックス)がデータベースにすでに存在する場合、データベースのアップロードは失敗します。
<b>-hotfix &lt;ホットフィックス名&gt; -forpatch &lt;番号&gt;</b>	ホットフィックス名および関連するパッチ番号を指定します。<番号> = 0 は基本パッケージを示します。
<b>-instrumname &lt;カテゴリ名&gt;</b>	インストール・セッション名。
<b>-label &lt;ラベル&gt;</b>	基本パッケージ、パッチまたはホットフィックスのラベル。省略すると、カテゴリ名は次のように使用されます。  パッチ: <code>__PATCH__&lt;番号&gt;</code>  ホットフィックス: <code>__HOTFIX__&lt;ホットフィックス名&gt;</code>  例: <code>ISSPI__HOTFIX__cpu_fix</code> または <code>ISPI__PATCH__1__HOTFIX__cpu_fix</code>
<b>-list -instrumname &lt;カテゴリ名&gt;</b>	データベース内のパッケージの実際のステータス(基本パッケージ、パッチおよびホットフィックスの名前およびラベル)をリストします。  <code>-instrumname ALL</code> はデータベースにおいて利用可能なインストール・セッション・パッケージをすべてリストします。

UI 要素	説明
<code>-merge -output &lt;ターゲット・ディレクトリ&gt; -instrumname &lt;カテゴリ名&gt;</code>	<p>エージェント・ノードに適用されるレイアウトを使用して、マージされたインストールメンテーション・ディレクトリ構造をファイル・システムにダウンロードします。このオプションは、インストールメンテーションの開発とテストに役立ちます。</p> <p><b>注:</b> このオプションを開発 BSM サーバ上で使用することによって、どのインストールメンテーション・アーティファクトをエージェント・ノードにデプロイするかをシミュレートできます。</p> <p>さらに、基本パッケージ、パッチおよびホットフィックスを新しい基本パッケージにマージすることができます。</p>
<code>-patch &lt;番号&gt;</code>	<p>インストールメンテーション・ディレクトリ構造をパッチとしてアップロードします。</p> <p>前提条件: 基本パッケージは、データベース内で &lt;カテゴリ名&gt;_PATCH__&lt;番号&gt; という名前前で利用可能である必要があります。</p>
<code>-remove -instrumname &lt;カテゴリ名&gt; [ (-patch &lt;番号&gt; )   (-hotfix &lt;ホットフィックス名&gt; -forpatch &lt;番号&gt; ) ]</code>	<p>パッチとホットフィックスのロールバック機能。完全なインストールメンテーション・パッケージを削除する場合にも使用できます。</p>

## ConfigExchange CLI の使用例

次に、ConfigExchange CLI の使用例をリストします。

- `ConfigExchange.sh -upload -input <アップロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名>`

<アップロード・ディレクトリ> を <カテゴリ名> という名前前でデータベースにアップロードします。パッケージ <カテゴリ名> がすでにデータベースに存在する場合は失敗します。
- `ConfigExchange.sh -upload -input <アップロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名> -force`

<アップロード・ディレクトリ> を <カテゴリ名> という名前前でデータベースにアップロードします。パッケージ <カテゴリ名> がすでにデータベースに存在する場合は上書きします。
- `ConfigExchange.sh -upload -input <アップロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名> -patch 3 -label <ラベル>`

<アップロード・ディレクトリ> をアップロードし、パッケージ <カテゴリ名> の patch 3 としてデータベースに格納します。また、ラベル <ラベル> を Patch 3 に適用します。
- `ConfigExchange.sh -upload -input <アップロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名> -hotfix <ホットフィックス名> -forpatch 0 -description <説明>`

<アップロード・ディレクトリ> をアップロードし、基本パッケージ <カテゴリ名> のホットフィックス <ホットフィックス名> としてデータベースに格納します。また、説明 <説明> をホットフィックス <ホットフィックス名> に適用します。

- `ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -hotfix hf_CPUfix -forpatch 3 -force -description "mySPI hotfix for patch 3; fix CPU issue"`

`mySPI__PATCH__3__HOTFIX__hf_CPUfix` の説明を使用して、ディレクトリ `./mySPI` からアップロードし、データを `mySPI` の `patch 3` のホットフィックス `hf_CPUfix` としてデータベースに格納します。

`-force` によって、ホットフィックス・パッケージがすでにデータベースにある場合はパッケージが再アップロードされます。

- `ConfigExchange.sh -download -output <ダウンロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名>`

データベースからインストルメンテーション・パッケージを `<カテゴリ名>` という名前前でダウンロードし、ディレクトリ `<ダウンロード・ディレクトリ>` に解凍します。

注: パッチとホットフィックスはダウンロードされません。

- `ConfigExchange.sh -download -output <ダウンロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名> -patch 1`

インストルメンテーション・パッケージ `<カテゴリ名>` の `patch 1` をデータベースからダウンロードし、ディレクトリ `<ダウンロード・ディレクトリ>` に解凍します。

注: 基本パッケージとホットフィックスはダウンロードされません。

- `ConfigExchange.sh -download -output <ダウンロード・ディレクトリ> -instrumname <カテゴリ名> -hotfix <ホットフィックス名> -forpatch 1`

インストルメンテーション・パッケージ `<カテゴリ名>` の `patch 1` のホットフィックス `<ホットフィックス名>` をデータベースからダウンロードし、ディレクトリ `<ダウンロード・ディレクトリ>` に解凍します。

注: 基本パッケージと `patch 1` はダウンロードされません。

- `ConfigExchange.sh -merge -instrumname <カテゴリ名> -output <ダウンロード・ディレクトリ>`

インストルメンテーション・パッケージ `<カテゴリ名>`、関連付けられたパッチおよびホットフィックスをデータベースからダウンロードし、次の順序 (エージェント・ノードにデプロイされるのと同じ順序) でディレクトリ `<ダウンロード・ディレクトリ>` に解凍します。

- 基本パッケージ
- 最上位のパッチ
- アルファベット順で最上位のパッチのホットフィックス

- `ConfigExchange.sh -remove -instrumname <カテゴリ名> -hotfix hf1 -forpatch 0`

基本インストルメンテーション・パッケージ `<カテゴリ名>` のホットフィックス `hf1` をロールバックします。

- `ConfigExchange.sh -remove -instrumname <カテゴリ名> -patch 1`

`patch 1` とそのホットフィックスをロールバックします。

注: patch 1 よりもバージョン番号の高いパッチはダウンロードされません。

- `ConfigExchange.sh -createinstrumdir -output <カテゴリ名>`  
<カテゴリ名> の下に、インストルメンテーション・ファイルを含めるために使用できる空のディレクトリ構造を生成します。
- `ConfigExchange.sh -list -instrumname <カテゴリ名>`  
インストルメンテーション・パッケージ <カテゴリ名> のすべてのパッチおよびホットフィックスをリストします。

## ワークフロー

### エージェント・ノードへのインストルメンテーションのデプロイ

インストルメンテーションをエージェント・ノードにデプロイする場合は、次の項目について検討する必要があります。

- デプロイメントの順番：
  - 基本パッケージ
  - 最上位のパッチ
  - アルファベット順での最上位のパッチまたは基本パッケージのホットフィックス
- 次のいずれかの変更を行った場合：
  - 新規パッチまたはホットフィックスをデータベースにアップロードする
  - 基本パッケージを変更する
  - パッチまたはホットフィックスを変更する

基本パッケージがすでにデプロイされているシステムへのインストルメンテーションの次回デプロイメントでは、新しいインストルメンテーションがエージェント・ノードに自動的にデプロイされます。

基本パッケージ、パッチおよびホットフィックスのマージはゲートウェイ・サーバ上で実行され、エージェント・ノードにデプロイする場合の余分のネットワークトラフィックを削減します。

### インストルメンテーション・パッチとホットフィックスをコンテンツ・パックに含める

1. インストルメンテーション・パッチとホットフィックスはアーティファクトで、インストルメンテーションの基本パッケージと同じ方法で扱うことができます。これらは個々に識別可能で、コンテンツ・マネージャを使用して、エクスポートとインポートの処理を指定することができます。

注: 基本パッケージがデータベースにおいて利用可能でない場合は、アップロード時にパッチまたはホットフィックスのパッケージを無視し、パッチがまだデータベースにない場合は、パッチのホットフィックスを無視します。

2. コンテンツ・マネージャUIを使用して、基本パッケージを選択してエクスポートする場合、そのパッチとホットフィックスは自動的に選択されてエクスポートされます。パッチが選択される場合は、すべての関連付けられたホットフィックスがダウンロードされます。



## インストルメンテーションの基本パッケージを開発するための SPI ワークフロー

次のワークフローは、新しい mySPI インストルメンテーション・パッケージを開発する方法の概要を示します。

1. mySPI インストルメンテーション・パッケージのディレクトリ構造を作成します。

```
ConfigExchange.sh -createinstrumdir -output mySPI
```

2. 新しく作成されたディレクトリ構造に mySPI ファイルをコピーします。
3. テストのためにデータベースにインポートします。

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI
```

4. 開発を継続してバグを修正します。パッケージをデータベースにエクスポートします。

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -force
```

5. コンテンツ・パックを作成して、インストルメンテーション・パッケージ mySPI をコンテンツ・パックの他の mySPI アーティファクトに追加します。コンテンツ・パックをエクスポートします。
6. 本番使用のために、mySPI コンテンツ・パックを公開します。

## インストルメンテーション・パッチまたはホットフィックスを開発するための SPI ワークフロー

次のワークフローは、mySPI インストルメンテーション・パッケージの新しいパッチまたはホットフィックスを開発する方法の概要を示します。

1. 編集のために、mySPI インストルメンテーション・パッケージをファイル・システムにダウンロードします。

```
ConfigExchange.sh -download -output .-instrumname mySPI
```

2. パッチまたはホットフィックスに必要なファイルを編集、拡張、および追加します。
3. 新しいコンテンツをパッチまたはホットフィックスとしてアップロードします。

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -patch 1
```

あるいは、基本パッケージにホットフィックスを適用する場合：

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -hotfix hf1 forpatch 0
```

あるいは、パッチ 1 のホットフィックスが必要な場合：

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -hotfix hf1 forpatch 1
```

**注：**または、新しいディレクトリ構造を作成して、パッチまたはホットフィックスに必要なファイルのみを追加します。

4. 新しいコンテンツをテストし、必要に応じて調整します。-force オプションを使用してアップロードし、データベース内の以前の更新を置換します。

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -patch 1 -force
```

または

```
ConfigExchange.sh -upload -input mySPI -instrumname mySPI -hotfix hf1 -forpatch 0 -force
```

5. コンテンツ・パックを作成します。mySPI 基本パッケージをコンテンツ・パックに含めるかどうかを検討することもできます。
6. 本番使用のために、mySPI パッチまたはホットフィックスのコンテンツ・パックを公開します。

## HP Operations Manager ポリシーの検証

本章では、HP Operations Manager (HPOM) ポリシーが Monitoring Automation と互換性を持つかどうかを確認および検証する方法について説明します。

### アクセス方法

次の場所から configexchange コマンドライン・ツールを実行します。

```
<BSM_Root_Directory>/opr/bin/configexchange -check -policyfile <file_or_dir> -logfile <logfile>
```

詳細については、「ConfigExchange のコマンドライン・ツール」(340ページ)の項を参照してください。

## HPOM ポリシーまたはポリシーのセットの互換性レポートの作成方法

1. 次のコマンドを実行します。

```
<BSM_Root_Directory>/opr/bin/configexchange -check -policyfile <file_or_dir> -logfile <logfile>
```

ポリシー・パーサ・レポートは、<file\_or\_dir> に指定されたディレクトリのファイルまたはすべてのファイルについて生成され、<logfile> に指定されたファイルに書き込まれます。

2. 新しく生成されたポリシー・パーサ・レポートを開きます。次の情報が含まれます。

- 問題と非互換性の数およびタイプの概要
- 問題のないポリシー
- ECS を含むポリシー・ファイル
- ポリシー・ファイルの問題の詳細

例：

```
Policies without problems: 4 of 11 (36.36%)
```

```
Potential policy problems:
```

```
ECS-Policies: Error 1 of 10
```

```
Patterns: Error 9 of 10
```

```
Actions:
```

```
Server Var: Error 10 of 36
```

```
Server Exe: Error 9 of 36
```

```
Var in Action String: Error 0 of 36
```

```
Pwd encryption: Error 0 of 36
```

```

Forwarding rules (MPI_SV...):
  In # of conditions:    Warning  0

Server functionality (TroubleTicket, Notification, INSTRUCTION_
TEXT_INTERFACE):
  In # of conditions:    Warning  10

Suspicious instructions:
  In # of conditions:    Warning  1

Policies without problems
-----

[OK] /data/Work/Unified-Config/Policies_for_test/cd56be9e-fee3-
71e0-1bf0-1039249e0000_data
[OK] /data/Work/Unified-Config/Policies_for_test/dfa1c17a-fee3-
71e0-1bf0-1039249e0000_data
[OK] /data/Work/Unified-Config/Policies_for_test/elf3301e-9837-
4f28-a103-4ec3b09dbc09_data
[OK] /data/Work/Unified-Config/Policies_for_test/f5969ab4-fee3-
71e0-1bf0-1039249e0000_data

Policy files containing ECS
-----

[ECS] /data/Work/Unified-Config/Policies_for_test/f7df32d6-fee3-
71e0-1bf0-1039249e0000_data

Problem details of problematic policies
-----

Policy File: /data/Work/Unified-Config/Policies_for_test/f4d5252c-
4600-4c2e-99a2-67dbf002f333_data

Condition ID: b0c51b22-ece3-71d9-09fb-0f8878050000
Condition: "Verify opcmona flag files - not found at all"
  Problem: ACTION_SERVER_VAR [ERROR]
    Action: "opcragt -start <$MSG_NODE_NAME>"
    Action Node: ACTIONNODE IP 0.0.0.0 "<$OPC_MGMTSV>"
    Password:

Condition ID: 258941c8-ece3-71d9-09fb-0f8878050000
Condition:
  Problem: ACTION_SERVER_VAR [ERROR]
    Action: "opcragt -start <$MSG_NODE_NAME>"
    Action Node: ACTIONNODE IP 0.0.0.0 "<$OPC_MGMTSV>"
    Password:

...

```

**注:** ポリシー設定には、条件の一部であると同時にポリシーに対してグローバルなものがあります。その結果、条件 ID は条件外で検出された場合は null となり、以下が記録されま

す。

```
Policy Default Settings:
  Problem: SERVER_FUNCTION [ERROR]
  Server Function: INSTRUCTION_TEXT_INTERFACE
```

3. 報告されたエラーに該当するポリシー・ファイルについては、ポリシー・エディタを使用して、要件を満たすようにポリシーを変更します。

## ConfigExchange のコマンドライン・ツール

本項では、**ConfigExchange** コマンドライン・ツールで利用可能なオプションおよびパラメータについて説明します。

**ConfigExchange** コマンドライン・ツールは次の場所にあります。

```
<BSM のルート・ディレクトリ>/opr/bin
```

**ConfigExchange** コマンドには次の構文を使用する必要があります。

**ConfigExchange** <操作> <接続> <ユーザ資格情報> <オプション>

**操作** : 次のオプションのいずれかが必要です。

```
-upload -input <入力ファイルまたはディレクトリ>
-uploadOM -input <入力ファイルまたはディレクトリ>
-remove <InstrumOpts>
-merge -output <出力ファイルまたはディレクトリ> <InstrumOpts>
-list <InstrumOpts>
-createinstrumdir -output <出力ファイルまたはディレクトリ>
-version
-help
-check -policyfile <ファイルまたはディレクトリ> -logfile <ログ・ファイル>
```

**インストルメンテーション・オプション** : 次のオプションのいずれかが必要です。

```
-instrumname <名前> [ ( -patch <パッチ番号> ) | (-hotfix <ホットフィックス名> -
forpatch <パッチ番号> ) [ -label <ラベル> ] [ -description <説明> ] [ -
force ]
```

(**-list** と **-merge** は、**-instrumname** サブオプションのみを提供; **-list -instrumname ALL** はすべてのインストルメンテーション・パッケージをリスト; **-label**, **-description** および **-force** は **-upload** によってのみサポートされる)。

**接続** : 次のオプションのいずれかが必要です。

```
-url <URL>
-server <ゲートウェイ・サーバ> [-port <ポート>] [-ssl]
```

**ユーザ資格情報** :

-username <ログイン名> [-password <パスワード>]

**オプション**: 次のいずれか:

-verbose

-force

-policyname

**ConfigExchange** コマンドで使用できる引数の詳細を次の表に示します。

オプション	説明
-c, -check	互換性に問題がないか HPOM からエクスポートされたポリシーを確認します。
-cin, -createinstrumdir	インストルメンテーション・パッケージ用にファイル・システムでディレクトリ・レイアウトを作成します。
-de, -description <説明>	インストルメンテーション・パッケージ、パッチまたはホットフィックスの説明テキスト。
-dl, -download	オペレーション管理のインストルメンテーションをダウンロードします。
-f, -force	エラーが発生してもデータのアップロードおよびダウンロードを続行します。
-fp, -forpatch <パッチ番号>	インストルメンテーションのホットフィックスが参照するパッチ番号。"0" は基本パッケージのホットフィックスを意味します。
-h, -help	コマンド・オプションのサマリを表示して終了します。
-hf, -hotfix <ホットフィックス名>	ホットフィックス名。ホットフィックスは、基本パッケージまたはそのいずれかのパッチ用です。
-i, -input <入力ファイルまたはディレクトリ>	入力ファイルまたはディレクトリ。
-inn, -instrumname <インストルメンテーション名>	データベースで使用されるインストルメンテーション・パッケージ名。
-l, -list	インストルメンテーション・パッケージをそのパッチおよびホットフィックスとともにリストします。
-label, -label <ラベル>	インストルメンテーション・パッケージ、パッチまたはホットフィックスのラベル。
-lf, -logfile <ログ・ファイル>	解析結果を書き込むログ・ファイル。

オプション	説明
<b>-m, -merge</b>	<p>インストルメンテーション・パッケージを、そのパッチとホットフィックスとともにファイル・システムにダウンロードします。データは次の順序でマージされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本パッケージ</li> <li>• 最高パッチ・バージョン</li> <li>• アルファベット順に並べた最高パッチまたは基本パッケージ(パッチが存在しない場合)のホットフィックス</li> </ul>
<b>-o, -output &lt;出力ファイルまたはディレクトリ&gt;</b>	出力ファイルまたはディレクトリ。
<b>-p, -port &lt;ポート&gt;</b>	<p>ポート番号を設定します。HTTP の標準設定のポート番号は 80 で、HTTPS の場合は 443 です。</p> <p>このオプションは、url オプションと一緒に指定しないでください。</p>
<b>-password &lt;パスワード&gt;</b>	指定されたユーザのパスワード。
<b>-patch, -patch &lt;パッチ番号&gt;</b>	インストルメンテーション・パッケージのパッチ番号。1 以上の整数である必要があります。
<b>-rm, -remove</b>	<p>データベースから次のいずれかを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インストルメンテーション・パッケージ(パッチとホットフィックスを含む)</li> <li>• 指定されたインストルメンテーション・パッケージからのパッチ(ホットフィックスを含む)</li> <li>• 指定されたインストルメンテーション・パッケージからのホットフィックス</li> </ul>
<b>-server &lt;ゲートウェイサーバ&gt;</b>	<p>ターゲット・ゲートウェイ・サーバを設定します。値は、ゲートウェイ・サーバのホスト名または IP アドレスです。</p> <p>標準設定値: {0}.</p> <p>このオプションは、url オプションと一緒に指定しないでください。</p>
<b>-ssl</b>	<p>プロトコルが HTTPS に設定されます。</p> <p>標準設定は HTTP の使用です。このオプションは、url オプションと一緒に指定しないでください。</p>
<b>-u, -url &lt;URL&gt;</b>	<p>ゲートウェイ・サーバの URL。</p> <p>標準設定値: http://&lt;BSM ゲートウェイ FQDN&gt;:80/opr-config-server/rest</p> <p>このオプションは、ssl オプション、server オプション、port オプションと同時に使用できません。</p>
<b>-ul , -upload</b>	オペレーション管理のインストルメンテーションをアップロードします。

オプション	説明
-uom, -uploadOM	HPOM データ(ポリシー, ポリシー・グループ, インストルメンテーション)をアップロードします。
-username <ログイン名>	認証に必要なユーザのログイン名。
-v, -verbose	詳細な出力が行われます。
-version	バージョン情報を印刷して終了します。

ConfigExchange コマンドは、要求した処理の終了ステータスを表す次の値を表示します。

終了ステータス	説明
0	正常に完了
1	要求した処理に失敗
300-399	HTTP リダイレクト(300 ~ 399)
400-499	HTTP クライアント・エラー(400 ~ 499)
500-599	HTTP 内部サーバ・エラー(500 ~ 599)

終了ステータスの番号(300 ~ 599)は、標準 HTTP ステータスのカテゴリ(および番号)を表します。例:Redirection (300-399)。特定の HTTP エラー・ステータスに関する詳細な情報(一時的な HTTP のリダイレクトを表す 307 など)については、一般に公開されている HTTP ドキュメントを参照してください。

## スクリプトのポリシー・オブジェクト

次に示すオブジェクトは、各ポリシーで使用でき、Visual Basic Scripting Edition または Perl で操作できます。これらのポリシー・オブジェクトは、ポリシー内で実行されるスクリプトでのみ使用できます。これらは、コマンド・ラインから実行されるスタンドアロン・スクリプトでは使用できません。

**注意:** 管理者は、データを評価し、操作するための強力なツールとしてポリシー・スクリプトを使用できます。ただし、スクリプトが誤って記述されている場合、エージェントが失敗する可能性があります。Hewlett-Packard Company は、誤って記述されたスクリプトにより生じるエージェントの失敗に関する責任を負いません。

本項の内容

- 「ポリシー・オブジェクト」(344ページ)
- 「Source オブジェクト」(351ページ)
- 「Session オブジェクト」(357ページ)
- 「Rule オブジェクト」(358ページ)

- 「ConsoleMessage オブジェクト」(359ページ)
- 「ExecuteCommand オブジェクト」(363ページ)

## ポリシー・オブジェクト

このオブジェクトを使用して、ポリシーの属性にアクセスします。

ポリシー・メソッド: ソース	
パラメータ:	<i>name</i> ( <b>Short name</b> は、ポリシーのソース・プロパティを示す)
戻り値の型:	VB スクリプト : "Source" タイプの IDispatch オブジェクト (これが、ポリシー・オブジェクトのデフォルト・メソッドである)。 Perl: <i>source</i> オブジェクト
VB Script 構文:	<code>Policy.Source ("name")</code>
Perl 構文:	<code>\$Policy-&gt;Source ("name");</code>
説明:	定義されたソースとメトリックの <i>source</i> を返します。測定値タイプのソースでは、メトリックごとに別々のソースを使用する必要があります。  注: パフォーマンスを改善するには、必要なときに毎回 Source メソッドを使用するのではなく、 <i>source</i> オブジェクトを変数に割り当てます。

ポリシー・メソッド:	名前
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :BSTR, Perl:string
VB Script 構文:	<code>Policy.Name()</code>
Perl 構文:	<code>\$Policy-&gt;Name();</code>
説明:	スクリプトを開始したポリシー名を返します。

ポリシー・メソッド: CreateObject	
パラメータ:	<i>progID</i> (次の形式の文字列: [Vendor.]Component [.Version])
戻り値の型:	VB スクリプト :IDispatch Perl:適用外



ポリシー・ メソッド: <code>CreateObject</code>	
VB Script 構文:	<code>Policy.CreateObject("progID")</code>
Perl 構文 :	適用外
説明:	COM オブジェクトのコンポーネント・インスタンスを作成します。このメソッドは Windows ノードでのみ有効です。Perl スクリプトでは使用できません。

ポリシー・ メソッド: <code>SourceEx</code>	
パラメータ:	<code>expression</code> (有効な式については、以下の説明を参照)
戻り値の 型:	VB スクリプト: "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl: <code>source</code> オブジェクト
VB Script 構文:	<code>Policy.SourceEx("expression")</code>
Perl 構文 :	<code>\$Policy-&gt;SourceEx("expression");</code>

ポリシー・ メソッド:	SourceEx
説明:	<p>式により定義されるソースの <code>source</code> オブジェクト・インスタンスを返します。この <code>source</code> オブジェクトは <code>Policy.Source</code> メソッドにより返されるオブジェクトと同一ですが、ポリシーでの設定が必要ないため、スケジュール・タスクおよび測定値しきい値ポリシーに使用できます。パフォーマンス・メトリックの収集元コンポーネントに応じて、式には次の形式を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p><code>NTPERFMON\\Object\\Counter\\Instance</code></p> <p>perflib メトリックにアクセスします(UNIX ノードではサポートされません)。Object, Counter, Instance は、NT パフォーマンス・モニタの現在のモニタ設定で指定された文字列です。</p> <p>例 : <code>NTPERFMON\\Process\\Elapsed Time\\*</code></p> </li> <li> <p><code>SNMP\\object id[\\hostname]</code></p> <p>指定されたオブジェクト ID (OID) で SNMP の Get を実行します。標準設定では、収集は管理対象ノードで行われますが、オプションのホスト名を指定することで、どのノードでも行えます。SNMP では、メソッドは値が返されるまで待機する必要があります。これには時間がかかる場合があります</p> <p>例 : <code>SNMP\\.1.3.6.1.2.1.1.7.0\\onion.veg.com</code></p> </li> <li> <p><code>PROGRAM\\command[\\monname]</code></p> <p>指定されたコマンドまたはスクリプトを実行して、モニタ対象の値を収集します。コマンドまたはスクリプトは、ある時点で <code>opcmon</code> コマンドを実行することにより、モニタに関連付けられている値を返す必要があります。モニタ名が指定されていない場合、標準設定の <code>DynPROGRAM</code> を使用する必要があります。たとえば、モニタ <code>mymonname</code> を指定する場合、<code>opcmon mymonname=value</code> と指定し、標準設定を指定する場合、<code>opcmon DynPROGRAM=value</code> と指定します。</p> <p>例 :</p> <pre>PROGRAM\\opcmon DynPROGRAM=12 PROGRAM\\opcmon testmon=25\\testmon</pre> </li> <li> <p><code>EXTERNAL[\\monname]</code></p> <p><code>opcmon</code> コマンドの実行により返される値を待機します。これは、PROGRAM 式に類似していますが、コマンドが直接実行されない点が異なります。ExecuteCommand オブジェクトにより以前にトリガされた外部コマンドでモニタ値を指定する必要があります。標準設定値は <code>DynEXTERNAL(opcmon DynExternal=10)</code></p> <p>例 :</p> <pre>EXTERNAL EXTERNAL\\testmon</pre> </li> <li> <p><code>WBEM\\namespace\\class name\\property name</code></p> <p>WMI インタフェース(UNIX ノードではサポートされません)。WBEM 値にアクセスします。Namespace, class name, property name は、WBEM の現在のモニタ設定で指定された文字列です。</p> </li> </ul>

ポリシー・ メソッド:	SourceEx
	<p>例 :WBEM\\ROOT\CIMV2\\Win32_PerfRawData_PerfDisk_LogicalDisk\\DiskReadBytesPersec</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CODA\\data source\\collection\\metric name</li> </ul> <p>埋め込みパフォーマンス・コンポーネントにメトリックをクエリします。data source, collection, metric name は、埋め込みパフォーマンス・コンポーネントのモニタ設定に指定された文字列です。一般的に data source が空白の場合、文字列 "Coda" が使用されます。</p> <p>例 :CODA\\CPU\\BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL</p> <p>使用可能なメトリックのリストは、HP ソフトウェア製品 マニュアルから入手できるオペレーティング・システム・パフォーマンス・メトリクスの HP パフォーマンス・エージェント・ディクショナリで確認できます。(製品の Performance Agent, 必要なバージョン, OS, 言語を選択します)。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>注:</b> Perl では、バックslash文字 '\' はエスケープ・コードです。連続する2つのバックslashが文字列に含まれると、1つのバックslash文字が出力されます。このため、式に含まれるトークンは、4重バックslash '\\\\' により区切る必要があります。Perl の例:my \$TestSource = \$Policy-&gt;SourceEx("PROGRAM\\\\\\tmp/script.sh\\\\\\testmon");</p> </div>

ポリシー・メ ソッド	SourceExTimeout
パラメータ:	<i>seconds</i> (integer)
戻り値の 型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	Policy.SourceExTimeout = <i>seconds</i>
Perl 構文 :	\$Policy->SourceExTimeout( <i>seconds</i> );
説明:	値が返されるまで SourceEx および SourceCollection メソッドが待機する最大時間を秒で指定します。標準設定は 30 秒。

ポリシー・ メソッド:	実行
パラメータ:	<i>command</i> (文字列)

ポリシー・ メソッド: <b>実行</b>	
戻り値の 型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>Policy.Execute ("command")</code>
Perl 構文 :	<code>\$Policy-&gt;Execute ("command");</code>
説明:	指定されたコマンドを非同期に実行します。コマンドは、エージェントのセキュリティのコンテキストで実行されるため、エージェントを実行するローカル・システムまたはユーザが選択した他のユーザとして実行できます。メソッドはただちに返されます。コマンドの指定方法については、ExecuteCommand メソッドの <b>コマンド</b> を参照してください。

ポリシー・ メソッド: <b>Output</b>	
パラメータ:	<i>string</i>
戻り値の 型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>Policy.Output ("string")</code>
Perl 構文 :	<code>\$Policy-&gt;Output ("string");</code>
説明:	スケジュール・タスクの成功または失敗に応え、イベント・ブラウザに送信されたイベントの注釈フィールドに文字列を追加します。このメソッドは、スケジュール・タスク・ポリシーにのみ有効です。

ポリシー・ メソッド: <b>ExecuteEx</b>	
パラメータ:	<i>command</i> (文字列)
戻り値の 型:	VB スクリプト :BSTR Perl:string
VB Script 構文:	<code>Policy.ExecuteEx ("command")</code>
Perl 構文 :	<code>\$Policy-&gt;ExecuteEx ("command");</code>

ポリシー・メソッド: <b>ExecuteEx</b>	
説明:	<p>指定されたコマンドを同期的に実行し、コマンドの出力が返されるまで完了を待機します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>セキュリティ:</b> コマンドは、エージェントのセキュリティのコンテキストで実行されるため、エージェントを実行するローカル・システムまたはユーザが選択したほかのユーザとして実行できます。</li> <li>• <b>戻り値:</b> コマンドが成功すると、STDOUT が返されます。コマンドが失敗すると(ゼロ以外の戻り値の場合)、文字列 "ERROR:\n" に続いて STDERR が返されます。</li> </ul> <p>ゼロ以外の戻り値を処理するため、eval 関数内で ExecuteEx を実行し、結果(文字列 "ERROR" が含まれるかどうかなど)を確認します。</p> <p>Perl スクリプトの例:</p> <pre>eval '\$ReturnText = \$ExecuteCommand-&gt;ExecuteEx()'; \$returnText = \$? if \$?;</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>パス:</b> 完全パスを使用するか、必要なすべてのパスがPATH 変数に含まれていることを確認する必要があります。</li> </ul> <p>例: <code>dir_con = Policy.ExecuteEx ("cmd /c dir c:\")</code></p>

ポリシー・メソッド: <b>StoreCollection</b>	
パラメータ:	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>expression:</b>( 次の形式の埋め込みパフォーマンス・コンポーネント・メトリック: CODA\\data source\\collection\\metric name[\\category])</li> <li>• <b>sourceobj:</b>( 任意の有効な source オブジェクト)</li> </ul>
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>Policy.StoreCollection("expression", sourceobj)</code>
Perl 構文:	<code>\$Policy-&gt;StoreCollection("expression", sourceobj);</code>

ポリシー・ メソッド: StoreCollection	
カテゴリ・ タイプ:	<p>使用可能なカテゴリ・タイプを記述します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNDEFINED:無視</li> <li>• NOTAPPLICABLE:無視</li> <li>• ATTRIBUTE:静的な定義または値です。OS 名, バージョン, リリース, 物理メモリ, CPU クロック速度など。</li> <li>• DELTA:最後の間隔におけるアクティビティ(間隔をおいたカウント, レート, 使用率など)を表示します。</li> <li>• GAUGE:監視時における最新の使用または値を示す数値(実行キュー, ユーザ数, ファイル・システムの領域使用率など)。</li> <li>• COUNTER:アクティビティの累積カウント(CPU 時間, 物理 IO 数, ページング回数, ネットワーク・パケット数, 割り込み回数など)。</li> </ul>
説明:	<p><code>source</code> オブジェクトを, <code>expression</code> で識別される埋め込みパフォーマンス・コンポーネントのデータ・ソースに格納します。例 <code>:Policy.StoreCollection "CODA\\DBSPI\\TABLE\\SPACE", Source</code></p>

ポリシー・ メソッド: SourceCollection	
パラメータ:	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>expression</code>:次の形式の埋め込みパフォーマンス・コンポーネント・メトリック: <code>CODA\\data source\\collection\\metric name.</code></li> <li>• <code>rangeofseconds</code>:メトリックが返されるべき時間範囲の秒数。</li> <li>• <code>endtime</code>:<code>rangeofseconds</code> の終了時刻。日時の形式は, VB スクリプトの場合は DATE 型で, Perl の場合は文字列(DD/MM/YYYY HH:MM:SS の形式)です。日付はオプションです。</li> </ul>
戻り値の 型:	VB スクリプト: "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl:source オブジェクト
VB Script 構文:	<code>Policy.SourceCollection ("expression", rangeofseconds, endtime)</code>
Perl 構文:	<code>\$Policy-&gt;SourceCollection ("expression", rangeofseconds, endtime);</code>
説明:	<p><code>source</code> オブジェクトを返します。この <code>source</code> オブジェクトには, 指定された埋め込みパフォーマンス・コンポーネント・メトリックによって収集されたすべての値が含まれます。インスタンスごとに, 式 "<code>endtime - rangeofseconds</code>" と "<code>rangeofseconds</code>" 表現の間で収集されたすべてのメトリックが返されます。<code>endtime</code> が 0 (Perl の場合は NULL) の場合は, 現在の時刻を使用して評価されます。例 <code>:Policy.SourceCollection ("CODA\\CPU\\BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL", 300, 0)</code> 多量の値の取得には時間が必要となり, リソースが消費されることから, 指定される秒数は 3600 (1 時間) 未満にする必要があります。</p>

## Source オブジェクト

source オブジェクトを使用して、メトリックの現在の値にアクセスします。source オブジェクトのインスタンスは、source オブジェクトを返す任意のメソッドにより作成できます。

Source メソッド:	値
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :バリエーション (Source オブジェクトの標準設定メソッドです) Perl:string
VB Script 構文:	Sourceobj.Value ()
Perl 構文:	\$Sourceobj->Value ();
説明:	ポリシーの処理オプションで、[各インスタンスを個別に処理]オプションを選択した場合は、現在のインスタンス値。

Source メソッド:	名前
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :BSTR Perl:string
VB Script 構文:	Sourceobj.Name ()
Perl 構文:	\$Sourceobj->Name ();
説明:	測定値しきい値ポリシーの処理オプションで、[各インスタンスを個別に処理]オプションを選択した場合は、現在のインスタンスの名前を返します。

Source メソッド:	InstanceCount
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :Int, Perl:integer
VB Script 構文:	Sourceobj.InstanceCount ()
Perl 構文:	\$Sourceobj->InstanceCount ();
説明:	ソースに含まれるインスタンス数を返します。

Source メソッド: カウント	
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :Int Perl:integer
VB Script 構文:	Sourceobj.Count ()
Perl 構文:	\$Sourceobj->Count ();
説明:	InstanceCount と同じです。このパラメータは、後方互換性を提供するためのものです。

Source メソッド: 項目	
パラメータ:	<i>index</i>
戻り値の型:	VB スクリプト : "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl:source オブジェクト
VB Script 構文:	Sourceobj.Item ( <i>index</i> )
Perl 構文:	\$Sourceobj->Item ( <i>index</i> );
説明:	インデックスで定義されるインスタンスにアクセスします。インデックスは 0 から InstanceCount - 1 までの数値です。返された <i>source</i> オブジェクトは、 <i>Value</i> および <i>Name</i> メソッドを使用して抽出できます。このパラメータは、後方互換性を提供するためのものです。

Source メソッド: ValueOf	
パラメータ:	<i>index</i> (integer)
戻り値の型:	VB スクリプト :variant Perl:string
VB Script 構文:	Sourceobj.ValueOf ( <i>index</i> )
Perl 構文:	\$Sourceobj->ValueOf ( <i>index</i> );
説明:	インデックスによって定義されたインスタンスの値に直接アクセスします。[すべてのインスタンスを一括処理]オプションが定義されている場合、このメソッドはすべてのインスタンスをループするのに便利です。インデックスは 0 から InstanceCount - 1 までの数値です。



Source メソッド: NameOf	
パラメータ:	<i>index</i> (integer)
戻り値の型:	VB スクリプト :BSTR Perl:string
VB Script 構文:	Sourceobj.NameOf( <i>index</i> )
Perl 構文:	\$Sourceobj->NameOf( <i>index</i> );
説明:	インデックスによって定義されたインスタンスの名前に直接アクセスします。インデックスは0から InstanceCount - 1 までの数値です。ポリシーの処理オプションで[すべてのインスタンスを一括処理]オプションが選択されている場合、このメソッドはすべてのインスタンスをループするのに便利です。

Source メソッド: Top	
パラメータ:	<i>number</i>
戻り値の型:	VB スクリプト : "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl:source オブジェクト
VB Script 構文:	Sourceobj.Top( <i>number</i> )
Perl 構文:	\$Sourceobj->Top( <i>number</i> );
説明:	<number> が最高値であるインスタンスのみを含む新しい source オブジェクト・インスタンスを返します。たとえば、c := 90%, d = 80%, e = 40% という3つのインスタンスが存在する場合、Sourceobj.Top(2) は c: と d: を返します。

Source メソッド: Bottom	
パラメータ:	<i>number</i>
戻り値の型:	VB スクリプト : "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl:source オブジェクト
VB Script 構文:	Sourceobj.Bottom( <i>number</i> )

Source メソッド: Bottom	
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;Bottom(<i>number</i>);</code>
説明:	<number> が最低値であるインスタンスのみを含む新しい source オブジェクト・インスタンスを返します。たとえば, <code>c := 90%</code> , <code>d = 80%</code> , <code>e = 40%</code> という3つのインスタンスが存在する場合, <code>Sourceobj.Bottom(2)</code> は <code>d:</code> と <code>e:</code> を返します。

Source メソッド: 除外	
パラメータ:	<i>namepattern</i> , <i>valuepattern</i>
戻り値の型:	VB スクリプト: "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl:source オブジェクト
VB Script 構文:	<code>Sourceobj.Exclude("namepattern", "valuepattern")</code>
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;Exclude("namepattern", "valuepattern");</code>
説明:	パターンで指定された値を除く新しい source オブジェクト・インスタンスを返します。2つのパラメータを指定できます。1つは変数の名前(タイプ, オブジェクト, およびインスタンス)用であり, もう1つは値用です。1つの引数にパターンが不要の場合は NULL を指定します。パターンは有効な HP Operations Agent パターン一致表現である必要があります。

Source メソッド: 含める	
パラメータ:	<i>namepattern</i> , <i>valuepattern</i>
戻り値の型:	VB スクリプト: "Source" タイプの IDispatch オブジェクト Perl:source オブジェクト
VB Script 構文:	<code>Sourceobj.Include("namepattern", "valuepattern")</code>
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;Include("namepattern", "valuepattern");</code>
説明:	パターンで指定された値のみを含む新しい source オブジェクト・インスタンスを返します。2つのパラメータを指定できます。1つは変数の名前(タイプ, オブジェクト, およびインスタンス)用であり, もう1つは値用です。1つの引数にパターンが不要の場合は NULL を指定します。パターンは有効な HP Operations Agent パターン一致表現である必要があります。

Source メソッド: 時刻	
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :DATE Perl:文字列(形式:DD/MM/YYYY HH:MM:SS)
VB Script 構文:	<code>Sourceobj.Time()</code>
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;Time();</code>
説明:	表現の評価時刻を返します。

Source メソッド: TimeOf	
パラメータ:	<code>index(integer)</code>
戻り値の型:	VB スクリプト :DATE Perl:文字列(形式:DD/MM/YYYY HH:MM:SS)
VB Script 構文:	<code>Source.TimeOf(index)</code>
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;TimeOf(index);</code>
説明:	特定のインスタンスに対する表現の評価時刻を返します。インデックスは0から InstanceCount - 1 までの数値です。

Source メソッド: 追加	
パラメータ:	<code>instancename, value</code>
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>Sourceobj.Add "instancename:", value</code>
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;Add("instancename:", value);</code>

Source メソッド: 追加	
カテゴリ・タイプ:	<p>使用可能なカテゴリ・タイプを記述します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNDEFINED:無視</li> <li>• NOTAPPLICABLE:無視</li> <li>• ATTRIBUTE:静的な定義または値です。OS 名, バージョン, リリース, 物理メモリ, CPU クロック速度など。</li> <li>• DELTA:最後の間隔におけるアクティビティ(間隔をおいたカウント, レート, 使用率など)を表示します。</li> <li>• GAUGE:監視時における最新の使用または値を示す数値(実行キュー, ユーザ数, ファイル・システムの領域使用率など)。</li> <li>• COUNTER:アクティビティの累積カウント(CPU 時間, 物理 IO 数, ページング回数, ネットワーク・パケット数, 割り込み回数など)。</li> </ul>
説明:	<p><b>source</b> オブジェクトにインスタンス名を追加し, 値を設定します。このインスタンスがすでに <b>source</b> オブジェクトに含まれている場合は, 新しいインスタンスは追加されず, 値が置換されます。このメソッドは, 新しく作成したオブジェクトまたは <b>source</b> オブジェクトを返すメソッドから取得されたオブジェクトに対してのみ使用できます。このメソッドを使用して, 埋め込みパフォーマンス・コンポーネントにデータを格納します。</p> <p>VB Script の例:</p> <pre>set Sourceobj = Policy.CreateObject ("Ito.OvEpScriptMetric") Sourceobj.Add "a:",10 Sourceobj.Add "b:",25 Policy.StoreCollection "CODA\\floppy \\disk\\space\\\\"gauge", Sourceobj</pre> <p>Perl の例:</p> <pre>my \$Sourceobj = new Source; \$Sourceobj-&gt;Add("a:",10); \$Sourceobj-&gt;Add("b:",25); \$Policy-&gt;StoreCollection("CODA\\\\"floppy \\\\"disk\\\\"space\\\\"gauge",\$Sourceobj);</pre>

Source メソッド: DataAvailable	
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :ブール値 Perl:integer

Source メソッド: DataAvailable	
VB Script 構文:	Sourceobj.DataAvailable
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;Sourceobj.DataAvailable;</code>
説明:	source オブジェクトに値が含まれる場合は TRUE を返し、そうでない場合は FALSE を返します。

Source メソッド: ValueOfInstance	
パラメータ:	<i>instancename</i>
戻り値の型:	VB スクリプト :variant Perl:string
VB Script 構文:	Sourceobj.ValueOfInstance (" <i>instancename</i> ")
Perl 構文:	<code>\$Sourceobj-&gt;ValueOfInstance ("<i>instancename</i>");</code>
説明:	インスタンス名で定義されたインスタンスの値に直接アクセスします。

## Session オブジェクト

Session オブジェクトを使用して、データを格納し、異なる間隔で実行されるスクリプト内でデータにアクセスします。また、アクション変数 <\$SESSION(KEY)> を使用して、スクリプトからポリシー・アクションへのデータ転送にも使用できます。Session オブジェクトはポリシーごとに固有です。

Session メソッド: IsPresent	
パラメータ:	<i>key</i>
戻り値の型:	VB スクリプト :ブール値 Perl:integer
VB Script 構文:	Session.IsPresent (" <i>key</i> ")
Perl 構文:	<code>\$Session-&gt;IsPresent ("<i>key</i>");</code>
説明:	<i>key</i> の値が存在する場合、TRUE を返します。 <i>key</i> の値が存在しない場合、FALSE を返します。キーは <a href="#">Session.Value</a> メソッドで設定されます。

Session メソッド: 削除	
パラメータ:	<i>key</i>

Session メソッド: 削除	
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>Session.Remove("key")</code>
Perl 構文:	<code>\$Session-&gt;Remove("key");</code>
説明:	session オブジェクトから、指定されたキーを削除します。

Session メソッド: RemoveAll	
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>Session.RemoveAll()</code>
Perl 構文:	<code>\$Session-&gt;RemoveAll();</code>
説明:	session オブジェクトから、すべてのキーを削除します。

Session メソッド: 値	
パラメータ:	<i>key</i> <i>value</i> (Perl のみ)
戻り値の型:	VB スクリプト :バリエーション(Session オブジェクトの標準設定メソッドです) Perl:string
VB Script 構文:	put の場合 : <code>Session.Value("key")=value</code> get の場合 : <code>value=Session.Value("key")</code>
Perl 構文:	put の場合 : <code>\$Session-&gt;Value("key", "value");</code> get の場合 : <code>Value = \$Session-&gt;Value("key");</code>
説明:	定義されたキーの値に対して get または put を実行します。

## Rule オブジェクト

Rule オブジェクトを使用して、しきい値を超えたかどうかをポリシーに通知します。TRUE はしきい値を超えたことを示し、FALSE はしきい値を超えていないことを示します。

スケジュール・タスク・ポリシーでは、Rule オブジェクトを使用してコマンドが成功したか失敗したかを通知します。TRUE = コマンドが成功した場合、FALSE = コマンドが失敗した場合。

Rule メソッド: ステータス	
パラメータ:	void

Rule メソッド: ステータス	
戻り値の型:	VB スクリプト :ブール値 Perl:integer
VB Script 構文:	put の場合 :Rule.Status = <i>boolvalue</i> get の場合 : <i>boolvalue</i> = Rule.Status
Perl 構文:	put の場合 : \$Rule.Status( <i>boolvalue</i> ); get の場合 : <i>boolvalue</i> = \$Rule.Status();
説明:	測定値しきい値ポリシーの場合、しきい値ステータスの値に対して put または get を実行します。スケジュール・タスク・ポリシーの場合、FALSE はスケジュール・タスクが失敗したことを示します。

### ConsoleMessage オブジェクト

ConsoleMessage オブジェクトを使用して、イベント・ブラウザにイベントを直接送信できます。この方法で送信されたイベントは、オープン・メッセージ・インタフェース・ポリシーによってはインターセプトされず、サーバに直接送信されます(設定により、イベントは MSI に送信されます)。指定されたイベントは、HP Operations メッセージ・エージェントに送信されます。複数の Send メソッドを使用できます。検出した問題に応じて、同じスクリプトがBSMに複数のイベントを送信できます。

注: ConsoleMessage オブジェクトでアクション変数は使用できません。

ConsoleMessage メソッド: アプリケーション	
パラメータ:	<i>application</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	ConsoleMessage.Application = " <i>application</i> "
Perl 構文:	\$ConsoleMessage->Application(" <i>application</i> ");
説明:	このメソッド(任意指定)は、イベント・ブラウザに送信されるイベントのイベント・プロパティで <b>アプリケーション</b> の内容を設定します。

ConsoleMessage メソッド: オブジェクト	
パラメータ:	<i>object</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	ConsoleMessage.Object = " <i>object</i> "
Perl 構文:	\$ConsoleMessage->Object(" <i>object</i> ");

ConsoleMessage メソッド: オブジェクト	
説明:	このメソッド(任意指定)は、イベント・ブラウザに送信されるイベントのイベント・プロパティで[オブジェクト]の内容を設定します。

ConsoleMessage メソッド: MsgText	
パラメータ:	<i>msgtext</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.MsgText = "msgtext"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;MsgText("msgtext");</code>
説明:	このメソッドは、イベント・ブラウザに送信されるイベントのメッセージ・テキストを設定します。

ConsoleMessage メソッド: 重大度	
パラメータ:	<i>severity</i> (有効な文字列:Unknown Normal Warning Minor Major Critical)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.Severity = "severity"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;Severity("severity");</code>
説明:	送信されるイベントの重大度を設定します。このメソッドで特に設定されていない場合、標準設定は"Normal"です。無効な文字列が指定されると、重大度 "Unknown" が使用されます。

ConsoleMessage メソッド: MsgGrp	
パラメータ:	<i>messagegroup</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.MsgGrp = "messagegroup"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;MsgGrp("messagegroup");</code>
説明:	イベント・ブラウザに送信されるイベントのイベント・プロパティでメッセージグループの値を設定します。このメソッドで値が指定されない場合、"Misc" が使用されます。



ConsoleMessage メソッド: ノード	
パラメータ:	<i>nodename</i> (IP アドレスまたは完全修飾ホスト名)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.Node = "nodename"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;Node("nodename");</code>
説明:	イベント・ブラウザに送信されるイベントのイベント・プロパティに表示される[プライマリノード名]の値を設定します。IP アドレスと完全修飾ホスト名が有効です。このメソッドで値を指定しない場合は、標準設定によりシステムのホスト名が使用されます。

ConsoleMessage メソッド: ServiceId	
パラメータ:	<i>serviceid</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.ServiceId = "serviceid"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;ServiceId("serviceid");</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、イベントのサービス ID を設定します。

ConsoleMessage メソッド: MessageType	
パラメータ:	<i>messagetype</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.MessageType = "messagetype"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;MessageType("messagetype");</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、イベント・ブラウザに送信されるイベントのイベント・プロパティで[メッセージタイプ]フィールドの値を設定します。

ConsoleMessage メソッド: MessageKey	
パラメータ:	<i>messagekey</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.MessageKey = "messagekey"</code>

ConsoleMessage メソッド: MessageKey	
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;MessageKey("messagekey");</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、イベントの相関処理のキーを設定します。

ConsoleMessage メソッド: AcknowledgeMessageKey	
パラメータ:	<i>messagekey</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.AcknowledgeMessageKey = "messagekey"</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;AcknowledgeMessageKey("messagekey");</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、イベント・ブラウザでイベントが自動的に終了するかどうかを示すメッセージ・キーを設定します。

ConsoleMessage メソッド: TroubleTicket	
パラメータ:	<i>Booleanvalue</i>
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.TroubleTicket = Booleanvalue</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;TroubleTicket(Booleanvalue);</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、トラブル・チケット・インタフェースにイベントが送信されるかどうかを指定します。標準設定は FALSE です。

ConsoleMessage メソッド: Notification	
パラメータ:	<i>Booleanvalue</i>
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ConsoleMessage.Notification = Booleanvalue</code>
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;Notification(Booleanvalue);</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、通知メカニズムにイベントが送信されるかどうかを指定します。標準設定は FALSE です。

ConsoleMessage メソッド: AgentMSI	
パラメータ:	type(有効な文字列 :copy divert none)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	ConsoleMessage.AgentMSI = "type"
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;AgentMSI("type");</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、エージェントのメッセージ・ストリーム・インタフェース経由でイベントが送信されるかどうかを指定します。標準設定(または文字列がスペルミスの場合)は、"none" です。

ConsoleMessage メソッド: ServerMSI	
パラメータ:	type(有効な文字列 :copy divert none)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	ConsoleMessage.ServerMSI = "type"
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;ServerMSI("type");</code>
説明:	このメソッド(任意指定)は、サーバのイベント・ストリーム・インタフェースを経由してイベントが送信されるかどうかを指定します。標準設定(または文字列がスペルミスの場合)は、"none" です。

ConsoleMessage メソッド: Send	
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	ConsoleMessage.Send()
Perl 構文:	<code>\$ConsoleMessage-&gt;Send();</code>
説明:	このメソッドは、BSM サーバにイベントを送信します。このメソッドを使用する前に、MsgText メソッドでメッセージ・テキストを設定する必要があります。複数の Send メソッドを使用できます。ポリシー変数は展開されません。

## ExecuteCommand オブジェクト

コマンドの実行を要求するために使用するオブジェクト。HP Operations Agent で実行されるコマンドを開始します。

ExecuteCommand	
メソッド:	Command
パラメータ:	<i>command</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ExecuteCommand.Command = "command"</code>
Perl 構文:	<code>\$ExecuteCommand-&gt;Command("command");</code>
説明:	<p>このメソッド(必須)は、実行するコマンドの名前です。必要なすべてのパラメータも一緒に指定します。</p> <p><b>注:</b> Windows システムで実行されるスクリプトの場合、Copy, Rename, DIR などの内部コマンドではコマンド・インタプリタを使用します。内部コマンドを実行する前にコマンド・インタプリタが起動している必要があります。このようなコマンドでは、コマンドの前に <code>cmd /k</code> を指定し、コマンドの後に任意の必須パラメータを指定する必要があります。</p>

ExecuteCommand	
メソッド:	KillonTimeout
パラメータ:	<i>seconds</i> (integer)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ExecuteCommand.KillonTimeout = seconds;</code>
Perl 構文:	<code>\$ExecuteCommand-&gt;KillonTimeout(seconds);</code>
説明:	このメソッドは、コマンドの最大実行時間を秒で設定します。標準設定は無制限です。StartEx メソッドでのみ有効です。

ExecuteCommand	
メソッド:	UserName
パラメータ:	<i>username</i> (文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ExecuteCommand.UserName = "username"</code>
Perl 構文:	<code>\$ExecuteCommand-&gt;UserName("username");</code>
説明:	コマンドを実行するユーザ名。オプションであり、標準設定は \$AGENT_USER です。

ExecuteCommand	
メソッド:	パスワード
パラメータ:	password(文字列)
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	<code>ExecuteCommand.Password = "password"</code>
Perl 構文:	<code>\$ExecuteCommand-&gt;Password("password");</code>
説明:	<p>指定されたユーザ・アカウントにアクセスするためのパスワード。パスワードがスクリプトに表示されないようにするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンド・プロンプトを開きます。</li> <li>2. ディレクトリをエージェントのインストール・ディレクトリに変更します。  <code>&lt;install_dir&gt;/bin/&lt;arch&gt;/OpC/install</code></li> <li>3. 次のコマンドを使用して、パスワードを暗号化します。opcpcwcrpt  <code>&lt;yourpassword&gt;</code></li> <li>4. 出力文字列をスクリプトでパスワードとして使用します。</li> </ol> <p>パスワードを提供しないほうが適切な場合もあります。</p> <p>パスワードを使用すべきかどうか。</p> <p>パスワードなしでコマンドを実行する方が簡単ですが、場合によっては不適切な制限が加えられることがあります。次に、パスワードありとなしの場合の制限と利点を示します。</p> <p><b>パスワードなしの場合:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows システムでは、ネットワーク経由でアクセスしたリソースが使用できません。</li> <li>• Windows システムでドメイン・ユーザが指定されている場合は、ユーザを認証するドメイン・コントローラ上にエージェントをインストールする必要があります。</li> <li>• すべてのシステムで、パスワードを変更してもポリシーは無効化されません。</li> </ul> <p><b>パスワードありの場合:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべてのシステムで、ネットワーク経由でアクセスしたリソースが使用できます。</li> <li>• 暗号化されたパスワードは、すべてのシステムでネットワーク経由で送信されます。</li> <li>• すべてのシステムでは、パスワードを変更すると、ポリシーを更新して再デプロイする必要があります。</li> </ul>

ExecuteCommand	
メソッド:	開始
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :void Perl:void
VB Script 構文:	ExecuteCommand.Start ()
Perl 構文:	\$ExecuteCommand->Start ();
説明:	ExecuteCommand.Command で指定されたコマンドを実行し、次の行をすぐに処理できるようにするため制御を直ちにスクリプトに戻します。

ExecuteCommand	
メソッド:	StartEx
パラメータ:	void
戻り値の型:	VB スクリプト :BSTR Perl:文字列
VB Script 構文:	ExecuteCommand.StartEx
Perl 構文:	\$ExecuteCommand->StartEx ();
説明:	<p>ExecuteCommand.Command コマンドを実行し、完了するまで待機します。必要に応じて、コマンドを同期的または非同期的に実行できます。Start メソッドの複数の使用がサポートされています。この場合、同じスクリプトで複数の外部コマンドをトリガできます。</p> <p>コマンドが成功すると、STDOUT が返されます。コマンドが失敗すると(ゼロ以外の戻り値の場合)、文字列 "ERROR:\n" に続いて STDERR が返されます。</p> <p>ゼロ以外の戻り値を処理するには、eval 関数内で StartEx を実行し、結果(文字列 "ERROR" が含まれるかどうかなど)を確認します。</p> <p>Perl スクリプトの例:</p> <pre>eval '\$ReturnText = \$ExecuteCommand-&gt;StartEx ()'; \$returnText = \$@ if \$@;</pre>

## ポリシー・ルールにおけるパターン・マッチング

ポリシーの柔軟性を可能な限り高めるため、パターン・マッチング構文を使用することができます。パターン・マッチング構文を使用することで、非常に明確に文字列を照合するルール条件を作成できます。

### パターン・マッチングの詳細

HP Operations Agent が提供するパターン・マッチング言語は強力なため、使用する条件の数を大幅に減らすことができます。パターン・マッチング言語を選択すると、テキスト・ベースのイベントの動的

な部分を抽出し、変数に割り当て、パラメータとして使用してイベントの説明の構築やその他の属性の設定に使用できます。

パターン・マッチング言語により、ルールに一致する文字列を非常に高い精度で指定できます。

**注:** パターン・マッチング式を使用可能なテキスト・ボックスで、▶をクリックすると、ショートカット・メニューが表示され、表示されたパターン・マッチング式を選択してテキスト・ボックスに挿入できます。

#### 特殊文字の照合

通常の文字は、文字そのものを表す式となります。サポートされている文字セットの文字はすべて使用できます。ただし、次の特殊文字を使用する場合は、その前にバックスラッシュ(\)を付加し、それらの文字に割り当てられた機能をマスクする必要があります。

\ [ ] < > | ^ \$

「^」と「\$」は、先頭または最後の文字として使用される場合を除き、通常文字として扱われるため、マスク文字を付加する必要はありません。

#### 行の始めまたは終わりの文字との照合

caret (^) をパターン最初の文字として指定すると、行の先頭に検出された式のみが照合されます。たとえば、「^ab」は行「abcde」の文字列「ab」と一致しますが、「xabcde」の「ab」とは一致しません。

ドル記号 (\$) をパターン最後の文字として指定すると、行の最後の式のみが照合されます。たとえば、「de\$」は行「abcde」の「de」と一致しますが、「abcdex」の「de」とは一致しません。

#### 複数文字との照合

任意の文字数で構成される文字列の照合に使用するパターンには、次の式の1つまたは複数が必要です。

- <\*> は、0個以上の任意の文字(区切り文字を含む)の文字列を照合する
- <n\*> は、n個以上の文字(区切り文字を含む)の文字列を照合する
- <#> は、1桁以上のシーケンスを照合する
- <n#> は、n桁の数字を照合する
- <\_> は、1つ以上の連続したフィールド区切り文字を照合する
- <n\_> は、n個の区切り文字の文字列を照合する
- <@> は、区切り文字を含まない文字列、つまり区切り文字以外の1つ以上の連続した文字を照合する。これは、単語の照合に使用できます。
- </> は1つ以上の改行を照合する
- <n/> はちょうどn個の改行を照合する
- <S> は、1つ以上の空白文字、つまりスペース、タブおよび改行文字(" ", \t, \n, \r)を照合する
- <nS> は、ちょうどn個の空白文字列を照合する

**注:** Windows オペレーティング・システムでは、改行は2個の空白文字(\n\r)で構成されません。

区切り文字は各パターンに対して設定可能です。標準設定の区切り文字はスペースとタブ文字です。

#### 複数の異なる式との照合

2つの式を特殊文字の縦線(|)で区切ると、いずれかの式と一致する文字列を照合します。たとえば、パターン

```
[ab|c]d
```

では、文字列「abd」と文字列「cd」が一致します。

#### 式を含まないテキストとの照合

NOT 演算子(!)は角括弧で区切って使用する必要があります。例:

```
<![WARNING]>
```

上記のパターンは、文字列「WARNING」を含まないすべてのテキストを照合します。

**NOT 演算子**は、次のように複雑なサブパターンで使用される場合があります。

```
SU <*> + <@.tty> <![root|[user[1|2]]].from>-<*.ot>
```

上記のパターンを使用すると、user1、user2、root以外のユーザに対し、「ユーザの切り替え」イベントを作成することができます。したがって、次の行は一致します。

```
SU 03/25 08:14 + ttyp2 user11-root
```

ただし、次の行は「user2」に関するエントリが含まれているため、一致しません。

```
SU 03/25 08:14 + ttyp2 user2-root
```

**NOT 演算子**を含むサブパターンで一致が検出されない場合、**NOT 演算子**は<\*>と同じ働きをし、0個以上の任意の文字を照合します。このため、パターン・マッチング式<![1|2|3]>は1、2、3以外のすべての文字や数字とも一致します。

#### マスク(\)演算子

バックスラッシュ(\)は、次の文字の特別な意味をマスクするために使用します。

```
[ ] < > | ^ $
```

特殊文字の前に「\」を付けると、特殊文字自体と照合する式となります。

「^」と「\$」はパターンの先頭または最後に使用される場合、特別な意味を持つため、パターン内(先頭と最後以外)でマスク文字を付ける必要はありません。

このルールの唯一の例外はタブ文字です。タブ文字はパターン文字列内に「\t」を入力して指定します。

#### 角括弧([と])式

角括弧([と])は式をグループ化するための区切り記号として使用します。パフォーマンスを向上するため、角括弧はできる限り使用しないでください。パターン:

```
ab[cd[ef]gh]
```

では、すべての角括弧は不要です。「abcdefgh」と等価です。



角括弧を使用した式は、よく **OR 演算子**、**NOT 演算子**、**サブパターン**(変数に文字列を割り当てる場合)とともに使用されます。

#### 数値範囲演算子

HP Operations Agent のパターン・マッチングでは6つの数値範囲演算子を使用できます。これらの演算子の使用方法は次のとおりです。

演算子名	構文	例/説明
より小さい	<[パターン] <sup>1</sup> -lt n <sup>2</sup> >	<[<#>] -lt 5> 5より小さいすべての数に一致
以下	<[パターン] -le n>	<[<#>] -le 5> 5以下のすべての数に一致
より大きい	<[パターン] -gt n>	<[<#>] -gt 5> 5より大きいすべての数に一致
以上	<[パターン] -ge n>	<[<#>] -ge 5> 5以上のすべての数に一致
等しい	<[パターン] -eq n >	<[<#>] -eq 5> 5または5.0に一致
等しくない	<[パターン] -ne n >	<[<#>] -ne 5> 5および5.0以外のすべての数に一致
演算子を組み合わせ、数値範囲を照合することもできます。		

<sup>1</sup>比較する数字を返す、ユーザが指定した一致パターン

<sup>2</sup>一致パターンから返された数字を比較してテストする値

区間に属する数に一致するが、境界値は含まない	< n -lt [パターン] -lt n >	<5 -lt [<#>] -lt 10> 5と10の間のすべての数字に一致(5と10は除く)
区間に属する数に一致し、境界値も含む	< n -le [パターン] -le n >	<5 -le [<#>] -le 10> 5と10の間のすべての数字に一致(5と10を含む)
区間に属さない数に一致(境界値は除く)	< n -gt [パターン] -gt n >	<10 -gt [<#>] -gt 5> 5と10の間のすべての数字に一致(5と10は除く)
区間に属さない数に一致(境界値を含む)	< n -ge [パターン] -ge n >	<10 -ge [<#>] -ge 5> 5と10の間のすべての数字に一致(5と10を含む)

## パターン内のユーザ定義変数

一致した任意の文字列を変数に割り当て、イベントを構成するのに使用できます。パラメータを定義するには、括弧を閉じる前に ". parametername " を追加します。パターン:

```
^errno:<#.number> - <*.error_text>
```

は、次のようなイベントに一致します:

```
errno:125 - device does not exist
```

"125" を **number** に、"device does not exist" を **error\_text** に代入します。

これらの変数を使用する場合、構文は「<variable\_name>」です(例:<number>)。

### HP Operations Agent が文字列を変数に代入する場合のルール

パターン <\*.var1><\*.var2> を文字列 "abcdef" と照合する場合、入力文字列のどのサブ文字列を各変数に代入するのか、これだけでは分かりません。たとえば、空の文字列を **var1**、入力文字列全体を **var2** に代入できます。同様に "a" を **var1**、"bcdef" を **var2** に代入できます。さらに同様のことが行えます。

パターン・マッチング・アルゴリズムは、入力行とパターン定義(代替式含む)を、常に左から右にスキャンしています。<\*> 式には、可能な限り少ない文字数が代入されます。<#>, <@>, <S> 式には、可能な限り多くの文字数が代入されます。このため、上記の例では **var1** に空の文字列が代入されます。

次のような入力文字列を照合します。

```
this is error 100:big bug
```

次のパターンを使用します。

```
error<#.errnumber>:<*.errtext>
```

この場合、次のように代入されます。

- "100" が **errnumber** に代入されます
- "big bug" が **errtext** に代入されます

パフォーマンスおよびパターンの見やすさを向上させるため、2つの式の間には区切りサブ文字列を指定できます。上記の例では、"."を使用して <#> と <\*> 間を区切っています。

<@.word><#.num> を "abc123" と照合することにより、"abc12" が **word**、"3" が **num** に代入されます。<#> と <@> は両方とも数字を受け入れますが、左側の式は可能な限り多くの文字を受け入れるためです。

式が固定されていないパターンは、入力行の任意のサブ文字列に一致する可能性があります。このため、次のパターン:

```
this is number<#.num>
```

は、下のパターンと同様に処理されます。

```
<*>this is number<#.num><*>
```

## サブパターンを使用した変数への文字列の代入

\*, #などの単一演算子が使用可能であることに加え、変数に文字列を代入するときには、次のパターンに従って、多数の演算子から構成される複雑なサブパターンを作成することもできます。<[*subpattern*].**var**>

例 :<[<@>file.tmp].**fname**>

上の例では、"file" と "tmp" 間のピリオド(.)はドット文字そのものに一致します。その一方で、"]" と "**fname**" との間ドットは必要な構文です。このパターンは "Logfile.tmp" などの文字列に一致し、文字列全体が **fname** に代入されます。

サブパターンのその他の例を挙げます。

- <[Error|Warning].**sev**>
- <[Error[<#.n><\*.msg>]].**complete**>\$

上の最初の例では、"Error" または "Warning" という単語を含む任意の行が変数 **sev** に代入されます。2番目の例では、"Error" という単語を含む任意の行のエラー番号が変数 **n** に代入され、その後のテキストが **msg** に代入されます。最終的に、単語 "Error"、エラー番号、およびテキストが **complete** に代入されます。

2番目の例では、式を固定するために最後にドル記号(\$)が必要です。上のように、式が固定されていないパターンは、入力行内の任意のサブ文字列に一致する可能性があります。このため、次のパターン:

```
<[Error[<#.n><*.msg>]].complete>
```

は次のように処理されます。

```
<*><[Error[<#.n><*.msg>]].complete><*>
```

パターンは左から右に評価され、<\*> 式には可能な限り少ない文字数が代入されます。このため、式の最後を固定するドル記号(\$)が存在しない場合、<\*.msg> 式は常にゼロ文字と一致するため、行の残りの部分が暗黙的に<\*> 式と一致してしまいます。

## 変数のパターン・マッチング

文字列または変数をパターンと比較してテストし、その結果となる条件付きの出力文字列を定義することができます。これを実行するには、\$MATCHを使用します。構文を次のとおりです。

```
$MATCH(string, pattern, true, [false])
```

パラメータを次のように指定します。

string

リテラルな文字列 (TEST STRING など) またはポリシー変数 (<\$LOGPATH> など) を指定します。

pattern

HP Operations Agent パターン・マッチング構文を使用してパターンを指定します。パターンで、パラメータ true や false で使用するユーザ定義変数を作成できます。パターンは大文字と小文字を区別します。

true

文字列とパターンが一致する場合に返す文字列を指定します。リテラルな文字列、ユーザ定義変数、またはポリシー変数を指定できます。

false

オプション: 文字列とパターンが一致しない場合に返す文字列を指定します。リテラルな文字列、ユーザ定義変数、またはポリシー変数を指定できます。

各パラメータはカンマ(,) で区切ります。パラメータ内でカンマを指定する場合は、前にバックスラッシュを2本(\\) 付けます。

次のイベント属性のポリシー内では、\$MATCHを使用できます。

- サービスID
- メッセージのタイプ
- カテゴリ
- アプリケーション
- オブジェクト
- タイトル

注: \$MATCH は、各メッセージ属性内で1回しか使用できません。\$MATCHを再帰的に使用

することはできません。

#### 例

ポリシーはログ・ファイルの数を読み取ることができます。ポリシー変数 `<$LOGPATH>` ではログ・ファイルのパス名を使用できます。ログ・ファイル・パスの一部がアプリケーション名に対応している場合は、`$MATCH` を使用してアプリケーション・イベントの属性を次のように設定できます。

```
$MATCH(<$LOGPATH>,<@.application>.log,<application>,<Unknown>)
```

## ルール条件におけるパターン・マッチングの例

次の例では、パターン・マッチング言語を使用可能な方法の一部を紹介します。

- `Error`

イベント内の位置にかかわらず、`Error` というキーワードを含むイベントを認識します(標準設定では大文字と小文字を区別します)。

- `panic`

大文字と小文字の区別モードがオフになっている場合、イベントのテキストの位置にかかわらず、`panic`、`Panic`、`PANIC` を含むすべてのイベントを照合します。

- `logon|logoff`

**OR 演算子**を使用して、`logon` または `logoff` というキーワードを含むすべてのイベントを認識します。

- `^getty:<*.msg> errno<*><#.errnum>$`

次のようなイベントを認識します。`getty:cannot open ttyxx errno :6` または `getty:can't open ttyop3; errno 16`

`getty:cannot open ttyxx errno :6` の例では、「cannot open ttyxx」という文字列が変数 `msg` に割り当てられます。数字「6」は変数 `errnum` に割り当てられます。ドル記号 (\$) は、数字 6 が行の最後にある場合にのみ照合されることを指定するアンカー記号として使用されます。

- `^errno[ |=]<#.errnum> <*.errtext>`

次のようなイベントを照合します。`errno 6 - no such device or address` または `errno=12 not enough core`。

**OR 演算子**の前にスペースが入ることに注意してください。角括弧で囲まれた式は、この空白スペースまたは「等号」のいずれかを照合します。`<#.errnum>` と `<*.errtext>` の間のスペースは区切り記号として使用されています。厳密にはここでの変数への割り当てには必要ありませんが、このスペースを入れることでパフォーマンスを向上することができます。

- `^hugo:<*>:<*.uid>:`

ユーザ `hugo` の任意の `/etc/passwd` エントリを照合し、変数 `uid` にユーザIDを返します。パターン中央の「:」は、`uid` に渡される文字列と前の文字列を区切るために使用されています。パターン最後のコロン「:」は、`uid` に渡される文字列と、入力パターン内のその後のグループIDを区切っています。このコロンは、処理速度を上げるために必要なばかりでなく、論理的な区切りの手段としても必要です。

- `^Warning:<*.text>on node<@.node>$`

次のようなイベントを照合します。Warning:too many users on node hpbbx. too many users を **text** に, hpbbx を **node** に割り当てます。

- `^<*.line1><1/><*.line2><1/><*.line3><1/><*.line4>$`

4 行のテキストを照合します。例：

```
Security ID:      S-1-5-21-3358208617-1210941181-189752109-500
Account Name:    Administrator
Account Domain:  EXAMPLE
Logon ID:        0x228a2
```

各行の間に1つ改行が入っています。パターンはテキストの各行を変数に割り当てます。

- `<<#> -le 45>`

このパターンは、45 以下の数字を含むすべての文字列を照合します。たとえば、イベント *ATTENTION:Error 40 has occurred* が一致となります。

パターンの数字 45 は真の数値であって、文字列ではありません。45 よりも大きい数字 (たとえば、「4545」) は、「45」の組み合わせを含んでいても一致とはみなされません。

- `<15 -lt <2#> -le 87>`

このパターンは、最初の2桁が16~87の範囲となる数値を含むイベントを照合します。たとえば、イベント *Error Message 3299* は一致となり、文字列 *Error Message 9932* は一致とはなりません。

- `^ERROR_<[<#.err>] -le 57>`

このパターンは、文字列「ERROR\_」で始まり、その後ろに57以下の数字がくる任意のテキストを照合します。

たとえば、イベント *ERROR\_34:processing stopped* は一致となり、変数 *err* に文字列 34 が割り当てられます。

- `<120 -gt [<#>1] -gt 20>`

21 ~ 119 の範囲で、最後の桁が1となるすべての数字を照合します。たとえば、次の数字を含むイベントが一致とみなされます。21, 31, 41... 101... 111 など。

- `Temperature <*> <@.plant>:<<#> -gt 100> F$`

このパターンは、「Actual Temperature in Building A:128 F」などの文字列を照合します。文字「A」は変数 *plant* に割り当てられます。

- `Error <<#> -eq 1004>`

このパターンは、「Error」という文字列と、その後ろに続けてスペースと数字列「1004」を含むイベントを照合します。

たとえば、「Warning:Error 1004 has occurred」はこのパターンで一致とみなされます。ただし、このパターンでは「Error 10041」は一致とはみなされません。

- `WARNING <<#> -ne 107>`

このパターンは、文字列「WARNING」と、その後ろに続けてスペース、および「107」を除く1桁以上の連続した数値を含むイベントを照合します。たとえば、イベント *Application Enterprise (94/12/45 14:03):WARNING 3877* は一致となります。

## 第4章

### 割り当てと調整

管理テンプレートはアプリケーションまたはサービスのための完全な管理ソリューションを提供します。アプリケーションまたはサービスの監視を開始するには、アプリケーションまたはサービスで構成されるCIのインスタンスに適切な管理テンプレートを割り当て、デプロイする必要があります。HP Monitoring Automation for Composite Applications アドオン・ライセンスを購入していないユーザは、管理テンプレートを作成することができません。その場合、同じプロセスを使用し、監視対象のCIに必要なすべてのアスペクトを個々に割り当て、デプロイする必要があります。管理テンプレート、アスペクト、およびポリシー・テンプレートは構成オブジェクト (CO) と呼ばれます。

**ヒント:** また、ポリシー・テンプレートを直接割り当てることもできます。ただし、保守が容易で、より柔軟な監視ソリューションを実現するためには、管理テンプレートまたはアスペクトを使用することをお勧めします。

割り当ては、管理テンプレートまたはアスペクト内で参照された対応するCIタイプのために定義された値に対してCIのどのインスタンスが監視されるかを識別します。

**注:** 自動割り当て機能を使用している場合、管理テンプレートまたはアスペクトがいくつかのCIインスタンスにすでに自動的に割り当てられている場合があります。

監視プロセスを開始する前に、CI監視の基準となる値を調整することができます。

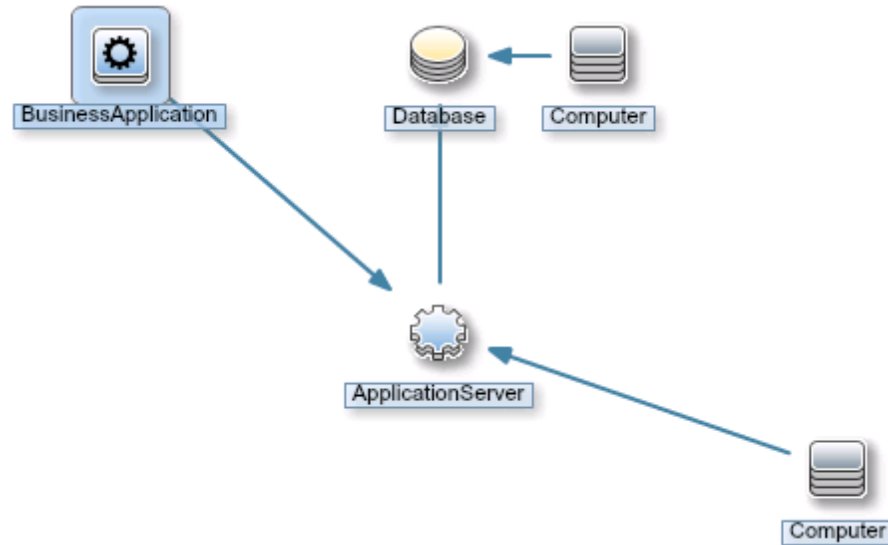
監視プロセスがアクティブの場合、デプロイメント・ジョブを[デプロイメント ジョブ]画面で管理することができます。詳細については、「[デプロイメント・ジョブ](#)」(392ページ)を参照してください。

### 詳細

#### 手動割り当て

管理テンプレートはそれぞれトポロジ・ビューを使用して設計され、特定のアプリケーションまたはサービスに対するすべてのCIをBSM Run-time Service Model (RTSM) から選択します。トポロジ・ビューがCIを選択する場合、それらのタイプ、および他のタイプのCIとの関係を基準にします。トポロジ・ビュー内のCIタイプの1つは管理テンプレートのルートCIタイプです。管理テンプレートは、そのルートCIタイプに対応するCIタイプあるいはそのサブタイプのCIにのみ割り当てることができます。

たとえば、次の図は、Business Application タイプのCI、および Application Server, Database および Computer タイプの関連CIを選択するトポロジ・ビューを示します。ルートCIタイプ Business Application を持つ管理テンプレートは、Business Application タイプ (またはサブタイプ) のCIにのみ割り当てることができますが、ビュー内の他のCIも監視します。



管理テンプレートの設定に応じて、管理テンプレートをCIに割り当てるときにさまざまなパラメータの値を定義することができます。パラメータを使用して、監視の振る舞いをカスタマイズしたり(たとえば監視間隔の定義)、監視を可能にするために必要な値(たとえばユーザ名とパスワード)を提供することができます。

管理テンプレートをCIに割り当ててデプロイする場合、オペレーション管理は、管理テンプレートまたはアスペクトを使用して監視したいCIインスタンスを識別し、監視設定を適切なHP Operations Agentにデプロイします。

オペレーション管理が監視設定をデプロイした後、その割り当てのパラメータ値を変更して監視の振る舞いを調整することができます。パラメータ値を調整するときに、オペレーション管理は関連するHP Operations Agentに新しいパラメータ値のみを送信します。

CIの監視を一時的に停止する必要がある場合は、割り当てを無効にすることができます。あるいは、特定の管理テンプレートを使用するCIの監視が必要でなくなれば、割り当てを削除することができます。割り当てを削除する場合、オペレーション管理は関連するHP Operations Agentから監視設定を削除します。

## 自動割り当て

ビューはCIをそのCIタイプおよび他のCIとの関係に基づいて選択するクエリです。管理テンプレートを作成する場合は、自動割り当てのビューとルートCIを識別します。ルートCIタイプに対応するCIが検出されると常に、自動割り当てプロセスは管理テンプレートを動的にそのCIに割り当てます。

たとえば、Insurance Applicationと呼ばれるタイプのCIを選択するビューを作成し、それを複数の管理テンプレートで識別することができます。オペレーション管理は、それらの管理テンプレートを、そのビューに表示されたときに自動的にすべての新しいInsurance Application CIに割り当てます。

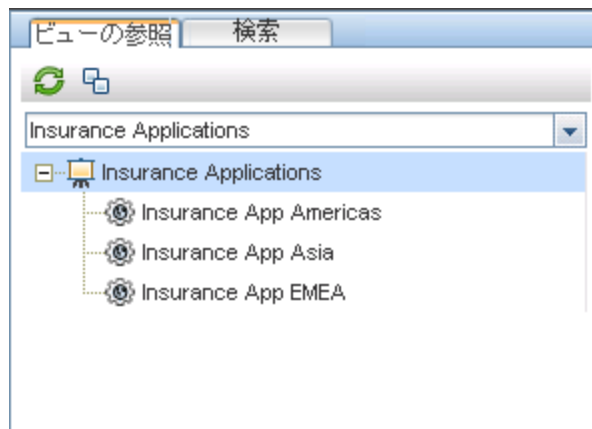
管理テンプレートが関連するCIを監視するように設計されている場合、それらのCIが自動割り当てビューで非表示になっていても、また最初の自動割り当てが起こった後でそれらがRTSMに追加されても、オペレーション管理は監視設定をそれらのCIにも割り当てます。

例:

- 「Monitor Business Applications」と呼ばれる管理テンプレートを考えます。
- 「Insurance Applications」と呼ばれるビューがあり、これは特定の基準に基づいてRTSMからビジ





ネス・アプリケーション CI を選択します。






- 管理テンプレート「Monitor Business Applications」は、「Insurance Applications」ビューおよび自動割り当てのためのルート CI タイプ「Business Application」で構成され、さらに Application Server, Database および Computer タイプの関連 CI の監視設定を含んでいます。
- RTSM には「Insurance App Asia 2」と呼ばれる新しい CI が追加されています。CI は、「Insurance Applications」ビューの基準に一致します。したがって、オペレーション管理は新しい CI に「Monitor Business Applications」管理テンプレートを割り当てます。
- その後、Application Server, Database, および Computer タイプの新しい CI が RTSM に追加され、「Insurance App Asia 2」に関連付けられます。オペレーション管理は、監視設定を「Monitor Business Applications」管理テンプレートからこれらの新しい CI に割り当てます。
- その後、「Insurance App EMEA」は RTSM から削除され、「Monitor Business Applications」管理テンプレートは「Insurance App EMEA」から割り当て解除されます。

## タスク


### 管理テンプレートによる CI の監視方法

1. ビュー・ブラウザ(左ペイン)の[ビューの参照]タブで、監視する CI を含むビューを選択します。ビュー内の CI に一致する検出された CO がビュー・ブラウザに一覧表示されます。または、[検索]タブを使用して CO を検索します。
2. CO の一覧で、監視する CO をクリックします。[割り当て]ペインに、その CO の既存の割り当ての詳細が表示されます。
3. 割り当てがニーズに適する場合、[再デプロイ]  を使用して、選択された割り当てのすべてまたは一部を再デプロイすることができます。新しい割り当てを作成する必要がある場合は、[新規割り当て...]  をクリックし、割り当てる項目を選択します。割り当てとデプロイ・ウィザードの[構成オブジェクトの選択]画面が開きます。画面は、選択された CO の CI タイプに割り当てることができる項目の一覧から構成されます。
4. [構成オブジェクトの選択] ページで、割り当てる管理テンプレートの[名前]をクリックし、必要であれば割り当てる管理テンプレートの[バージョン]を選択します。
5. [次へ] をクリックして[パラメータ] ページに移動します。
6. [パラメータ] ページで、各パラメータの値を指定します。

- a. オプション。標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。すべてのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。また、 ボタンをクリックしてエキスパート・パラメータを表示することもできます。
- b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。
  - 標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
[値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。
  - インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
インスタンスの値を追加し、各インスタンスの値ごとに依存パラメータの値を指定します。  
インスタンスと依存パラメータの値を指定した後、[OK]をクリックします。[次へ]をクリックして[構成オプション]画面に移動します。
7. オプション。割り当てをただちに有効にしない場合は、[構成オプション]ページで[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当ておよび調整マネージャを使用して割り当てを有効にすることができます。
8. [完了]をクリックします。[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスがオンにされた場合、システムからの通知に応じて、管理テンプレート内のアスペクトが割り当てられ、選択されたCIにデプロイされます。[OK]をクリックして通知を閉じます。


オペレーション管理は、デプロイメント・ジョブを作成してノードに監視設定を転送します。ポリシー・テンプレートがデプロイされた後、[データコレクタ URL の標準設定仮想ゲートウェイサーバ]インフラストラクチャ設定に指定されたBSMサーバは、ノード上でのポリシーの所有者になります。

### 管理テンプレートまたはアスペクトの自動的な割り当て方法




1. [割り当ておよび調整]画面に進みます。
2. ビュー・ブラウザ(左ペイン)の[ビューの参照]タブの一番上のドロップダウン・リストで、自動割り当てを設定するビューを選択します。割り当て済みCOのビューおよび最初のレベルがビュー・ブラウザに表示されます。
3. ビュー自身を選択します。これは、 <ビュー名>とラベルされた最上位の項目です。割り当てのリスト(右ペインの一番上)は、ヘッダ[自動割り当て]が示すように、ビューの自動割り当てを示します。

**注:** 自動割り当てに選択したビューに管理テンプレートのルートCIタイプが含まれていること、あるいは、アスペクトが自動割り当てされている場合はアスペクトのCIタイプが含まれていることを確認します。

ビューには、自動割り当てされる管理テンプレートに含まれるアスペクトのすべてのCIタイプが含まれている必要はありません。

4. 自動割り当てのリストのツールバーで[新規割り当て...]  をクリックし、適切なオプションを選択します。割り当てとデプロイ・ウィザードが表示されます。
5. [構成オブジェクトの選択]ページで、自動的に割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトの[名前]をクリックします。




リストには、選択したビューに表示されるルート CI タイプを持つ管理テンプレートのみ、あるいは、アスペクトが自動割り当てされている場合は互換性のあるアスペクトのみが表示されます。

6. 割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトの[バージョン]を選択します。  
[次へ]をクリックします。
7. [パラメータ] ページで、各パラメータの値を指定します。
  - a. オプション。標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。すべてのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。また、 ボタンをクリックしてエキスパート・パラメータを表示することもできます。
  - b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。
    - 標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
[値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。
    - インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
インスタンスの値を追加し、各インスタンスの値ごとに依存パラメータの値を指定します。  
インスタンスと依存パラメータの値を指定した後、[OK]をクリックします。

[パラメータ] ページで、[次へ]をクリックします。
8. オプション。割り当てをただちに有効にしない場合は、[構成オプション] ページで[割り当てオブジェクトの有効化]チェック・ボックスをオフにします。後で、割り当てを有効にすることができます。
9. [完了]をクリックします。管理テンプレートまたはアスペクトが自動割り当てのリストに追加されず。

オペレーション管理は、デプロイメント・ジョブを作成してノードに監視設定を転送します。ポリシー・テンプレートがデプロイされた後、[データコレクタ URL の標準設定仮想ゲートウェイサーバ]インフラストラクチャ設定に指定された BSM サーバは、ノード上でのポリシーの所有者になります。

### 既存の割り当てのパラメータ値の調整方法


1. [ビューの参照] タブで、パラメータを調整する CI を含むビューを選択します。あるいは、[検索] タブを使用して CI を検索します。
2. CI のリストで、CI をクリックします。[割り当て] ペインに、その CI の既存の直接または間接割り当ての詳細が表示されます。
3. パラメータを調整したい割り当てをクリックします。[割り当て] ペインに現在のパラメータ値が表示されます。
4. [割り当て] ペインで  ボタンをクリックします。[割り当てを調整] ダイアログ・ボックスが開きます。
5. パラメータを変更します。
  - a. オプション。標準設定では、リストには必須パラメータのみが表示されます。すべてのパラメータを表示するには、 ボタンをクリックします。
  - b. リスト内のパラメータを選択し、 ボタンをクリックします。
    - 標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。  
[値]をクリックして値を指定し、次に[OK]をクリックします。

- インスタンス・パラメータの場合は, [インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。




必要であればインスタンス値を変更し, 各インスタンスの値ごとに依存パラメータの値を変更します。インスタンスと依存パラメータの値を変更した後, [OK]をクリックします。

6. [割り当てを調整]ダイアログ・ボックスで[OK]をクリックします。オペレーション管理は関連する HP Operations Agent に新しいパラメータ値を送信します。

## CI のレポートの表示方法

1. CI を選択して, メニューから利用可能なレポートの1つを選択します。CI 関連のレポートには, 次のタイプがあります。
  - **CI 構成レポートの生成**: 選択した CI を監視する方法について説明します。
  - **ビュー内のすべてのCI に対する CI 構成レポートの生成**: 選択したビュー内のすべての CI を監視する方法について説明します。
  - **比較レポートの生成**: 選択された CI の監視設定を, ビュー内のすべての(同じタイプの) CI の監視設定と比較します。
  - **割り当てレポートの生成**: 選択された CI を割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトを表示します。選択された CI の事前設定済みレポートが表示されます。割り当てレポートは, 管理テンプレートまたはアスペクト割り当てが[割り当て]ペイン(右)で選択されている場合のみ利用可能です。

選択された CI の事前設定済みレポートが表示されます。

割り当てられた CI 情報を展開または折りたたむには, [すべてのアスペクトとテンプレートを展開]()および[すべてのアスペクトとテンプレートを折りたたむ]()ボタンを使用します。[表示]()ボタンを使用して, すべての値を表示するか, カスタマイズ値のみを表示するかを切り替えることができます。


## UI 参照








### 割り当てとデプロイ・ウィザード

#### [構成オブジェクトの選択]画面

UI 要素	説明
構成オブジェクトのリスト	<p>選択された CI インスタンスに割り当てることができる構成オブジェクト (CO) のリスト。CO は、管理テンプレート、アスペクト、およびポリシー・テンプレートです。</p> <p>構成オブジェクトのリストには次のカラムがあります。</p> <p><b>名前</b> CO の名前。</p> <p><b>バージョン</b> CO のバージョン。標準設定では、最新のバージョンがリストされます。別のバージョンを割り当てるには、画面を終了する前にドロップダウン・リストから割り当てるバージョンを選択します。</p> <p><b>説明</b> CO の説明。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [パラメータ]画面

UI 要素	説明
パラメータ・リスト	<p>構成オブジェクトに割り当てている管理テンプレート、アスペクト、またはポリシー・テンプレート内のすべてのパラメータをリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集</b> : この割り当てに対して選択されたパラメータの値を指定するダイアログ・ボックスを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準パラメータの場合は、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[値]を選択する場合、パラメータにとって有効な範囲の値を指定または選択する必要があります。指定する値は、ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を上書きします。</li> <li>ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレート内で定義された標準設定値を使用する場合は、[デフォルト値を使用]を選択します。</li> </ul> </li> </ul>

UI 要素	説明								
	<p>値を適用し、[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを閉じるには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンス・パラメータの場合は、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[インスタンスパラメータの編集]ダイアログ・ボックスのUI参照の項を参照してください。</li> </ul> <p> <b>必須パラメータのみを表示</b> : パラメータのテーブル内のオプションのパラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>エキスパート・パラメータの表示</b> : パラメータのテーブル内のエキスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI順にソート</b> : パラメータのリストを、UI順序の値に従って並べ替えます(値の小さい順)。</p> <p>パラメータのリストには次のカラムがあります。</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="574 999 732 1094"><b>ターゲット(管理テンプレートのみ)</b></td> <td data-bbox="773 999 1252 1026">パラメータを使用するアスペクトのCIタイプ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="574 1125 732 1220"><b>定義の場所(管理テンプレートのみ)</b></td> <td data-bbox="773 1125 1349 1188">パラメータが定義される管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレート。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="574 1251 732 1278"><b>名前</b></td> <td data-bbox="773 1251 976 1278">パラメータの名前。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="574 1310 732 1337"><b>値</b></td> <td data-bbox="773 1310 1349 1373">この割り当てにおけるパラメータの値。淡色表示されている値が標準設定値です。</td> </tr> </table> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙(複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul> <p>アイコンが淡色表示されている場合、値は読み取り専用です。</p>	<b>ターゲット(管理テンプレートのみ)</b>	パラメータを使用するアスペクトのCIタイプ。	<b>定義の場所(管理テンプレートのみ)</b>	パラメータが定義される管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレート。	<b>名前</b>	パラメータの名前。	<b>値</b>	この割り当てにおけるパラメータの値。淡色表示されている値が標準設定値です。
<b>ターゲット(管理テンプレートのみ)</b>	パラメータを使用するアスペクトのCIタイプ。								
<b>定義の場所(管理テンプレートのみ)</b>	パラメータが定義される管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレート。								
<b>名前</b>	パラメータの名前。								
<b>値</b>	この割り当てにおけるパラメータの値。淡色表示されている値が標準設定値です。								







UI 要素	説明
	<p>無効を意味するアイコン(☒)が表示される場合は、必須のパラメータの値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b>                   パラメータの説明。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [構成オプション]画面














UI 要素	説明
オブジェクトのリスト	<p>選択した構成オブジェクトに割り当てている管理テンプレート、アスペクト、またはポリシー・テンプレートをリストします。</p> <p>オブジェクトのリストには次のカラムがあります。</p> <p><b>名前</b>                   管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの名前。</p> <p><b>割り当てオブジェクトの有効化</b>                   チェックボックスをオンにすると、割り当てはデプロイ時にただちに実行されます。</p> <p>デプロイ後に割り当てを手動で実行する場合は、チェックボックスをオフしておきます。</p>
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
完了	すべての画面の値を受け入れ、項目を作成します。
キャンセル	項目を作成/更新せずに、ウィザード/ダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。

### [割り当て/自動割り当て/親の直接割り当て]ペイン








UI 要素	説明
割り当てのリスト	ビュー・ブラウザ・ペインで選択された項目に割り当てられているすべての管理テンプレートおよびアスペクトをリストします。

UI 要素	説明
	<p>ビュー・ブラウザで CI を選択すると、その CI に割り当てられた管理テンプレートおよびアスペクトが割り当てのリストに表示されます。次の点に注意が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 割り当てのリスト自身にはヘッダはありません。</li> <li>• 割り当てのリストで割り当て済みの管理テンプレートまたはアスペクトを選択すると、以下に述べる割り当て済みパラメータのリストが割り当てリストの下に表示されます。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注:</b> 検出されたトポロジに対して解決できるパラメータのみがリストされます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択するアスペクトが、それを含む構造の最上位にない場合、その割り当てを変更するには、最上位からアスペクトのレベルまでにあるすべての割り当てを削除する必要があります。選択したアスペクトが含まれている構造の最上位への割り当ては、ヘッダが[親の直接割り当て]のパラメータ・リストの真下にリストされます。</li> <li>• アドバンスド・ライセンスのみ: アドバンスド・ライセンスを所有している場合、ビュー・ブラウザでビューを選択すると、割り当てのリストにはヘッダ[自動割り当て]が示すようにその自動割り当てが表示されます。</li> <li>• 標準のライセンスを所有している場合、ビュー・ブラウザでビューを選択すると、割り当てのリストには何も表示されません。</li> </ul> <p>割り当てリストのツールバーには次のコントロールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>更新:</b> 選択された CI の割り当てリストを再ロードします。</li> <li> <b>新規割り当て...</b>: 次のオプションを提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>管理テンプレートの割り当て:</b> 割り当てとデプロイ・ウィザードを開き、選択された CI に管理テンプレートを割り当てます。</li> <li> <b>アスペクトの割り当て:</b> 割り当てとデプロイ・ウィザードを開き、選択された CI にアスペクトを割り当てます。</li> <li> <b>ポリシー・テンプレートの割り当て:</b> 割り当てとデプロイ・ウィザードを開き、選択された CI にポリシー・テンプレートを割り当てます。</li> </ul> </li> <li> <b>割り当ての編集:</b> [割り当てを調整]ダイアログ・ボックスを開き、管理テンプレートまたはアスペクトに割り当てられているパラメータ値をデプロイメント・レベル値に設定します。これにより、管理テンプレート・レベル、ア</li> </ul>












UI 要素	説明
	<p>スペクト・レベルおよびポリシー・テンプレート・レベルの値が上書きされます。</p> <p> <b>割り当ての削除</b> : 管理テンプレート, アスペクト, またはポリシー・テンプレートの割り当てを削除します。オペレーション管理は関連する HP Operations Agent から監視設定を削除します。</p> <p> <b>割り当ての有効化</b> : 管理テンプレート, アスペクトまたはポリシー・テンプレートを使用して, 選択された CI の監視を開始または再開します。</p> <p> <b>割り当ての無効化</b> : 指定の管理テンプレート, アスペクトまたはポリシー・テンプレートを使用した, 選択された CI の監視を一時停止します。オペレーション管理は関連する HP Operations Agent から監視設定を削除しないため, [割り当ての有効化]  をクリックするだけで監視を再起動することができます。</p> <p> <b>再デプロイ...</b> 次のオプションを提供します。</p> <p>(CI がビュー・ブラウザでのみ選択されている場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>すべて再デプロイ</b> : どの割り当てが選択されているかに関係なく, ビュー・ブラウザで選択された CI のリストされた割り当てをすべて再デプロイします。</li> <li> <b>選択した割り当てを再デプロイ</b> : ビュー・ブラウザで選択された CI に対してのみ, 選択された割り当てを再デプロイします。</li> </ul> <p> <b>テンプレート割り当てを表示/非表示</b> : 選択された CI のテンプレート割り当ての表示と非表示を切り替えます。</p> <p> <b>このノードへの割り当てのみを表示/非表示</b> : 関連するノード上で選択された CI への割り当ての表示と非表示を切り替えます。</p> <p> <b>レポートの生成</b> : 利用可能な CI 関連のレポートのレポート・メニュー:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>CI 構成レポートの生成</b> : 選択した CI を監視する方法について説明します。</li> <li> <b>ビュー内のすべての CI に対する CI 構成レポートの生成</b> : 選択したビュー内のすべての CI を監視する方法について説明します。</li> <li> <b>比較レポートの生成</b> : 選択された CI の監視設定を, ビュー内のすべての(同じタイプの) CI の</li> </ul>






UI 要素	説明										
	<p>監視設定と比較します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>📄 <b>割り当てレポートの生成</b>: 選択された管理テンプレートまたはアスペクトを割り当てる CI を表示します。選択された CI の事前設定済みレポートが表示されます。割り当てレポートは、管理テンプレートまたはアスペクト割り当てが[割り当て]ペイン(右)で選択されている場合のみ利用可能です。</li> </ul> <p>❓ <b>ヘルプ</b>: 関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。</p> <p>割り当てのリストには次のカラムがあります。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="557 751 760 940"><b>D</b></td> <td data-bbox="760 751 1391 940">✓ は、アスペクトまたはポリシー・テンプレートが、選択された CI に直接割り当てられることを示します。 — は、CI に割り当てられている管理テンプレートのアスペクトを介して間接的に割り当てられることを示します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="557 951 760 1024"><b>名前</b></td> <td data-bbox="760 951 1391 1024">割り当てられた管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの名前。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="557 1035 760 1108"><b>説明</b></td> <td data-bbox="760 1035 1391 1108">割り当てられた管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの説明。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="557 1119 760 1192"><b>バージョン</b></td> <td data-bbox="760 1119 1391 1192">現在 CI に割り当てられている管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートのバージョン。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="557 1203 760 1297"><b>有効</b></td> <td data-bbox="760 1203 1391 1297">✓ は割り当てが有効であること、— は無効であることを示します。</td> </tr> </table> <p><b>注</b>: 割り当てが無効の場合、監視は一時停止します。</p>	<b>D</b>	✓ は、アスペクトまたはポリシー・テンプレートが、選択された CI に直接割り当てられることを示します。 — は、CI に割り当てられている管理テンプレートのアスペクトを介して間接的に割り当てられることを示します。	<b>名前</b>	割り当てられた管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの名前。	<b>説明</b>	割り当てられた管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの説明。	<b>バージョン</b>	現在 CI に割り当てられている管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートのバージョン。	<b>有効</b>	✓ は割り当てが有効であること、— は無効であることを示します。
<b>D</b>	✓ は、アスペクトまたはポリシー・テンプレートが、選択された CI に直接割り当てられることを示します。 — は、CI に割り当てられている管理テンプレートのアスペクトを介して間接的に割り当てられることを示します。										
<b>名前</b>	割り当てられた管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの名前。										
<b>説明</b>	割り当てられた管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートの説明。										
<b>バージョン</b>	現在 CI に割り当てられている管理テンプレート、アスペクトまたはポリシー・テンプレートのバージョン。										
<b>有効</b>	✓ は割り当てが有効であること、— は無効であることを示します。										
割り当てパラメータのリスト	<p>管理テンプレートまたはアスペクトが割り当てのリストで選択されている場合に表示されます。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p>⌵ <b>必須パラメータのみを表示</b>: パラメータのテーブル内のオプションのパラメータを表示/非表示にします。</p>										

UI 要素	説明
	<p> <b>エキスパート・パラメータの表示</b> : パラメータのテーブル内のエキスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI 順にソート</b> : パラメータのリストを, UI 順序の値に従って並べ替えます(値の小さい順)。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>名前</b>                    パラメータの名前。</p> <p><b>値</b>                        パラメータ値。</p> <p>アイコンは, パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙(複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul> <p>次の点に注意が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 値が淡色表示されている場合, リストされる値は標準設定値です。</li> <li>• アイコンが淡色表示されている場合, 値は読み取り専用です。</li> <li>• 無効を意味するアイコン()が表示される場合は, 必須のパラメータの値が指定されていないことを示します。続ける前に値を指定する必要があります。</li> </ul> <p><b>説明</b>                    パラメータの説明。</p>
<p>親の直接割り当てのリスト</p> <p>(割り当てのリストで間接割り当てが選択されている場合のみ)</p>	<p>選択したアスペクトが含まれている構造の最上位への割り当ては, ヘッダが[親の直接割り当て]のパラメータ・リストの真下にリストされます。</p> <p>選択するアスペクトが, それを含む構造の最上位にない場合, その割り当てを変更するには, 最上位からアスペクトのレベルまでにあるすべての割り当てを削除する必要があります。</p>

### [インスタンス パラメータの編集]ダイアログ

UI 要素	
[インスタンス値]リスト	ツールバーには次のコントロールがあります。









UI 要素	
	<p> <b>インスタンス・パラメータの作成</b> : [パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。新しい値を作成するには、[値]を選択して、テキスト・ボックスに値を指定します。ダイアログ・ボックスを閉じ、新しい値を[インスタンス値]リストに追加するには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。</p> <p> <b>インスタンス・パラメータの編集</b> : [パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。インスタンス値を変更するには、テキスト・ボックスの値を編集します。ダイアログ・ボックスを閉じ、[インスタンス値]リストの値を新しい値に置き換えるには[OK]をクリックします。変更せずにダイアログ・ボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックします。</p> <p> <b>インスタンス・パラメータの削除</b> : 選択したインスタンス値を削除します。</p> <p> <b>上に移動</b> : 選択したインスタンス値をリスト内で上に移動します。</p> <p> <b>下に移動</b> : 選択したインスタンス値をリスト内で下に移動します。</p>
[依存値]リスト	<p>[依存値]リストは、[インスタンス値]リストで選択されたインスタンス値に対する依存値をリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>編集...</b> パラメータの値を指定するための[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを表示します。</p> <p> <b>必須パラメータのみを表示</b> : オプションのパラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>エキスパート・パラメータの表示/非表示</b> : エクスパート・パラメータを表示/非表示にします。</p> <p> <b>UI 順にソート</b> : 依存値のリストを、オペレーション管理コンソールに示す順序でソートします。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>定義の場所</b>      値の定義を含むポリシー・テンプレート。</p> <p><b>対象 CI タイプ</b>    この値が適用される CI タイプの名前。</p>

UI 要素	
	<p><b>名前</b> 依存値の名前。</p> <p><b>値</b> 依存値の値。</p> <p>淡色表示されている値が標準設定値です。</p> <p>アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 列挙 (複数オプション)</li> <li> 数字</li> <li> パスワード</li> <li> 文字列</li> </ul> <p>アイコンが淡色表示されている場合、値は読み取り専用です。</p> <p>値を選択したときに無効を意味するアイコン()が表示される場合は、必須の値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b> 依存値の説明。</p>
OK	<p>すべての選択されたアスペクトをネストされたアスペクトとして追加し、ダイアログ・ボックスを閉じます。</p> <p><b>Ctrl</b> または <b>Shift</b> キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。</p>
キャンセル	変更せずにダイアログ・ボックスを閉じます。



### [パラメータの編集]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
値	この割り当てのパラメータのための特定の標準設定値を設定することができます。
デフォルト値を使用	パラメータの標準設定値を使用することができます。標準設定値は、ポリシー・テンプレート、アスペクトまたは管理テンプレートに定義することができます。
OK	変更を受け入れて、ダイアログ・ボックスを閉じます。
キャンセル	変更せずにダイアログ・ボックスを閉じます。

### [割り当てを調整]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
パラメータのリスト	<p>この割り当てのパラメータをリストします。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>編集...</b> パラメータの値を指定するための[パラメータの編集]ダイアログ・ボックスを表示します。</li> <li> <b>必須パラメータのみを表示</b> : オプションのパラメータを表示/非表示にします。</li> <li> <b>エキスパート・パラメータの表示/非表示</b> : エキスパート・パラメータを表示/非表示にします。</li> <li> <b>UI 順にソート</b> : 依存値のリストを、オペレーション管理コンソールに示す順序でソートします。</li> </ul> <p>パラメータのリストには次のカラムがあります。</p> <p><b>定義の場所</b>      値の定義を含むポリシー・テンプレート。</p> <p><b>対象 CI タイプ</b>    この値が適用される CI タイプの名前。</p> <p><b>名前</b>              依存値の名前。</p> <p><b>値</b>                 依存値の値。</p> <p>                         淡色表示されている値が標準設定値です。</p> <p>                         アイコンは、パラメータ値のタイプを表します。タイプは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  列挙 (複数オプション)</li> <li>•  数字</li> <li>•  パスワード</li> <li>•  文字列</li> </ul> <p>                         アイコンが淡色表示されている場合、値は読み取り専用です。</p> <p>                         値を選択したときに無効を意味するアイコン(❌)が表示される場合は、必須の値が指定されていないことを示します。</p> <p><b>説明</b>              依存値の説明。</p>
OK	変更を受け入れて、ダイアログ・ボックスを閉じます。
キャンセル	変更せずにダイアログ・ボックスを閉じます。

## ビュー・ブラウザ

UI 要素	説明				
[ビューの参照]タブ	<p>ドロップダウン・リストからビューを選択します。選択したビューに表示された CI タイプのビューと CI は、ブラウザとしてリストの下の領域に表示されます。</p> <p>ブラウザを使用して、次のアクションを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [割り当て]ペインのビューの自動割り当てをリストするためのビューを選択します。</li> <li>• [割り当て]ペインの CI に割り当てられている管理テンプレートおよびアスペクトをリストするための CI を選択します。CI の上にカーソルを重ねると、CI の名前と、その後括弧付きで CI タイプが表示されます。</li> <li>• CI に利用可能な CI 属性の値を表示するには、CI を展開します。CI 属性の上にカーソルを重ねると、CI 属性の値と、その後括弧付きで属性タイプが表示されます。</li> <li>• [割り当て]ペインの CI 属性に割り当てられている管理テンプレートおよびアスペクトをリストするための CI 属性を選択します。</li> <li>• CI または CI 属性を右クリックして、CI のアクションのメニューを取得します。</li> </ul> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p> <b>更新</b> : ビュー・ブラウザを更新します。</p> <p> <b>すべてクリア</b> : ビュー・ブラウザで選択された項目を選択解除します。</p>				
[検索]タブ	<p>[名前]ボックスで文字列を指定し、[検索]をクリックして、指定した文字列が名前に含まれるビュー、CI または CI 属性値を検索します。</p> <p>検索結果を表示するテーブルには次のカラムがあります。</p> <table border="1" data-bbox="560 1344 1380 1512"> <tbody> <tr> <td data-bbox="560 1344 747 1417"><b>名前</b></td> <td data-bbox="747 1344 1380 1417">指定した文字列が名前に含まれるビュー、CI または CI 属性値の名前。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="560 1417 747 1512"><b>タイプ</b></td> <td data-bbox="747 1417 1380 1512">見つかった CI の CI タイプ、または見つかった CI 属性の属性タイプ。</td> </tr> </tbody> </table>	<b>名前</b>	指定した文字列が名前に含まれるビュー、CI または CI 属性値の名前。	<b>タイプ</b>	見つかった CI の CI タイプ、または見つかった CI 属性の属性タイプ。
<b>名前</b>	指定した文字列が名前に含まれるビュー、CI または CI 属性値の名前。				
<b>タイプ</b>	見つかった CI の CI タイプ、または見つかった CI 属性の属性タイプ。				




## 第5章

# デプロイメント・ジョブ

デプロイメントとは、管理サーバから、ポリシー、アスペクト、管理テンプレート、および他のソフトウェアを1つまたは複数の管理ノードに転送するプロセスのことです。

オペレーション管理は、管理ノードのインストールメンテーション、ポリシーまたはポリシー・グループをデプロイまたは削除するときに自動的にデプロイメント・ジョブを作成します。保留中のデプロイメント・ジョブを管理するには[デプロイメント ジョブ]画面を使用します。

[デプロイメント ジョブ]画面を使用して、監視プロセスが設定したとおりに実行していることを確認します。タスクの例：

- ステータスが  FAILED のジョブを調査し修復する。
- 予想よりも長い時間ステータスが  PENDING であるジョブを調査し修復する。
- 修復またはその他の更新の後でステータスが  SUSPENDED のジョブを手動で再起動する。

問題を修正した後、影響を受けたジョブを[デプロイメント ジョブ]画面から再開することができます。

注: [デプロイメント ジョブ]画面は、保留中のデプロイメント・ジョブのみをリストします。デプロイメント・ジョブが正しく完了するとすぐに、保留中のジョブの一覧から削除されます。



## タスク

### デプロイメント・ジョブの再開方法

再開するジョブを選択して、[デプロイメント ジョブの再開]  をクリックします。選択されたジョブの状態は、 RUNNING,  PENDING または  FAILED に変更されます。

Ctrl または Shift キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。

### デプロイメント・ジョブの一時停止方法

一時停止するジョブを選択し、[デプロイメント ジョブの停止]  をクリックします。選択されたジョブの状態は、 SUSPENDED に変更されます。

Ctrl または Shift キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。

### デプロイメント・ジョブの削除方法


削除するジョブを選択し、[デプロイメント ジョブの削除]  をクリックします。選択されたデプロイメント・ジョブがリストから削除されます。

Ctrl または Shift キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。

### 遅延割り当てのジョブの開始方法

割り当てとデプロイ・ウィザードの[割り当てオブジェクトの有効化]チェックボックスをオフにすることによって、ジョブの遅延デプロイメントを設定することができます。これらのジョブを[デプロイメント ジョブ]画面












から手動で開始するには、開始する遅延ジョブを選択し、[デプロイ解除された割り当て用にジョブを開始]  をクリックします。遅延ジョブが開始し、デプロイメント・ジョブのリストに自動的に追加されます。

Ctrl または Shift キーを押しながら、複数の項目を選択することができます。

## UI 参照

### [デプロイメント ジョブ] 画面

UI 要素	説明
	更新: ポリシー・テンプレートのリストを再ロードします。
	デプロイメント・ジョブの再開: 選択されたデプロイメント・ジョブのデプロイメントを開始します。
	デプロイメント・ジョブの停止: 選択されたデプロイメント・ジョブのデプロイメントを一時停止します。
	デプロイメント・ジョブの削除: 選択されたデプロイメント・ジョブを削除します。
	デプロイ解除された割り当て用にジョブを開始: 未デプロイの割り当てのジョブを開始します。
状態	<p>関連付けられたデプロイメント・ジョブの状態を示します。次の状態があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> RUNNING</li> <li> PENDING</li> <li> SUSPENDED</li> <li> FAILED</li> </ul>
ノード	デプロイメント・ジョブのターゲット・システム。
スコープ	デプロイメント・ジョブに含まれるアーティファクトについて記述します。
作成時間	デプロイメント・ジョブの作成日時。
説明	デプロイメント・ジョブの概要。デプロイメント・ジョブが失敗した場合、説明カラムにはエラーまたは例外の詳細が表示されます。

## 第6章

# Monitoring Automation の設定

本章では、Monitoring Automation を設定する上で参考になる情報を含む、Monitoring Automation に対して行う必要のある設定の概要について説明します。

次の設定が含まれています。

- 「Monitoring Automation のインフラストラクチャ設定」(394ページ)
- 「Monitoring Automation のライセンス設定」(395ページ)
- 「Monitoring Automation のログ記録と追跡」(396ページ)


## Monitoring Automation のインフラストラクチャ設定

[Monitoring Automation] ページの[インフラストラクチャ設定 マネージャ] ページでは、Monitoring Automation の標準設定を表示および変更できます。このページに表示される設定が、Monitoring Automation の動作を決定します。設定の変更はアプリケーション自体およびその基礎となっているプラットフォームの両方に影響する場合があります。これらの設定を変更するのは、両方の背景知識およびアクセス権を持つユーザーに限定する必要があります。

**注:** 変更された値は太字のテキストで示されます。行った変更はすぐに反映されない場合があります。その際には、ブラウザ・セッションまたはサーバ・プロセスを再起動する必要があります。

### アクセス方法

1. [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] を選択します。
2. [アプリケーション] を選択し、リストを使用して管理コンテキストを[Monitoring Automation] に設定します。

**注:** 既存の設定または標準設定を変更するには、設定の  ボタンをクリックします。

### 本項の内容

- 「自動割り当て設定には、自動割り当ての制御方法のカスタマイズに使用できる設定が含まれています。」(394ページ)
- 「プロキシのデプロイメント・スクリプト設定には、デプロイメント・サーバの選択で使用するスクリプトの指定で利用可能な設定があります。」(395ページ)
- 「テンプレートの構文チェック設定には、テンプレートの構文チェックの制御で使用できる設定があります。」(395ページ)

### 自動割り当て

自動割り当て設定には、自動割り当ての制御方法のカスタマイズに使用できる設定が含まれてい

ます。

[Auto Assignment] ペインには次の要素が含まれます。

UI 要素	説明
Allow automatic deletion of assignments	対応する CI が削除された場合に、既存の割り当ての削除を許可します。
Enable Auto Assignment	自動割り当てをグローバルに有効/無効にします。
Time interval to scan for changed topology	変更されたトポロジをスキャンし、自動割り当てを実行するまでの間隔(分単位)。
Update existing assignments	新規 CI が追加された際に既存の割り当てを自動的に更新します。

### プロキシのデプロイメント・スクリプト

プロキシのデプロイメント・スクリプト設定には、デプロイメント・サーバの選択で使用するスクリプトの指定で利用可能な設定があります。

[Proxy Deployment Scripts] ペインには次の要素が含まれます。

UI 要素	説明
Arcsight Script	デプロイメント用の Arcsight サーバを決定する Groovy スクリプト。
Sitescope Script	デプロイメント用の Sitescope サーバを決定する Groovy スクリプト。

### テンプレートの構文チェック

テンプレートの構文チェック設定には、テンプレートの構文チェックの制御で利用できる設定があります。

[Template Syntax Check] ペインには次の要素が含まれます。

UI 要素	説明
Disable template syntax check	保存時にテンプレート・コンテンツの構文チェックを無効化します。

## Monitoring Automation のライセンス設定




[ライセンス管理] ページを使用すると、ファイルからライセンスを追加できます。

### アクセス方法

[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] を選択します。





## タスク

### Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスの追加方法

1. [ライセンス管理] ペインのオペレーション管理 ライセンス・フォルダを見つけます。必要に応じ、 をクリックしてフォルダを展開するか、[すべて展開]  をクリックします。
2. 「Monitoring Automation for Composite Applications」というエントリがある場合、ライセンスはインストール済みのため、ライセンス・マネージャを閉じてかまいません。このようなエントリがない場合は、HP 代理店からライセンスを購入し、ライセンス・ファイル入手してください。
3. 受け取ったライセンス・ファイルを、BSM をホストするサーバ上のアクセス可能な位置に保存します。
4. [ファイルからライセンスを追加]  をクリックします。[ライセンスの追加] ダイアログ・ボックスが表示され、ファイル・システムのライセンス・ファイルを参照できます。ライセンス・ファイルを選択したら、[ライセンスの追加] をクリックします。ライセンスは、「Monitoring Automation for Composite Applications」として、オペレーション管理の下でのライセンス一覧に追加されます。

## UI 参照

### [ライセンス管理] ペイン

UI 要素	説明
	ファイルからライセンスを追加 : [ライセンスの追加] ファイル・ブラウザを開き、追加するライセンス・ファイルを選択できます。
	複数レベルのリスト・エントリをすべて展開します。
	複数レベルのリスト・エントリをすべて折り畳みます。
	[カラムの表示/非表示] ダイアログ・ボックスを開きます。 各列に対し、ダイアログにチェックボックスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 列を表示するには、チェックボックスがオンになっていることを確認してください。</li> <li>• 列を非表示にするには、チェックボックスがオフになっていることを確認してください。</li> </ul>

## Monitoring Automation のログ記録と追跡

Monitoring Automation のログ記録と追跡機能はオペレーション管理と同じメカニズムを使用していますが、特定の設定とログ・ファイルを持っています。

## タスク

### オペレーション管理コンソールからのログ記録を有効にする方法

ログ記録を有効にするには、BSM にログインし、関連のログ記録設定アプリケーションに移動します。

1. Monitoring Automation のログ記録を有効にするには、次の URL にアクセスしてください。  
`http://<ホスト名>/opr-config-server/logging/logging.html`
2. ポリシー・エディタのログ記録を有効にするには、次の URL にアクセスしてください。  
`http://<ホスト名>/opr-pm/logging/logging.html`

### Monitoring Automation のログ記録と追跡の設定方法

Monitoring Automation は、次のログファイル設定ファイル内で定義されます。

<HPBSM のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\EJB\opr-webapp.properties

<HPBSM のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\EJB\opr-config.properties

ログ記録と追跡の設定および使用方法については、[アプリケーション管理] > [オペレーション管理] > [追加設定]の『BSM ユーザ・ガイド』を参照してください。

### Monitoring Automation ログ・ファイルの保存場所

Monitoring Automation は次のログ・ファイルにログを記録します。

<HPBSM のルート・ディレクトリ>\log\EJBContainer\opr-webapp.log

<HPBSM のルート・ディレクトリ>\log\EJBContainer\opr-configserver.log

## 第7章

---

### 設定データのエクスポート

コンテンツ・マネージャを使用して、1つのシステムから設定データをエクスポートし、他のシステムにインポートすることができます。次のアーティファクトをコンテンツ・マネージャ・インタフェースで選択しなければなりません。

- **すべての構成フォルダ**

アスペクト、管理テンプレートおよびそれぞれのバージョンは、すべて自動的に含まれます。

- **すべてのテンプレート・バージョン**

コンテンツ・パック定義の一部であるアスペクトまたは管理テンプレートにまだ含まれていないテンプレートは、すべて自動的に含まれます。

- **すべてのインストールメンテーション**

テンプレートまたはアスペクトによって使用されないインストールメンテーションは、すべて自動的に含まれます。

- **すべてのテンプレート・グループ**

**注:** 割り当て情報(各 CI 上のアスペクト、管理テンプレート、ポリシー・テンプレート)のエクスポートおよびインポートはサポートされていません。

## 第8章

### モニタされているノード

[モニタされているノード]画面を使用して、監視対象のノードを整理および管理します。これらのノードは、OM エージェントまたは SiteScope によって監視される IT インフラストラクチャ内のデバイスです。

[モニタされているノード]画面には、次のペインがあります。

- ノード・ビュー・ブラウザ(左ペイン)

ブラウザの各ルート・フォルダは、上記のフィルタ方法の1つに相当します。[項目の新規作成]

\* をクリックする時に作成されるフィルタのタイプは、アイコンをクリックしたときに選択されているルート・フォルダによって決まります(「タスク」の項も参照してください)。

- モニタ対象ノードのリスト(中央ペイン)

監視対象ノードのリスト。[ノード ビュー]ブラウザで選択されたフィルタに従ってフィルタされます。

次のフィルタ・メソッドを適用できます。

- 定義済みフィルタ。
- ニーズに合わせて設定できるカスタムのフィルタ。
- ノード・コレクション。これは RTSM で利用可能なノードのコンテナです。ノード・コレクションを設定して使用することで、ニーズに合わせてノードを整理することができます。

注: ノード・コレクションは、RTSM では CI Collection タイプの CI としてモデル化されません。monitored\_by 属性は OM に設定されます。

- ノード詳細(右ペイン)

監視対象ノードのリスト内で選択されたノードの詳細。

#### アクセス方法

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタされるノード]を選択します。

### タスク

#### カスタム・フィルタの作成方法

1. [ノード ビュー]ブラウザでルート・フォルダ[カスタム ノード フィルタ]またはそのサブフォルダの1つを選択します。
2. \* ボタンをクリックします。[カスタム ノード フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 新しいフィルタの一意の[表示名]を入力します。(任意)フィルタの説明を入力することができます。
4. 適用するフィルタ基準エントリを有効化して、各選択基準に適切な値を入力します。
5. [OK]をクリックします。ダイアログ・ボックスが閉じ、新しいノードが[ノード]ペインのノードのリスト

に追加されます。

### ノード・コレクションの作成方法

1. [ノード ビュー]ブラウザでルート・フォルダ[ノード コレクション]またはそのサブフォルダの1つを選択します。
2. \* ボタンをクリックします。[ノード コレクションの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 新しいノード・コレクションの名前、および必要であればその説明を入力します。
4. 新しいノード・コレクションを、既存のノード・コレクションに含める場合は、[親コレクション]ペインから親コレクションを選択します。
5. [OK]をクリックします。ダイアログ・ボックスが閉じ、新しいノード・コレクションが[ノード コレクション]フォルダに追加されます。


### 新規監視対象ノードの作成方法

1. [ノード]ペインで \* ボタンをクリックし、RTSM に追加するノードのタイプ(たとえば、[汎用ノード]、[Computer]、[Net Device]など)を選択します。  
[モニタされるノードの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
2. ノードを定義するには、必須のフィールドに適切な値を入力します。


**注:** 新しいノードのプライマリDNS名およびIPアドレスを入力する必要があります。

3. [OK]をクリックします。ダイアログ・ボックスが閉じ、新しいノードが作成されてノードのリストに追加されます。


### ノード・コレクションへのノードの追加方法

1. [ノード]ペインで1つ以上のノードを選択し、 ボタンをクリックします。[選択したノード コレクションに追加]ダイアログ・ボックスが開きます。
2. 選択したノードを親コレクションとして追加するノード・コレクションを選択します。
3. [OK]をクリックします。ダイアログ・ボックスが閉じ、選択したノードがノード・コレクションに追加されます。[ノード ビュー]ブラウザのノード・コレクションをクリックすると、追加したノードが[ノード]ペインにリストされます。




### ノード・コレクションからのノードの削除方法

[ノード]ペインで1つ以上のノードを選択し、 ボタンをクリックします。

### ノードのレポートの表示方法

[ノード]ペインで1つのノードを選択し、 ボタンをクリックします。





選択されたノードの事前設定済みレポートが表示されます。このレポートは選択したノードの監視設定を実際の状態と比較します。レポートには、バージョンや状態など、関連するアспектおよびテンプレートについての詳細情報が含まれます。

アспектおよびテンプレート情報を展開または折りたたむには、[すべてのアспектとテンプレートを展開]()および[すべてのアспектとテンプレートを折りたたむ]()のボタンを使用します。[表示]()ボタンを使用して、すべての値を表示するか、カスタマイズ値のみを表示するかを切り替えることができます。













## UI 参照

### ノード・ビュー・ブラウザ



UI 要素	説明
	<b>更新</b> : ノード・ビュー・ブラウザのコンテンツを再ロードします。
	<b>新規カスタム・ノード・フィルタ</b> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• Custom Node Filter ルート・フォルダまたはフォルダ内の項目が選択されている場合、このボタンを選択すると、新しいカスタム・ノード・フィルタを作成するための[カスタムノード フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>• Node Collection ルート・フォルダまたはフォルダ内の項目が選択されている場合、このボタンを選択すると、新しいノード・コレクションを作成するための[ノード コレクションの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> </ul>
	<b>項目の編集</b> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• Custom Node Filter ルート・フォルダまたはフォルダ内の項目が選択されている場合、このボタンを選択すると、選択したカスタム・ノード・フィルタを編集するための[カスタムノード フィルタの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>• Node Collection ルート・フォルダまたはフォルダ内の項目が選択されている場合、このボタンを選択すると、選択したノード・コレクションを編集するための[ノード コレクションの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> </ul>
	<b>項目を削除</b> : 選択したフィルタまたはコレクションを削除します。

### 監視対象ノードのリスト

UI 要素	説明
	<b>更新</b> : ノードのリストを再ロードします。
	<b>新規ノード</b> : 新規ノードを作成するための[モニタされるノードの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。  Computer - Unix, あるいは Net Device -Router など、使用される頻度の高いノードのタイプはドロップダウン・メニューの項目から利用可能です。適切な定義済みのノード・タイプが利用できない場合は、[汎用ノード]を選択します。
	<b>項目の編集</b> : 選択されたノードを編集するためのダイアログ・ボックスを開きます。
	<b>項目を削除</b> : 選択されたオブジェクトを削除するかを尋ねる確認ダイアログ・ボックスを開きます。[はい]をクリックして RTSM から選択されたノードを削除するか、[いいえ]をクリックして削除をキャンセルします。

UI 要素	説明
	ノード・コレクションに追加 : [選択ノード コレクションに追加] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、選択したノードをノード・コレクションに追加できます。
	ノード・コレクションから削除 : アクティブなノード・コレクションから選択したノードを削除します。
	ノード レポートの生成 : 選択したノードの定義済みレポートを生成します。 アスペクトおよびテンプレート情報を展開または折りたたむには、[すべてのアスペクトとテンプレートを展開] (  ) および [すべてのアスペクトとテンプレートを折りたたむ] (  ) のボタンを使用します。[表示] (  ) ボタンを使用して、すべての値を表示するか、カスタマイズ値のみを表示するかを切り替えることができます。 選択されたノードの事前設定済みレポートが表示されます。このレポートは選択したノードの監視設定を実際の状態と比較します。レポートには、バージョンや状態など、関連するアスペクトおよびテンプレートについての詳細情報が含まれます。
プライマリ DNS 名	選択したノードの完全修飾 DNS 名。
モニタ元	選択したノードの監視を現在実行しているシステム・タイプを表示します。
ノード・タイプ	ノードのタイプ(たとえば Windows や Unix など)について説明します。ノードを作成する場合は、ノードについて最も正確に説明しているノード・タイプを利用可能なオプションから選択します。
オペレーティングシステム	選択したノードにインストールされたオペレーティング・システム(たとえば Windows Server 2008(6.1) や LINUX Red Hat EL 5.x(2.6) など)について説明します。

## ノード詳細

UI 要素	説明
	カテゴリを折りたたみます。
	カテゴリを展開します。
カテゴリ全般	監視対象ノードのリストで選択されたノードについての一般情報を表示します。
カテゴリの追加情報	選択したノードの監視を現在実行しているシステム・タイプ、およびノードの CI タイプを表示します。

## [モニタされるノードの作成/編集]ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
ID	システムにより割り当てられたノード ID。
ノード・タイプ	ノードの CI タイプ。
プライマリ DNS 名	ノードの完全修飾 DNS ホスト名。これはトポロジ・ビューに表示されるノードの名前も決定します。
IP アドレスのリスト	<p>ノードのすべての IP アドレス。</p> <p>ツールバーには次のコントロールがあります。</p> <p><b>* 新規項目</b> : 新しい IP アドレスを指定してリストに追加するための[新しい IP アドレスの作成]ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p><b>✕ 項目を削除</b> : 選択した IP アドレスをリストから削除します。</p> <p>リストには次のカラムがあります。</p> <p><b>IP アドレス</b> IP アドレス。</p> <p><b>DHCP</b> IP アドレスが DHCP サーバによって割り当てられた場合は <input checked="" type="checkbox"/> , そうでない場合は空になります。</p> <p><b>ルーティン</b> IP アドレスのルーティング・ドメイン。標準設定のドメインを使用する場合は \$(DefaultDomain) になります。</p>
オペレーティング・システム	ノードのオペレーティング・システム。
プロセッサ・アーキテクチャ	ノードのプロセッサ・アーキテクチャ。
説明	ノードの説明。
OK	すべての変更を受け入れて、ダイアログ・ボックスを閉じます。
キャンセル	変更せずにダイアログ・ボックスを閉じます。
ヘルプ	関連するヘルプを新しいブラウザ・ウィンドウに開きます。